

第3次宍粟市総合計画前期基本計画及び
第3次宍粟市地域創生総合戦略策定のための
アンケート調査結果報告書

令和7年3月
宍 粟 市

目 次

第1章 アンケート調査（18歳以上）	1
1. 調査の目的	1
2. 調査設計	1
3. 回収状況	1
4. 報告書の見方	1
5. 結果（概要）	2
(1) 回答者自身について	2
(1-1) 定住意向に関すること	2
(2) 満足度・重要度について	2
(3) これからのまちづくり等について	3
(4) まちづくりへの関わりについて	5
(5) 自由記述について	5
6. 結果（詳細）	6
(1) 回答者自身について	6
(1-1) 定住意向に関すること	9
(2) 満足度・重要度について	14
①回答結果	14
②満足度・重要度によるまちづくりの取組の評価	22
(3) これからのまちづくり等について	49
(4) まちづくりへの関わりについて	83
(5) 自由記述について	107
第2章 アンケート調査（中高生）	111
1. 調査の目的	111
2. 調査設計	111
3. 回収状況	111
4. 報告書の見方	111
5. 結果（概要）	112
(1) 回答者自身について	112
(1-1) 定住意向に関すること	112
(2) これからのまちづくり等について	113
(3) 自由記述について	114

6. 結果（詳細）	115
（１）回答者自身について	115
（２）これからのまちづくり等について	137
（３）自由記述について	154

第3章 2つのアンケート調査結果の比較

1. 比較の目的	157
2. 比較結果・分析	158
①宍粟市のよいところ	158
②定住意向（宍粟市に住み続けたいか）	159
③満足度／若い人が宍粟市に住み続けたり、一度離れても戻ってきたいと思えるまちにするために必要なこと	161
④特産品	162

第1章 市民アンケート（18歳以上）

1 調査の目的

宍粟市では、現行の第2次宍粟市総合計画後期基本計画及び第2次宍粟市地域創生総合戦略が令和8年度に計画期間の満了を迎える。このことから、第3次宍粟市総合計画前期基本計画及び第3次地域創生総合戦略となる10年間のまちづくりの基本的な理念を示す基本構想、5年間の施策の方向性を示す基本計画及び地域創生を達成するための総合戦略を策定するにあたり、市民の意向を把握するために本調査を実施した。

2 調査設計

項目	内容
調査地域	宍粟市全域
調査対象者	市民 2,300 人 市内に在住している 18 歳以上の市民から無作為抽出
調査時期	令和 6 年 9 月
調査方法	1. 調査票による本人記入方式（郵送配布・郵送回収） 2. インターネットによる回答フォーム入力方式

3 回収状況

配布数	有効回収数	有効回収率
2,300 部	822 部	35.7%

4 報告書の見方

- ・ 回答の結果の割合「%」は、小数点以下第2位で四捨五入したものである。このため、合計値が 100.0%にならない場合がある。
- ・ 複数回答形式（2 つ以上の選択肢を選ぶ形式）の場合、合計は 100.0%を超える。
- ・ 図表中の「不明・無回答」とは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものである。
- ・ 図表中の「N」（サンプル数）は、有効標本数（集計対象者総数）あるいは分類別の該当対象者数を示す。
- ・ 本文中の設問の選択肢について、文字数が多いものは簡略化している場合がある。
- ・ 図表中の「前回調査」は平成 31 年 3 月実施、「前々回調査」は平成 25 年 12 月実施したものである。
- ・ 地域別や年齢別等のクロス分析にあたり、統計的に十分な回答数を得られていない項目については、参考数値として扱った。

5 結果（概要）

（１） 回答者自身について

性別は、男性が 41.6%、女性が 57.1%であった。

年齢は「60～69 歳」が最も多く、居住地域は「山崎東」が 16.2%と最も多かった。

居住年数は、「20 年以上」が 80.9%と最も多かった。

世帯構成は、「2 世代同居（親と子）」が最も多く、次いで「夫婦のみ」であった。

職業は、「会社員・団体職員、公務員」が最も多く、次いで「パート・アルバイトなど」であった。なお、通勤・通学先は「宍粟市内」が 73.0%と最も多く、次いで「姫路」が 9.2%、「たつの、太子」が 7.1%であった。

（１－１） 定住意向に関すること

『住みよい』と回答した人は 55.5%、『住みにくい』と回答した人は 16.4%であった。

『住み続けたい』と回答した人は 54.9%、「できれば住みたくない」と回答した人は 10.1%、「自分の意思と関係なく住み続けなければならないと感じる」と回答した人は 25.3%であった。

本文中の用語の整理

用語	説明
『住みよい』	「住みよい」「まあまあ住みよい」の合計
『住みにくい』	「すみにくい」「あまり住みよいとは言えない」の合計
『どちらともいえない』	「どちらともいえない」と同じ
『住み続けたい』	「できれば住み続けたい」「市外に転出しても戻ってきたい」「市内の他の場所に移りたい」の合計
『住み続けたくない』	「できれば住みたくない」と同じ
『その他』	「自分の意思と関係なく住み続けなければならないと感じる」「わからない」

（２） 満足度・重要度について

【全体】

第 2 次総合計画に位置付けられた 30 の取組のうち、満足度が高い取組の上位は「健康づくりの推進」「生涯学習の推進」「消防・救急体制の充実」「防犯・交通安全の推進」となった。一方、満足度が低い取組は「商工業の振興」「住環境整備、土地利用の推進」「観光の振興」「生活圏の拠点づくりの推進」となった。

重要度が高い取組の上位は「地域医療の充実」「子育て支援の充実」「学校教育の充実」となった。一方、重要度が低い取組は「人権教育・啓発の推進」「生涯学習の推進」「スポーツ活動の推進」となった。

満足度

順位	満足度の高い取組	点数	順位	満足度の低い取組	点数
1	健康づくりの推進	3.09	1	商工業の振興	2.48
2	生涯学習の推進	3.06	2	住環境整備、土地利用の推進	2.52
3	消防・救急体制の充実	3.05	3	観光の振興	2.57
3	防犯・交通安全の推進	3.05	3	生活圏の拠点づくりの推進	2.57

重要度

順位	重要度の高い取組	点数	順位	重要度の低い取組	点数
1	地域医療の充実	4.30	1	人権教育・啓発の推進	3.40
2	子育て支援の充実	4.15	2	生涯学習の推進	3.41
3	学校教育の充実	4.09	3	スポーツ活動の推進	3.42

【住みごち別】

『住みよい』『どちらともいえない』『住みにくい』と思う人別に取組の満足度・重要度を整理した。

『住みよい』と思う人の満足度が高い取組の上位3位は「健康づくりの推進」「消防・救急体制の充実」「防犯・交通安全の推進」となった。

『住みにくい』と思う人の満足度が高い取組の上位は「健康づくりの推進」「生涯学習の推進」「青少年健全育成の推進」であった。

『住みよい』と思う人の重要度が高い取組の上位3位は「地域医療の充実」「子育て支援の充実」「農業の振興」となった。

『住みにくい』と思う人の重要度が高い取組の上位3位は「地域医療の充実」「子育て支援の充実」「消防・救急体制の充実」となった。

(3) これからのまちづくり等について

【木育について】

木育が普及する効果として期待することとして、「地元の木材を生かして経済が活性化すること」が44.5%と最も高かった。

年齢別では、18歳・19歳では「森林や環境を大切にする意識が広まること」が他の年齢より高く、「地元の木材を生かして経済が活性化すること」は年齢が上がるほど割合が高い傾向がみられた。

【宍粟市のよいところ】

「豊かな自然」が74.5%と最も高く、次点の「安心・安全」の21.9%を大きく引き離していた。市内の多くの人が「豊かな自然」を宍粟市のよいところと捉え、宍粟市の魅力

にとって重要な構成要素として認識されていると考えられる。

【風景ビジョン】

「自然（田畑、河川、森林、山々等）」が 71.8%と最も高く、次点の「観光スポット（藤、不動滝、もみじ、スキー場等）の 24.8%を大きく引き離していた。【宍粟市のよいところ】と同様、自然とその自然景観を活かした観光スポットが、宍粟市らしい風景と感じている人が多いと考えられる。

【10 年後の宍粟市での暮らしに関する不安】

「空き家・耕作放棄地の増加」が 42.8%と最も高かった。

年齢別では、18 歳から 69 歳までの人（現役世代と思われる）は「経済活動の停滞」「働き口の減少」、18 歳から 49 歳までの人（学生、子育て世代と思われる）は「学校・保育所・幼稚園等の統廃合」と回答した人の割合が高かった。

定住意向別では《できれば住み続けたい》《自分の意思と関係なく住み続けなければならないと感じる》で「空き家・耕作放棄地の増加」が最も高く、《市外に転出しても戻ってきたい》と《市内の他の場所へ移りたい》で「働き口の減少」が最も高かった。《できれば住みたくない》では「公共サービスの低下」「空き家・耕作放棄地の増加」が最も高かった。

【地域のつながりや支え合いで必要と思うもの】

「隣近所との付き合い」が 57.8%と最も高く、次いで「自治会活動」が 32.8%となった。これらは年齢が上がるにつれて割合が高くなる傾向がみられた。一方で、「必要性を感じない」と回答した人も 9.5%いた。

18 歳・19 歳では「ボランティア活動」の割合が他の年齢に比べて高かった。

【地域において 20 歳台～30 歳台の市民に活躍してほしい（活躍したい）と思うこと】

全体として「地域づくり活動」「地域の祭りや運動会」「自治会活動（役員会など）」で活躍してほしい（活躍したい）の割合が高い一方、年齢別では 18 歳・19 歳と 30～39 歳で「特にない」の割合が最も高かった。60 歳以上では若い市民に自治会や地域づくり活動に参加してほしいと考えているが、若い市民は地域における活動にやや消極的であることがうかがえた。

【雇用を充実させるために市が投資すべきこと】

「若者の事業継承や企業の支援」「企業誘致に向けた営業やインフラ整備」「UIJ ターンによる就職・起業の支援」などが高かった。

【観光客を増やすために市が投資すべきこと】

「自然を生かした観光スポットの新規整備」が最も高かった。また、18歳・19歳では「市内を周遊しやすい交通環境の整備」の割合が他の年齢よりも高かった。

【若い女性に選ばれるまちづくり】

「女性にとって魅力ある職場環境の整備」「産前・産後の切れ目のない支援」「若年層が居住しやすい価格帯の良質な住まい」などの割合が高かった。

年齢別では、18歳から39歳、80歳以上で「産前・産後の切れ目のない支援」が最も高く、40歳から79歳で「女性にとって魅力ある職場環境の整備」が最も高かった。

(4) まちづくりへの関わりについて

各まちづくり分野において市民としてできることの上位は下表のようになった。

まちづくり分野	市民としてあなた自身ができること	割合 (%)
地域産業分野	地元で買い物をし経済を活性化させること	74.1
	地元で働き、地元の企業・産業を守ること	42.5
環境分野	ゴミ捨て・不法投棄をしないこと	76.4
	ゴミを正しく分別し、ゴミの発生抑制や食品ロスの削減、5Rを意識した生活に転換すること	67.2
防災・防犯・安全 対策分野	災害時の避難経路や備蓄品など、防災意識を高めること	69.7
	自動車・自転車の交通マナーを守り、安全運転に努めること	61.3
子育て・教育分野	地域における相談体制や見守りなど、子どもを地域で育てる意識をもつこと	56.2
	保護者・家族としての役割と責任を自覚し、より良い家庭環境をつくること	47.7
保健・医療・福祉 分野	望ましい生活習慣を身につけ、自らが健康でいること	86.3
	障がいについて正しい知識と理解を深めること	32.7
生涯学習・文化・ スポーツ分野	日常的に運動する習慣を身につけること	61.7
	人権を正しく理解し、人権が尊重される地域や職場づくりをすすめること	49.9

(5) 自由記述について

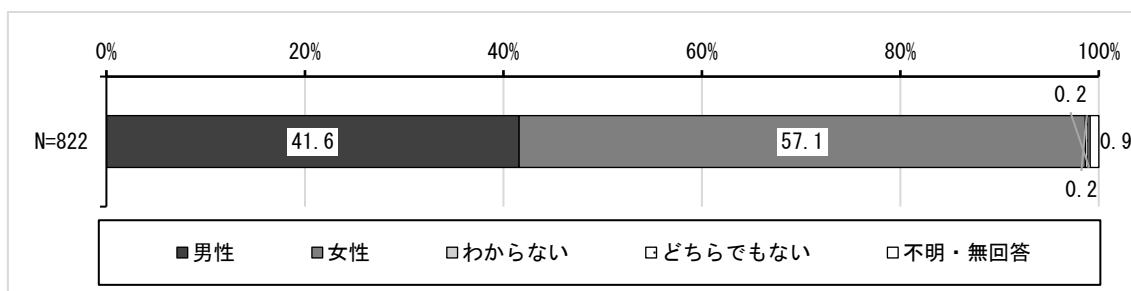
「商工業の振興」に関する内容が71件と最も多く、次いで「生活圏の拠点づくりの推進」に関する内容が62件となった。満足度・重要度の調査で満足度が低かった取組、重要度が高かった取組に関する意見が多く見られた。

6 結果（詳細）

（１） 回答者自身について

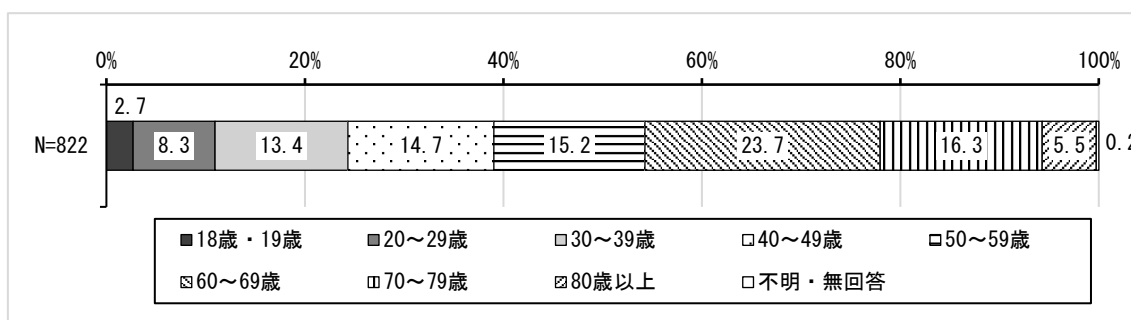
問１．あなたの性別（心の性）をお答えください。（○は１つ）

回答者の性別は、男性が 41.6%、女性が 57.1%、わからないが 0.2%、どちらでもないが 0.2%、不明・無回答が 0.9%であった。



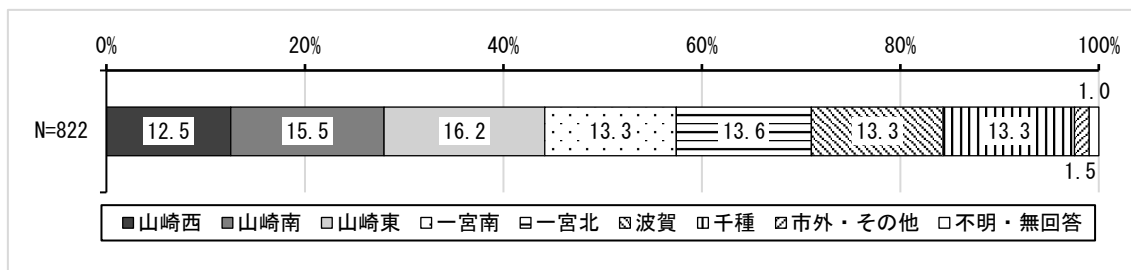
問２．あなたの年齢をお答えください。（○は１つ）

回答者の年齢は、「60～69 歳」が 23.7%と最も多く、次いで「70～79 歳」が 16.3%、「50～59 歳」が 15.2%であった。



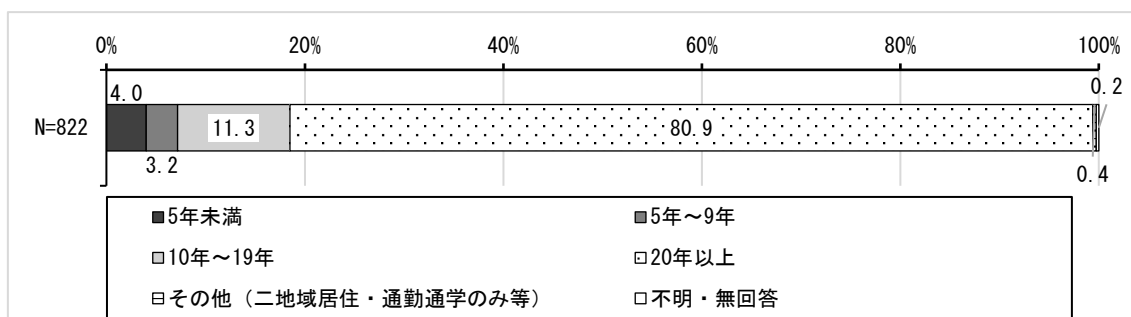
問3. あなたの住んでいる地域（中学校区）をお答えください。（○は1つ）

回答者の居住地域は、「山崎東」が16.2%と最も多く、次いで「山崎南」が15.5%、「一宮北」が13.6%であった。



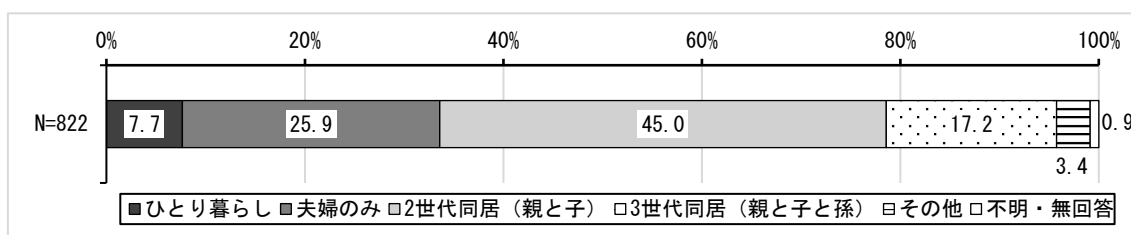
問4. あなたは栄栗市に通算して何年住んでいますか。（○は1つ）

「20年以上」が80.9%と最も多く、次いで「10～19年」が11.3%、「5年未満」が4.0%であった。



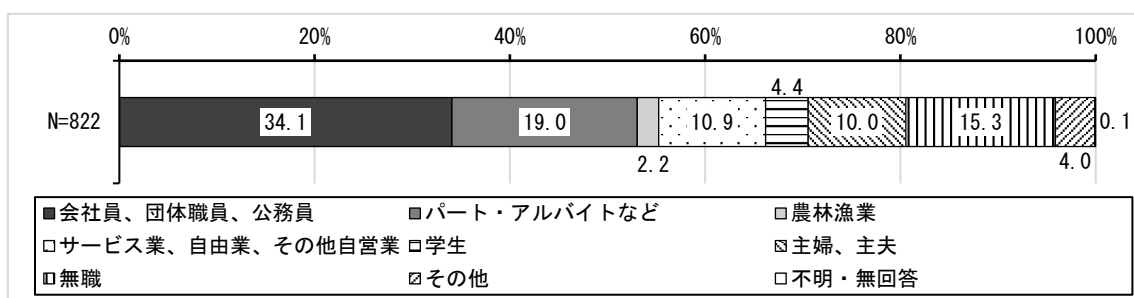
問5. あなたの家族（同じ敷地に住む者）構成をお答えください。（○は1つ）

「2世代同居（親と子）」が最も多く、次いで「夫婦のみ」が25.9%、「3世代（親と子と孫）」が17.2%であった。



問 6. あなたの主な職業をお答えください。(○は1つ)

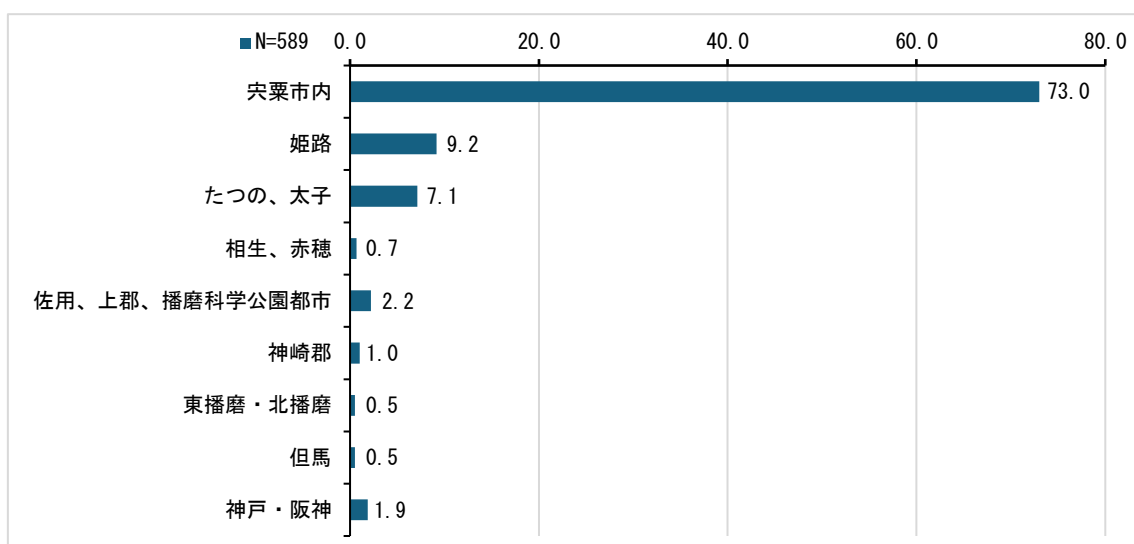
「会社員、団体職員、公務員」が 34.1%と最も多く、次いで「パート・アルバイトなど」が 19.0%、「無職」が 15.3%であった。



問 7. 問 6 で「1～5」と答えた方にお尋ねします。あなたの通勤・通学先はどこですか。

(※ 1. 会社員、団体職員、公務員 2. パート、アルバイトなど 3. 農林漁業
4. サービス業、自由業、その他自営業 5. 学生)

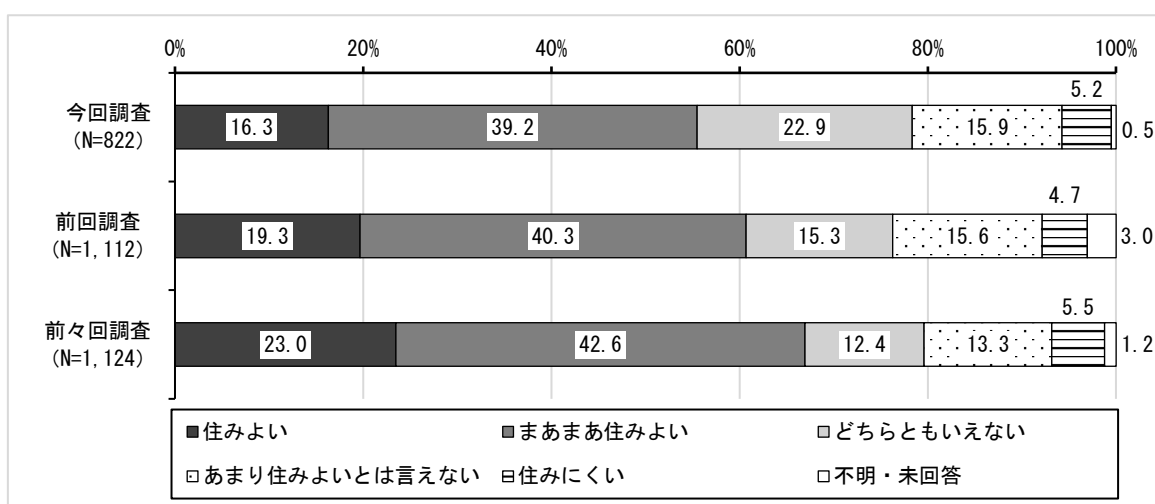
「宍粟市内」が 73.0%と最も多く、次いで「姫路」が 9.2%、「たつの、太子」が 7.1%であった。



(1-1) 定住意向に関すること

問8. あなたにとって、宍粟市は住みよいまちですか。(○は1つ)

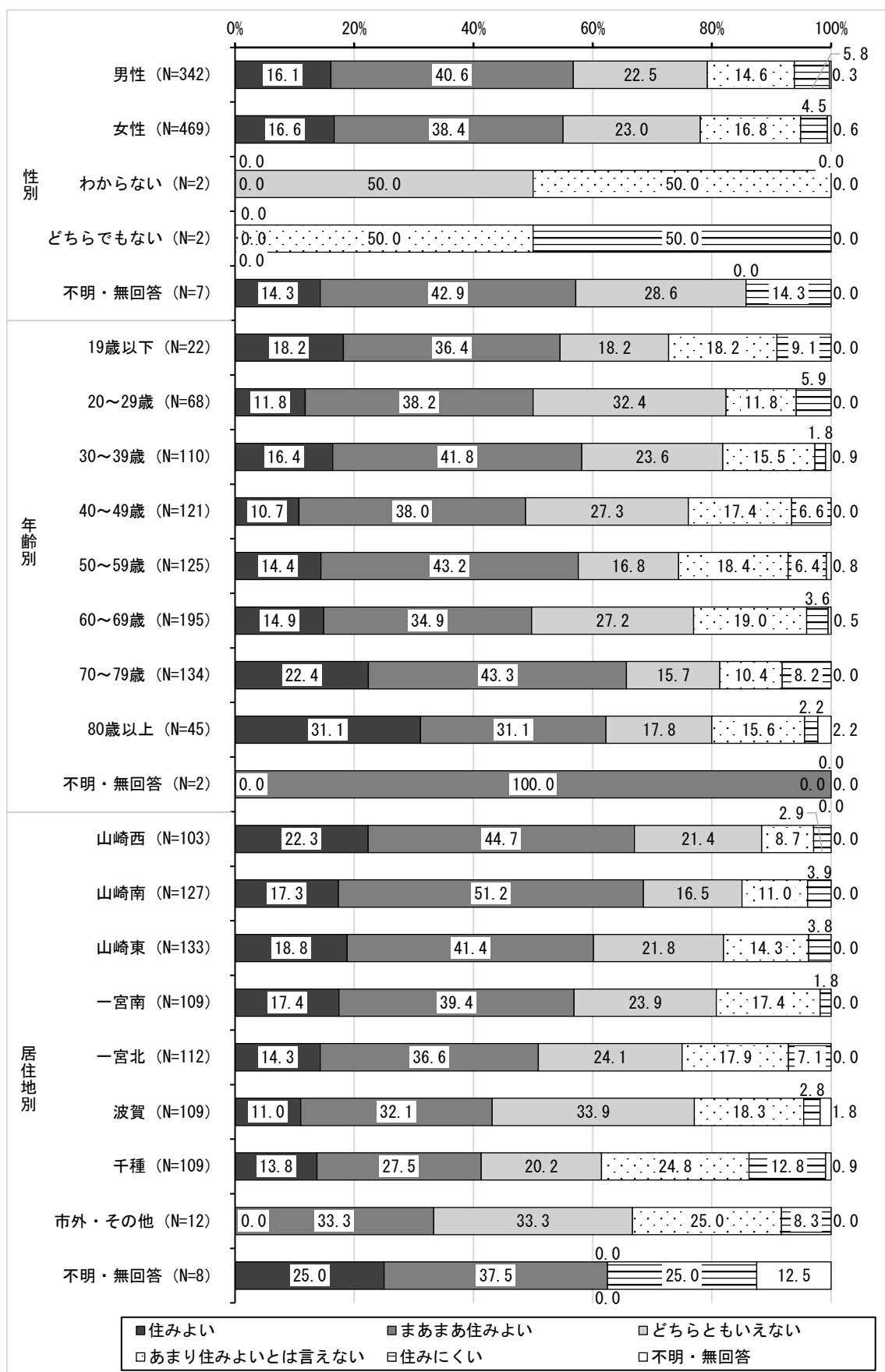
『住みよい』と回答した人は55.5%、『住みにくい』と回答した人は16.4%であった。
 前回調査と比較すると、『住みよい』と回答した人は4.1ポイント減少し、『住みにくい』
 と回答した人は3.9ポイント減少した。



性別では、男性、女性ともに『住みよい』と回答した人が5割を超えていた。

年齢別では、『住みよい』と回答した人が70～79歳で65.7%と最も多く、次いで80歳以上が62.2%であった。

居住地別で『住みよい』の割合が高かったのは山崎西(67.0%)、山崎南(68.5%)、山崎東(60.2%)で6割を超えていた。一方、波賀(43.1%)、千種(41.3%)では『住みよい』の割合は4割前半にとどまった。

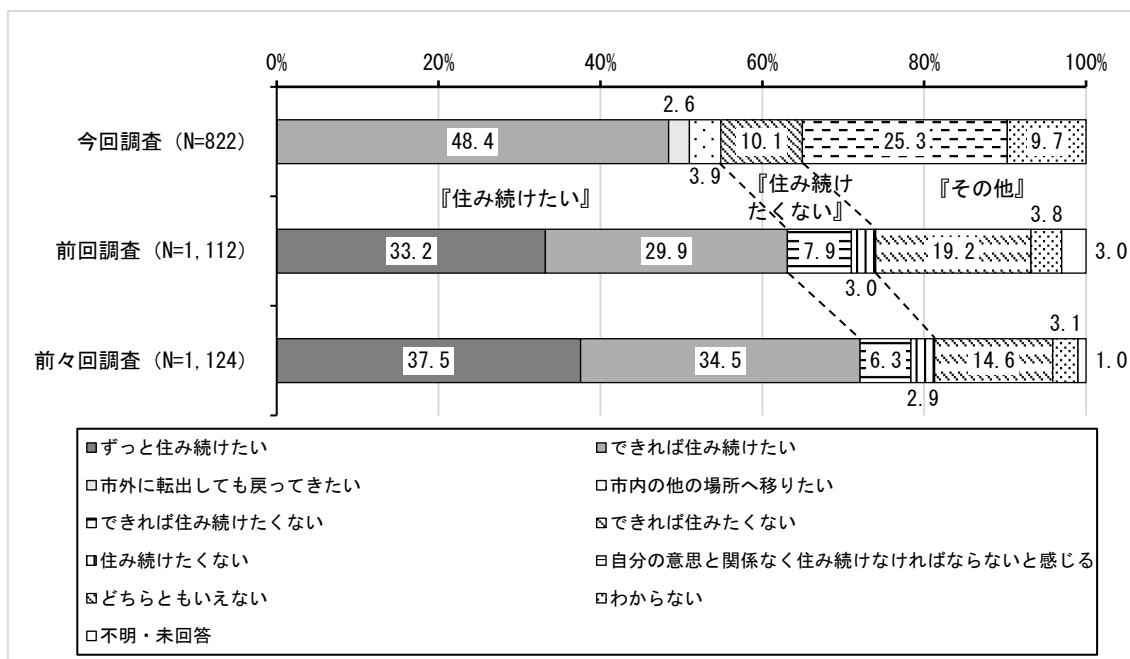


問 9. あなたは、今後も宍粟市で住み続けたいですか。(○は1つ)

回答の選択肢の整理

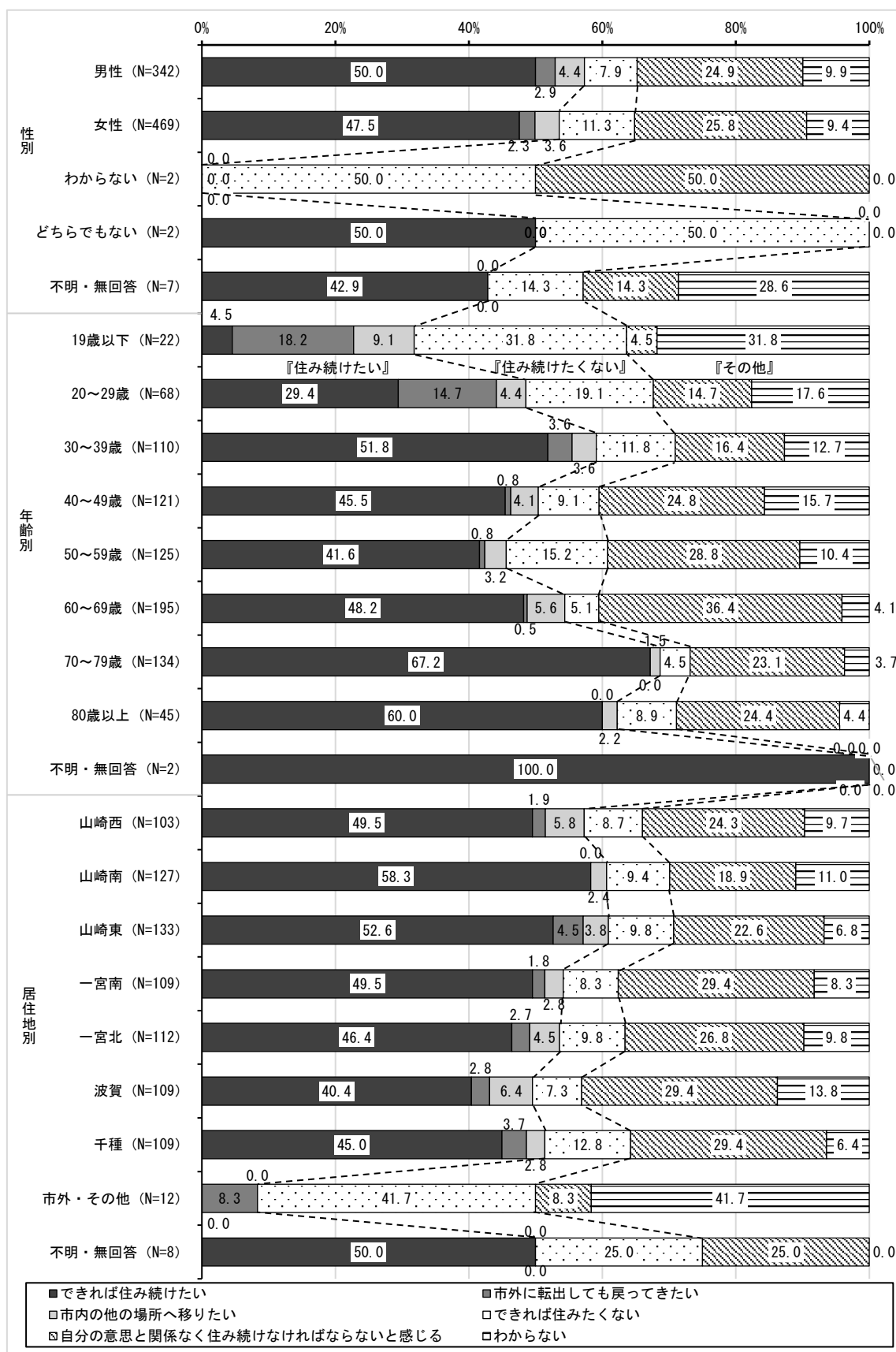
定住意向	選択肢	
	前回・前々回	今回
住み続けたい	ずっと住み続けたい できれば住み続けたい	できれば住み続けたい 市外に転出しても戻ってきたい 市内の他の場所へ移りたい
住み続けたくない	できれば住み続けたくない 住み続けたくない	できれば住みたくない
その他	どちらともいえない わからない 不明・無回答	自分の意思と関係なく住み続けなければならないと感じる わからない

『住み続けたい』と回答した人は 54.9%であり、前回調査より 8.2 ポイント減少した。一方、『住み続けたくない』と回答した人は 10.1%であり、前回調査より 0.8 ポイント減少した。『その他』として、今回新たに選択肢に追加した「自分の意思と関係なく住み続けなければならないと感じる」と回答した人は 25.3%であり、「できれば住み続けたい」の次に多かった。



性別では、『住み続けたい』と回答した男性は 57.3%、女性は 53.4%であり、大差はなかった。

年齢別では、『住み続けたい』の割合は 70～79 歳で 73.2%と最も高く、次いで 80 歳以上で 62.2%、30～39 歳で 59.0%であった。『住み続けたくない』の割合は若い世代ほど高い傾向がみられ、特に 18 歳・19 歳では 40.9%であった。また、「自分の意思と関係なく住み続けなければならないと感じる」と回答した人の割合は、39 歳までは 4.5～16.4%と低い、40 歳以上では 23.1～36.4%と高くなっていた。



(2) 満足度・重要度について

① 回答結果

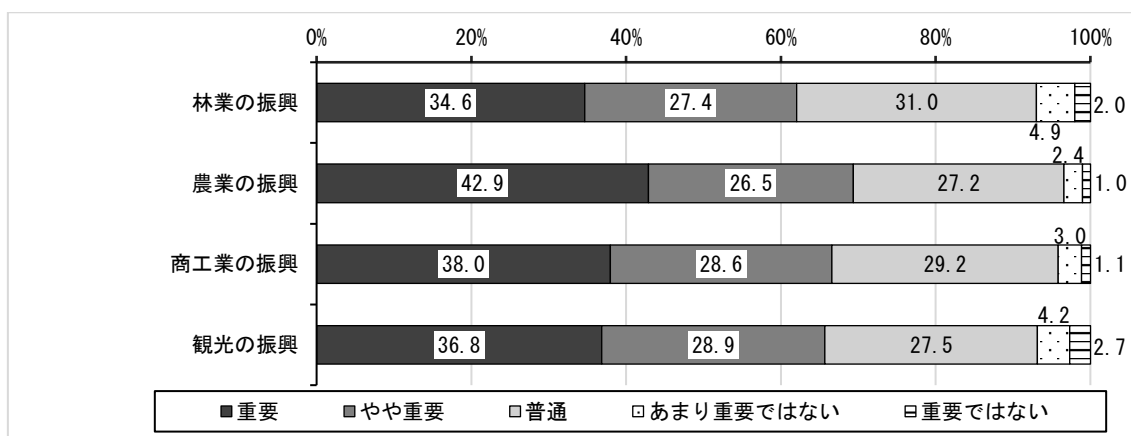
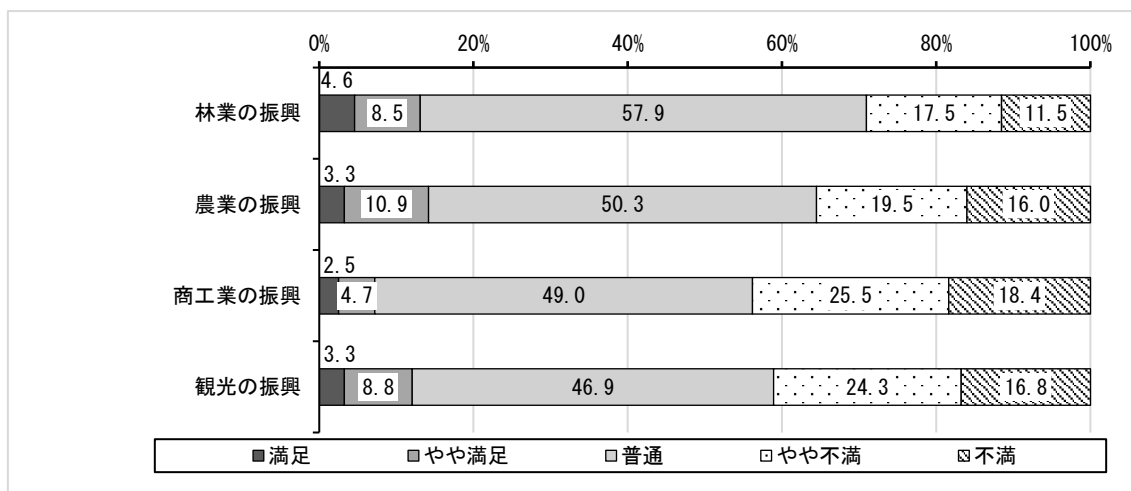
満足度については、「満足」「やや満足」の合計、重要度については、「重要」「やや重要」の合計として分析をおこなった。

問 10. あなたは、毎日の生活の中で、以下にあげたまちづくりの取組にどの程度満足していますか。また、今後の取組としてはどの程度重要だと思いますか。ご自身の生活と関連が少ない項目についても、ご家族や地域の状況を踏まえてできるだけお答えください。

問 10-1. 「魅力と活力あふれる地域産業を育むまちづくり」に関すること

満足度は、「農業の振興」が 14.2% と最も高く、次いで「林業の振興」が 13.1% であった。

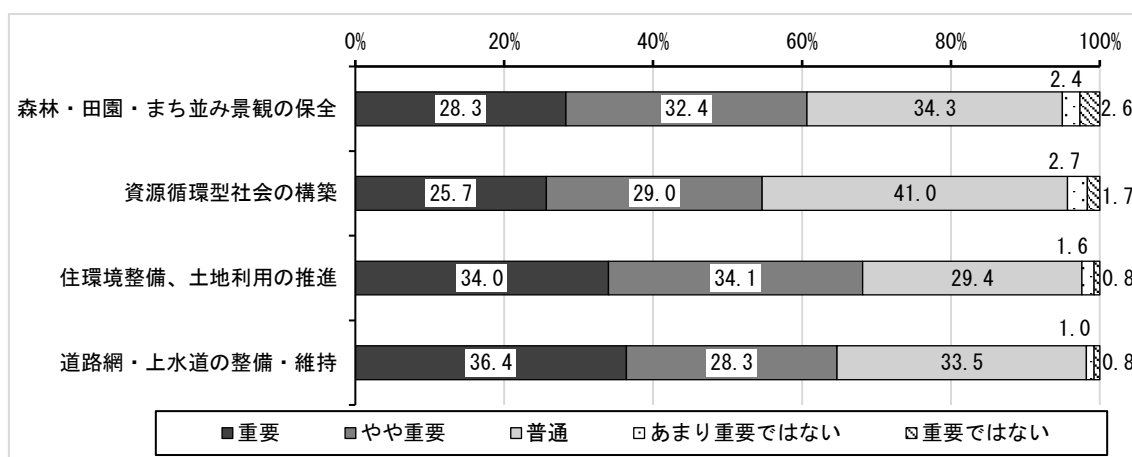
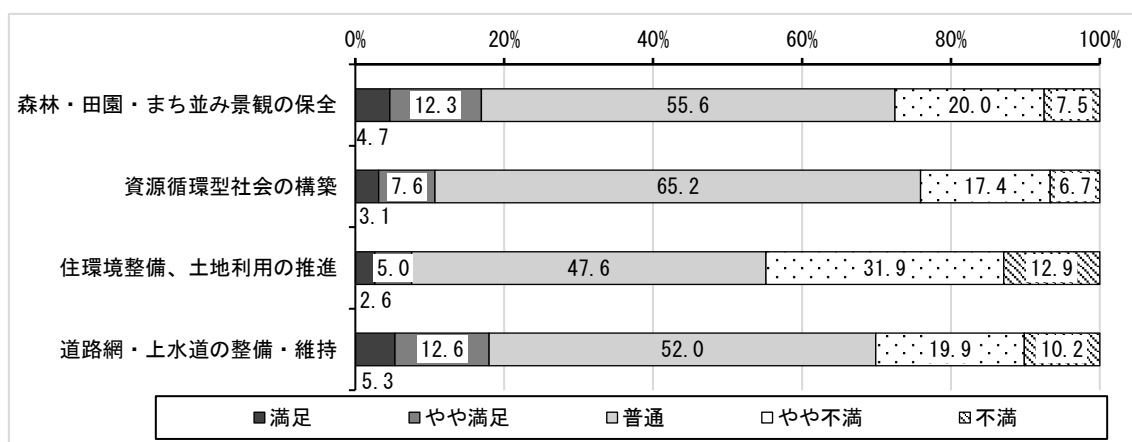
重要度は、「農業の振興」が 69.4% と最も高く、次いで「商工業の振興」が 66.6% であった。



問 10-2. 「環境にやさしく快適に暮らせるまちづくり」に関すること

満足度は、「道路網・上下水道の整備・維持」が 17.9%と最も高く、次いで「森林・田園・まち並み景観の保全」が 17.0%であった。

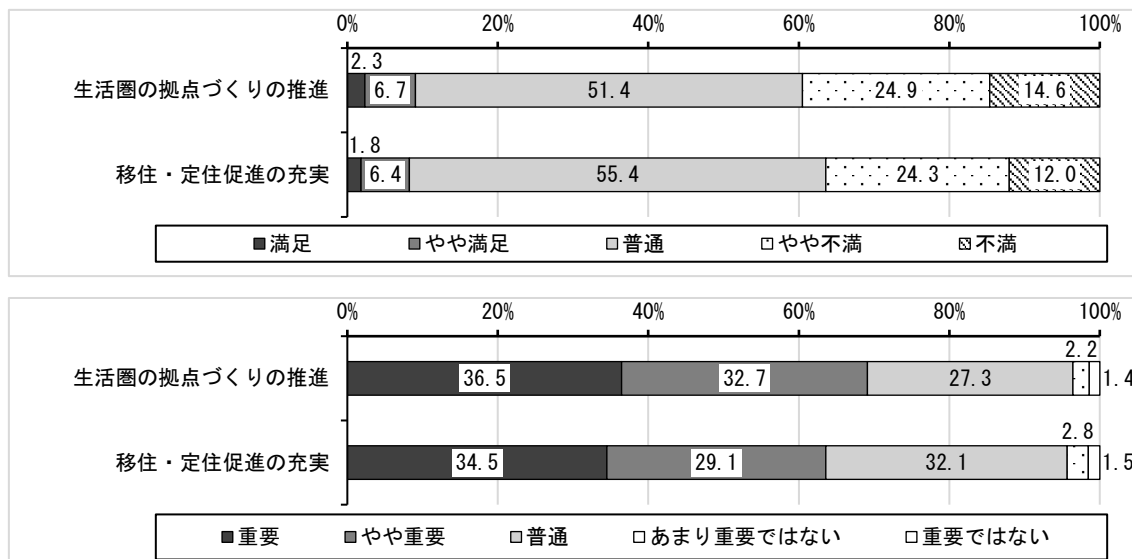
重要度は、「住環境整備、土地利用の推進」が 68.1%と最も高く、次いで「道路網・上下水道の整備・維持」が 64.7%であった。



問 10-3. 「定住魅力の高いまちづくり」に関すること

満足度は、「生活圏の拠点づくりの推進」が 10.0%、「移住・定住促進の充実」が 8.2%であった。

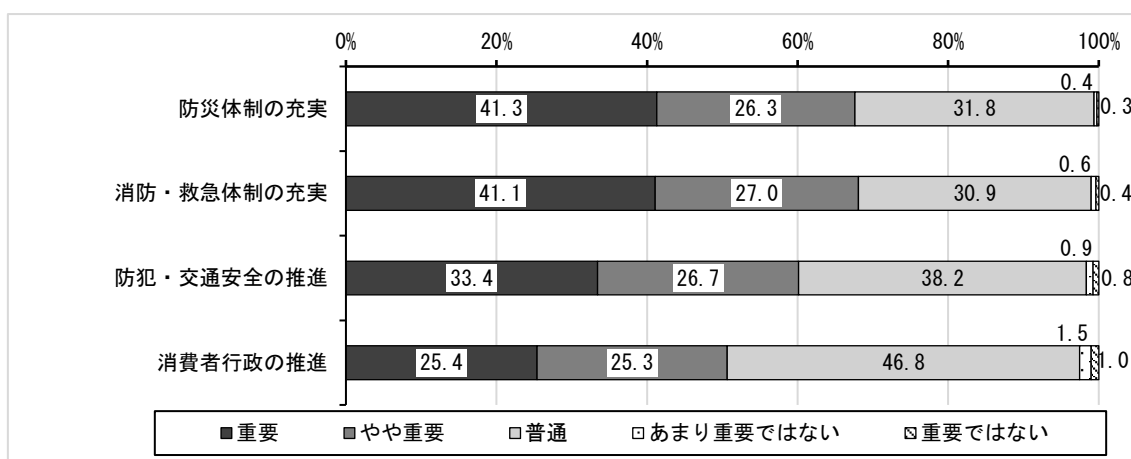
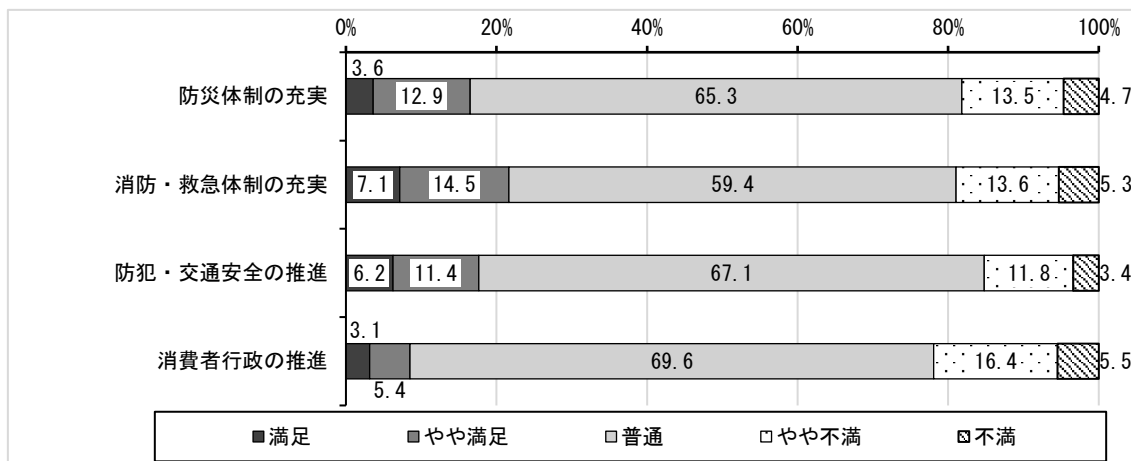
重要度は、「生活圏の拠点づくりの推進」が 69.2%、「移住・定住促進の充実」が 63.6%であった。



問 10-4. 「安全で安心なまちづくり」に関すること

満足度は、「消防・救急体制の充実」が 21.6%と最も高く、次いで「防犯・交通安全の推進」が 17.6%であった。

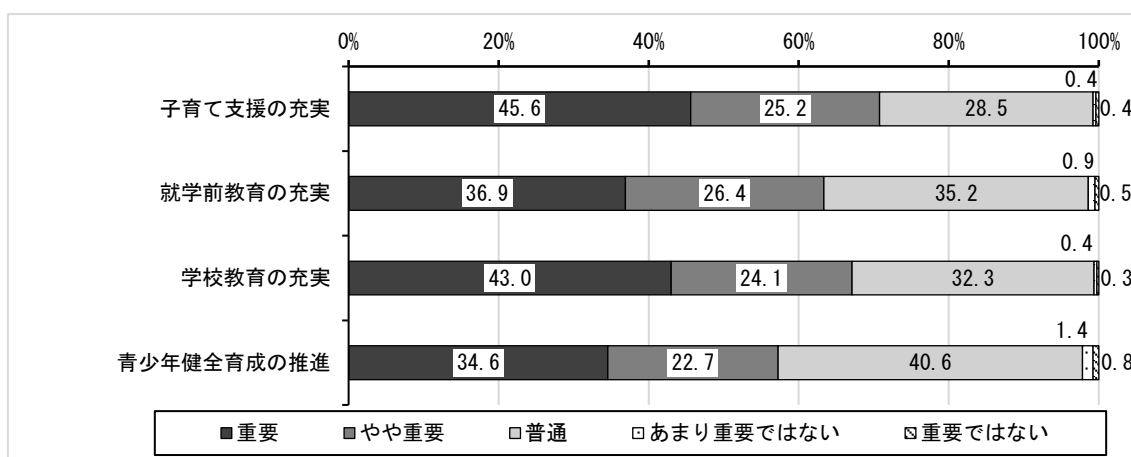
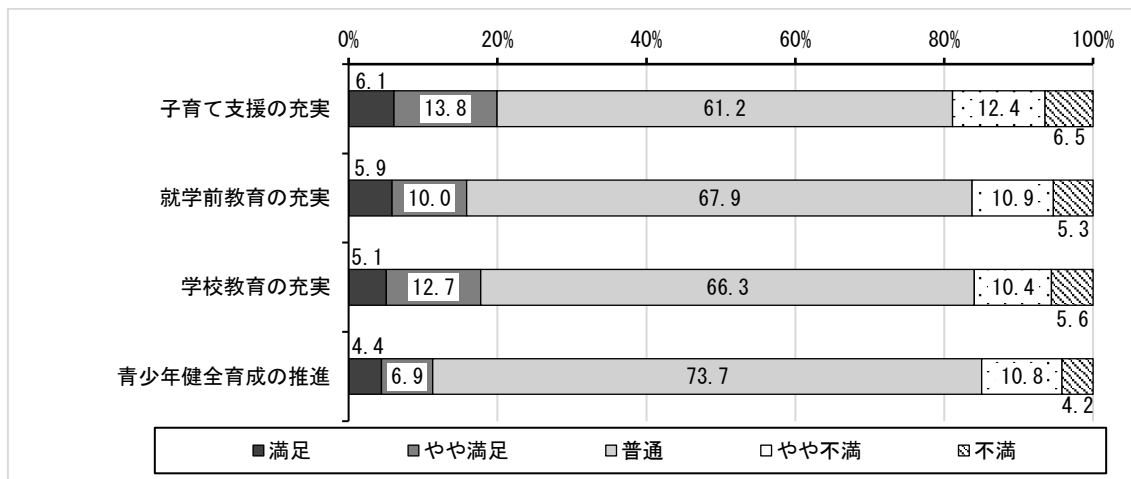
重要度は、「消防・救急体制の充実」が 68.1%と最も高く、次いで「防災体制の充実」が 67.6%であった。



問 10-5. 「子どもが健やかに育つまちづくり」に関すること

満足度は、「子育て支援の充実」が 19.9%と最も高く、次いで「学校教育の充実」が 17.8%であった。

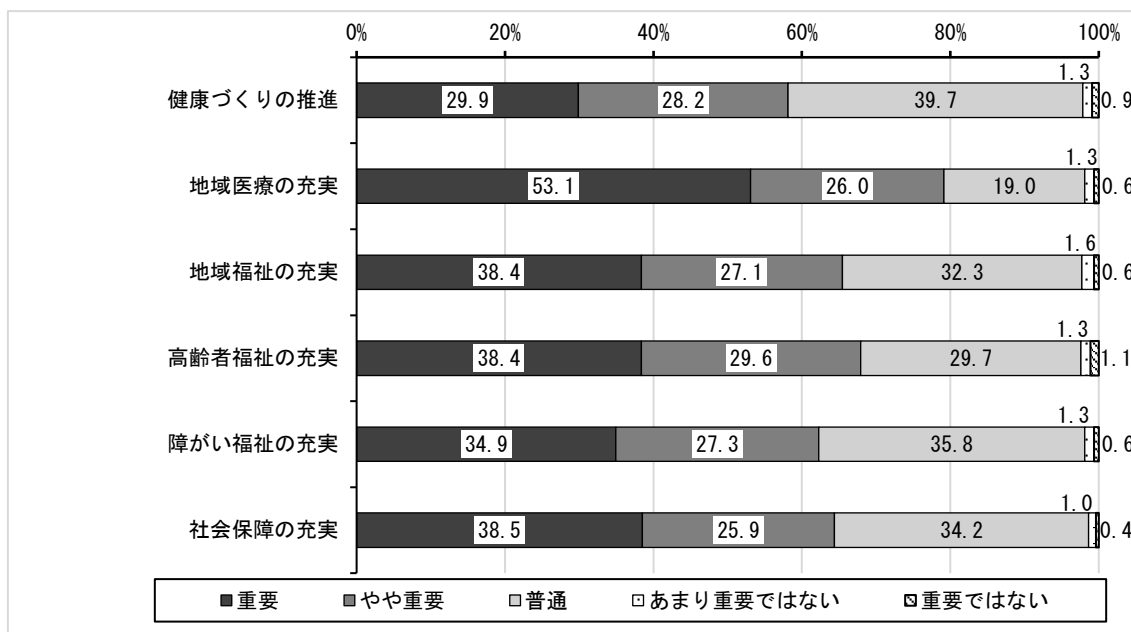
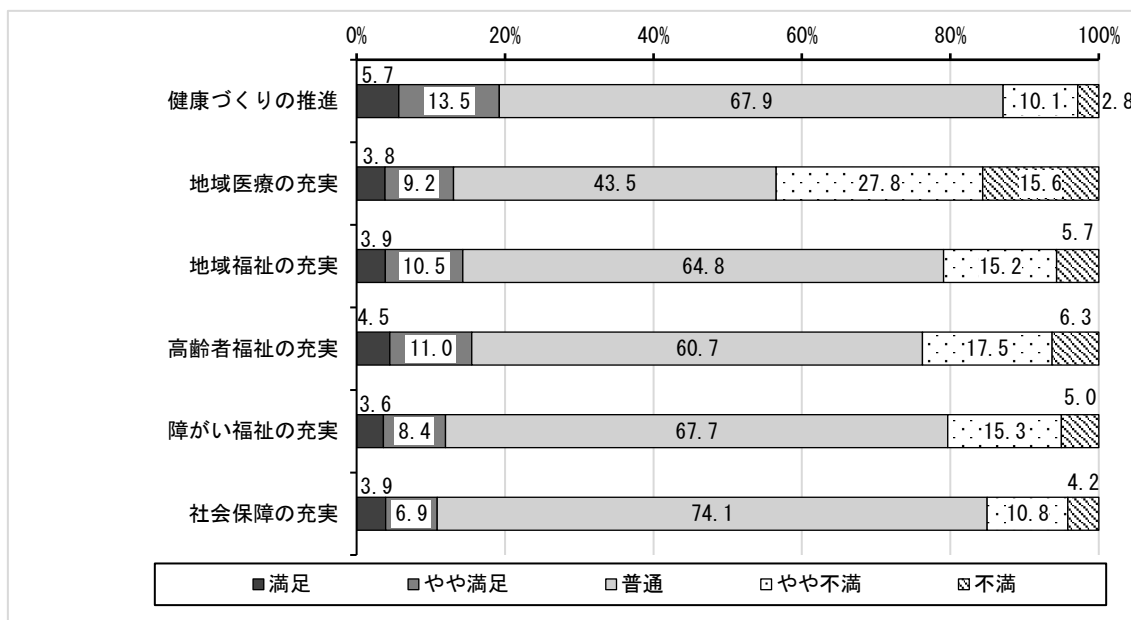
重要度は、「子育て支援の充実」が 70.8%と最も高く、次いで「学校教育の充実」が 67.1%であった。



問 10-6. 「保健・医療・福祉が連携した安心のまちづくり」に関すること

満足度は、「健康づくりの推進」が 19.2%と最も高く、次いで「高齢者福祉の充実」が 15.5%となっていた。

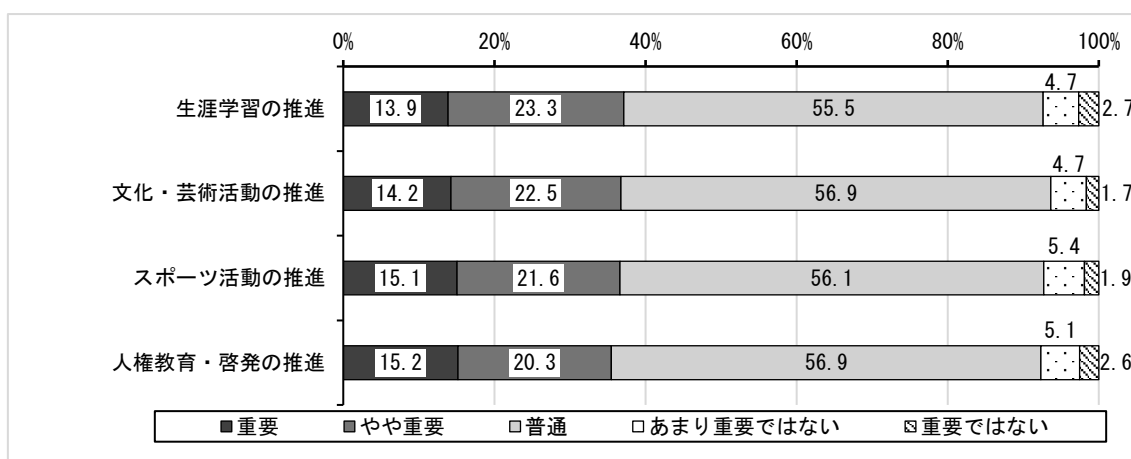
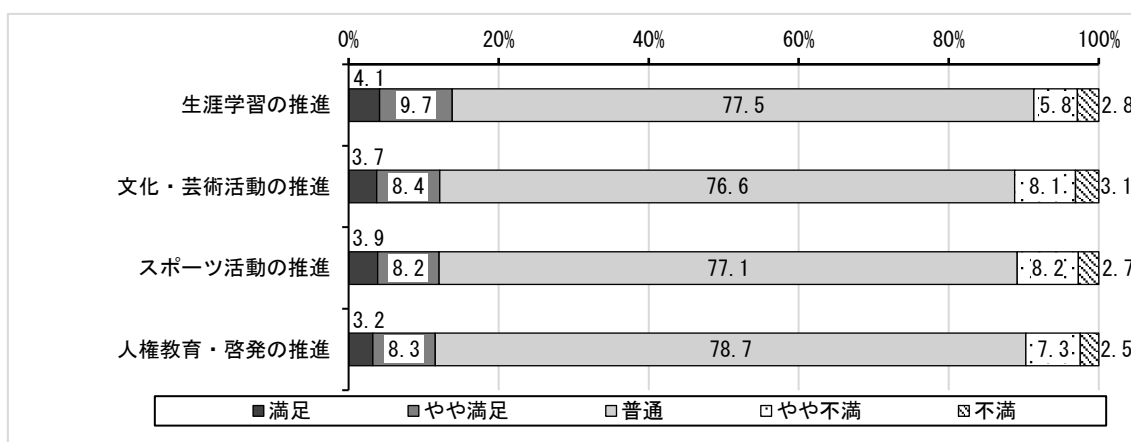
重要度は、「地域医療の充実」が 79.1%と最も高く、次いで「高齢者福祉の充実」が 68%であった。



問 10-7. 「心豊かにいきいきと学べるまちづくり」に関すること

満足度は、「生涯学習の推進」が 13.8%と最も高く、次いで「文化・芸術活動の推進」が 12.1%であった。

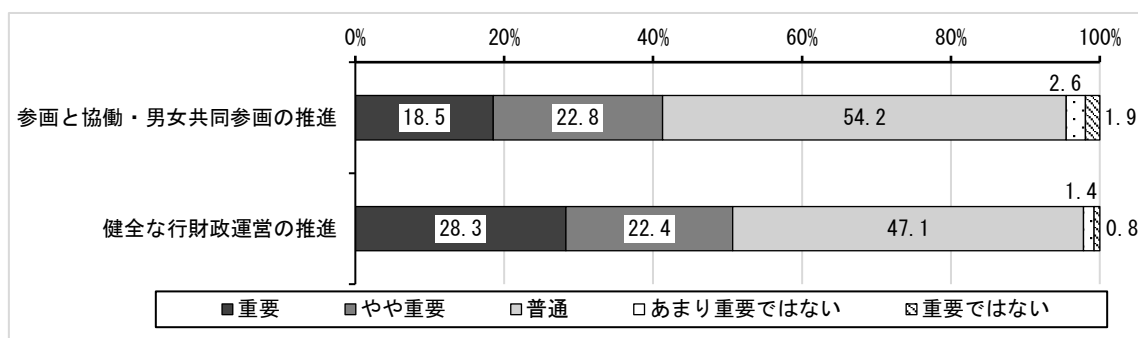
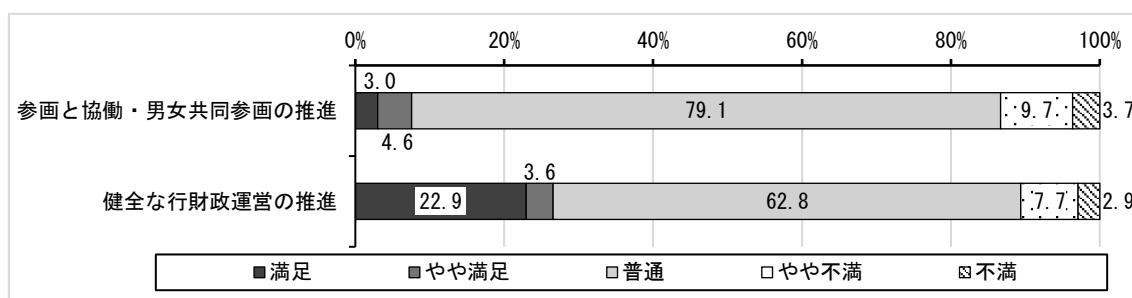
重要度は、「生涯学習の推進」が 37.2%と最も高く、次いで「スポーツ活動の推進」が 36.7%であった。



問 10-8. 「参画と協働・行財政運営」に関すること

満足度は、「健全な行財政運営の推進」が 26.5%、「参画と協働・男女共同参画の推進」が 7.6%であった。

重要度は、「健全な行財政運営の推進」が 50.7%、「参画と協働・男女共同参画の推進」が 41.4%であった。



② 満足度・重要度によるまちづくりの取組の評価

【回答者全体】

満足度が高い取組は、「健康づくりの推進」が 3.09 ポイントと最も高く、次いで「生涯学習の推進」が 3.06 ポイント、次いで「消防・救急体制の充実」「防犯・交通安全の推進」が 3.05 ポイントであった。

一方、満足度が低い取組は、「商工業の振興」が 2.48 ポイントと最も低く、次いで「住環境整備、土地利用の推進」が 2.52 ポイント、「観光の振興」「生活圏の拠点づくりの推進」が 2.57 ポイントであった。

重要度が高いのは「地域医療の充実」が 4.30 ポイントと最も高く、次いで「子育て支援の充実」が 4.15 ポイント、「学校教育の充実」が 4.09 ポイントであった。

取組	満足度	重要度
問 10-1 「魅力と活力あふれる地域産業を育むまちづくり」に関する事	①林業の振興	2.77 3.88
	②農業の振興	2.66 4.08
	③商工業の振興	2.48 3.99
	④観光の振興	2.57 3.93
問 10-2 「環境にやさしく快適に暮らせるまちづくり」に関する事	①森林・田園・まち並み景観の保全	2.87 3.84
	②資源循環型社会の構築	2.83 3.74
	③住環境整備、土地利用の推進	2.52 3.99
	④道路網・上下水道の整備・維持	2.83 3.99
問 10-3 「定住魅力の高いまちづくり」に関する事	①生活圏の拠点づくりの推進	2.57 4.01
	②移住・定住促進の充実	2.62 3.92
問 10-4 「安心して安全なまちづくり」に関する事	①防災体制の充実	2.97 4.08
	②消防・救急体制の充実	3.05 4.08
	③防犯・交通安全の推進	3.05 3.91
	④消費者行政の推進	2.84 3.72
問 10-5 「子どもが健やかに育つまちづくり」に関する事	①子育て支援の充実	3.01 4.15
	②就学前教育の充実	3.00 3.98
	③学校教育の充実	3.01 4.09
	④青少年健全育成の推進	2.97 3.89
問 10-6 「保健・医療・福祉が連携した安心のまちづくり」に関する事	①健康づくりの推進	3.09 3.85
	②地域医療の充実	2.58 4.30
	③地域福祉の充実	2.92 4.01
	④高齢者福祉の充実	2.90 4.03
	⑤障がい福祉の充実	2.90 3.95
	⑥社会保障の充実	2.86 4.01
問 10-7 「心豊かにいきいきと学べるまちづくり」に関する事	①生涯学習の推進	3.06 3.41
	②文化・芸術活動の推進	3.02 3.43
	③スポーツ活動の推進	3.02 3.42
	④人権教育・啓発の推進	3.03 3.40
問 10-8 「参画と協働・行財政運営」に関する事	①参画と協働・男女共同参画の推進	2.94 3.53
	②健全な行財政運営の推進	2.81 3.76

■：数値高い

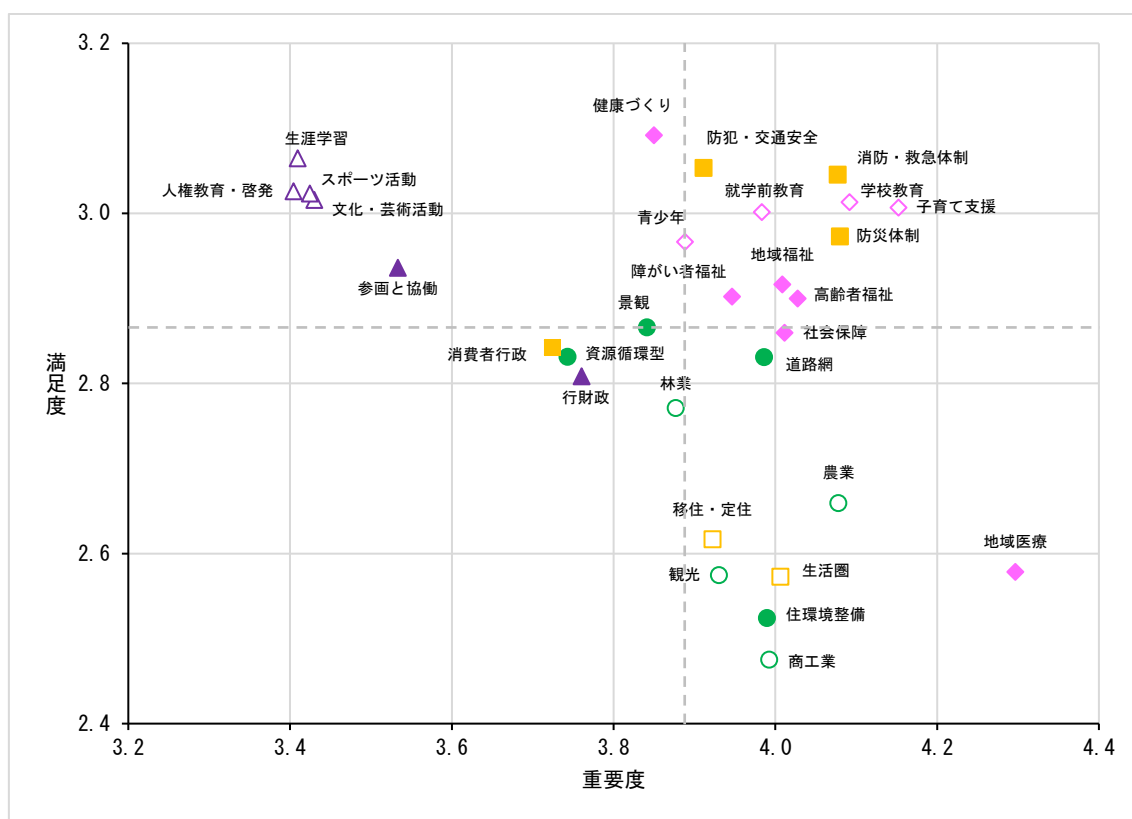
■：数値低い

満足度を縦軸に、重要度を横軸にとり、調査項目ごとに回答者全体の平均スコアを算出し、それらを座標点として散布図に示した。

【回答者全体】

満足度が高い取組は、「健康づくりの推進」が 3.09 ポイントと最も高く、次いで「生涯学習の推進」が 3.06 ポイント、「消防・救急体制の充実」「防犯・交通安全の推進」がともに 3.05 ポイントであった。

重要度が高い取組は、「地域医療の充実」が 4.30 ポイントと最も高く、次いで「子育て支援」が 4.15 ポイント、「学校教育の充実」が 4.09 ポイントであった。



- ：「魅力と活力あふれる地域産業を育むまちづくり」関すること
- ：「環境にやさしく快適に暮らせるまちづくり」関すること
- ：「定住魅力の高いまちづくり」関すること
- ：「安全で安心なまちづくり」関すること
- ◇：「子どもが健やかに育つまちづくり」関すること
- ◆：「保健・医療・福祉が連携した安心のまちづくり」関すること
- △：「心豊かにいきいきと学べるまちづくり」関すること
- ▲：「参画と協働・行財政運営」関すること

<前回調査結果との比較>

満足度についてみると、前回調査では「上下水道」が最も高かったが、今回調査では道路網の整備・維持と一体となったため、「道路網・上下水道の整備・維持」としての順位は21位となった。

また、前回満足度が高かった「消防・救急」「健康づくり」は、今回調査でも引き続き満足度が高かった。

一方、前回満足度が低かった「商工業」「観光」「公共交通」については、今回調査でも引き続き満足度が低かった。

重要度についてみると、前回調査で最も高かった「医療体制」は、今回調査でも引き続き最も高い結果となった。一方、前回調査では「防災」「消防・救急」が高かったが、今回調査では「子育て支援」「学校教育」がこれを上回った。

一方、前回調査で低かった「人権・啓発」「男女共同参画」「文化・芸術」については、今回調査でも低い結果となった。

満足度

取組		今回		前回		前回取組項目
		点数	順位	点数	順位	
問 10-1 「魅力と活力あふれる地域産業を育むまちづくり」に関すること	①林業の振興	2.77	23	2.64	28	農業
	②農業の振興	2.66	24	2.66	27	林業
	③商工業の振興	2.48	30	2.35	31	商工業
	④観光の振興	2.57	27	2.44	30	観光
問 10-2 「環境にやさしく快適に暮らせるまちづくり」に関すること	①森林・田園・まち並み景観の保全	2.87	17	2.94	19	景観
				3.04	11	自然環境
	②資源循環型社会の構築	2.83	20	3.00	16	資源循環型社会
				2.84	23	エネルギー
	③住環境整備、土地利用の推進	2.52	29	2.69	25	住環境・土地利用
問 10-3 「定住魅力の高いまちづくり」に関すること	④道路網・上下水道の整備・維持	2.83	21	2.75	24	道路網
				3.43	1	上下水道
問 10-4 「安心して安全なまちづくり」に関すること	①生活圏の拠点づくりの推進	2.57	28	2.61	29	公共交通
	②移住・定住促進の充実	2.62	25	—	—	—
問 10-5 「子どもが健やかに育つまちづくり」に関すること	①防災体制の充実	2.97	11	3.03	13	防災
	②消防・救急体制の充実	3.05	3	3.17	2	消防・救急
	③防犯・交通安全の推進	3.05	4	3.05	10	防犯・安全
	④消費者行政の推進	2.84	19	—	—	—
問 10-6 「保健・医療・福祉が連携した安心のまちづくり」に関すること	①子育て支援の充実	3.01	8	3.06	9	子育て支援
	②就学前教育の充実	3.00	10	3.03	14	就学前教育
	③学校教育の充実	3.01	9	3.06	8	学校教育
	④青少年健全育成の推進	2.97	12	3.01	15	青少年
問 10-7 「心豊かにいきいきと学べるまちづくり」に関すること	①健康づくりの推進	3.09	1	3.15	3	健康づくり
	②地域医療の充実	2.58	26	2.66	26	医療体制
	③地域福祉の充実	2.92	14	2.93	20	地域福祉
	④高齢者福祉の充実	2.90	15	2.97	17	高齢者福祉
	⑤障がい福祉の充実	2.90	16	2.93	21	障がい福祉
	⑥社会保障の充実	2.86	18	—	—	—
問 10-8 「参画と協働・行財政運営」に関すること	①生涯学習の推進	3.06	2	3.14	4	生涯学習
	②文化・芸術活動の推進	3.02	6	3.06	7	文化・芸術
	③スポーツ活動の推進	3.02	7	3.06	6	スポーツ
	④人権教育・啓発の推進	3.03	5	3.08	5	人権・啓発
問 10-9 「協働のまちづくり」に関すること	①参画と協働・男女共同参画の推進	2.94	13	2.96	18	協働のまちづくり
				3.03	12	男女共同参画
問 10-10 「健全な行財政運営」に関すること	②健全な行財政運営の推進	2.81	22	2.87	22	行財政

 : 数値高い

 : 数値低い

重要度

取組		今回		前回		前回取組項目
		点数	順位	点数	順位	
問 10-1 「魅力と活力あふれる地域産業を育むまちづくり」に関する事 こと	①林業の振興	3.88	20	3.82	20	林業
	②農業の振興	4.08	4	3.88	16	農業
	③商工業の振興	3.99	11	4.06	9	商工業
	④観光の振興	3.93	16	4.01	12	観光
問 10-2 「環境にやさしく快適に暮らせるまちづくり」に関する事 こと	①森林・田園・まち並み景観の保全	3.84	22	3.70	24	景観
				3.84	19	自然環境
	②資源循環型社会の構築	3.74	24	3.87	17	資源循環型社会
				3.72	23	エネルギー
	③住環境整備、土地利用の推進	3.99	11	3.82	21	住環境・土地利用
				3.87	18	道路網
問 10-3 「定住魅力の高いまちづくり」に関する事 こと	①生活圏の拠点づくりの推進	4.01	8	4.11	5	公共交通
				—	—	—
	②移住・定住促進の充実	3.92	17	—	—	—
				—	—	—
問 10-4 「安心で安全なまちづくり」に関する事 こと	①防災体制の充実	4.08	4	4.17	2	防災
	②消防・救急体制の充実	4.08	4	4.15	3	消防・救急
	③防犯・交通安全の推進	3.91	18	4.10	6	防犯・安全
	④消費者行政の推進	3.72	25	—	—	—
問 10-5 「子どもが健やかに育つまちづくり」に関する事 こと	①子育て支援の充実	4.15	2	4.08	8	子育て支援
	②就学前教育の充実	3.98	14	3.97	14	就学前教育
	③学校教育の充実	4.09	3	4.10	7	学校教育
	④青少年健全育成の推進	3.89	19	3.98	13	青少年
問 10-6 「保険・医療・福祉が連携した安心のまちづくり」に関する事 こと	①健康づくりの推進	3.85	21	3.96	15	健康づくり
	②地域医療の充実	4.30	1	4.42	1	医療体制
	③地域福祉の充実	4.01	8	4.02	11	地域福祉
	④高齢者福祉の充実	4.03	7	4.12	4	高齢者福祉
	⑤障がい福祉の充実	3.95	15	4.05	10	障がい福祉
	⑥社会保障の充実	4.01	8	—	—	—
問 10-7 「心豊かにいきいきと学べるまちづくり」に関する事 こと	①生涯学習の推進	3.41	29	3.48	28	生涯学習
	②文化・芸術活動の推進	3.43	27	3.47	29	文化・芸術
	③スポーツ活動の推進	3.42	28	3.49	27	スポーツ
	④人権教育・啓発の推進	3.40	30	3.43	31	人権・啓発
問 10-8 「参画と協働・行財政運営」に関する事 こと	①参画と協働・男女共同参画の推進	3.53	26	3.61	25	協働のまちづくり
				3.44	30	男女共同参画
	②健全な行財政運営の推進	3.76	23	3.78	22	行財政

■ : 数値高い

□ : 数値低い

【年齢別】

満足度が高い取組は、18 歳・19 歳と 20～29 歳で「防犯・交通安全の推進」、30～39 歳で「森林・田園・まち並み景観の保全」、40～49 歳と 80 歳以上で「健康づくりの推進」、50～59 歳で「子育て支援の充実」、60～69 歳で「生涯学習の推進」、70～79 歳で「消防・救急体制の充実」であった。

重要度が高い取組は、18 歳・19 歳と 40～79 歳で「地域医療の充実」、20～39 歳で「子育て支援の充実」、80 歳以上では「高齢者福祉の充実」が最も高かった。

30 歳から 69 歳で全体的に満足度が低くなっている。

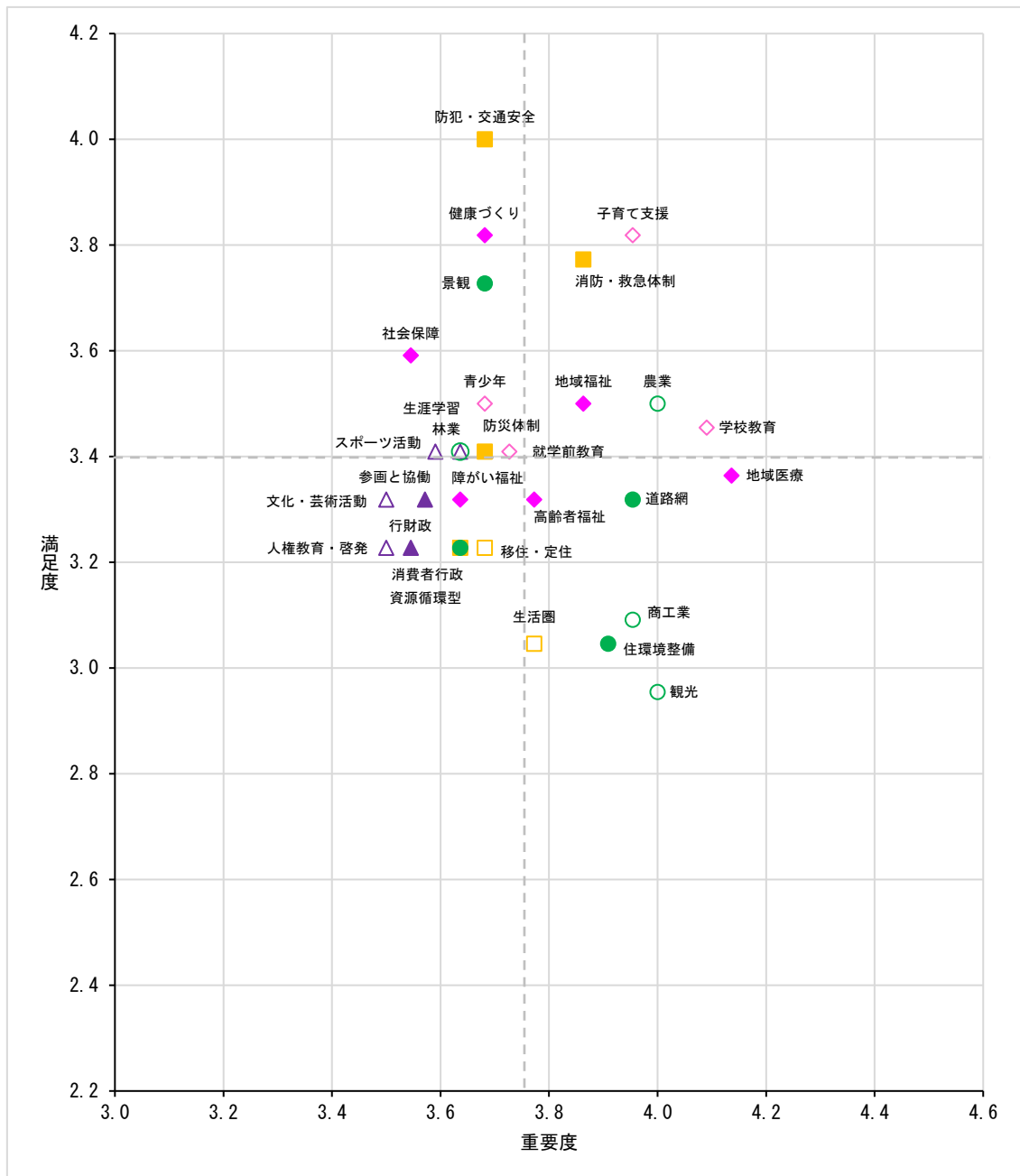
満足度・重要度が高い取組（年齢別）

年齢区分	満足度が高い取組	点数	重要度が高い取組	点数
18 歳・19 歳	防犯・交通安全の推進	4.00	地域医療の充実	4.14
20～29 歳	防犯・交通安全の推進	3.46	子育て支援の充実	4.34
30～39 歳	森林・田園・まち並み景観の保全	3.18	子育て支援の充実	4.34
40～49 歳	健康づくりの推進	3.04	地域医療の充実	4.32
50～59 歳	子育て支援の充実	3.09	地域医療の充実	4.28
60～69 歳	生涯学習の推進	2.98	地域医療の充実	4.35
70～79 歳	消防・救急体制の充実	3.20	地域医療の充実	4.34
80 歳以上	健康づくりの推進	3.33	高齢者福祉の充実	4.43

<18歳・19歳>

満足度が高い取組は、「防犯・交通安全の推進」が4.00ポイントと最も高く、次いで「子育て支援の充実」「健康づくりの推進」がともに3.81ポイントであった。

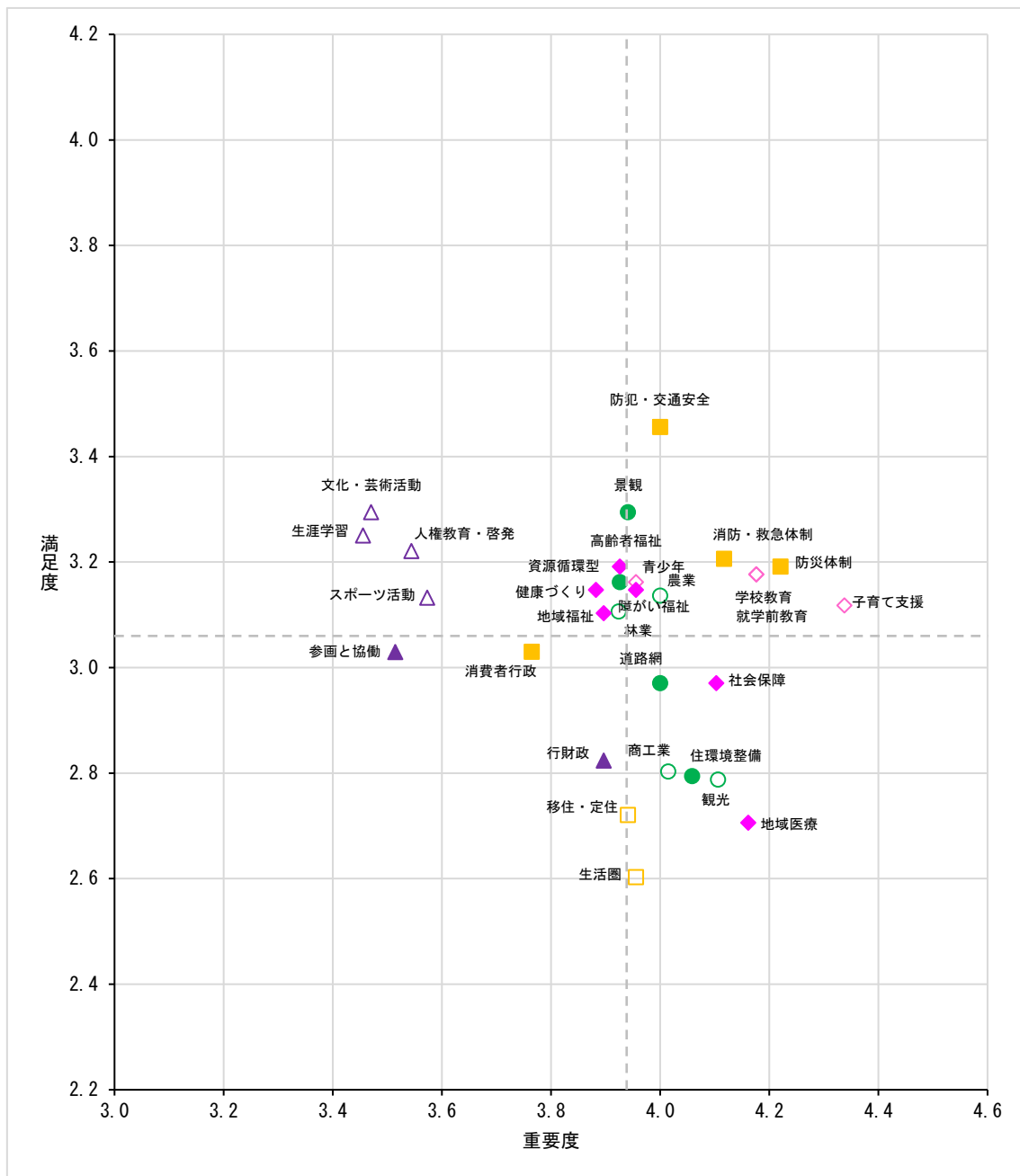
重要度が高い取組は、「地域医療の充実」が4.14ポイントと最も高く、次いで「学校教育の充実」が4.09ポイント、「農業の振興」「観光の振興」がともに4.00ポイントであった。



<20～29 歳>

満足度が高い取組は、「防犯・交通安全の推進」が 3.46 ポイントと最も高く、次いで「森林・田園・まち並み景観の保全」「文化・芸術活動の推進」がともに 3.29 ポイントであった。

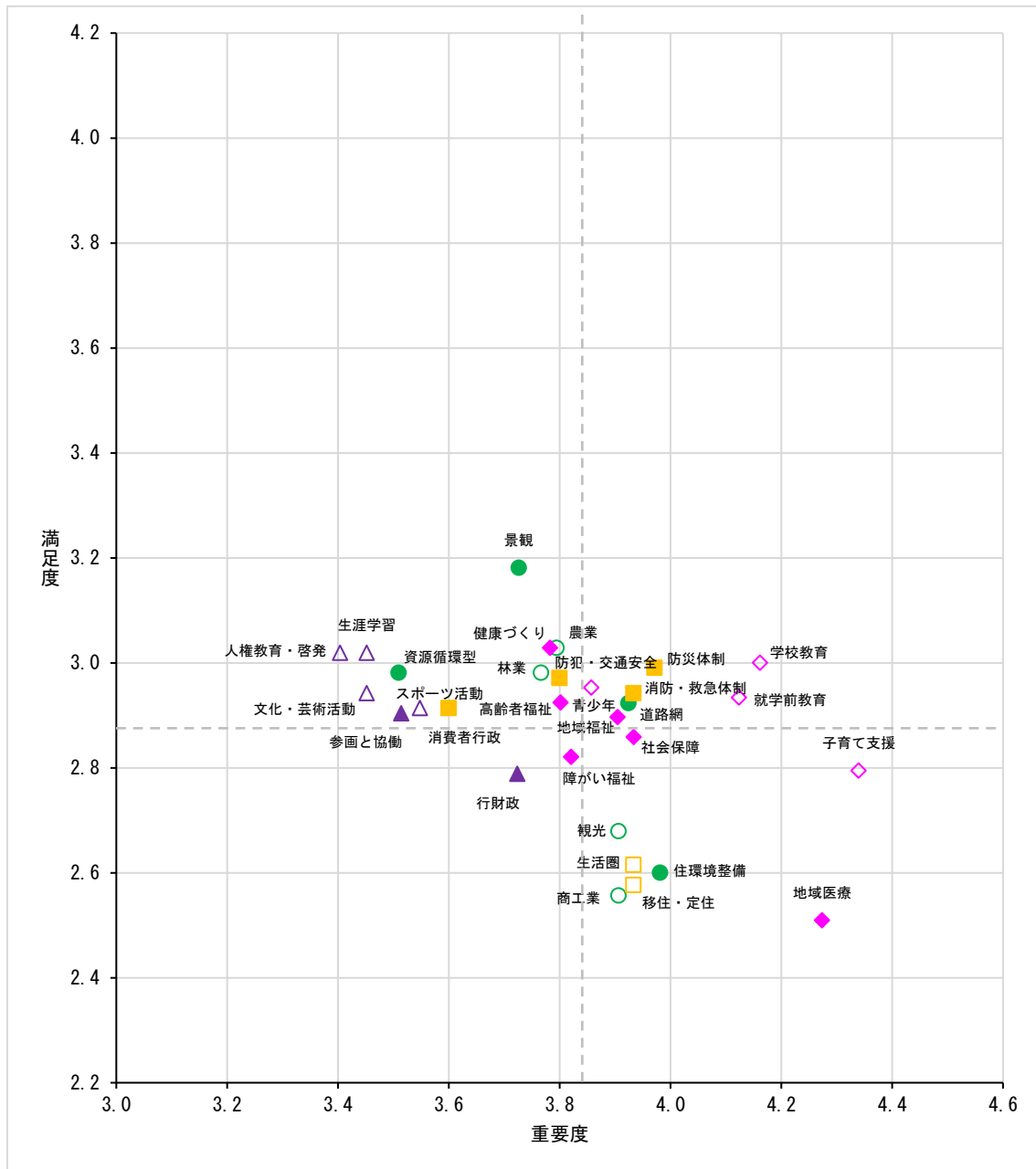
重要度が高い取組は、「子育て支援の充実」が 4.34 ポイントと最も高く、次いで「防災体制の充実」が 4.22 ポイント、「就学前教育の充実」が 4.18 ポイントであった。



<30～39 歳>

満足度が高い取組は、「森林・田園・まち並み景観の保全」が 3.18 ポイントと最も高く、次いで「健康づくりの推進」「農業の振興」がともに 3.03 ポイントであった。

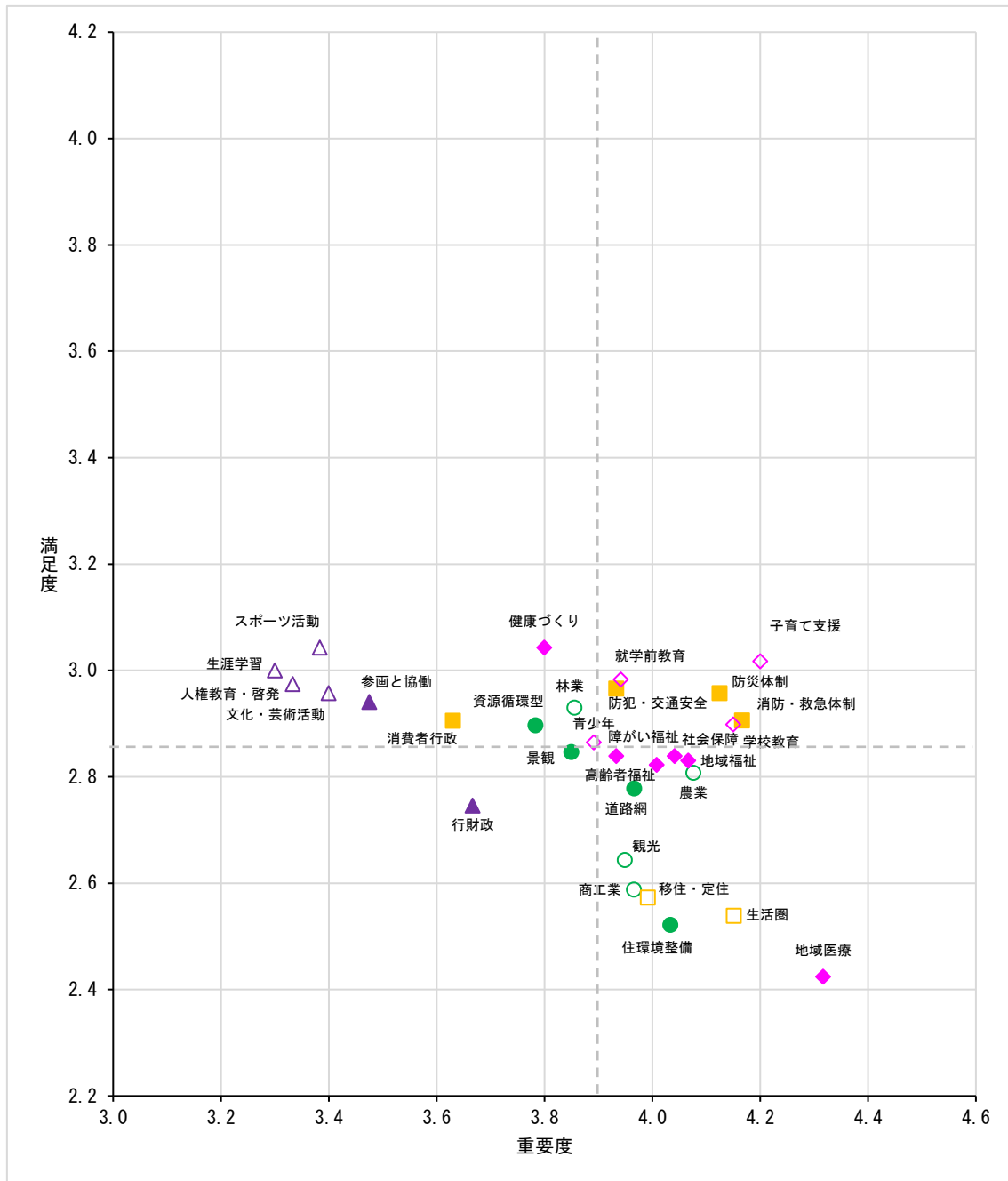
重要度が高い取組は、「子育て支援の充実」が 4.34 ポイントと最も高く、次いで「地域医療の充実」が 4.27 ポイント、「学校教育の充実」が 4.16 ポイントであった。



<40～49 歳>

満足度が高い取組は、「健康づくりの推進」「スポーツ活動の推進」がともに 3.04 ポイントと最も高く、次いで「子育て支援の充実」が 3.02 ポイントであった。

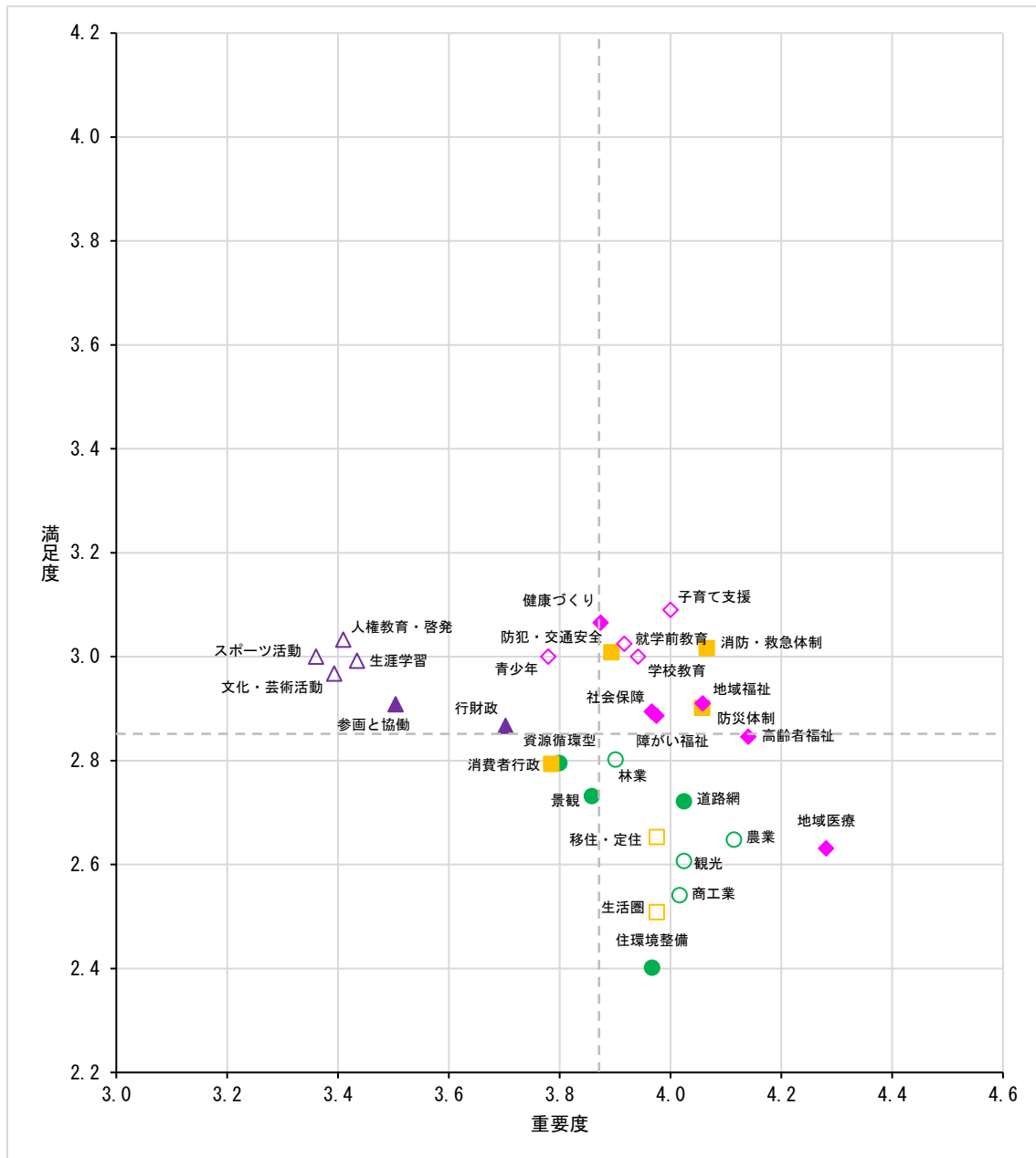
重要度が高い取組は、「地域医療の充実」が 4.32 ポイントと最も高く、次いで「子育て支援の充実」が 4.20 ポイント、「消防・救急体制の充実」が 4.17 ポイントであった。



<50～59 歳>

満足度が高い取組は、「子育て支援の充実」が 3.09 ポイントと最も高く、次いで「健康づくりの推進」が 3.07 ポイント、「人権教育・啓発の推進」が 3.03 ポイントであった。

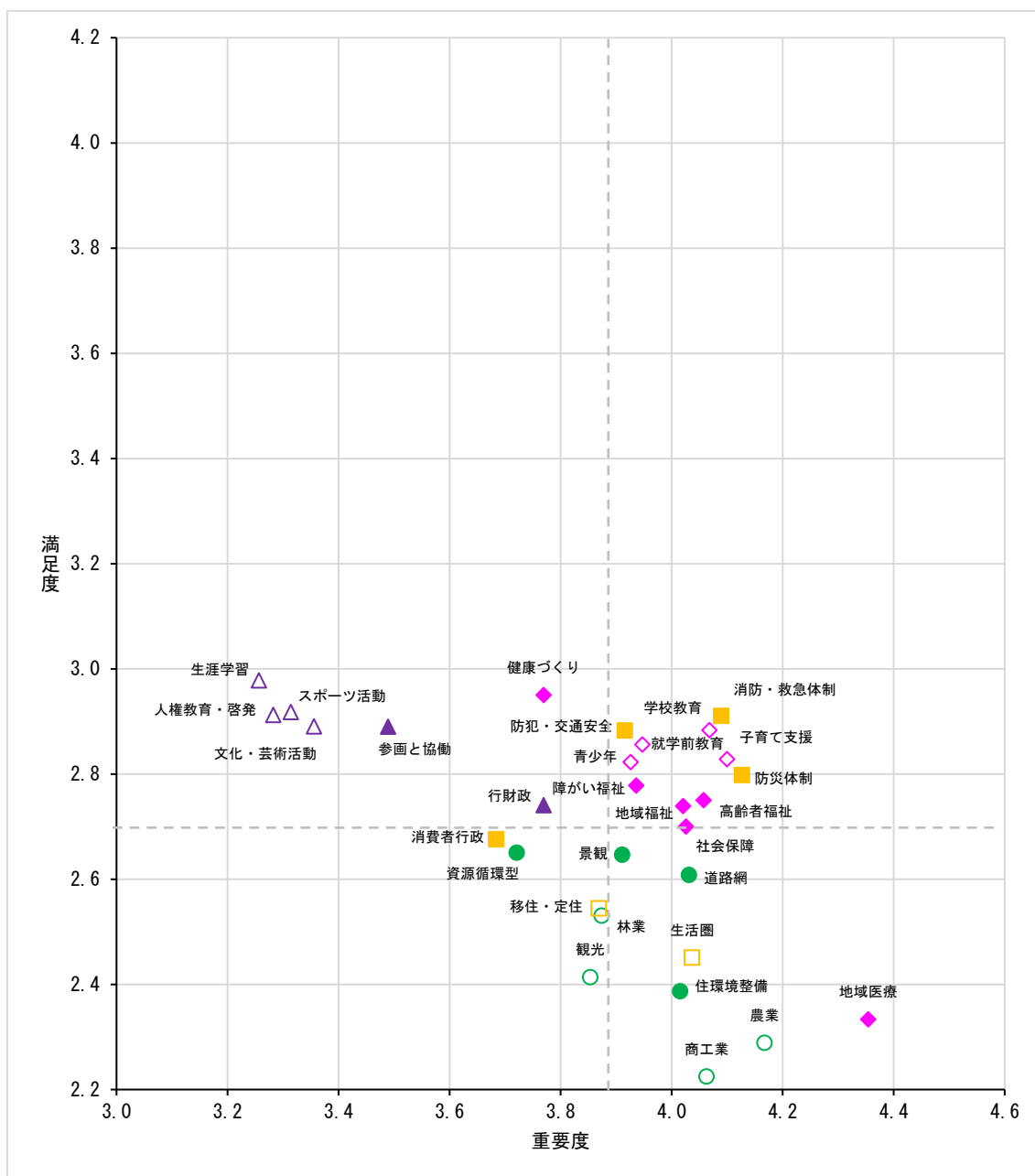
重要度が高い取組は、「地域医療の充実」が 4.28 ポイントと最も高く、次いで「高齢者福祉の充実」が 4.14 ポイント、「農業の振興」が 4.11 ポイントであった。



<60～69 才>

満足度が高い取組は、「生涯学習の推進」が 2.98 ポイントと最も高く、次いで「健康づくりの推進」が 2.95 ポイント、「スポーツ活動の推進」が 2.95 ポイントであった。

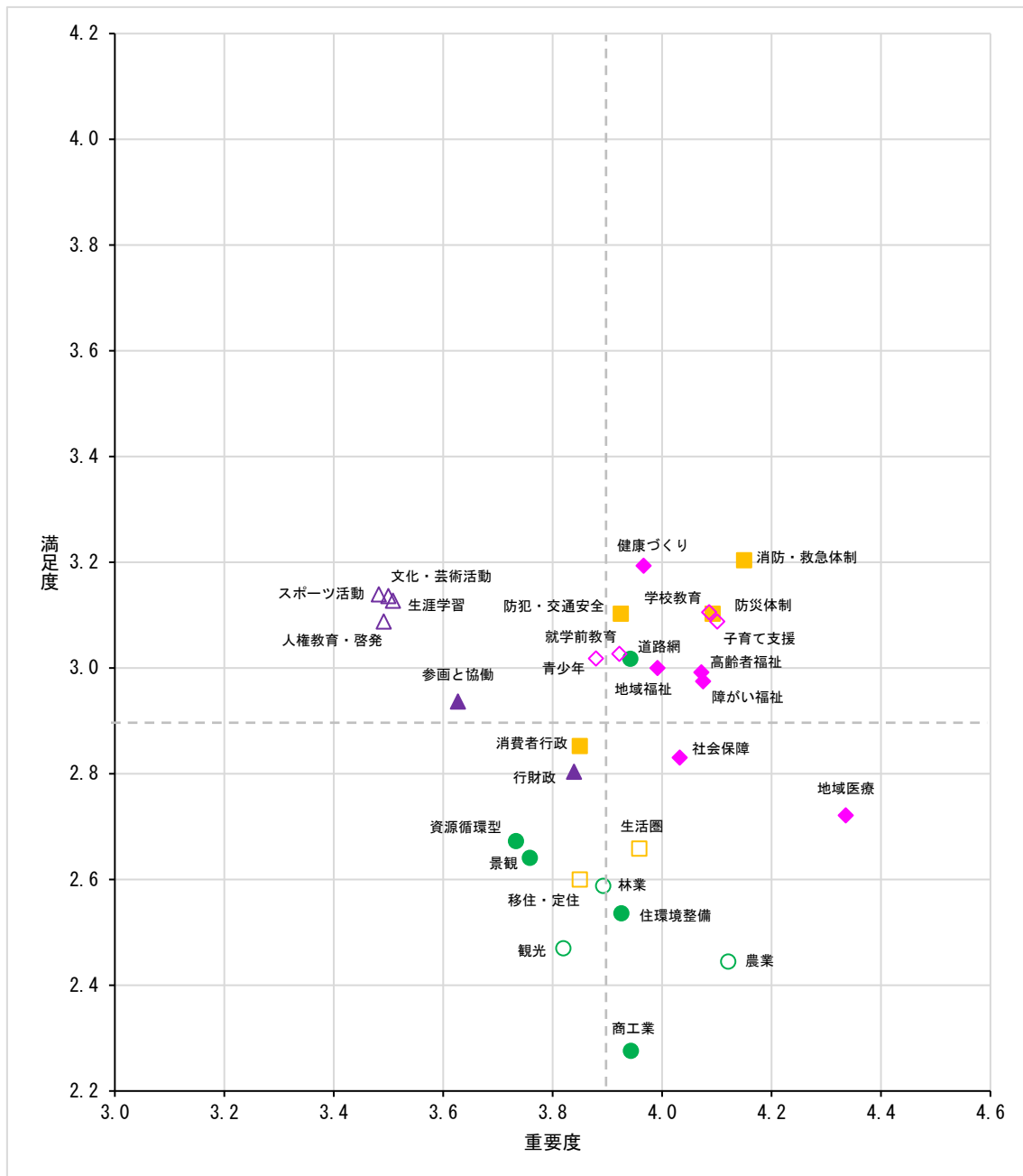
重要度が高い取組は、「地域医療の充実」が 4.35 ポイントと最も高く、次いで「農業の振興」が 4.17 ポイント、「防災体制の充実」が 4.13 ポイントとなっていた。



<70～79 才>

満足度が高い取組は、「消防・救急体制の充実」が 3.20 ポイントと最も高く、次いで「健康づくりの推進」が 3.19 ポイント、「スポーツ活動の推進」が 3.14 ポイントであった。

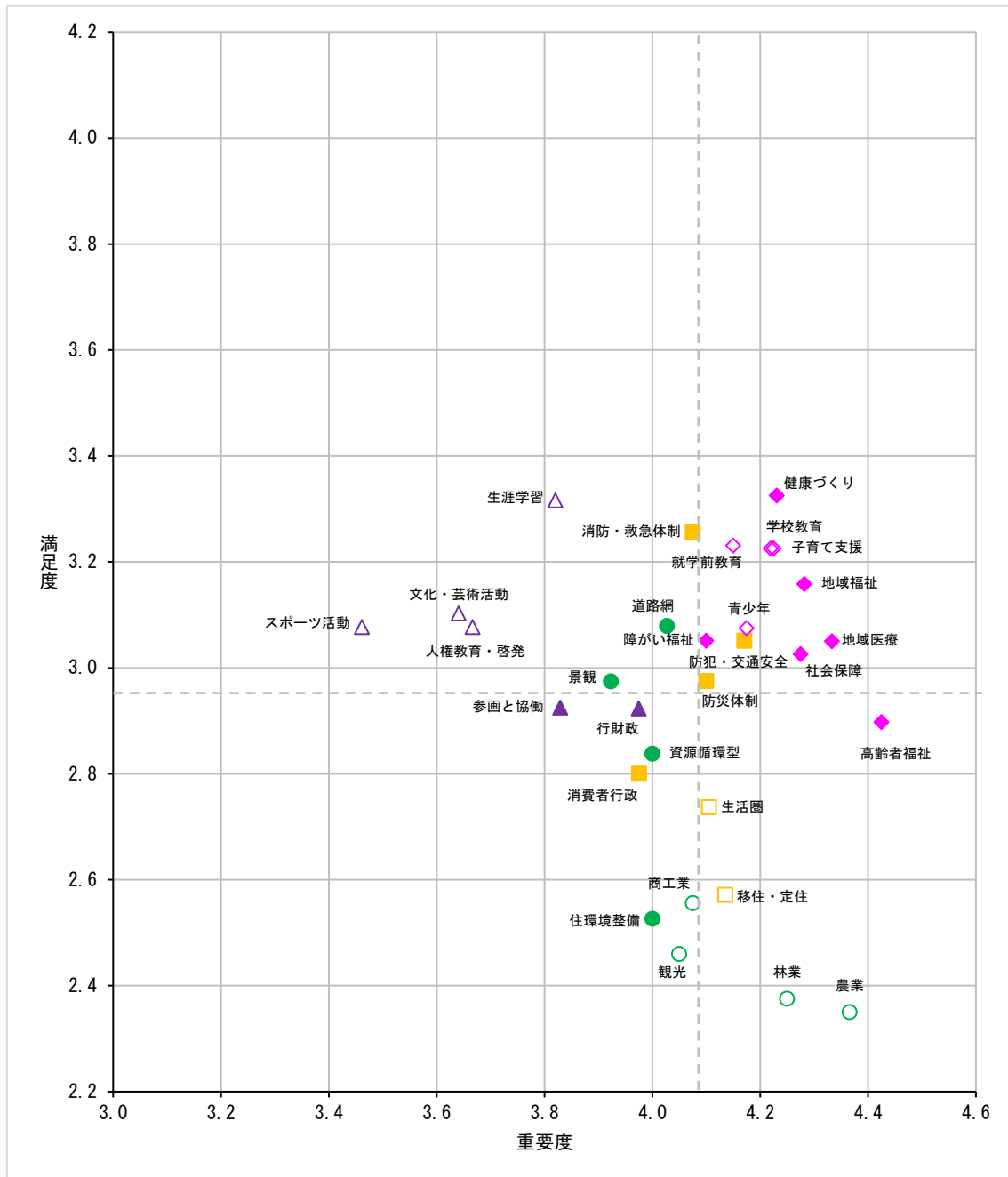
重要度が高い取組は、「地域医療の充実」が 4.34 ポイントと最も高く、次いで「消防・救急体制の充実」が 4.15 ポイント、「農業の振興」が 4.12 ポイントであった。



<80才以上>

満足度が高い取組は、「健康づくりの推進」が3.33ポイントと最も高く、次いで「生涯学習の推進」が3.32ポイント、「消防・救急体制の充実」が3.26ポイントであった。

重要度が高い取組は、「高齢者福祉の充実」が4.43ポイントと最も高く、次いで「農業の振興」が4.37ポイント、「地域医療の充実」が4.33ポイントであった。



【居住地別】

満足度が高い取組は、山崎西で「防犯・交通安全の充実」、山崎南と千種で「消防・救急体制の充実」、山崎東と一宮北で「健康づくりの推進」、一宮南と波賀で「生涯学習の推進」、市外・その他で「農業の振興」であった。

重要度が高い取組は、市外・その他を除いて「地域医療の充実」が最も高かった。市外・その他では「子育て支援の充実」が最も高かった。

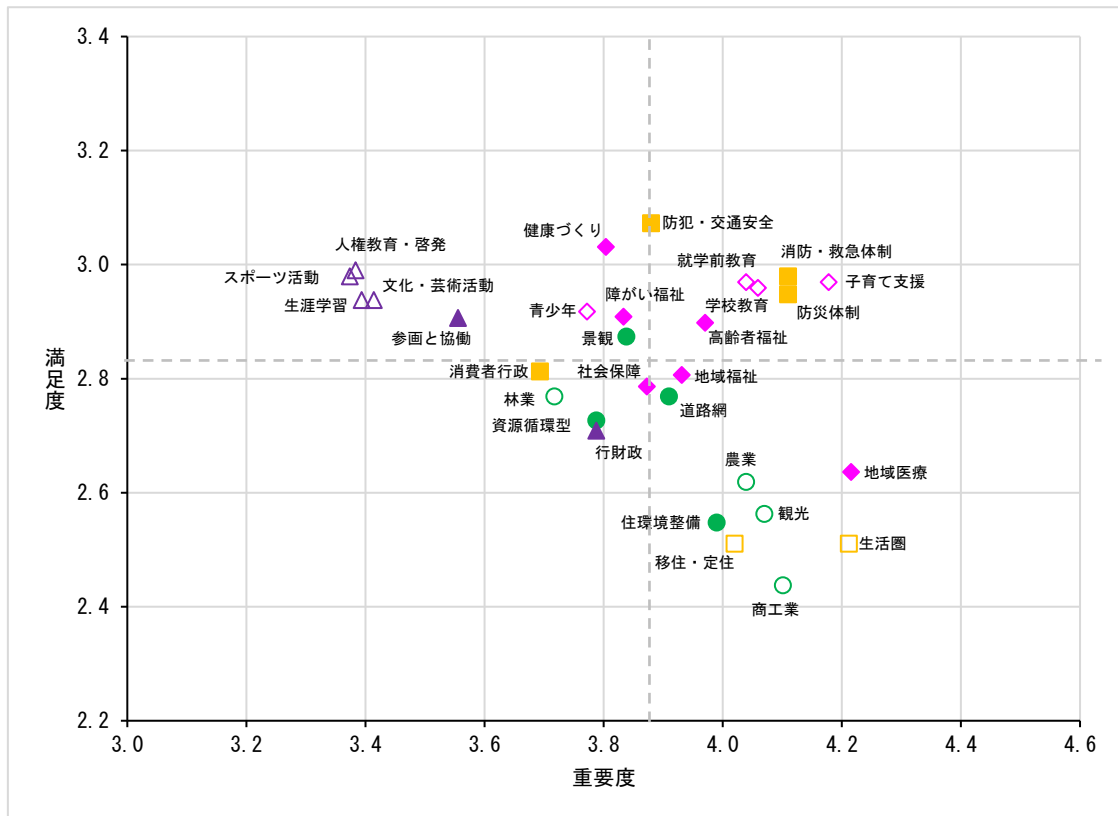
満足度・重要度が高い取組（居住地別）

居住地区分	満足度が高い取組	点数	重要度が高い取組	点数
山崎西	防犯・交通安全の充実	3.07	地域医療の充実	4.22
山崎南	消防・救急体制の充実	3.12	地域医療の充実	4.28
山崎東	健康づくりの推進	3.17	地域医療の充実	4.25
一宮南	生涯学習の推進	3.17	地域医療の充実	4.28
一宮北	健康づくりの推進	3.08	地域医療の充実	4.42
波賀	生涯学習の推進	3.12	地域医療の充実	4.24
千種	消防・救急体制の充実	3.14	地域医療の充実	4.36
市外・その他	農業の振興	3.36	子育て支援の充実	4.27

<山崎西>

満足度が高い取組は、「防犯・交通安全の推進」が 3.07 ポイントと最も高く、次いで「健康づくりの推進」が 3.03 ポイント、「人権教育・啓発の推進」が 2.99 ポイントであった。

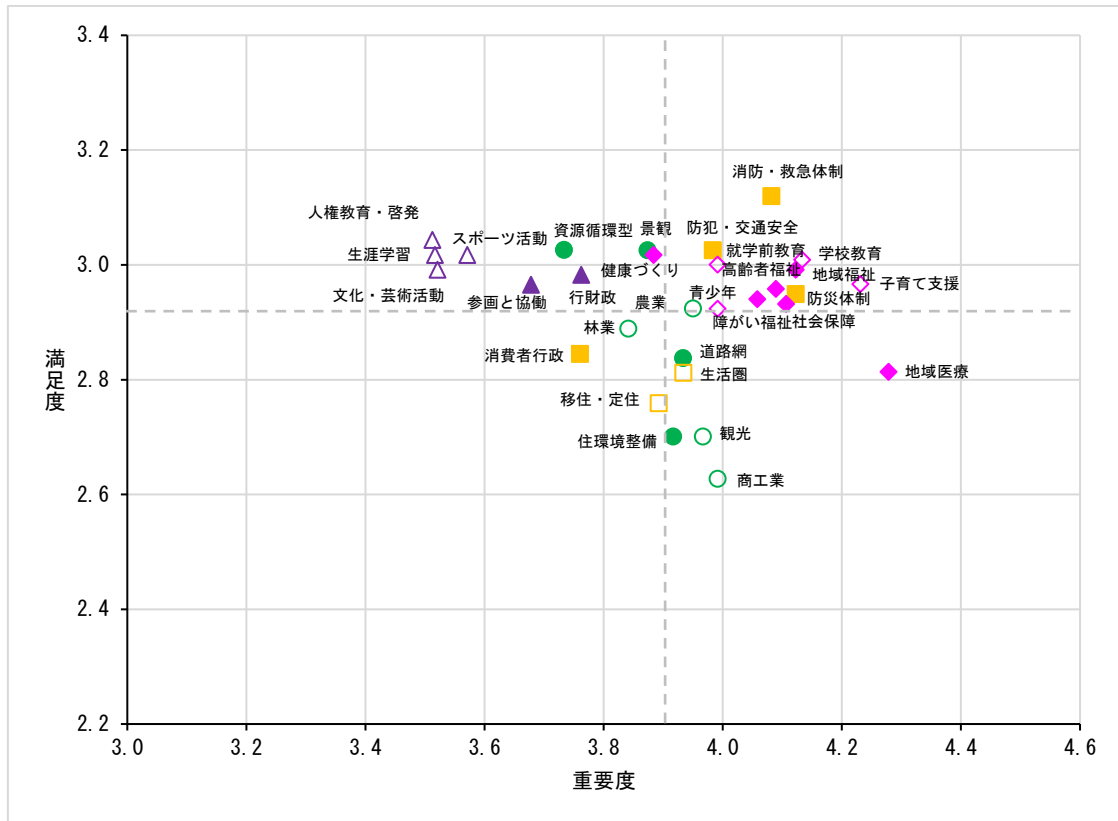
重要度が高い取組は、「地域医療の充実」が 4.22 ポイントと最も高く、次いで「生活圏の拠点づくりの推進」が 4.21 ポイント、「子育て支援の充実」が 4.18 ポイントであった。



<山崎南>

満足度が高い取組は、「消防・救急体制の充実」が 3.12 ポイントと最も高く、次いで「人権教育・啓発の推進」が 3.04 ポイント、「資源循環型社会の構築」が 3.03 ポイントであった。

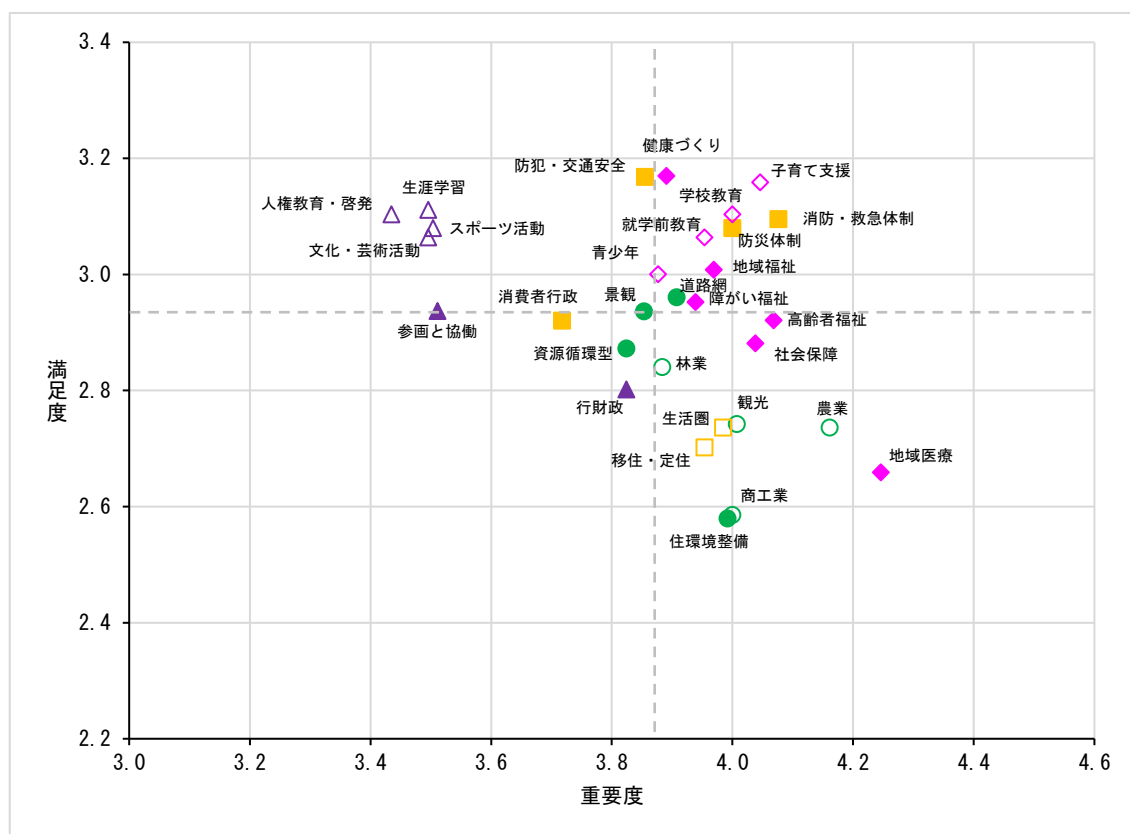
重要度が高い取組は、「地域医療の充実」が 4.27 ポイントと最も高く、次いで「子育て支援の充実」が 4.23 ポイント、「学校教育の充実」が 4.13 ポイントであった。



<山崎東>

満足度が高い取組は、「健康づくりの推進」「防犯・交通安全の推進」が 3.17 ポイントと最も高く、次いで「子育て支援の充実」が 3.16 ポイントであった。

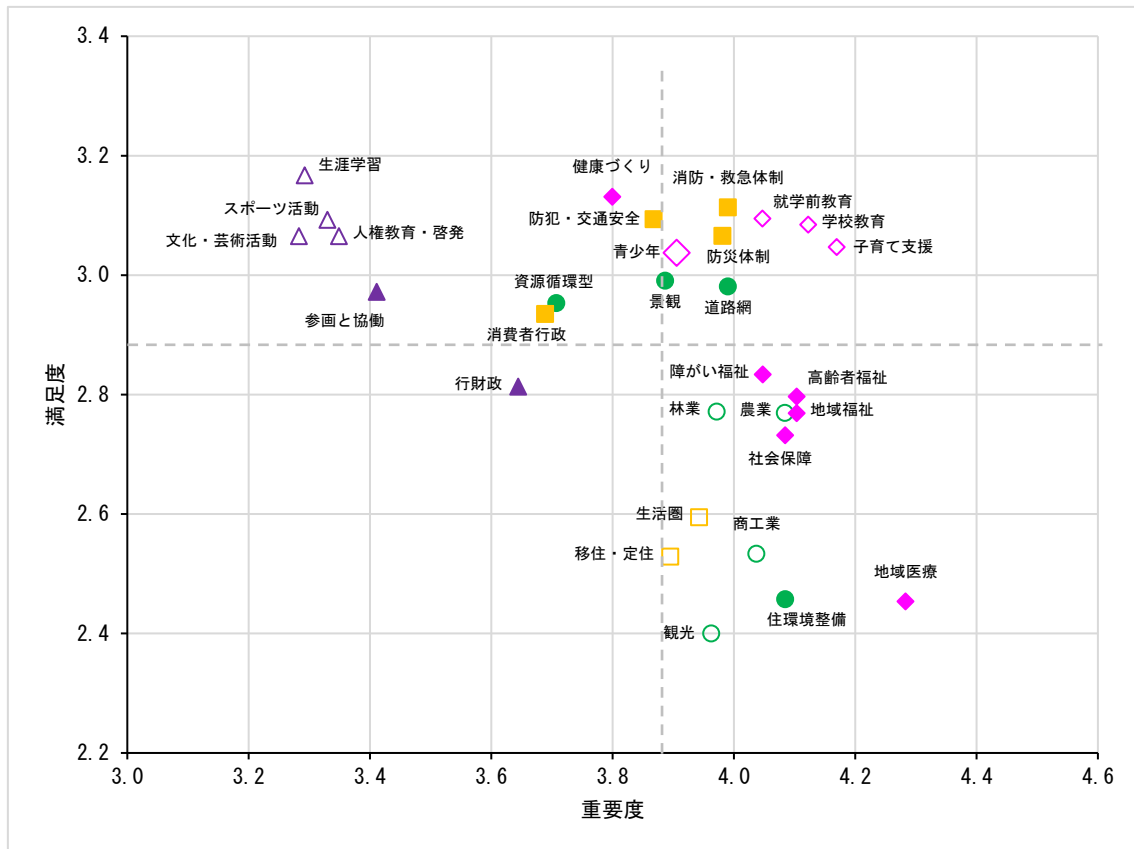
重要度が高い取組は、「地域医療の充実」が 4.25 ポイントと最も高く、次いで「農業の振興」が 4.16 ポイント、「消防・救急体制の充実」が 4.08 ポイントであった。



<一宮南>

満足度が高い取組は、「生涯学習の推進」が 3.17 ポイントと最も高く、次いで「健康づくりの推進」が 3.13 ポイント、「消防・救急体制の充実」が 3.11 ポイントであった。

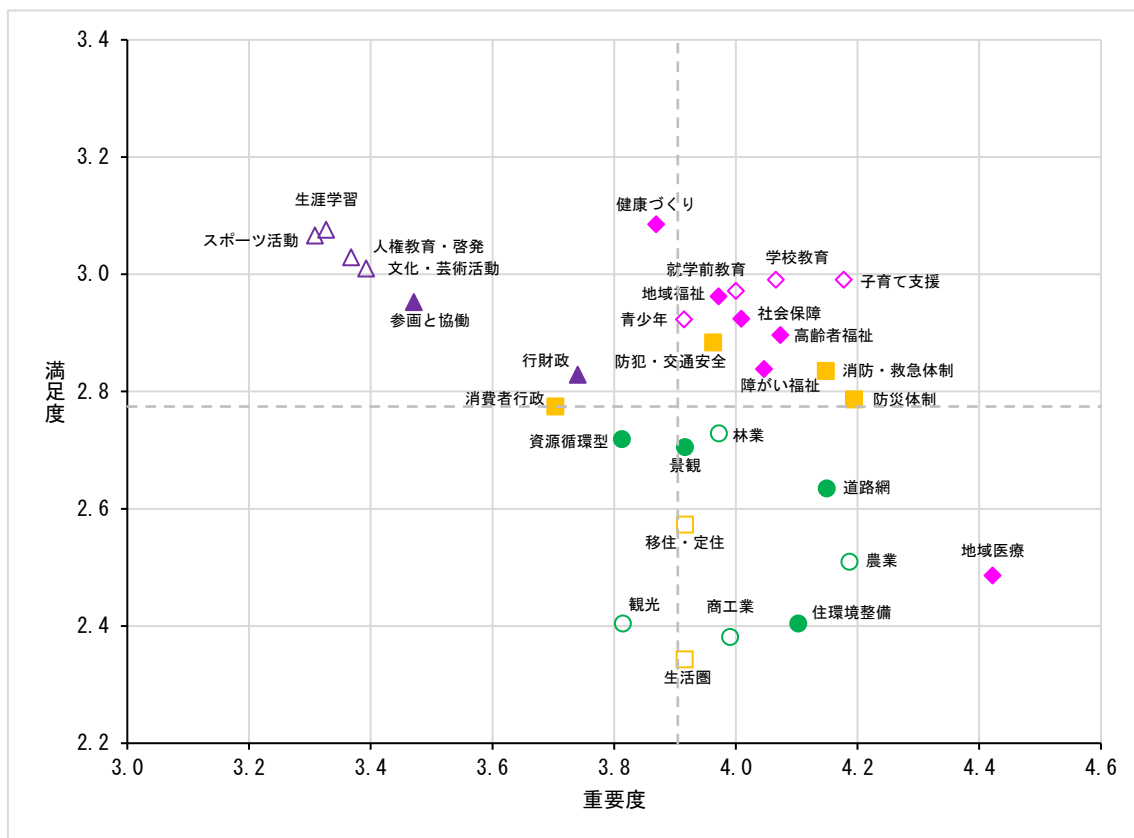
重要度が高い取組は、「地域医療の充実」が 4.28 ポイントと最も高く、次いで「子育て支援の充実」が 4.17 ポイント、「学校教育の充実」が 4.13 ポイントであった。



<一宮北>

満足度が高い取組は、「健康づくりの推進」「生涯学習の推進」が 3.08 ポイントと最も高く、次いで「スポーツ活動の推進」が 3.07 ポイントであった。

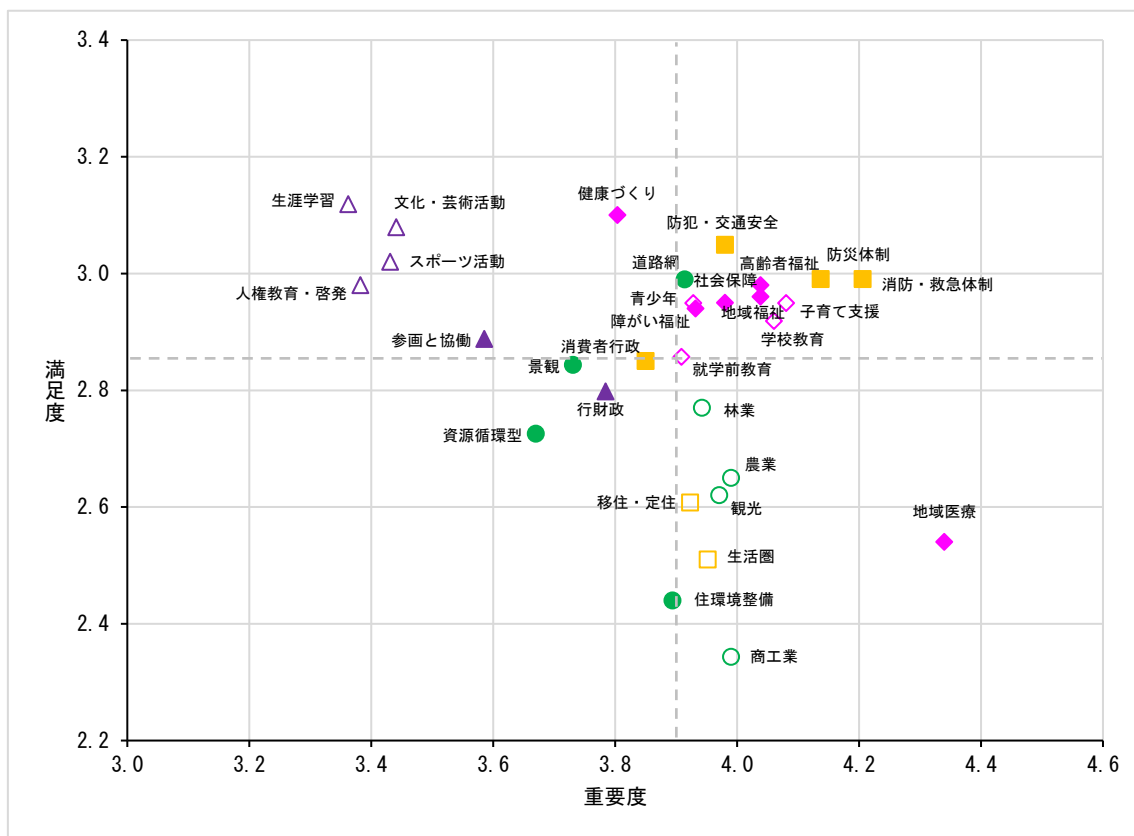
重要度が高い取組は、「地域医療の充実」が 4.42 ポイントと最も高く、次いで「防災体制の充実」「農業の振興」が 4.19 ポイントであった。



<波賀>

満足度が高い取組は、「生涯学習の推進」が 3.12 ポイントと最も高く、次いで「健康づくりの推進」が 3.10 ポイント、「文化・芸術活動の推進」が 3.08 ポイントであった。

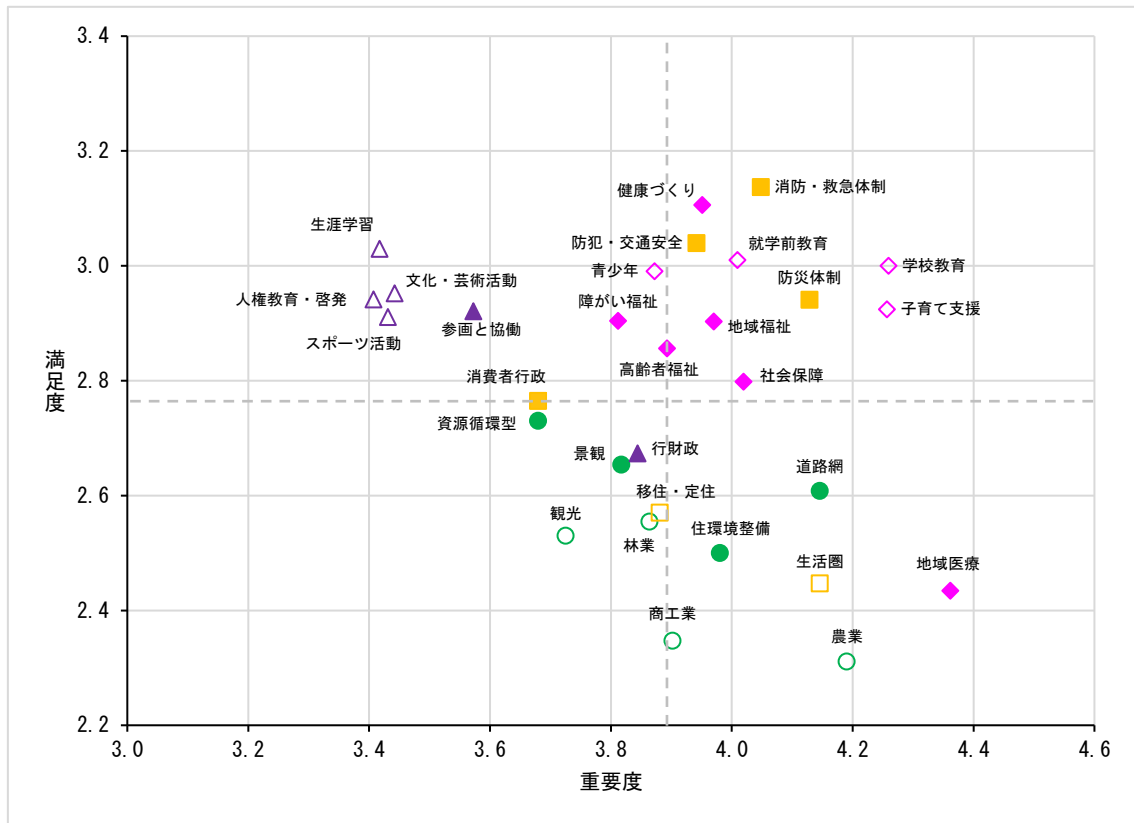
重要度の高い取組は、「地域医療の充実」が 4.34 ポイントと最も高く、次いで「消防・救急体制の充実」が 4.21 ポイント、「防災体制の充実」が 4.14 ポイントであった。



<千種>

満足度が高い取組は、「消防・救急体制の充実」が 3.14 ポイントと最も高く、次いで「健康づくりの推進」が 3.14 ポイント、防犯・交通安全の推進」が 3.04 ポイントであった。

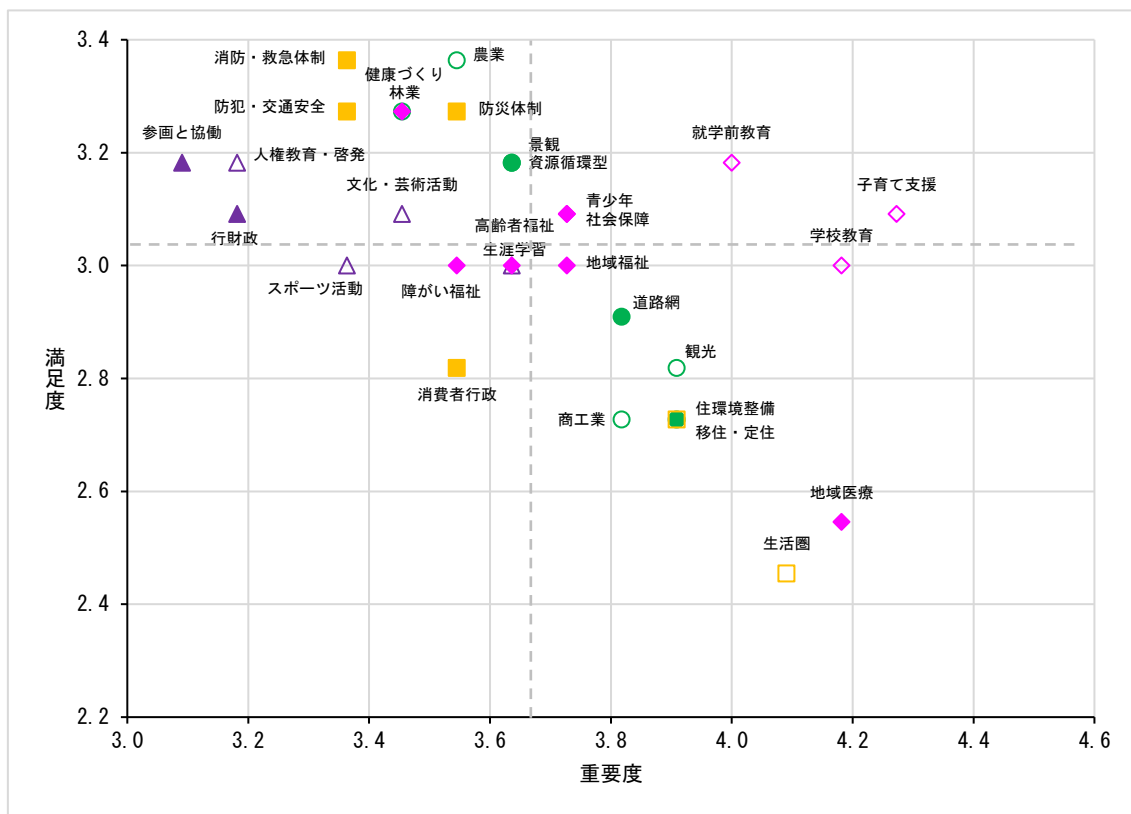
重要度が高い取組は、「地域医療の充実」が 4.36 ポイントと最も高く、次いで「学校教育の充実」「子育て支援の充実」が 4.26 ポイントであった。



＜市外・その他＞

満足度が高い取組は、「農業の振興」「消防・救急体制の充実」が 3.36 ポイントと最も高く、次いで「林業の振興」が 3.27 ポイントであった。

重要度が高い取組は、「子育て支援の充実」が 4.27 ポイントと最も高く、次いで「学校教育の充実」「地域医療の充実」が 4.18 ポイントであった。



【住みごころ別】

満足度が高い取組は、『住みよい』と回答した人は「健康づくりの推進」が 3.18 ポイント、『どちらともいえない』と回答した人は「生涯学習の推進」が 3.06 ポイント、『住みにくい』と回答した人は「健康づくりの推進」が 2.94 ポイントと最も高かった。

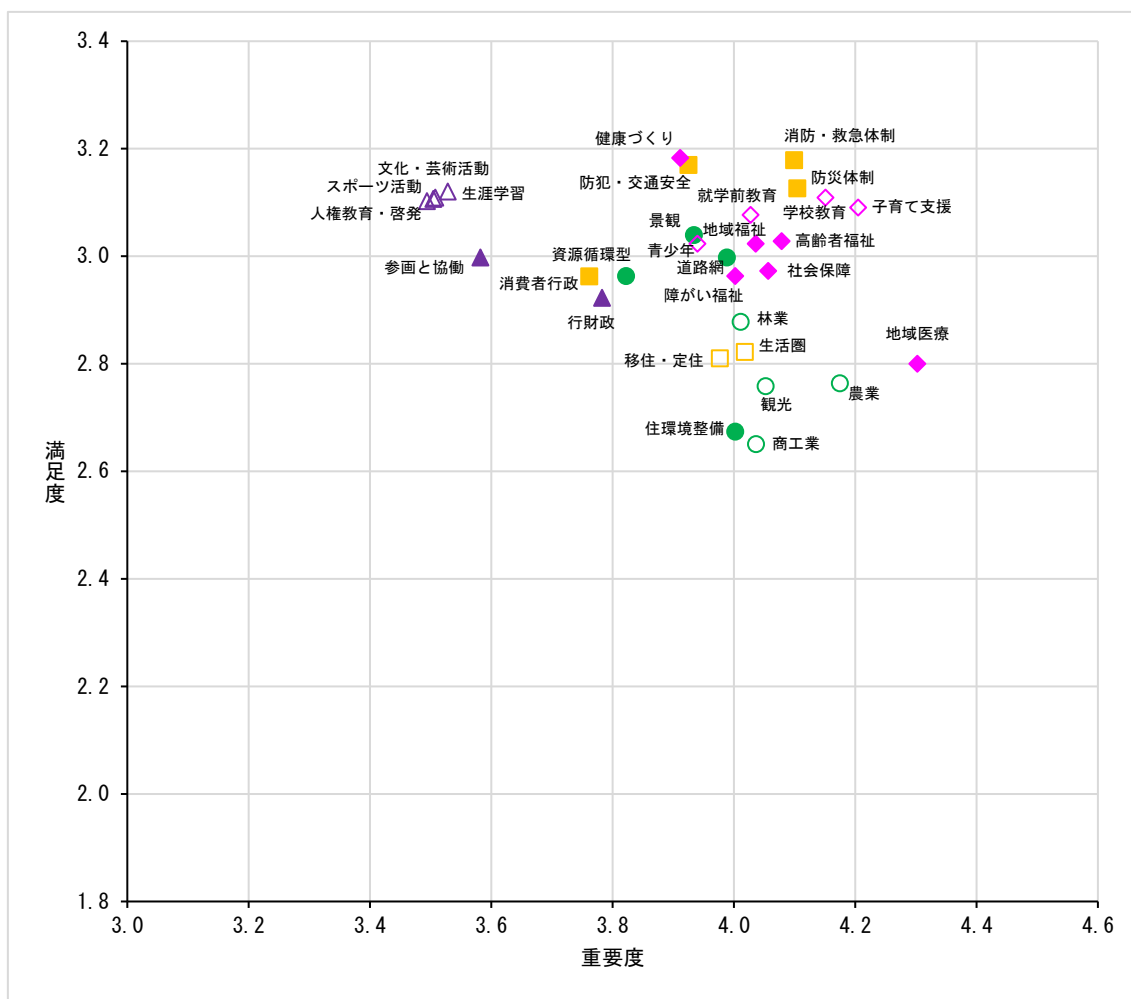
重要度が高い取組は、『住みよい』『どちらともいえない』『住みにくい』いずれも 4.3 ポイント、4.16 ポイント、4.44 ポイントと最も高かった。

住みごころ	満足度が高い取組	点数	重要度が高い取組	点数
『住みよい』	健康づくりの推進	3.18	地域医療の充実	4.3
『どちらともいえない』	生涯学習の推進	3.06	地域医療の充実	4.16
『住みにくい』	健康づくりの推進	2.94	地域医療の充実	4.44

<『住みよい』と回答した人>

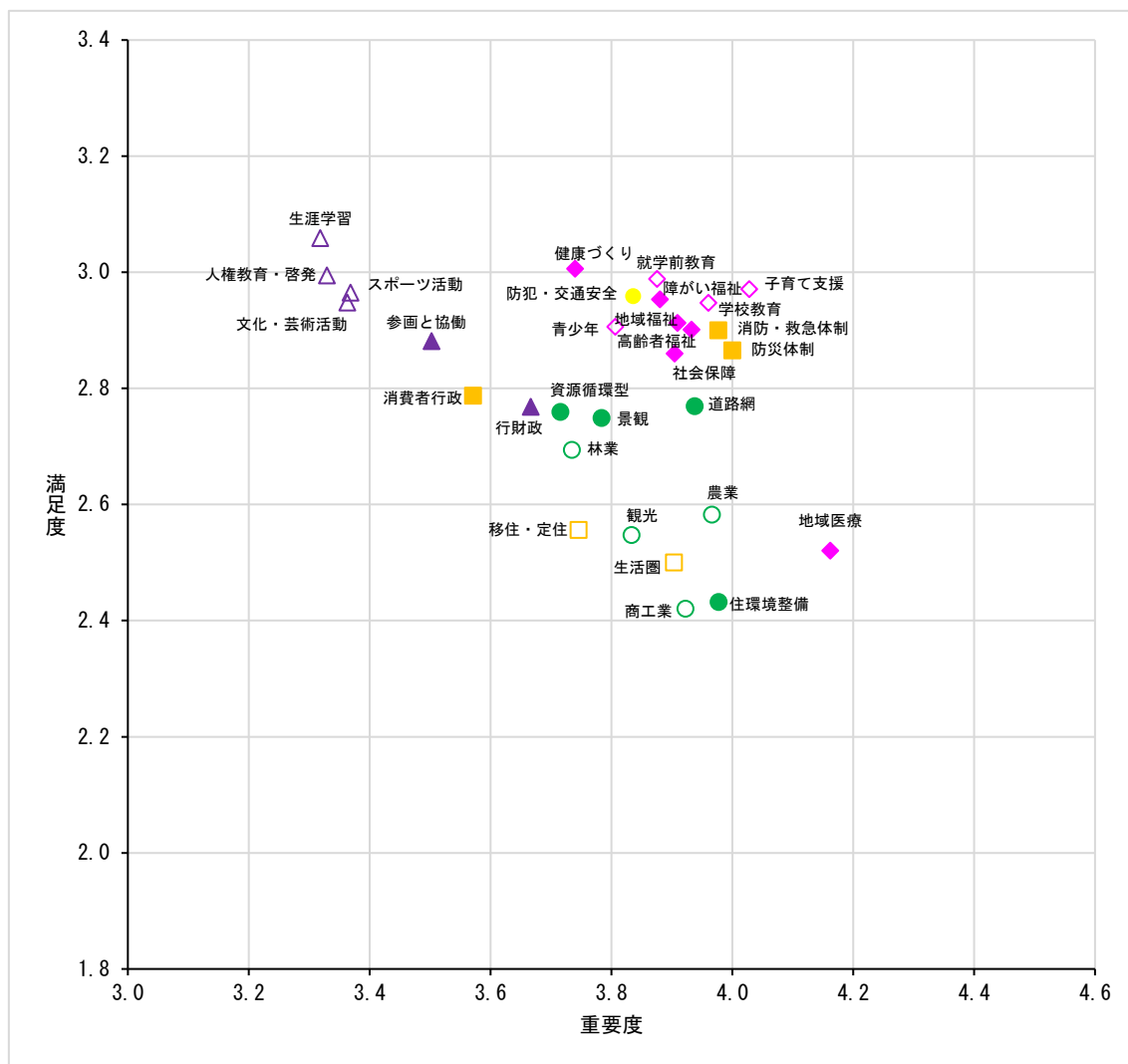
満足度が高い取組は、「健康づくりの推進」が 3.18 ポイントと最も高く、次いで「消防・救急体制の充実」が 3.18 ポイント、「防犯・交通安全の推進」が 3.17 ポイントであった。

重要度が高い取組は、「地域医療の充実」が 4.30 ポイントと最も高く、次いで「子育て支援の充実」が 4.21 ポイント、「農業の推進」が 4.18 ポイントであった。



<『どちらともいえない』と回答した人>

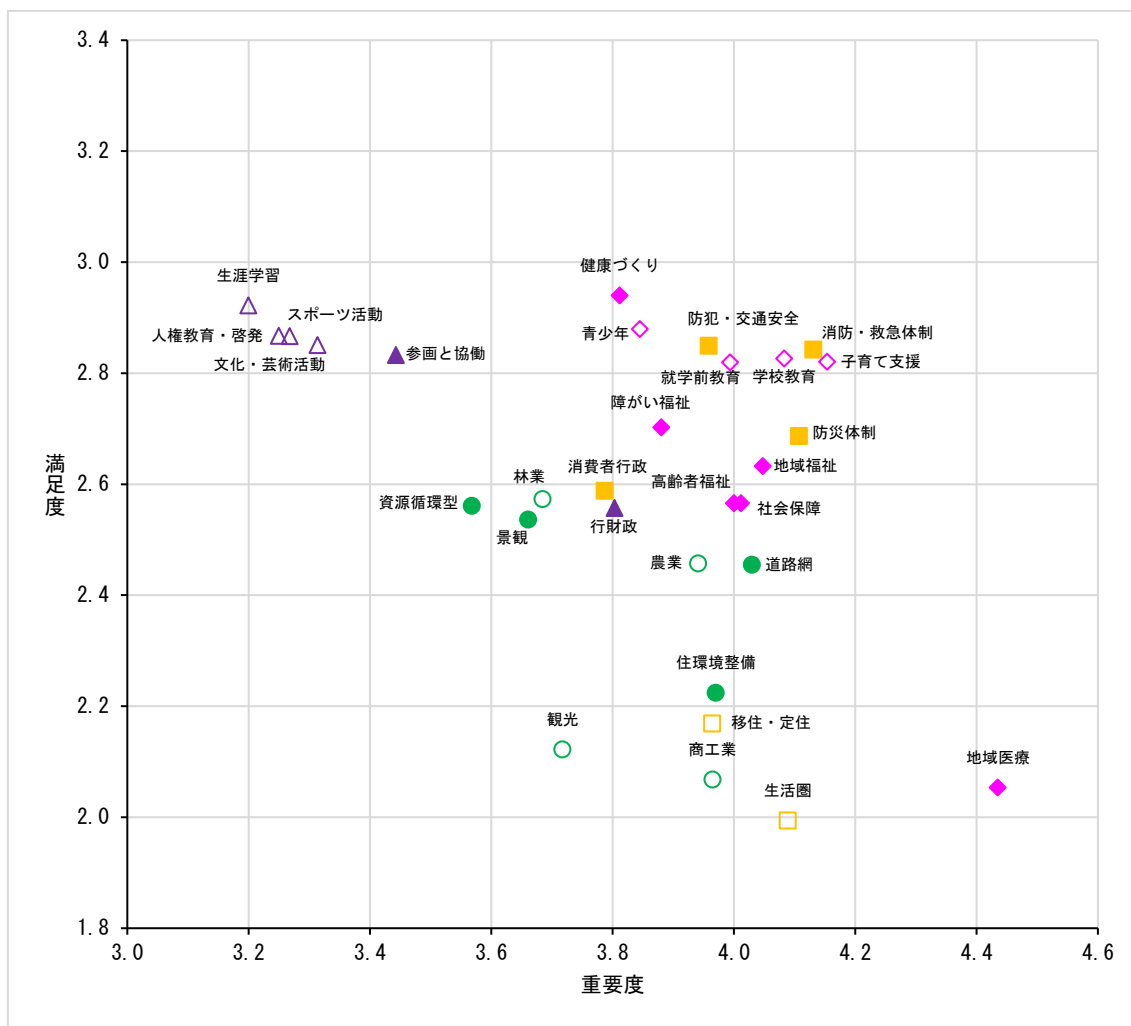
満足度が高い取組は、「生涯学習の推進」が 3.06 ポイントと最も高く、次いで「健康づくりの推進」が 3.01 ポイント、「人権教育・啓発の推進」が 2.99 ポイントであった。



＜『住みにくい』と回答した人＞

満足度が高い取組は、「健康づくりの推進」が 2.94 ポイントと最も高く、次いで「生涯学習の推進」が 2.92 ポイント、「青少年健全育成の推進」が 2.88 ポイントであった。

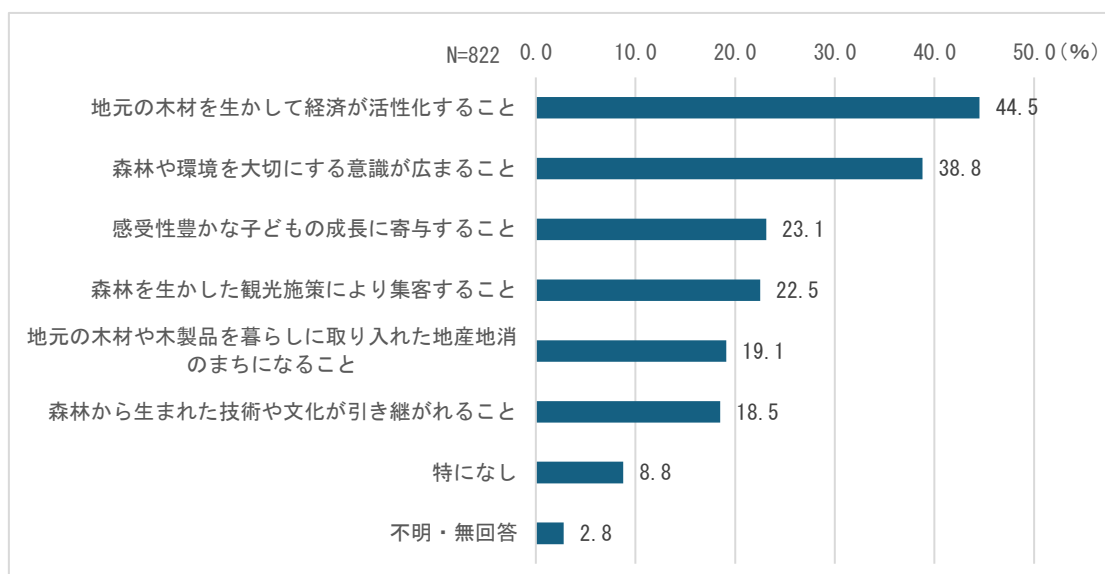
重要度が高い取組は、「地域医療の充実」が 4.44 と最も高く、次いで「子育て支援の充実」が 4.15 ポイント、「消防・救急体制の充実」が 4.13 ポイントであった。



(3) これからのまちづくり等について

問 11. 宍粟市では、市民が森林や木にふれあい、親しみを深め、まちへの愛着を創出する「木育」に取り組んでいます。あなたは、木育が普及する効果として何を期待しますか。(〇は2つまで)

「地元の木材を生かして経済が活性化すること」が 44.5%と最も高く、次いで「森林や環境を大切にする意識が広まること」が 38.8%、「感受性豊かな子どもの成長に寄与すること」が 23.1%であった。



性別では、男女ともに「地元の木材を生かして経済が活性化すること」と回答した人が多かった。

年齢別では、18歳・19歳の人は「森林や環境を大切にする意識が広まること」と回答した人が他の年齢より多く、59.1%と最も高かった。

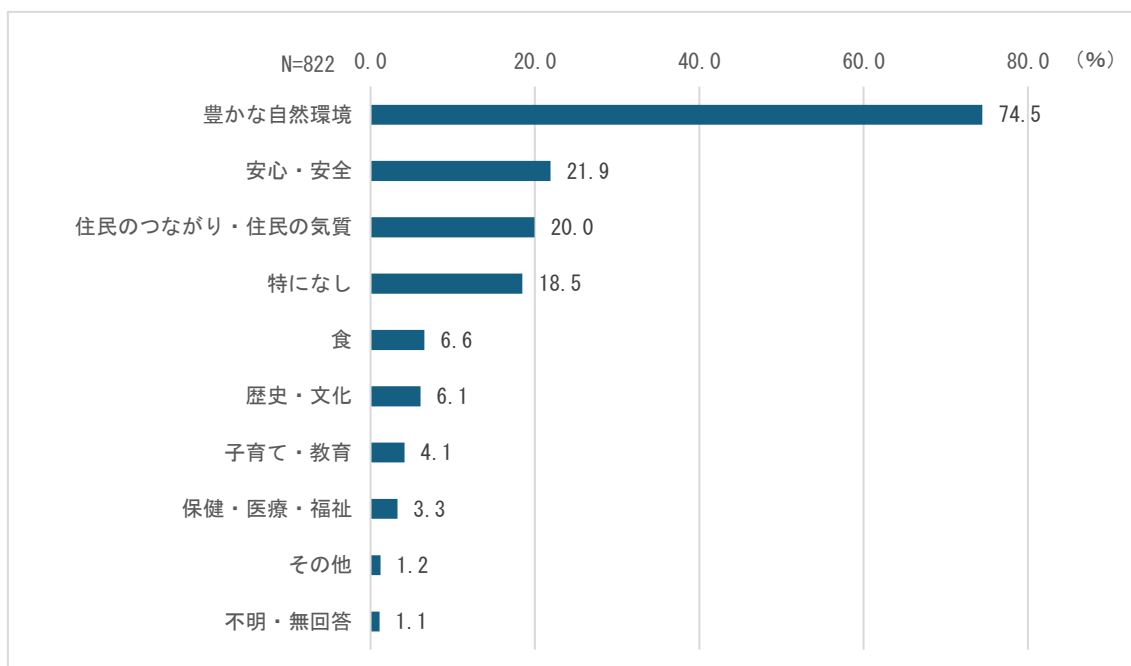
「地元の木材を生かして経済が活性化すること」と答えたのは80歳以上が最も多く57.8%であり、年齢が上がるほど割合が高い傾向がみられた。

住地別では、山崎南、波賀、市外・その他で「森林や環境を大切にする意識が広まること」が最も高く、山崎西、山崎東、一宮南、一宮北、千種で「地元の木材を生かして経済が活性化すること」が最も高かった。

		森林を生かした観光施策により集客すること	地元の木材や木製品を暮らしに取り入れた地産地消のまちになること	地元の木材を生かして経済が活性化すること	森林から生まれた技術や文化が引き継がれること	森林や環境を大切にする意識が広まること	感受性豊かな子どもの成長に寄与すること	特になし	不明・無回答
性別	● 男性 (N=342)	21.1	36.5	19.3	45.0	20.8	21.9	10.5	2.9
	● 女性 (N=469)	24.7	40.3	18.1	44.3	17.9	22.8	7.0	2.8
	● わからない (N=2)	50.0	50.0		100.0				
	● どちらでもない (N=2)		50.0					100.0	
年齢別	● 不明・無回答 (N=7)	14.3	42.9	14.3	28.6	28.6	42.9	14.3	
	● 18歳・19歳 (N=22)	18.2	59.1	13.6	22.7	31.8	13.6	13.6	
	● 20～29歳 (N=68)	30.9	41.2	16.2	38.2	19.1	22.1	7.4	1.5
	● 30～39歳 (N=110)	30.0	40.0	19.1	41.8	16.4	15.5	9.1	2.7
	● 40～49歳 (N=121)	26.4	33.1	20.7	38.0	14.9	22.3	9.9	4.1
	● 50～59歳 (N=125)	24.8	31.2	22.4	42.4	21.6	27.2	8.8	1.6
	● 60～69歳 (N=195)	20.0	39.0	19.0	55.4	16.4	24.6	8.7	0.5
	● 70～79歳 (N=134)	16.4	47.8	13.4	41.8	20.1	24.6	7.5	7.5
	● 80歳以上 (N=45)	15.6	31.1	20.0	57.8	31.1	15.6	8.9	2.2
	● 不明・無回答 (N=2)	50.0	50.0			50.0	50.0		
居住地別	● 山崎西 (N=103)	25.2	35.0	24.3	42.7	18.4	23.3	5.8	1.0
	● 山崎南 (N=127)	27.6	41.7	16.5	37.8	11.8	23.6	11.8	3.1
	● 山崎東 (N=133)	27.1	35.3	18.0	46.6	13.5	27.1	10.5	1.5
	● 一宮南 (N=109)	19.3	40.4	18.3	50.5	15.6	20.2	9.2	1.8
	● 一宮北 (N=112)	18.8	42.9	17.0	50.9	27.7	24.1	0.9	4.5
	● 波賀 (N=109)	22.9	44.0	19.3	40.4	20.2	22.9	9.2	0.9
	● 千種 (N=109)	18.3	32.1	17.4	47.7	24.8	15.6	13.8	5.5
	● 市外・その他 (N=12)	41.7	41.7	16.7	25.0	33.3	8.3	8.3	8.3
	● 不明・無回答 (N=8)	12.5	37.5	12.5	12.5	50.0	37.5		12.5

問 12：宍粟市のよいところ（あなたが人に自慢できるところ）はどんなところですか。
（○は2つまで）

「豊かな自然環境」が 74.5%と最も高く、次いで「安心・安全」が 21.9%、「住民のつながり・住民の気質」が 20.0%であった。



また、「その他」の回答として

【食に関すること】

- ・ 給食（手づくりの給食）
- ・ 都会とは、米・野菜の味が違う。本当においしいと友人にも言われ、自慢できる。

【環境に関すること】

- ・ 星が綺麗。暑い夏でも夜は涼しい時が割とある。
- ・ 水資源
- ・ 喧騒がなく穏やかな暮らしがあること（騒音が少ない）

【観光に関すること】

- ・ 国見山のケーブル無料
- ・ 波賀町の花火

等の意見があった。

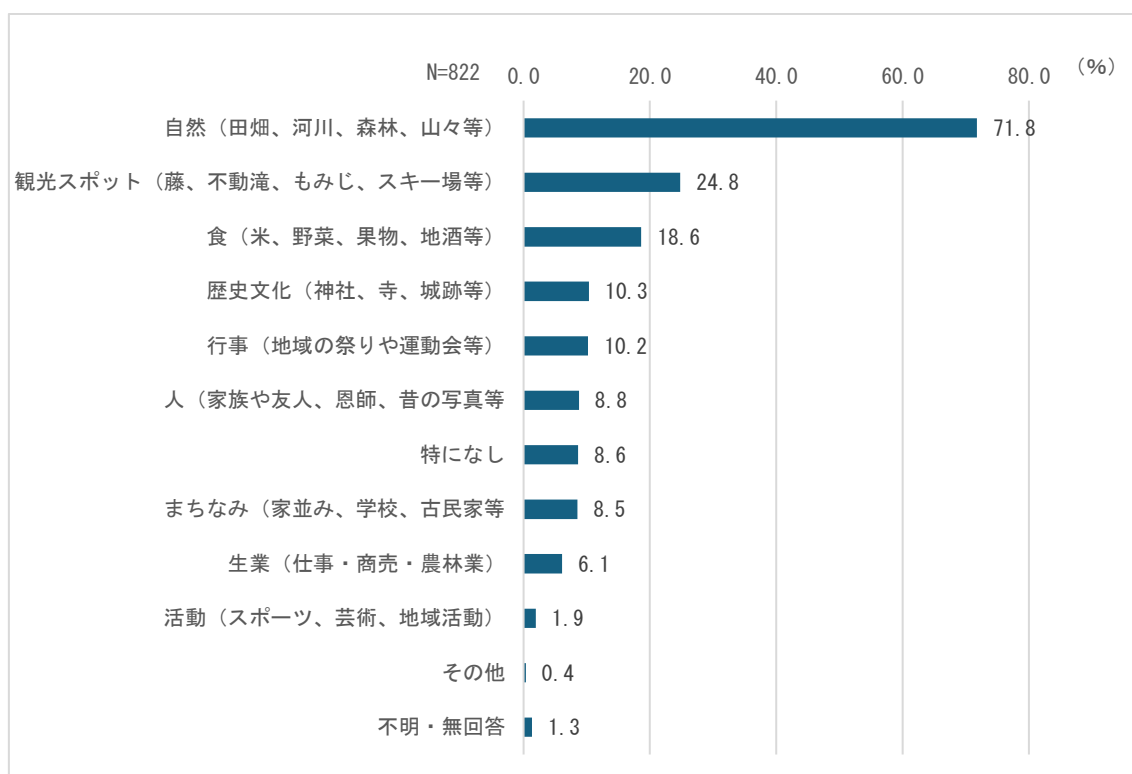
性別、年齢別、居住地別すべてにおいて「豊かな自然環境」と回答した人が多かった。

	豊かな自然環境	住民のつながり・住民の気質	子育て・教育	歴史・文化	食	保健・医療・福祉	安心・安全	その他	特になし	不明・無回答
性別										
● 男性 (N=342)	73.1	23.4	3.5	7.9	5.8	2.6	23.4	1.2	20.8	0.6
● 女性 (N=469)	75.9	17.7	4.5	4.5	7.2	3.8	20.9	1.3	16.6	1.3
● わからない (N=2)	50.0								50.0	
● どちらでもない (N=2)	50.0		50.0						50.0	
● 不明・無回答 (N=7)	57.1	14.3		28.6			28.6		14.3	14.3
年齢別										
● 19歳以下 (N=22)	81.8	22.7			4.5	18.2	40.9		4.5	
● 20～29歳 (N=68)	70.6	20.6	7.4	5.9	8.8		19.1	1.5	23.5	
● 30～39歳 (N=110)	77.3	16.4	7.3	5.5	10.0	2.7	17.3	0.9	18.2	
● 40～49歳 (N=121)	71.1	14.0	8.3	8.3	8.3	1.7	10.7	3.3	19.8	3.3
● 50～59歳 (N=125)	75.2	16.8	4.0	4.8	5.6	1.6	24.0	1.6	19.2	
● 60～69歳 (N=195)	75.4	22.1	1.5	4.6	5.1	2.6	23.6		20.0	0.5
● 70～79歳 (N=134)	73.9	26.1	0.7	9.7	3.0	4.5	30.6	0.7	16.4	2.2
● 80歳以上 (N=45)	73.3	24.4	4.4	2.2	8.9	11.1	20.0	2.2	13.3	2.2
● 不明・無回答 (N=2)	100.0			50.0	50.0					
居住地別										
● 山崎西 (N=103)	70.9	11.7	3.9	6.8	7.8	1.9	27.2	1.0	16.5	1.0
● 山崎南 (N=127)	74.0	15.0	4.7	5.5	7.9	5.5	18.1		22.8	1.6
● 山崎東 (N=133)	77.4	15.0	3.0	8.3	4.5	1.5	22.6	2.3	19.5	1.5
● 一宮南 (N=109)	78.9	23.9	3.7	11.9	5.5	1.8	19.3	1.8	11.9	
● 一宮北 (N=112)	79.5	31.3	4.5	4.5	5.4	0.9	21.4	0.9	15.2	0.9
● 波賀 (N=109)	73.4	22.0	1.8	1.8	9.2	5.5	24.8	0.9	19.3	
● 千種 (N=109)	66.1	24.8	7.3	3.7	5.5	5.5	20.2	0.9	24.8	1.8
● 市外・その他 (N=12)	83.3				16.7		25.0		16.7	
● 不明・無回答 (N=8)	62.5	12.5	12.5	12.5		12.5	25.0	12.5		12.5

問 13：宍粟市では、「目に映るもの」だけではなく、歴史や風土、人の営みも「風景」と捉え、地域ごとに異なる魅力と個性のある「風景」によるまちづくりの好循環を図る取組を行っています。あなたが思い浮かべる「宍粟市らしい風景、大切にしたい風景」とはどのようなものですか。（〇は2つまで）

「自然（田畑、河川、森林、山々等）」が 71.8%と最も高く、次いで「観光スポット（藤、不動滝、もみじ、スキー場等）」が 24.8%、「食」が 18.6%であった。

自然とその自然景観を活かした観光スポットが、宍粟市らしい風景と感じている人が多いと考えられる。

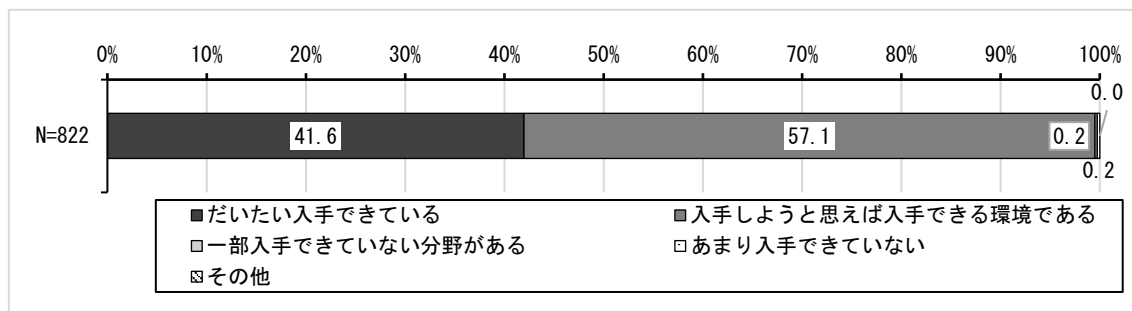


性別、年齢別、居住地別すべてにおいて「自然（田畑、河川、森林、山々等）」と回答した人が多かった。

		不明・無回答	特になし	その他	生業（仕事・商売・農林業）	観光スポット（藤、不動滝、もみじ、スキー場）	活動（スポーツ、芸術、地域活動）	行事（地域の祭りや運動会等）	食（米、野菜、果物、地酒等）	歴史・文化（神社、寺、城跡等）	人（家族や友人、恩師、昔の写真等）	まちなみ（家並み、学校、古民家等）	自然（田畑、河川、森林、山々等）
性別	● 男性（N=342）	73.4	7.9	9.1	12.6	17.0	10.5	2.9	24.3	7.9	0.3	9.6	0.9
	● 女性（N=469）	71.2	9.2	8.7	8.7	20.3	10.0	1.3	24.7	4.9	0.4	7.2	1.5
	● わからない（N=2）	50.0							50.0			50.0	
	● どちらでもない（N=2）											100.0	
	● 不明・無回答（N=7）	57.1			14.3		14.3		57.1			14.3	14.3
年齢別	● 19歳以下（N=22）	68.2	4.5	27.3	4.5	22.7	18.2		22.7	4.5		4.5	
	● 20～29歳（N=68）	79.4	4.4	14.7	1.5	17.6	17.6	2.9	26.5			7.4	
	● 30～39歳（N=110）	74.5	13.6	10.0	10.0	13.6	7.3	3.6	18.2	3.6	0.9	10.0	0.9
	● 40～49歳（N=121）	69.4	8.3	2.5	9.9	24.0	9.1	2.5	23.1	6.6	0.8	12.4	1.7
	● 50～59歳（N=125）	64.0	8.0	9.6	8.0	18.4	11.2	1.6	28.8	6.4		7.2	2.4
	● 60～69歳（N=195）	72.8	10.8	7.2	11.8	18.5	8.2	2.1	29.7	6.7		8.7	0.5
	● 70～79歳（N=134）	73.1	6.0	8.2	15.7	19.4	9.7	0.7	17.9	10.4	0.7	6.7	2.2
	● 80歳以上（N=45）	73.3	4.4	11.1	13.3	15.6	13.3		28.9	4.4		8.9	2.2
	● 不明・無回答（N=2）	100.0							100.0				
居住地別	● 山崎西（N=103）	69.9	16.5	5.8	10.7	16.5	8.7	3.9	29.1	4.9		7.8	
	● 山崎南（N=127）	71.7	7.1	9.4	7.1	23.6	5.5	1.6	26.8	3.1		9.4	2.4
	● 山崎東（N=133）	66.2	11.3	3.8	10.5	19.5	9.8	1.5	28.6	6.0		13.5	0.8
	● 一宮南（N=109）	76.1	2.8	9.2	18.3	14.7	16.5	0.9	23.9	5.5	1.8	4.6	
	● 一宮北（N=112）	74.1	7.1	10.7	16.1	22.3	10.7	1.8	14.3	6.3		8.0	0.9
	● 波賀（N=109）	73.4	8.3	8.3	6.4	16.5	12.8	1.8	29.4	5.5		5.5	
	● 千種（N=109）	74.3	6.4	15.6	3.7	15.6	9.2	2.8	19.3	11.9		11.0	3.7
	● 市外・その他（N=12）	75.0	16.7	8.3		16.7	8.3		41.7	8.3	8.3	8.3	
	● 不明・無回答（N=8）	37.5			25.0	25.0			25.0				25.0

問 14：あなたは、市政の情報を入手できていると感じますか。（○は1つ）

「だいたい入手できている」が 41.6%、「入手しようと思えば入手できる環境である」が 57.1%であり、回答者のほとんどは市政情報を入手できる。

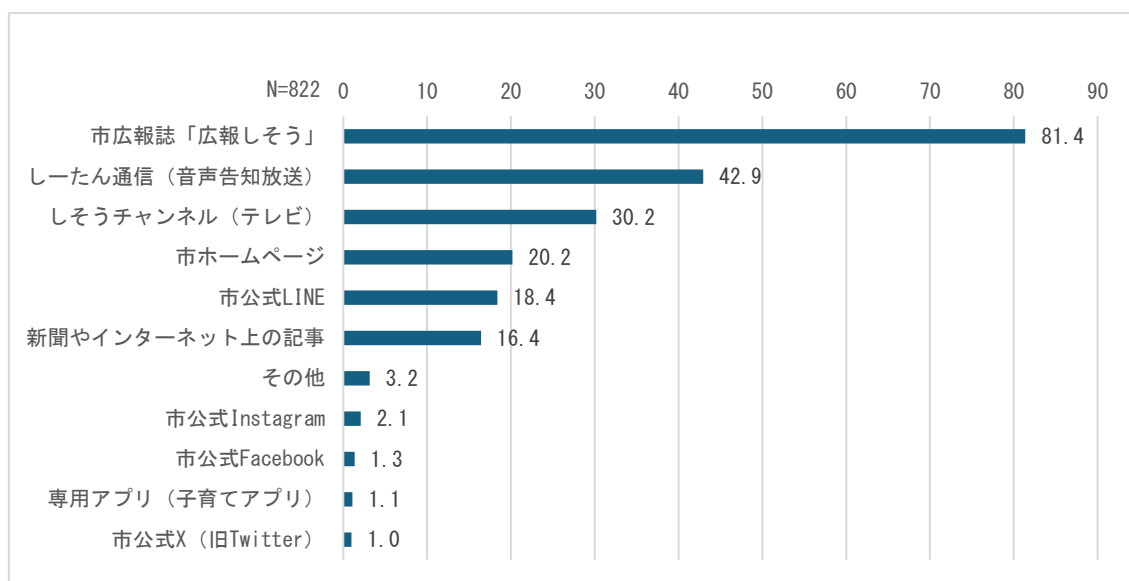


問 15：あなたは、市政の情報を主にどこから入手していますか。（あてはまるものすべてに○）

「市広報紙「広報しそう」」が 81.4%と最も高く、次いで「しーたん通信（音声告知放送）」が 42.9%、しそうチャンネル（テレビ）が 30.2%であった。

「市公式 Instagram」「市公式 Facebook」「専用アプリ（子育てアプリ）」「市公式 X（旧 Twitter）」と回答した人は 1.0～2.1%と少なかった。

「その他」としては、家族や友人など、人づてに情報を得るという人が多かった。



性別では、男性、女性とも「市広報紙「広報しそう」」が最も高かった。

年齢別では、18歳から29歳で「しーたん通信（音声告知放送）」が最も高く、それ以外の年齢では「市広報紙「広報しそう」」が最も高かった。また、18歳・19歳と30～39歳で「市公式 Instagram」と「市公式 X（旧 Twitter）」、30～39歳では「専用アプリ（子育てアプリ）」の割合が他の年代に比べてわずかだが高かった。

居住地別ではすべての地域において「市広報紙「広報しそう」」が最も高かった。

		市広報紙「広報しそつ」	しいたん通信（音声告知放送）	しそつチャンネル（テレビ）	市ホームページ	市公式LINE	市公式X（旧Twitter）	市公式Facebook	市公式Instagram	専用アプリ（子育てアプリ）	新聞やインターネット上の記事	その他
性別	●男性（N=342）	78.4	42.4	30.1	25.7	16.4	1.5	1.5	1.8	1.2	18.4	2.9
	●女性（N=469）	83.4	43.7	30.5	16.0	19.8	0.6	1.1	2.3	1.1	14.9	3.4
	●わからない（N=2）	100.0		50.0		50.0		50.0				
	●どちらでもない（N=2）	100.0										
年齢別	●不明・無回答（N=7）	85.7	42.9	14.3	42.9	14.3					28.6	
	●19歳以下（N=22）	50.0	59.1	18.2	22.7		4.5		4.5		18.2	4.5
	●20～29歳（N=68）	50.0	50.0	20.6	14.7	19.1		1.5	2.9		14.7	8.8
	●30～39歳（N=110）	74.5	30.0	24.5	21.8	30.0	4.5	1.8	6.4	6.4	5.5	6.4
	●40～49歳（N=121）	77.7	28.9	28.9	22.3	23.1	0.8	0.8	2.5	0.8	13.2	4.1
	●50～59歳（N=125）	90.4	43.2	27.2	24.8	24.0	0.8	2.4	1.6	0.8	9.6	1.6
	●60～69歳（N=195）	88.2	45.1	30.8	25.6	16.4		1.0	1.0		22.6	1.0
	●70～79歳（N=134）	88.8	55.2	41.0	11.2	10.4		1.5			23.9	2.2
	●80歳以上（N=45）	93.3	48.9	40.0	6.7	2.2					24.4	
	●不明・無回答（N=2）	100.0		50.0	50.0							
居住地別	●山崎西（N=103）	82.5	38.8	10.7	20.4	18.4	1.9	1.0			23.3	2.9
	●山崎南（N=127）	83.5	36.2	8.7	22.8	17.3	0.8		4.7	1.6	15.7	2.4
	●山崎東（N=133）	78.9	46.6	27.8	21.8	21.1		0.8	2.3	2.3	12.8	4.5
	●一宮南（N=109）	85.3	37.6	26.6	17.4	19.3	1.8	1.8		0.9	15.6	5.5
	●一宮北（N=112）	85.7	50.0	57.1	16.1	19.6	0.9	1.8	1.8	1.8	17.9	0.9
	●波賀（N=109）	71.6	42.2	45.9	19.3	19.3	1.8	3.7	2.8		12.8	2.8
	●千種（N=109）	85.3	50.5	36.7	20.2	15.6		0.9	2.8		19.3	2.8
	●市外・その他（N=12）	50.0	33.3	33.3	41.7	8.3				8.3	16.7	8.3
●不明・無回答（N=8）		87.5	37.5	25.0	25.0							

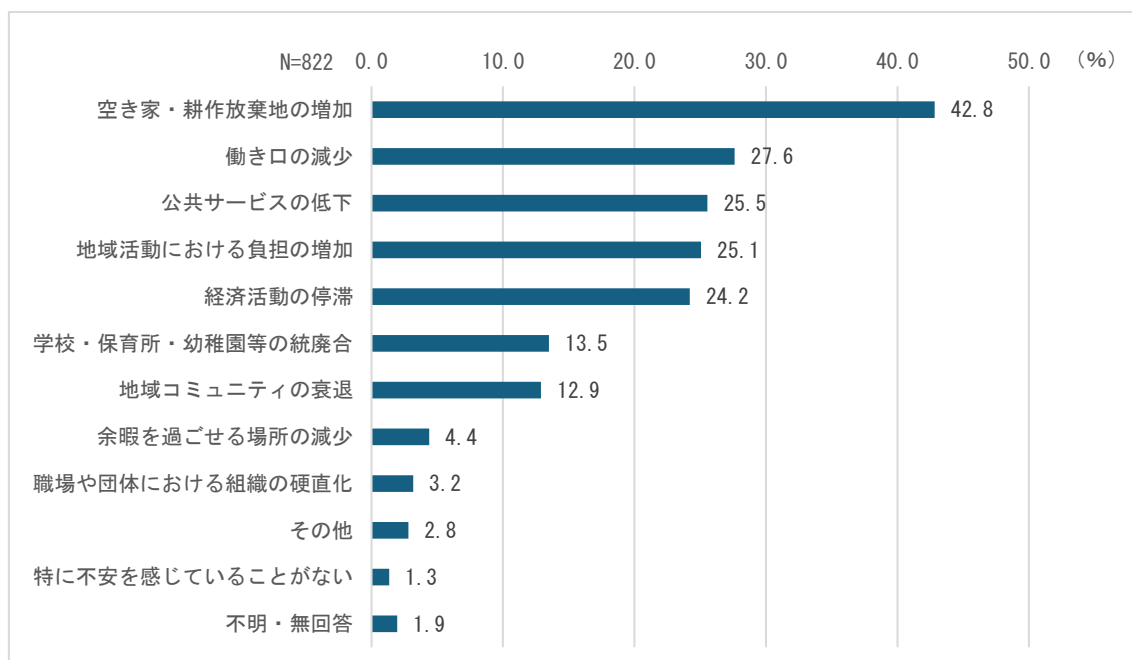
問 16：宍粟市では、若年層の市外流出がすすむなど、過疎化が進行しています。あなたが10年後の宍粟市での暮らしに関して不安に感じていることは何ですか。（○は2つまで）

「空き家・耕作放棄地の増加」が42.8%と最も高く、次いで「働き口の減少」が27.6%、「公共サービスの低下」が25.5%であった。

「その他」の回答として、

- ・ 選択肢を2つに絞れない
- ・ 交通の便が悪い
- ・ 免許返納後の暮らし（買い物難民、病院にすぐに行けない、等）

が多かった。



性別では、男女ともに「空き家・耕作放棄地の増加」と回答した人の割合が高かった。

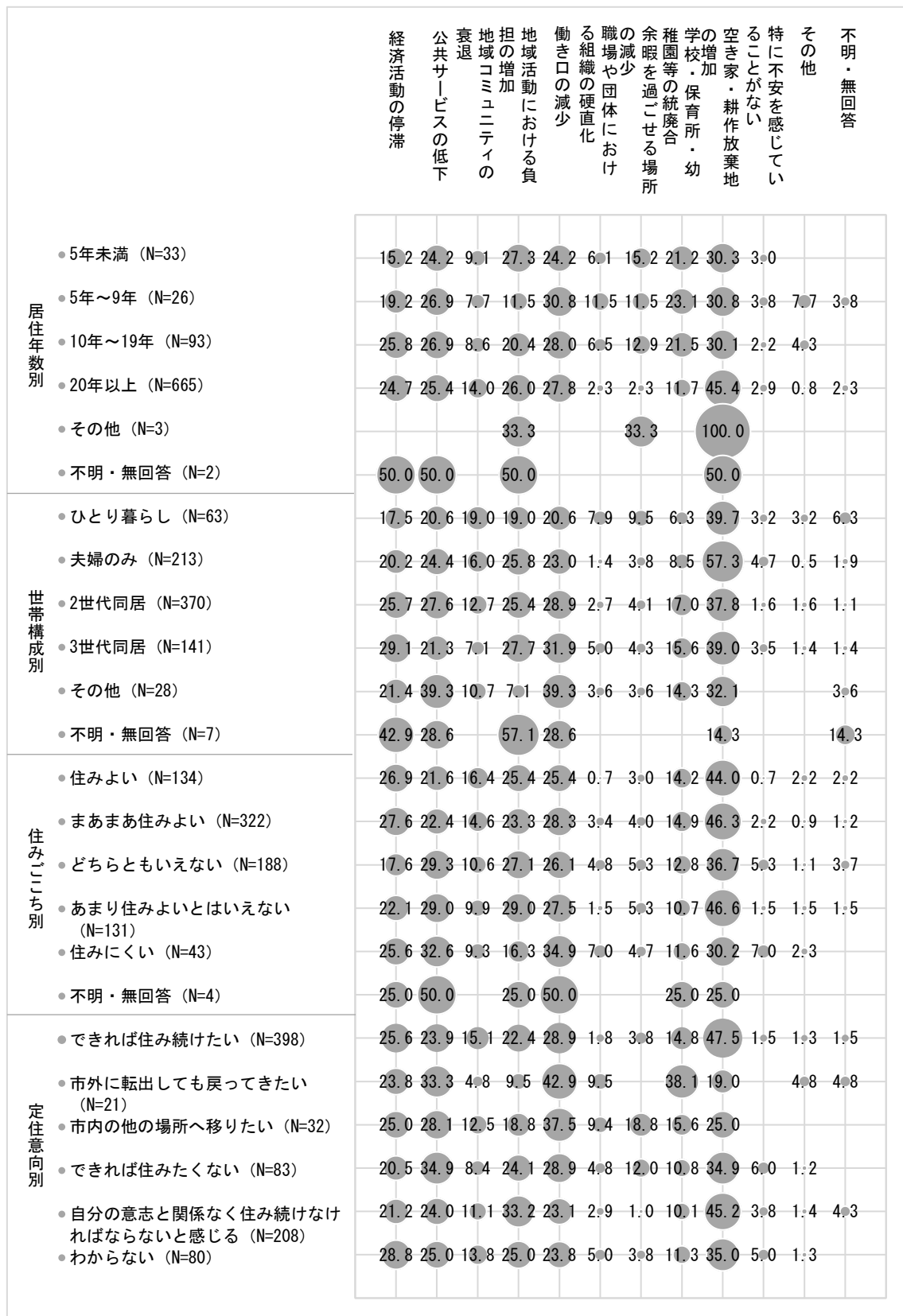
年齢別では、18歳から69歳までの人（現役世代と思われる）は、「経済活動の停滞」「働き口の減少」、18歳から49歳までの人（学生、子育て世代と思われる）は「学校・保育所・幼稚園等の統廃合」と回答した人の割合が高かった。また、「空き家・耕作放棄地の増加」と回答した人は、年齢が上がるほど割合が高い傾向がみられた。

居住地別では、市外・その他を除いて「空き家・耕作放棄地の増加」と回答した人の割合が高かった。また、山崎西と市外・その他では、「経済活動の停滞」と回答した人の割合が比較的高かった。

定住意向別では、《できれば住み続けたい》と《自分の意思と関係なく住み続けなけれ

ばならないと感じる》で「空き家・耕作放棄地の増加」と回答した人の割合が最も高く、《市外に転出しても戻ってきたい》と《市内の他の場所へ移りたい》で「働き口の減少」が最も高かった。《できれば住みたくない》では「公共サービスの低下」「空き家・耕作放棄地の増加」が最も高かった。

	経済活動の停滞	公共サービスの低下	地域コミュニティの衰退	地域活動における負担の増加	働き口の減少	職場や団体における組織の硬直化	余暇を過ごせる場所の減少	学校・保育所・幼稚園等の統廃合	空き家・耕作放棄地の増加	その他	特に不安を感じていることがない	不明・無回答
性別												
● 男性 (N=342)	25.7	27.2	13.2	24.9	25.4	3.5	4.7	12.0	45.9	2.9	1.8	.9
● 女性 (N=469)	22.8	24.7	12.6	24.9	29.2	3.0	4.1	14.7	41.2	2.8	0.9	2.8
● わからない (N=2)					50.0				50.0		50.0	
● どちらでもない (N=2)	50.0			50.0			50.0					
● 不明・無回答 (N=7)	42.9	14.3	28.6	42.9	28.6			14.3	14.3			
年齢別												
● 19歳以下 (N=22)	45.5	31.8			27.3	9.1	18.2	31.8	18.2		4.5	
● 20～29歳 (N=68)	19.1	30.9	8.8	14.7	32.4	8.8	14.7	25.0	19.1	5.9	1.5	
● 30～39歳 (N=110)	24.5	22.7	9.1	29.1	37.3	2.7	8.2	26.4	24.5	1.8	0.9	
● 40～49歳 (N=121)	27.3	22.3	8.3	30.6	28.1	5.8	3.3	14.9	32.2	5.0	1.7	1.7
● 50～59歳 (N=125)	30.4	28.0	8.8	32.0	23.2		0.8	7.2	48.0	3.2	0.8	0.8
● 60～69歳 (N=195)	22.1	28.2	14.9	28.7	26.2	1.5	2.6	6.2	53.8	1.5	1.5	2.6
● 70～79歳 (N=134)	20.9	25.4	23.1	15.7	24.6	3.7	2.2	9.0	56.7	0.7	0.7	3.7
● 80歳以上 (N=45)	13.3	13.3	20.0	20.0	22.2			13.3	62.2	6.7	2.2	6.7
● 不明・無回答 (N=2)	50.0			50.0	50.0			50.0				
居住地別												
● 山崎西 (N=103)	40.8	18.4	12.6	18.4	30.1	3.9	5.8	10.7	43.7	1.0	1.0	1.0
● 山崎南 (N=127)	27.6	25.2	12.6	17.3	22.8	2.4	3.9	14.2	41.7	2.4	2.4	1.6
● 山崎東 (N=133)	23.3	30.8	8.3	21.1	28.6	3.0	3.8	15.0	47.4	3.8	1.5	1.5
● 一宮南 (N=109)	22.0	20.2	12.8	33.9	35.8	4.6	3.7	13.8	42.2	1.8	0.9	
● 一宮北 (N=112)	18.8	28.6	12.5	33.9	25.9	2.7	1.8	11.6	47.3	4.5		
● 波賀 (N=109)	16.5	21.1	18.3	32.1	24.8	3.7	6.4	13.8	41.3	1.8	2.8	3.7
● 千種 (N=109)	20.2	33.0	14.7	20.2	24.8	0.9	4.6	15.6	40.4	3.7	0.9	4.6
● 市外・その他 (N=12)	41.7	41.7	16.7	16.7	25.0	8.3	16.7	16.7		8.3		
● 不明・無回答 (N=8)	12.5			37.5	50.0	12.5			37.5			25.0



問 17：あなたが、地域のつながりや支え合いで必要と思うものは何ですか。

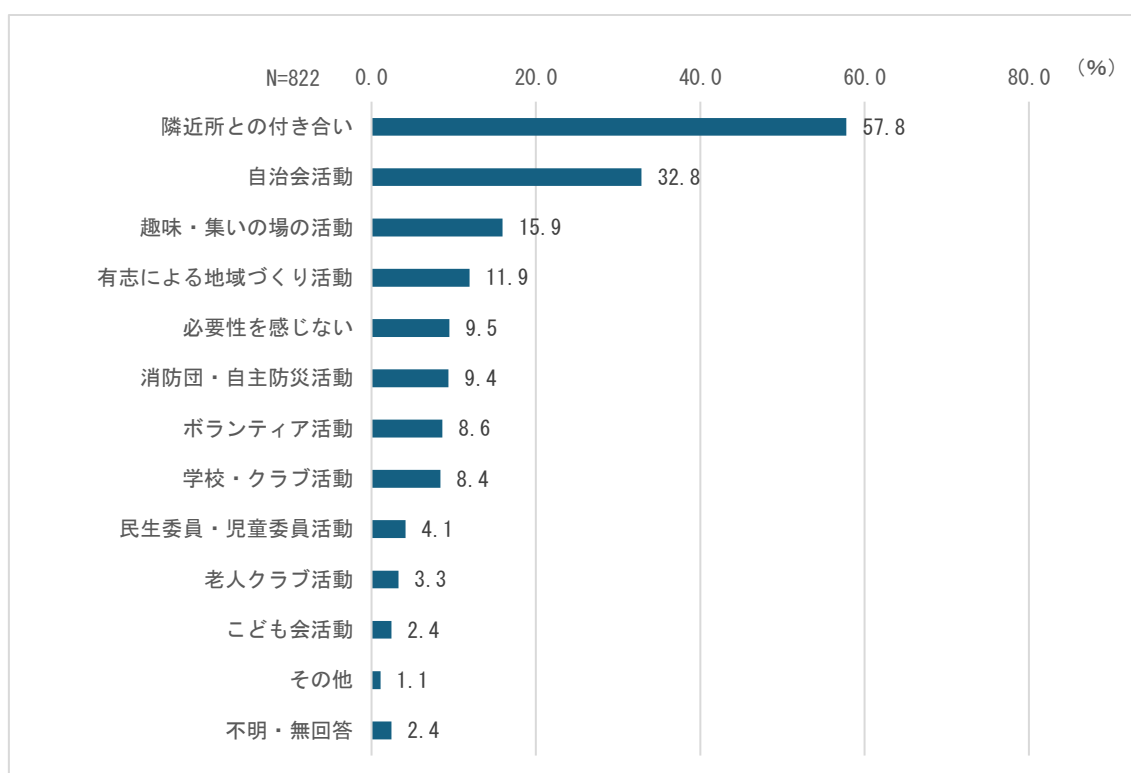
（〇は2つまで）

「隣近所との付き合い」が 57.8%で最も高く、次いで「自治会活動」が 32.8%、「趣味・集いの場の活動」が 15.9%であった。一方、「必要性を感じない」と回答した人も 9.5%いた。

「その他」の回答として、

- ・ どれも重要
- ・ 自治会活動についての意見（時代や地域の実態に合った運営）
- ・ 福祉活動

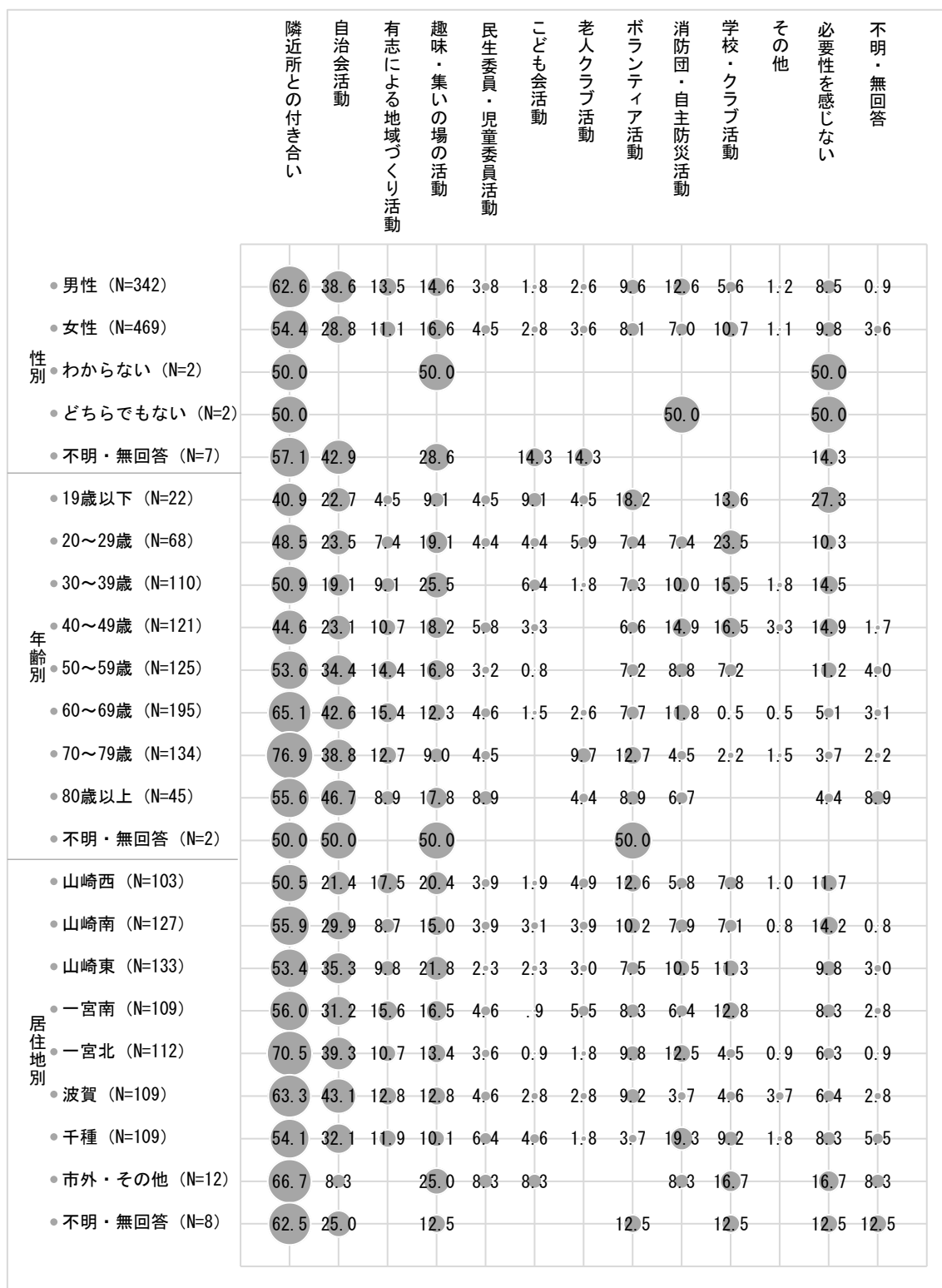
などがあつた。



性別では、男女ともに「隣近所との付き合い」が最も高く、次いで「自治会活動」であった。

年齢別では、全体として「隣近所との付き合い」が最も高く、次いで「自治会活動」であった。また、年齢が上がるにつれてこれらの割合が高くなる傾向が見られた。18 歳・19 歳では「ボランティア活動」の割合が他の年齢に比べて高かった。18 歳・19 歳～59 歳では「学校・クラブ活動」の割合が他の年齢に比べて高かった。また、20～69 歳、80 歳以上では、「趣味・集いの場の活動」の割合が他の年齢に比べて高かった。

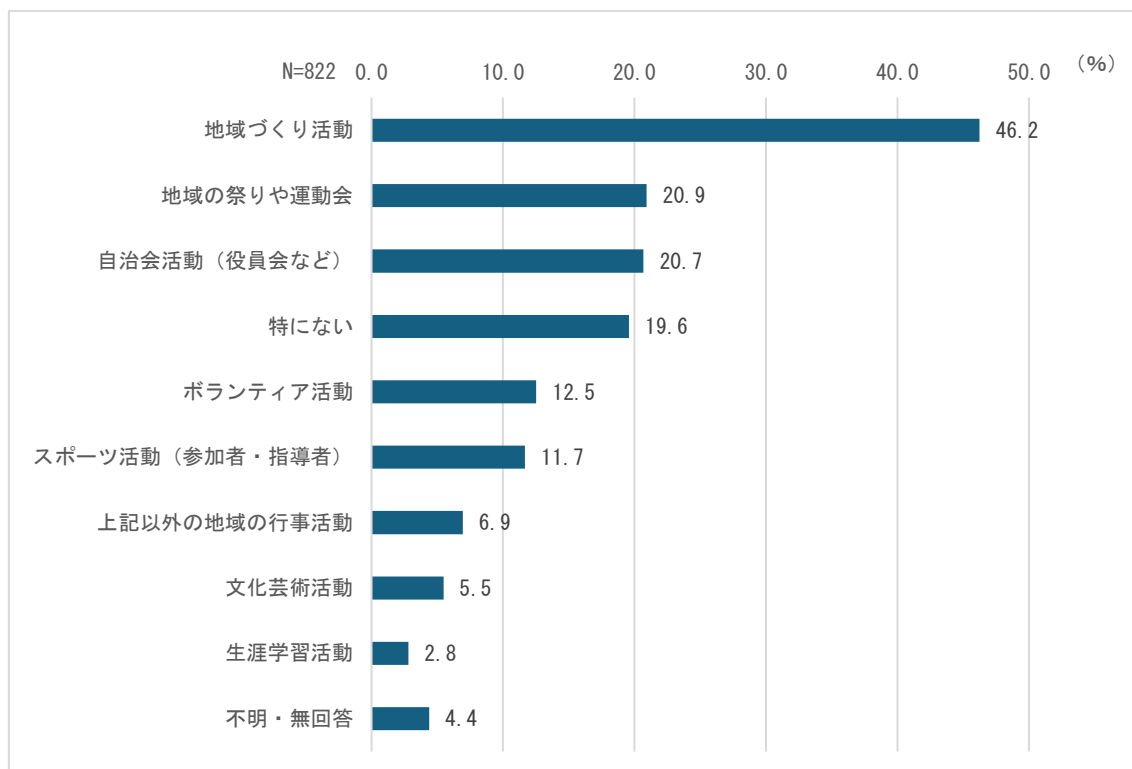
居住地別では、全地域において「隣近所との付き合い」が最も高かった。市外・その他では「趣味・集いの場の活動」、その他の地域では「自治会活動」が高かった。



問 18：地域において、あなたが、20 歳台～30 歳台の市民に活躍してほしい、また 20 歳台～30 歳台の市民として活躍したいと思う分野は何ですか。（○は 2 つまで）

「地域づくり活動」が 46.2%と最も高く、次いで「地域の祭りや運動会」が 20.9%、自治会活動（役員会など）が 20.7%であった。

一方、「特にない」と回答した人の割合が 19.6%であった。



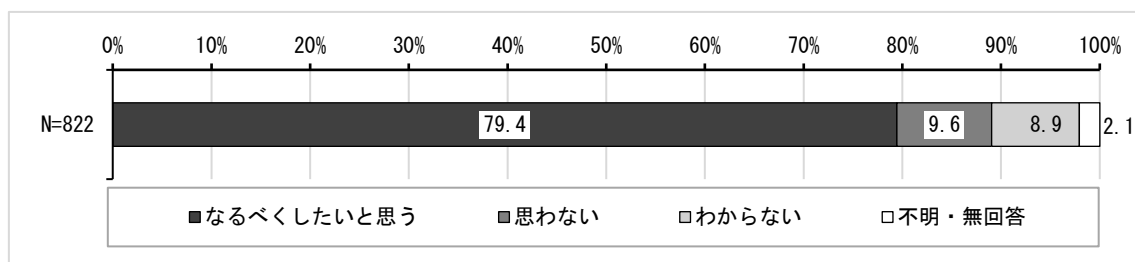
性別では、男女とも「地域づくり活動」が最も高かった。また、男性は「自治会活動（役員会など）」「地域の祭りや運動会」の割合が高く、女性では「特にない」「地域の祭りや運動会」の割合が高かった。

年齢別では、18 歳・19 歳と 30～39 歳で「特にない」が最も高く、20～29 歳、50 歳以上では「地域づくり活動」が最も高かった。50 歳以上では 20 歳台～30 歳台の市民に自治会や地域づくり活動に参加してほしいと考えている一方、20 歳台～30 歳台の市民は地域における活動にやや消極的であることがうかがえた。

		自治会活動 (役員会など)	地域 づくり活動	地域の祭りや運動会	文化芸術活動	スポーツ活動 (参加者・指導者)	生涯学習活動	ボランティア活動	上記以外の地域の 行事活動	特にな い	不明・無回 答
性別	● 男性 (N=342)	25.1	48.2	23.4	3.8	10.5	2.6	13.7	10.5	17.0	
	● 女性 (N=469)	17.3	44.8	19.0	6.6	12.8	3.0	11.5	4.5	21.1	5.5
	● わからない (N=2)		50.0					50.0		50.0	
	● どちらでもない (N=2)								100.0		
年齢別	● 不明・無回答 (N=7)	42.9	57.1	42.9	14.3			14.3		14.3	
	● 18歳・19歳 (N=22)	4.5	22.7	13.6	4.5	18.2	13.6	18.2		36.4	
	● 20～29歳 (N=68)	4.4	33.8	32.4	8.8	16.2	4.4	11.8	7.4	26.5	
	● 30～39歳 (N=110)	10.0	31.8	24.5	3.6	16.4	.9	8.2	7.3	33.6	1.8
	● 40～49歳 (N=121)	14.0	38.8	18.2	7.4	20.7	1.7	11.6	6.6	25.6	1.7
	● 50～59歳 (N=125)	19.2	43.2	23.2	8.8	9.6	4.8	11.2	8.8	16.0	4.8
	● 60～69歳 (N=195)	28.7	55.4	21.0	3.1	6.7	1.0	10.3	7.2	16.9	4.6
	● 70～79歳 (N=134)	32.1	64.2	15.7	3.7	6.7	3.7	14.9	8.2	6.7	8.2
	● 80歳以上 (N=45)	31.1	48.9	13.3	6.7	6.7		31.1		11.1	13.3
	● 不明・無回答 (N=2)	50.0		50.0		50.0	50.0				
居住地別	● 山崎西 (N=103)	13.6	46.6	13.6	5.8	10.7	1.9	20.4	5.8	22.3	
	● 山崎南 (N=127)	18.9	47.2	17.3	2.4	13.4	3.1	14.2	5.5	21.3	
	● 山崎東 (N=133)	22.6	47.4	17.3	5.3	16.5	3.0	11.3	7.5	19.5	1.5
	● 一宮南 (N=109)	21.1	49.5	25.7	6.4	10.1	2.8	11.0	2.8	21.1	1.8
	● 一宮北 (N=112)	25.9	44.6	26.8	2.7	8.0	2.7	8.0	8.9	19.6	5.4
	● 波賀 (N=109)	22.0	46.8	16.5	8.3	10.1	3.7	11.0	11.9	15.6	8.3
	● 千種 (N=109)	19.3	43.1	30.3	9.2	13.8	1.8	11.0	4.6	15.6	10.1
	● 市外・その他 (N=12)	16.7	50.0	25.0			8.3	8.3	25.0	33.3	50.0
	● 不明・無回答 (N=8)	37.5	12.5	12.5				37.5		25.0	

問 19：市内のお店で買い物をすることは、地域経済の活性化、さらには行政サービスの向上に繋がります。あなたは、地域経済活性化のため市内で買い物をしようと思いますか。（○は1つ）

市内で買い物を「なるべくしたいと思う」が 79.4%と最も高く、「思わない」が 9.6%、「わからない」が 8.9%であった。



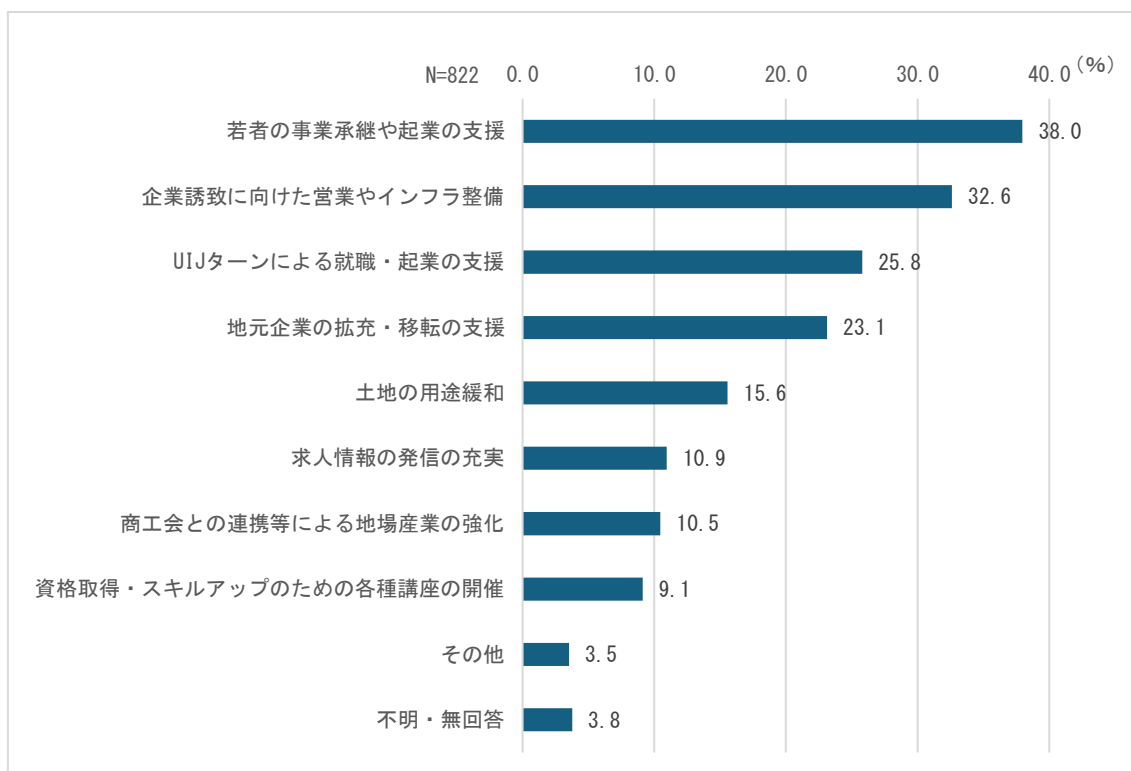
問 20：雇用を充実させるためには、あなたは、市がどういったところに投資をすべきと考えますか。（〇は2つまで）

「若者の事業継承や企業の支援」が 38.0%と最も高く、次いで「企業誘致に向けた営業やインフラ整備」が 32.6%、「UIJ ターンによる就職・起業の支援」が 25.8%であった。

「その他」としては、

- ・ 大型施設の誘致
- ・ 交通機関・道路網の拡張・充実

などがあった。



性別では、男性では「企業誘致に向けた営業やインフラ整備」が41.2%と最も高く、女性では「若者の事業承継や企業の支援」が37.7%と最も高かった。

年齢別では、全体的に「若者の事業承継や起業の支援」や「企業誘致に向けた営業やインフラ整備」の割合が高いが、20～49歳、60～69歳では「地元企業の拡充・移転の支援」の割合が比較的高く、18歳・19歳、50～59歳、70歳以上では「UIJ ターンによる就職・起業の支援」の割合が比較的高かった。

居住地別では、波賀と千種で「企業誘致に向けた営業やインフラ整備」が最も高く、その他の地域では「若者の事業承継や起業の支援」が最も高かった。

職業別では、農林漁業が「企業誘致に向けた営業やインフラ整備」が最も高く、学生では「若者の事業承継や起業の支援」が最も高かった。

居住年数別では、5年未満と5年～9年未満で「企業誘致に向けた営業やインフラ整備」が、10年以上で「若者の事業承継や起業の支援」が最も高かった。

住みごころ別では、「住みよい」、「まあまあ住みよい」、「どちらともいえない」で「若者の事業承継や起業の支援」が、「あまり住みよいとは言えない」、「住みにくい」で「企業誘致に向けた営業やインフラ整備」が最も高かった。

定住意向別では、全体として「若者の事業承継や起業の支援」が最も高かった。

		支援	若者の事業承継や起業の支援	地元企業の拡充・移転の支援	UI・Jターンによる就職・起業の支援	土地の用途緩和	地場産業の強化	商工会との連携等による	企業誘致に向けた営業やインフラ整備	求人情報の発信の充実	資格取得・スキルアップのための各種講座の開催	その他	不明・無回答
性別	● 男性 (N=342)	38.0	23.7	25.1	20.2	10.2	41.2	7.6	7.3	4.1	1.8		
	● 女性 (N=469)	37.7	23.0	26.4	11.7	10.9	26.2	13.4	10.2	3.2	5.3		
	● わからない (N=2)				50.0				50.0	50.0			
	● どちらでもない (N=2)				50.0		100.0						
	● 不明・無回答 (N=7)	71.4	14.3	28.6	28.6		28.6		14.3				
年齢別	● 18歳・19歳 (N=22)	50.0	9.1	22.7	9.1	13.6	36.4	18.2					
	● 20～29歳 (N=68)	45.6	26.5	22.1	10.3	5.9	35.3	10.3	14.7	2.9			
	● 30～39歳 (N=110)	34.5	30.9	20.0	17.3	4.5	30.0	16.4	11.8	2.7	2.7		
	● 40～49歳 (N=121)	35.5	22.3	20.7	17.4	12.4	30.6	9.9	12.4	7.4	2.5		
	● 50～59歳 (N=125)	38.4	16.8	34.4	16.0	12.8	24.0	14.4	6.4	4.8	2.4		
	● 60～69歳 (N=195)	35.9	27.2	20.5	17.4	12.8	40.0	8.2	8.7	2.1	3.6		
	● 70～79歳 (N=134)	38.8	20.9	34.3	14.9	9.7	32.8	8.2	9.0	3.0	6.0		
	● 80歳以上 (N=45)	40.0	13.3	33.3	11.1	11.1	28.9	8.9		2.2	15.6		
	● 不明・無回答 (N=2)	50.0	50.0	50.0			50.0						
居住地別	● 山崎西 (N=103)	40.8	28.2	23.3	13.6	14.6	40.8	4.9	8.7	2.9			
	● 山崎南 (N=127)	46.5	19.7	22.8	18.1	7.9	23.6	12.6	8.7	3.1			
	● 山崎東 (N=133)	41.4	22.6	30.8	19.5	9.8	30.1	12.0	8.3	2.3	2.3		
	● 一宮南 (N=109)	35.8	23.9	23.9	14.7	6.4	34.9	14.7	10.1	3.7	2.8		
	● 一宮北 (N=112)	33.9	25.0	31.3	17.0	8.0	31.3	8.0	11.6	4.5	2.7		
	● 波賀 (N=109)	32.1	25.7	21.1	13.8	14.7	35.8	12.8	10.1	3.7	6.4		
	● 千種 (N=109)	33.9	19.3	28.4	11.0	12.8	35.8	9.2	4.6	4.6	7.3		
	● 市外・その他 (N=12)	41.7	25.0	8.3	16.7	8.3	25.0	25.0	25.0	8.3	58.3		
● 不明・無回答 (N=8)	25.0		25.0	12.5	12.5	25.0	12.5	12.5					

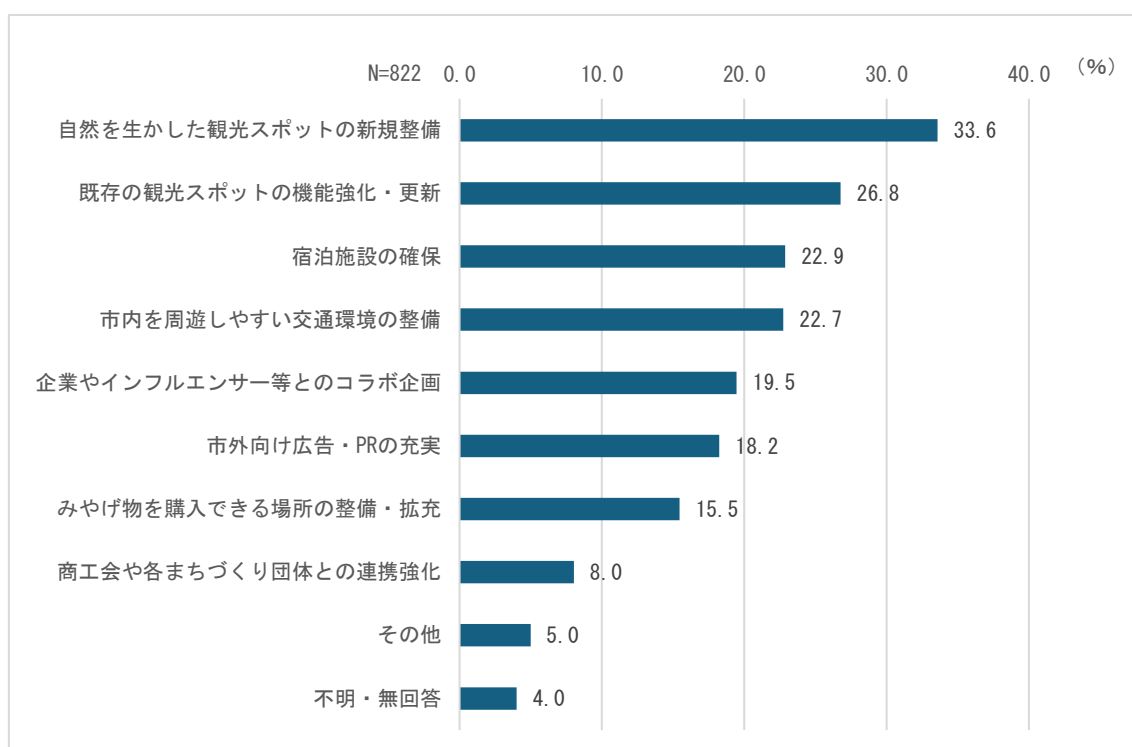
	若者の事業承継や起業の支援	地元企業の拡充・移転の支援	職・起業の支援	U・I・Jターンによる就	土地の用途緩和	地場産業の強化	商工会との連携等による	企業誘致に向けた営業やインフラ整備	求人情報の発信の充実	資格取得・スキルアップのための各種講座の開催	その他	不明・無回答
居住年数別	●5年未満 (N=33)	27.3	27.3	24.2	18.2	9.1	33.3	12.1	6.1			6.1
	●5年～9年 (N=26)	26.9	19.2	15.4	19.2	11.5	26.9	19.2	19.2	3.8		7.7
	●10年～19年 (N=93)	41.9	20.4	28.0	11.8	12.9	31.2	11.8	10.8	4.3		2.2
	●20年以上 (N=665)	38.5	23.6	25.9	15.6	10.2	32.9	10.4	8.6	3.6		3.8
	●その他 (N=3)			33.3	33.3		33.3	33.3	33.3			
	●不明・無回答 (N=2)	50.0		50.0	50.0		50.0					
職業別	●会社員・団体職員・公務員 (N=280)	32.9	25.0	25.7	19.3	10.0	33.6	13.6	5.7	5.0		1.8
	●パート・アルバイト等 (N=156)	35.3	26.3	21.2	12.2	8.3	30.1	12.2	15.4	3.8		3.2
	●農林漁業 (N=18)	44.4	16.7	27.8	16.7	5.6	55.6	11.1	22.2			
	●サービス業、自由業、その他自営業 (N=90)	38.9	23.3	26.7	21.1	14.4	33.3	6.7	8.9			1.1
	●学生 (N=36)	58.3	16.7	27.8	5.6	13.9	27.8	11.1			2.8	
	●主婦・主夫 (N=82)	37.8	20.7	26.8	11.0	14.6	28.0	12.2	12.2	2.4		8.5
	●無職 (N=126)	42.9	19.8	27.0	15.1	9.5	37.3	4.8	6.3	3.2		9.5
	●その他 (N=33)	48.5	21.2	33.3	9.1	6.1	18.2	15.2	15.2	6.1		3.0
	●不明・無回答 (N=1)			100.0			100.0					
住みこころ別	●住みよい (N=134)	37.3	19.4	26.9	17.2	14.2	28.4	12.7	7.5	3.0		3.7
	●まあまあ住みよい (N=322)	43.5	25.2	30.4	12.4	11.5	35.7	9.0	7.1	2.5		2.8
	●どちらともいえない (N=188)	34.6	21.8	22.3	16.5	9.0	29.3	14.4	12.2	4.3		3.7
	●あまり住みよいとは言えない (N=131)	32.1	26.0	21.4	19.1	8.4	33.6	6.9	9.9	4.6		6.1
	●住みにくい (N=43)	30.2	18.6	18.6	18.6	4.7	34.9	18.6	11.6	7.0		2.3
	●不明・無回答 (N=4)	50.0			25.0		25.0		25.0			25.0
定住意向別	●できれば住み続けたい (N=398)	40.7	23.6	27.4	14.3	13.6	30.9	11.8	6.0	2.5		3.5
	●市外に転出しても戻ってきたい (N=21)	42.9	33.3	28.6		9.5	42.9	14.3	4.8			4.8
	●市内の他の場所へ移りたい (N=32)	43.8	28.1	18.8	21.9	6.3	37.5	6.3	9.4			
	●できれば住みたくない (N=83)	36.1	26.5	19.3	16.9	4.8	25.3	18.1	20.5	3.6		2.4
	●自分の意思と関係なく住み続けなければならないと感じる (N=208)	34.1	20.7	24.5	18.8	8.2	38.0	7.2	8.7	5.8		5.3
	●わからない (N=80)	32.5	18.8	30.0	13.8	8.8	30.0	10.0	15.0	5.0		3.8

問 21：観光客を増やすためには、あなたは、市がどういったところに投資をすべきと考えますか。（〇は2つまで）

「自然を生かした観光スポットの新規整備」が 33.6%と最も高く、次いで「既存の観光スポットの機能強化・更新」が 26.8%、「宿泊施設の確保」が 22.9%であった。

「その他」として、

- ・ 1つのスポットの強化ではなく、市全体での観光スポットと宿泊施設の周遊コースプランや季節によるおすすめコースと宿泊施設のプランを作って紹介する。など、道路整備と観光スポット・宿泊施設等の一体的な整備を望む意見が多かった。



性別では、男性、女性とも「自然を生かした観光スポットの新規整備」が最も高く、次いで「既存の観光スポットの機能強化・更新」が高かった。

年齢別では、全体的に「自然を生かした観光スポットの新規整備」の割合が高いが、18歳・19歳では「市内を周遊しやすい交通環境の整備」の割合が他の年齢に比べて高かった。

居住地別では、一宮北では「宿泊施設の確保」が最も高く、それ以外の地区では「自然を生かした観光スポットの新規整備」が最も高かった。また、波賀、千種、市外・その他では、「既存の観光スポットの機能強化・更新」の割合が他地区に比べて高かった。

		不明・無回答	その他	宿泊施設の確保	商工会や各まちづくり団体との連携強化	市内を周遊しやすい交通環境の整備	企業やインフルエンサー等とのコラボ企画	自然を生かした観光スポットの新規整備	既存の観光スポットの機能強化・更新	市外向け広告・PRの充実	みやげ物を購入できる場所の整備・拡充
性別	●男性（N=342）	2.9	7.6	23.7	8.8	19.9	20.5	28.9	28.4	22.2	14.3
	●女性（N=469）	4.9	3.0	22.2	7.5	25.4	19.0	36.9	25.6	15.6	16.0
	●わからない（N=2）		50.0							50.0	
	●どちらでもない（N=2）							50.0			100.0
	●不明・無回答（N=7）			14.3		28.6		28.6	28.6	14.3	14.3
年齢別	●18歳・19歳（N=22）			18.2		40.9		45.5	31.8	27.3	13.6
	●20～29歳（N=68）		8.8	23.5	5.9	29.4	26.5	35.3	22.1	14.7	16.2
	●30～39歳（N=110）	1.8	8.2	18.2	5.5	16.4	24.5	37.3	24.5	14.5	24.5
	●40～49歳（N=121）	2.5	8.3	26.4	7.4	19.0	16.5	31.4	27.3	15.7	19.0
	●50～59歳（N=125）	0.8	4.8	20.8	8.8	21.6	24.0	34.4	27.2	24.0	8.0
	●60～69歳（N=195）	4.6	3.6	23.6	8.7	22.1	19.5	34.4	30.8	17.4	13.8
	●70～79歳（N=134）	8.2	0.7	23.9	11.9	25.4	16.4	29.1	23.1	20.9	15.7
	●80歳以上（N=45）	15.6	4.4	26.7	6.7	26.7	11.1	26.7	26.7	15.6	11.1
	●不明・無回答（N=2）					50.0		100.0	50.0		
居住地別	●山崎西（N=103）	1.9	5.8	17.5	10.7	21.4	23.3	35.0	29.1	19.4	18.4
	●山崎南（N=127）	3.1	2.4	22.8	8.7	19.7	21.3	33.9	22.8	17.3	18.9
	●山崎東（N=133）	3.8	4.5	19.5	9.0	20.3	19.5	30.8	22.6	22.6	20.3
	●一宮南（N=109）	1.8	8.3	22.0	2.8	22.9	22.0	43.1	22.9	21.1	8.3
	●一宮北（N=112）	7.1	1.8	32.1	8.9	29.5	18.8	23.2	24.1	22.3	11.6
	●波賀（N=109）	3.7	5.5	27.5	7.3	22.9	18.3	34.9	32.1	13.8	12.8
	●千種（N=109）	5.5	8.3	22.9	7.3	22.0	13.8	33.0	34.9	11.9	16.5
	●市外・その他（N=12）				16.7	33.3	16.7	50.0	41.7	16.7	16.7
	●不明・無回答（N=8）	25.0			12.5	25.0	12.5	37.5	12.5		12.5

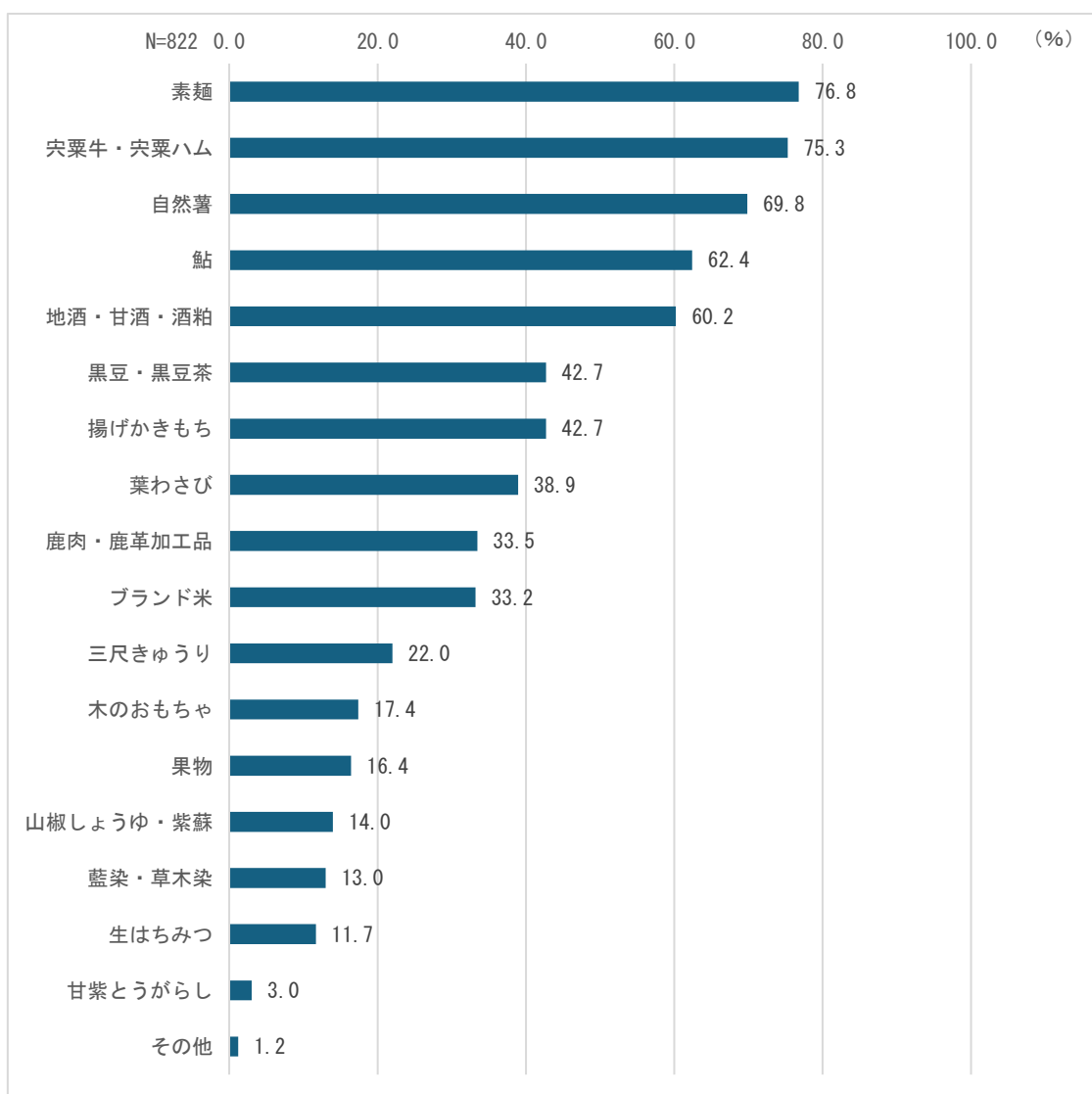
問 22：宍粟市の特産品についてあなたが知っているものは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

「素麺」が 76.8%と最も高く、次いで「宍粟牛・宍粟ハム」が 75.3%、「自然薯」が 69.8%であった。

「その他」として、

- ・ 名水
- ・ 薬草茶（ドクダミ、カワラケツメイ）
- ・ 笹うどん

などの意見があった。



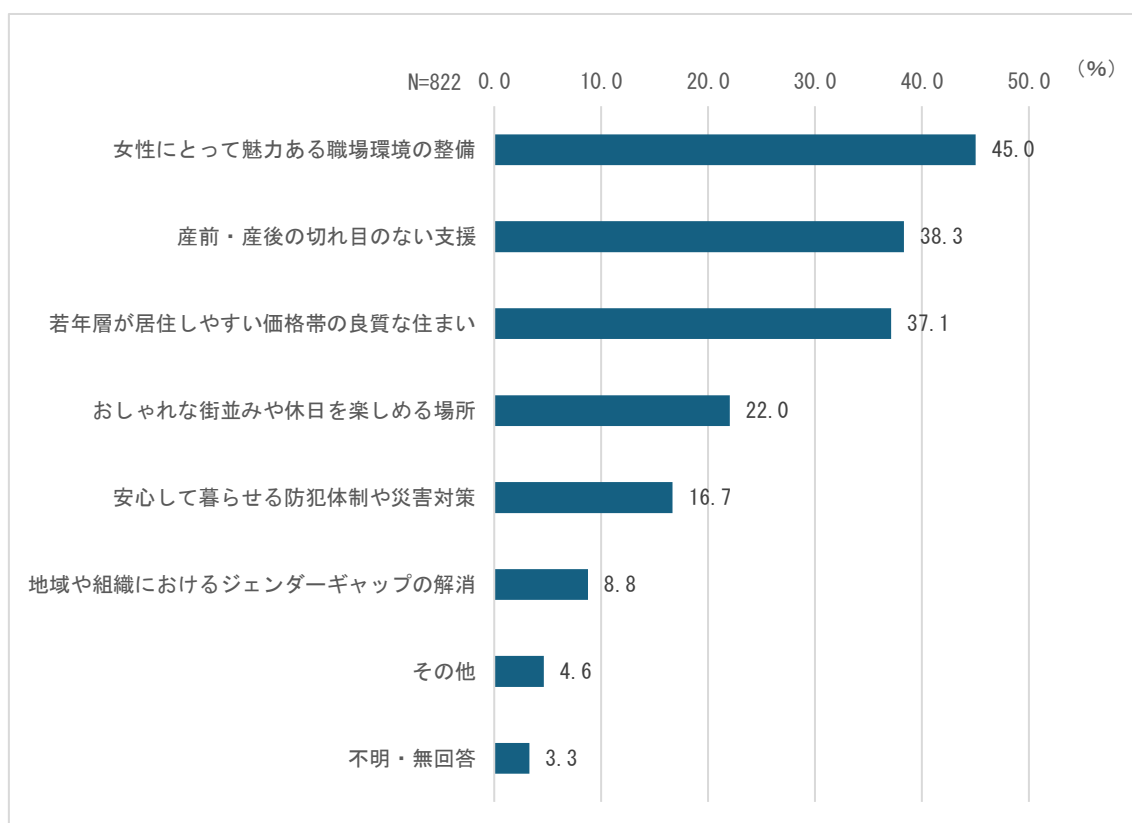
問 23：中央市が「消滅可能性自治体」と分類されている中で、若い女性に選ばれるまちづくりのために、あなたが必要と考えるものは何ですか。（〇は2つまで）

「女性にとって魅力ある職場環境の整備」が 45.0%と最も高く、次いで「若年層が居住しやすい価格帯の良質な住まい」が 38.3%、「産前・産後の切れ目のない支援」が 37.1%であった。

「その他」として、

- ・ 働くための支援（働き口の確保、企業誘致等）
- ・ 子育てしやすい環境（保育・教育の質の向上等）

等の意見が多かった。



性別では、男性は「女性にとって魅力ある職場環境の整備」が 50.9%と最も高く、次いで「産前・産後の切れ目のない支援」が 40.9%、「若年層が居住しやすい価格帯の良質な住まい」が 34.2%であり、女性は「女性にとって魅力ある職場環境の整備」が 41.2%と最も高く、次いで「若年層が居住しやすい価格帯の良質な住まい」が 39.0%、「産前・産後の切れ目のない支援」が 36.0%であった。

年齢別では、18 歳・19 歳から 39 歳、80 歳以上で「産前・産後の切れ目のない支援」の割合が最も高く、40 歳から 79 歳で「女性にとって魅力ある職場環境の整備」の割合が最も高かった。

居住地別では、山崎南で「産前・産後の切れ目のない支援」が最も高く、その他の地域では「女性にとって魅力ある職場環境の整備」が最も高かった。

居住年数別では、5 年未満、5 年～9 年で「産前・産後の切れ目のない支援」が最も高く、10 年～19 年、20 年以上で「女性にとって魅力ある職場環境の整備」が最も高かった。

職業別では、農林漁業、学生、主夫・主婦で「産前・産後の切れ目のない支援」が最も高く、その他の職業では「女性にとって魅力ある職場環境の整備」が最も高かった。

住みごころ別では、「《「住みよい」》で「産前・産後の切れ目のない支援」が最も高く、それ以外では「女性にとって魅力ある職場環境の整備」が最も高かった。

定住意向別では、「《「できれば住み続けたい」》《「市外に転出しても戻ってきたい」》《「自分の意思と関係なく住み続けなければならないと感じる」》で「女性にとって魅力ある職場環境の整備」が、《「市内の他の場所に移りたい」》で「産前・産後の切れ目のない支援」が、《「できれば住みたく」》で「若年層が居住しやすい価格帯の良質な住まい」が最も高かった。

		女性にとって魅力ある職場環境の整備	若年層が居住しやすい価格帯の良質な住まい	産前・産後の切れ目のない支援	地域や組織におけるジェンダーギャップの解消	おしゃれな街並みや休日を楽しめる場所	安心して暮らせる防犯体制や災害対策	その他	不明・無回答
性別	● 男性 (N=342)	50.9	34.2	40.9	9.1	19.6	13.7	7.0	2.9
	● 女性 (N=469)	41.2	39.0	36.0	8.5	23.9	19.0	2.8	3.6
	● わからない (N=2)	50.0	50.0		50.0		50.0		
	● どちらでもない (N=2)	50.0		50.0				50.0	
	● 不明・無回答 (N=7)	14.3	57.1	71.4		28.6			
年齢別	● 18歳・19歳 (N=22)	36.4	22.7	45.5	9.1	31.8	18.2		
	● 20～29歳 (N=68)	29.4	45.6	45.6	10.3	36.8	13.2	2.9	
	● 30～39歳 (N=110)	39.1	39.1	41.8	8.2	23.6	13.6	7.3	3.6
	● 40～49歳 (N=121)	45.5	30.6	37.2	9.1	26.4	17.4	11.6	1.7
	● 50～59歳 (N=125)	51.2	37.6	30.4	14.4	20.0	15.2	3.2	2.4
	● 60～69歳 (N=195)	50.3	42.1	39.5	6.2	16.9	14.9	4.6	1.5
	● 70～79歳 (N=134)	49.3	35.8	35.1	6.7	20.1	21.6	0.7	6.0
	● 80歳以上 (N=45)	33.3	26.7	46.7	8.9	11.1	22.2		15.6
	● 不明・無回答 (N=2)	50.0				50.0	50.0		
居住地別	● 山崎西 (N=103)	47.6	39.8	38.8	8.7	24.3	13.6	1.9	
	● 山崎南 (N=127)	40.2	37.8	41.7	8.7	17.3	18.9	5.5	
	● 山崎東 (N=133)	37.6	39.1	36.1	7.5	24.8	21.1	4.5	3.0
	● 一宮南 (N=109)	50.5	37.6	37.6	7.3	27.5	12.8	2.8	1.8
	● 一宮北 (N=112)	50.9	33.9	35.7	10.7	18.8	17.0	5.4	2.7
	● 波賀 (N=109)	41.3	39.4	39.4	11.0	20.2	18.3	5.5	2.8
	● 千種 (N=109)	48.6	34.9	37.6	7.3	19.3	14.7	7.3	7.3
	● 市外・その他 (N=12)	50.0	16.7	50.0	8.3	58.3			58.3
	● 不明・無回答 (N=8)	50.0	25.0	37.5	12.5		25.0		

		不明・無回答	その他	安心して暮らせる防犯体制や災害対策	おしゃれな街並みや休日を楽しめる場所	地域や組織におけるジェンダーギャップの解消	産前・産後の切れ目のない支援	若年層が居住しやすい価格帯の良質な住まい	女性にとって魅力ある職場環境の整備
居住年数別	●5年未満 (N=33)								
	●5年～9年 (N=26)								
	●10年～19年 (N=93)								
	●20年以上 (N=665)								
	●その他 (N=3)								
		21.2	33.3	48.5	9.1	33.3	15.2	9.1	
職業別	●不明・無回答 (N=2)								
	●会社員・団体職員・公務員 (N=280)								
	●パート・アルバイト等 (N=156)								
	●農林漁業 (N=18)								
	●サービス業、自由業、その他自営業 (N=90)								
	●学生 (N=36)								
	●主婦・主夫 (N=82)								
	●無職 (N=126)								
	●その他 (N=33)								
	●不明・無回答 (N=1)								
		100.0		50.0					
住みごころ別	●住みよい (N=134)								
	●まあまあ住みよい (N=322)								
	●どちらともいえない (N=188)								
	●あまり住みよいとはいえない (N=131)								
	●住みにくい (N=43)								
	●不明・無回答 (N=4)								
		40.3	34.3	41.0	7.5	20.1	21.6	3.7	3.7
定住意向別	●できれば住み続けたい (N=398)								
	●市外に転出しても戻ってきたい (N=21)								
	●市内の他の場所へ移りたい (N=32)								
	●できれば住みたくない (N=83)								
	●自分の意思とは関係なく住み続けなければならないと感じる (N=208)								
	●わからない (N=80)								
		47.7	38.4	39.7	7.5	19.8	15.8	4.3	3.8
		47.6	33.3	38.1	19.0	38.1	9.5		
		40.6	46.9	46.9	9.4	21.9	9.4		3.1
		39.8	42.2	30.1	7.2	28.9	10.8	7.2	2.4
		45.7	31.3	40.4	9.1	20.2	18.8	5.3	3.8
		36.3	37.5	31.3	12.5	26.3	26.3	5.0	1.3

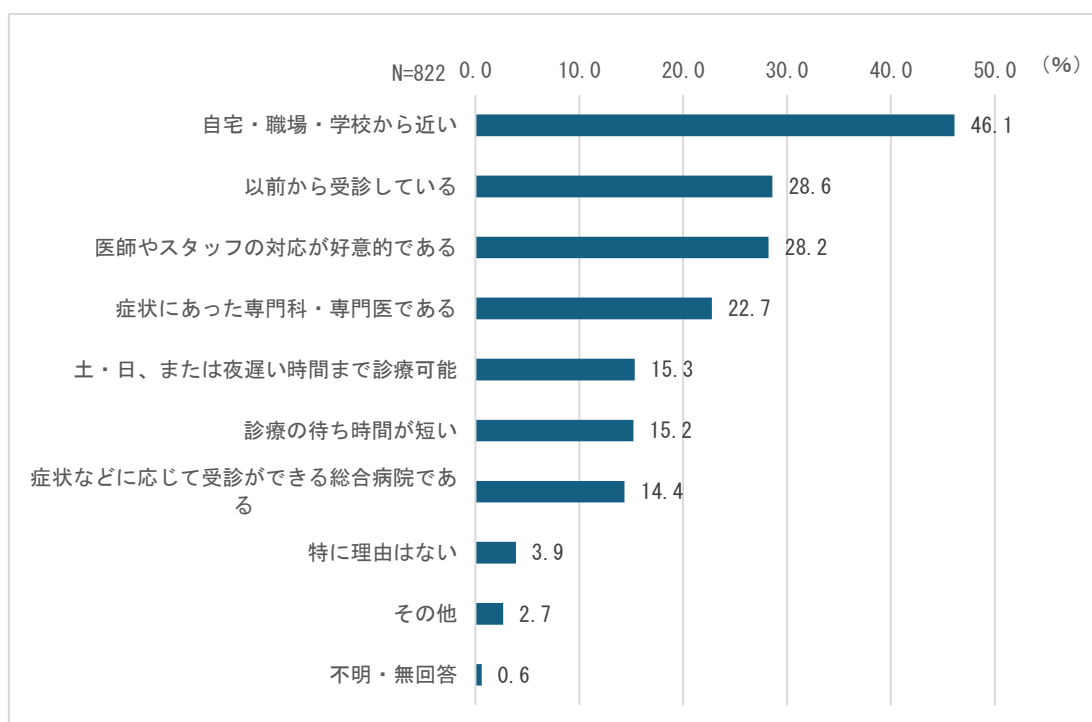
問 24：あなたが、風邪やけが、体調不良の際に受診する場合、医療機関を選ぶ（選んだ）ポイントは何ですか。（○は2つまで）

「自宅・職場・学校から近い」が 46.1%と最も高く、次いで「以前から受診している」が 28.6%、「医師やスタッフの対応が好意的である」が 28.2%であった。

「その他」として、

- ・ 評判・口コミ
- ・ 信頼できる医師・病院

という意見が多かった。一方、「選ぶ余地がない」という意見も多かった。



性別では、男性では「自宅・職場・学校から近い」が 49.1%と最も高く、次いで「以前から受診している」が 30.4%であった。一方、女性は「自宅・職場・学校から近い」が 43.9%と最も高く、次いで「医師やスタッフの対応が好意的である」が 29.4%であった。

年齢別ではどの年齢においても「自宅・職場・学校から近い」が最も高いが、18歳・19歳～49歳までは「医師やスタッフの対応が好意的である」がその他の年齢より高く、50～80歳以上では「以前から受診している」がその他の年齢より高かった。

世帯構成別では、全体的に「自宅・職場・学校から近い」が最も高かった。また、3世代同居（親と子と孫）で「土・日、または夜遅い時間まで診療可能」が他と比べて高かった。

		近 い	自 宅 ・ 職 場 ・ 学 校 か ら	診 療 の 待 ち 時 間 が 短 い	医 師 や ス タ フ の 対 応 が 好 意 的 で あ る	症 状 に あ っ た 専 門 科 ・ 専 門 医 で あ る	土 ・ 日 、 ま た は 夜 遅 い 時 間 ま で 診 療 可 能	以 前 か ら 受 診 し て い る	症 状 な ど に 応 じ て 受 診 が で き る 総 合 病 院 で あ る	そ の 他	特 に 理 由 は な い	不 明 ・ 無 回 答
性 別	● 男性 (N=342)	49.1	14.0	26.6	23.4	12.6	30.4	17.0	2.6	4.7	0.3	
	● 女性 (N=469)	43.9	16.2	29.4	22.2	17.3	27.5	12.6	2.6	3.2	0.9	
	● わからない (N=2)	100.0			50.0	50.0						
	● どちらでもない (N=2)	50.0		50.0			50.0					
	● 不明・無回答 (N=7)	28.6	14.3	28.6	28.6	14.3	14.3	14.3	14.3	14.3		
年 齢 別	● 19歳以下 (N=22)	63.6	9.1	31.8	18.2	9.1	22.7	13.6		4.5		
	● 20～29歳 (N=68)	44.1	19.1	32.4	13.2	29.4	20.6	7.4	2.9	5.9		
	● 30～39歳 (N=110)	43.6	18.2	32.7	30.0	25.5	19.1	9.1	0.9	1.8	0.9	
	● 40～49歳 (N=121)	50.4	14.9	32.2	26.4	20.7	19.8	5.0	5.8	2.5		
	● 50～59歳 (N=125)	48.0	11.2	25.6	24.0	12.8	30.4	12.8	3.2	6.4	0.8	
	● 60～69歳 (N=195)	50.8	19.0	24.6	22.6	10.3	30.3	11.8	1.5	5.1	1.0	
	● 70～79歳 (N=134)	40.3	11.9	27.6	19.4	7.5	39.6	32.1	1.5	2.2		
	● 80歳以上 (N=45)	28.9	8.9	22.2	20.0	11.1	44.4	24.4	6.7	2.2	2.2	
	● 不明・無回答 (N=2)	50.0				50.0	50.0					
居 住 地 別	● 山崎西 (N=103)	49.5	18.4	31.1	17.5	16.5	27.2	8.7	2.9	4.9		
	● 山崎南 (N=127)	50.4	16.5	38.6	23.6	14.2	19.7	11.0	1.6	3.1		
	● 山崎東 (N=133)	37.6	18.0	24.8	29.3	18.8	30.1	14.3	2.3	3.8	0.8	
	● 一宮南 (N=109)	52.3	18.3	27.5	23.9	15.6	25.7	15.6	1.8	1.8		
	● 一宮北 (N=112)	58.0	9.8	22.3	14.3	10.7	35.7	14.3	4.5	5.4		
	● 波賀 (N=109)	41.3	11.9	25.7	22.9	14.7	34.9	16.5	3.7	5.5	0.9	
	● 千種 (N=109)	35.8	10.1	28.4	22.9	15.6	27.5	20.2	2.8	3.7	2.8	
	● 市外・その他 (N=12)	66.7	16.7	8.3	50.0	25.0	25.0	8.3				
	● 不明・無回答 (N=8)		50.0	37.5	25.0	12.5	37.5	25.0				

	近 い	自 宅・ 職 場・ 学 校 か ら	診 療 の 待 ち 時 間 が 短 い	応 が 好 意 的 で あ る	医 師 や ス タ フ の 対 応	専 門 医 で あ る	症 状 に あ っ た 専 門 科 ・ 時 間 ま で 診 療 可 能	土 ・ 日 、 ま た は 夜 遅 い	以 前 か ら 受 診 し て い る	症 状 な ど に 応 じ て 受 診 が で き る 総 合 病 院 で あ る	そ の 他	特 に 理 由 は な い	不 明 ・ 無 回 答
居 住 年 数 別	●5年未満 (N=33)	51.5	3.0	39.4	30.3	18.2	3.0	15.2	6.1	9.1	3.0		
	●5年～9年 (N=26)	50.0	19.2	26.9	30.8	30.8	7.7	3.8	3.8	3.8			
	●10年～19年 (N=93)	53.8	18.3	32.3	19.4	19.4	19.4	15.1	1.1	3.2			
	●20年以上 (N=665)	44.7	15.0	27.1	22.6	14.1	32.0	14.4	2.7	3.8	0.8		
	●その他 (N=3)	66.7	33.3	33.3			33.3	33.3					
	●不明・無回答 (N=2)		50.0	50.0	50.0			50.0					
世 帯 構 成 別	●ひとり暮らし (N=66)	52.4	11.1	30.2	20.6	9.5	28.6	20.6	3.2	6.3			
	●夫婦のみ (N=213)	43.2	13.6	26.3	23.9	8.9	35.2	19.7	2.3	3.3	0.9		
	●2世代同居 (親と子) (N=310)	44.6	15.7	32.2	23.2	16.5	26.8	11.1	2.4	3.8	0.3		
	●3世代同居 (親と子と孫) (N=141)	51.1	18.4	22.7	22.0	24.8	24.1	12.1	3.5	2.1	1.4		
	●その他 (N=28)	57.1	14.3	14.3	14.3	14.3	25.0	14.3	3.6	14.3			
	●不明・無回答 (N=7)	14.3	14.3	28.6	28.6	14.3	28.6	14.3				14.3	
住 み こ こ ち 別	●住みよい (N=134)	48.5	14.2	26.9	16.4	15.7	33.6	15.7	1.5	2.2	2.2		
	●まあまあ住みよい (N=322)	46.0	16.5	30.4	28.3	14.3	28.3	16.8	1.6	1.6			
	●どちらともいえない (N=188)	47.9	16.0	24.5	19.1	19.7	24.5	11.2	2.1	5.9	0.5		
	●あまり住みよいとは言えない (N=131)	40.5	12.2	35.9	24.4	9.9	34.4	12.2	2.3	6.9	0.8		
	●住みにくい (N=43)	51.2	14.0	11.6	9.3	18.6	18.6	14.0	18.6	9.3			
	●不明・無回答 (N=4)	25.0	25.0		50.0	25.0						25.0	
定 住 意 向 別	●できれば住み続けたい (N=398)	46.2	14.6	29.9	23.1	12.8	31.7	16.8	1.3	2.0	1.0		
	●市外に転出しても戻ってきたい (N=21)	47.6	19.0	38.1	9.5	33.3	19.0	14.3					
	●市内の他の場所へ移りたい (N=32)	53.1	18.8	28.1	12.5	28.1	18.8	25.0	3.1	3.1			
	●できれば住みたくない (N=83)	42.2	13.3	26.5	18.1	13.3	25.3	12.0	7.2	14.5			
	●自分の意思とは関係なく住み続けなければならないと感じる (N=208)	45.2	16.3	26.9	26.9	15.4	28.8	9.6	4.3	3.4	0.5		
	●わからない (N=80)	48.8	15.0	22.5	22.5	20.0	22.5	12.5	1.3	5.0	1.3		

問 25：デジタル技術を活用した地域の課題解決や魅力向上をすすめる動きが強まっています。あなたは、どのような行政サービスにデジタル技術を活用してほしいですか。（〇は2つまで）

「窓口業務（オンライン手続き、書かない窓口、キャッシュレス決済）」が 43.4%と最も高く、次いで「高齢者等デジタル弱者への支援や自治会の負担軽減」が 39.3%、「オンライン遠隔診療の研究」が 18.4%であった。

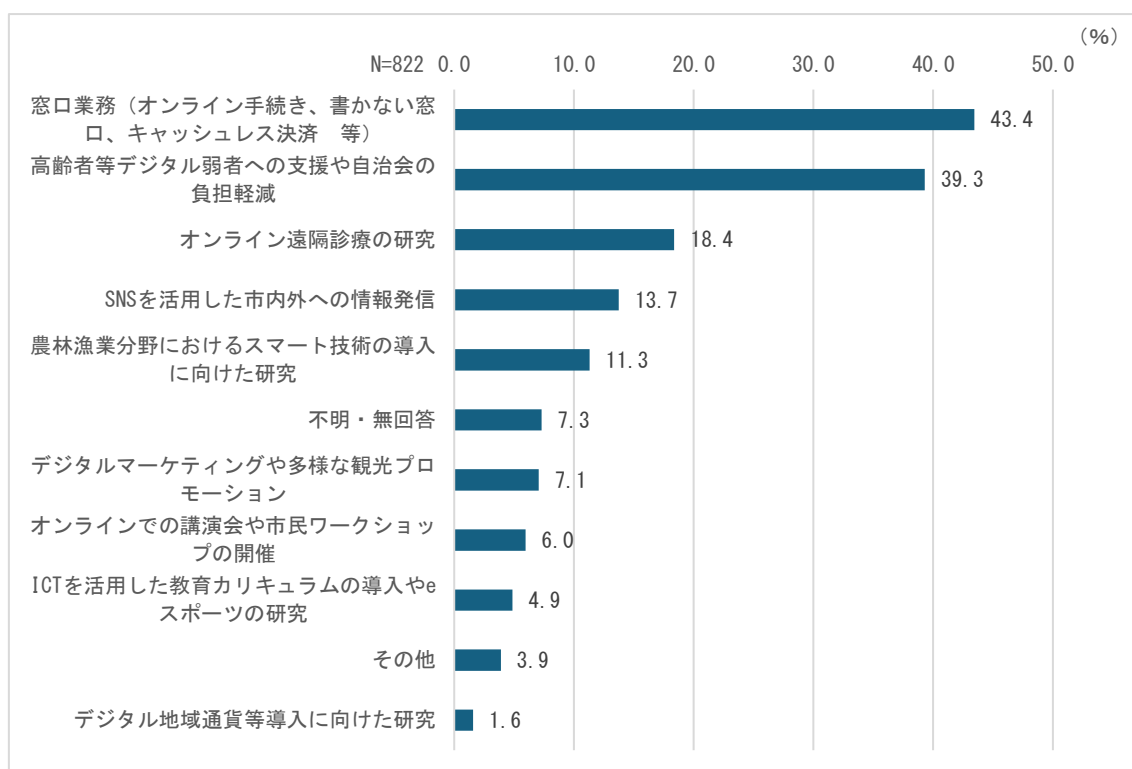
その他として、

- ・生活必需品の購入に役立つシステムの開発
（食料品や衛生用品の注文や宅配システム）
- ・農家と労働力や消費者を直接マッチングさせるアプリ

という意見があった。一方、

- ・デジタル技術についていけない（高齢者）
- ・高齢者のためにアナログ対応は残すべき

という意見もあった。



性別では、傾向にそれほど大きな違いはないが、「農林漁業分野におけるスマート技術導入研究」「SNSを活用した市内外への情報発信」は女性より男性の方が割合は高い。

年齢別では、若い世代ほど、窓口業務でデジタルを活用してほしいと考えている人が多く、一方、年齢が上がるほど、「デジタル弱者への支援や自治会の負担軽減」を求める割合が増加する傾向が見られた。

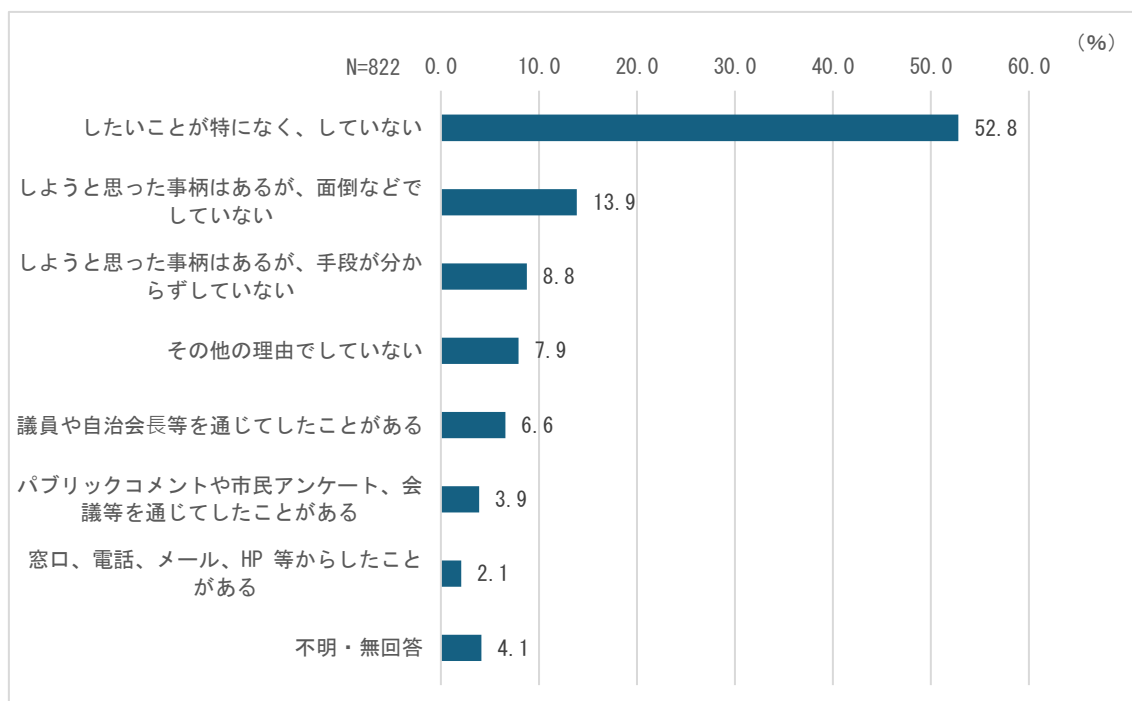
居住地別では、山崎東、一宮北、波賀で「デジタル弱者への支援や自治会の負担軽減」を求める割合が高かった。

	窓口業務	デジタル弱者への支援や自治会の負担軽減	オンラインでの講習や市民ワークショップ	ICTを活用した教育カリキュラム導入等	SNSを活用した市内外への情報発信	農林漁業分野におけるスマート技術導入研究	観光プロモーション	デジタルマーケティングや	デジタル地域通貨等導入に向けた研究	オンライン遠隔診療の研究	その他	不明・無回答
性別												
・男性 (N=342)	45.9	6.7	40.1	5.6	16.4	14.6	7.6	2.6	17.0	4.1	3.8	
・女性 (N=469)	41.2	5.5	39.0	4.3	11.9	9.0	6.6	0.9	19.6	3.8	9.8	
・わからない (N=2)	50.0	50.0							50.0			
・どちらでもない (N=2)	100.0			50.0								
・不明・無回答 (N=7)	57.1	28.6			14.3	14.3	14.3				14.3	
年齢別												
・18歳・19歳 (N=22)	59.1	9.1	9.1	22.7	22.7	9.1	27.3		13.6			
・20～29歳 (N=68)	63.2	5.9	17.6	8.8	33.8	11.8	8.8	1.5	17.6	2.9		
・30～39歳 (N=110)	59.1	8.2	20.0	4.5	20.9	5.5	10.9	1.8	21.8	2.7	4.5	
・40～49歳 (N=121)	48.8	6.6	23.1	9.9	19.0	13.2	11.6	1.7	20.7	1.7	4.1	
・50～59歳 (N=125)	45.6	7.2	35.2	7.2	11.2	8.8	4.8	0.8	24.8	3.2	5.6	
・60～69歳 (N=195)	39.0	6.7	54.9	1.0	8.7	12.3	5.6	2.1	16.4	4.6	8.2	
・70～79歳 (N=134)	26.1	2.2	62.7	0.7	5.2	13.4	1.5	2.2	12.7	5.2	12.7	
・80歳以上 (N=45)	17.8	2.2	51.1			17.8			15.6	11.1	22.2	
・不明・無回答 (N=2)	50.0	50.0		50.0		50.0						
居住地別												
・山崎西 (N=103)	44.7	4.9	38.8	2.9	15.5	10.7	10.7	1.0	12.6	3.9	9.7	
・山崎南 (N=127)	47.2	5.5	28.3	5.5	15.7	8.7	10.2		16.5	3.1	10.2	
・山崎東 (N=133)	45.1	9.8	43.6	6.8	15.8	13.5	3.8	3.0	17.3	3.0	3.8	
・一宮南 (N=109)	39.4	6.4	34.9	2.8	17.4	14.7	7.3	0.9	24.8	3.7	3.7	
・一宮北 (N=112)	37.5	3.6	50.9	5.4	8.0	8.0	4.5	1.8	17.0	4.5	8.9	
・波賀 (N=109)	41.3	2.8	43.1	2.8	12.8	11.0	9.2	3.7	19.3	5.5	6.4	
・千種 (N=109)	45.0	9.2	38.5	5.5	9.2	14.7	3.7		22.0	4.6	8.3	
・市外・その他 (N=12)	50.0	16.7	25.0	33.3			8.3		25.0		8.3	
・不明・無回答 (N=8)	75.0	37.5					12.5	12.5			12.5	

問 26：この３年以内に、市の取組に対して提案や意見をしたことがありますか。

（○は１つ）

「したいことが特になく、していない」が 52.8%と最も高く、次いで「しようと思った事柄はあるが、面倒などでしていない」が 13.9%、「しようと思った事柄はあるが、手段が分からずしていない」が 8.8%であった。



(4) まちづくりへの関わりについて

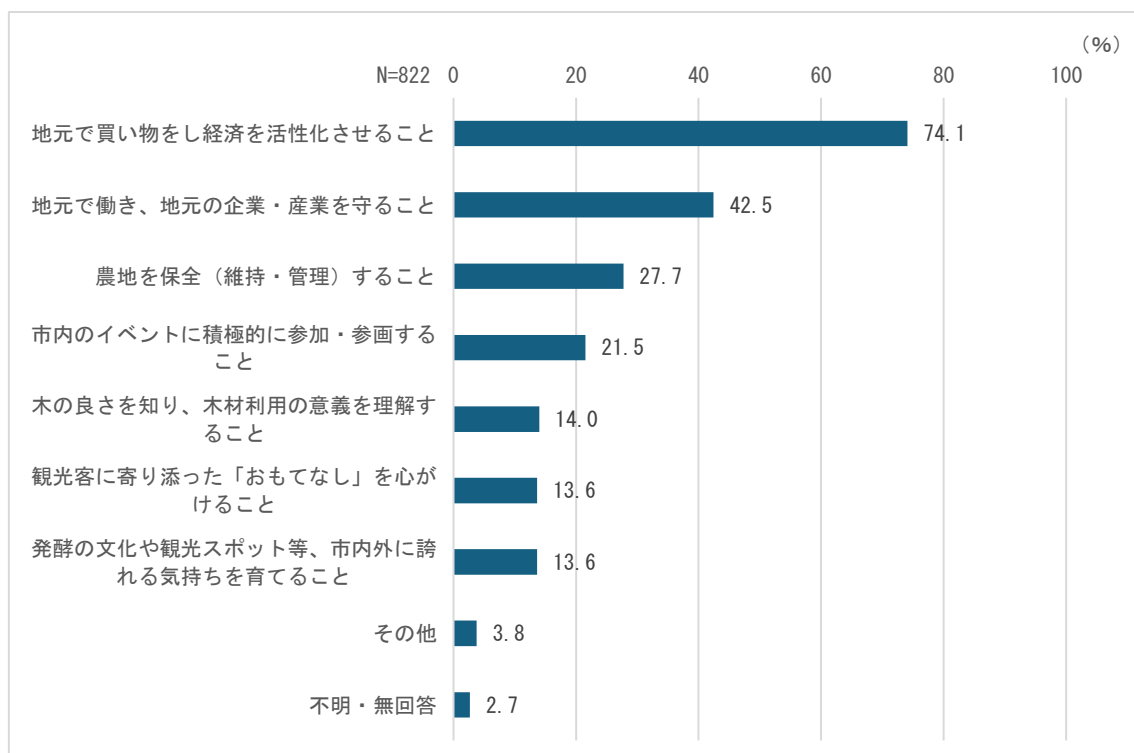
問 27-1：これからのまちづくりに関して、地域産業分野において、市民としてあなた自身ができることは何だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

「地元で買い物をし経済を活性化させること」が74.1%と最も高く、次いで「地元で働き、地元の企業・産業を守ること」が42.5%、農地を保全(維持・管理)することが27.7%であった。

「その他」として、

- ・ 市政に興味を持つこと
- ・ 働いて宍粟市に住み続けること

などの意見があった。



性別では、「地元で買い物をし、経済を活性化させること」「地元で働き、地元の企業・産業を守ること」「農地を保全（維持・管理）すること」「木の良さを知り、木材利用の意義を理解すること」は男性の方が割合は高いが、「発酵の文化や観光スポット等、市内外に誇れる気持ちを育てること」「市内のイベントに積極的に参加・参画すること」「観光客に寄り添った「おもてなし」を心がけること」は女性の方が割合は高い。

年齢別では、現役世代が含まれる 18 歳から 69 歳までは「地元で働き、地元の企業・産業を守ること」の割合が高く、50 歳以上では「農地を保全（維持・管理）すること」の割合が他の年齢に比べて高かった。また、18 歳・19 歳では「発酵の文化や観光スポット等、市内外に誇れる気持ちを育てること」「市内のイベントに積極的に参加・参画すること」の割合が他の年齢よりも高かった。

居住地別では、山崎南では「地元で働き、地元の企業・産業を守ること」、波賀では「木の良さを知り、木材利用の意義を理解すること」が最も高く、それ以外の地域では「地元で買い物をし、経済を活性化させること」が最も高かった。

居住年数別では、20 年以上居住している人は「農地を保全（維持・管理）すること」の割合が他の居住年数より高かった。

住みごころ別では、「《「住みよい」》《「まあまあ住みよい」》で「市内のイベントに積極的に参加・参画すること」が他より 10%以上高かった。

定住意向別では、「《「できれば住み続けたい」》と《「自分の意思と関係なく住み続けなければならないと感じる」》で「農地を保全（維持・管理）すること」が他より 10%以上高かった。

	その他	観光客に寄り添った「おもてなし」を心がけること	市内のイベントに積極的に参加・参画すること	発酵の文化や観光スポット等、市内外に誇れる気持ちを育てること	木の良さを知り、木材利用の意義を理解すること	農地を保全（維持・管理）すること	地元で働き、地元の企業・産業を守ることに	地元で買い物をして経済を活性化させること
性別								
● 男性 (N=342)	5.3	12.3	19.0	12.9	17.3	32.7	39.2	70.5
● 女性 (N=469)	2.3	14.5	23.5	14.1	11.7	23.7	45.0	77.0
● わからない (N=2)					50.0	50.0		50.0
● どちらでもない (N=2)	50.0							
● 不明・無回答 (N=7)	14.3	28.6	28.6	28.6		57.1	57.1	71.4
年齢別								
● 18歳・19歳 (N=22)		22.7	31.8	36.4	13.6	4.5	36.4	63.6
● 20～29歳 (N=68)		14.7	23.5	8.8	10.3	11.8	41.2	69.1
● 30～39歳 (N=110)	5.5	14.5	23.6	15.5	8.2	18.2	42.7	69.1
● 40～49歳 (N=121)	5.8	9.1	24.8	9.1	14.0	15.7	43.8	71.1
● 50～59歳 (N=125)	4.8	11.2	16.8	12.8	16.0	30.4	56.0	73.6
● 60～69歳 (N=195)	3.6	12.8	20.0	15.4	14.4	39.5	44.6	75.9
● 70～79歳 (N=134)	2.2	17.2	22.4	13.4	11.9	37.3	32.8	81.3
● 80歳以上 (N=45)	4.4	17.8	17.8	11.1	31.1	31.1	22.2	77.8
● 不明・無回答 (N=2)				50.0	50.0	50.0	100.0	100.0
居住地別								
● 山崎西 (N=103)	2.9	17.5	19.4	14.6	8.7	21.4	38.8	78.6
● 山崎南 (N=127)	6.3	12.6	19.7	15.0	14.2	27.6	35.4	74.8
● 山崎東 (N=133)	3.8	10.5	21.8	14.3	14.3	26.3	46.6	76.7
● 一宮南 (N=109)	2.8	13.8	24.8	13.8	13.8	28.4	44.0	77.1
● 一宮北 (N=112)	3.6	8.0	24.1	8.9	13.4	33.9	43.8	75.9
● 波賀 (N=109)	3.7	22.0	17.4	15.6	16.5	28.4	47.7	72.5
● 千種 (N=109)	2.8	11.0	22.9	11.9	17.4	29.4	42.2	61.5
● 市外・その他 (N=12)		16.7	25.0	25.0	8.3	25.0	33.3	66.7
● 不明・無回答 (N=8)	12.5	25.0	25.0	12.5	12.5	12.5	37.5	100.0

	その他	観光客に寄り添った「おもてなし」を心がけること	市内のイベントに積極的に参加・参画すること	発酵の文化や観光スポット等、市内外に誇れる気持ちを育てること	木の良さを知り、木材利用の意義を理解すること	農地を保全（維持・管理）すること	地元で働き、地元の企業・産業を守ることに	地元で買物をして経済を活性化させること
居住年数別								
●5年未満（N=33）	3.0	12.1	24.2	24.2	15.2	9.1	36.4	69.7
●5年～9年（N=26）	3.8	7.7	15.4	3.8	11.5	7.7	38.5	73.1
●10年～19年（N=93）	4.3	14.0	28.0	19.4	19.4	8.6	35.5	69.9
●20年以上（N=665）	3.8	13.7	20.9	12.8	13.2	32.2	43.8	74.7
●その他（N=3）		66.7			33.3	33.3	66.7	100.0
●不明・無回答（N=2）							50.0	100.0
住みこち別								
●住みよい（N=134）	3.0	18.7	28.4	19.4	17.2	31.3	44.8	82.1
●まあまあ住みよい（N=322）	2.2	15.5	27.0	17.4	19.6	31.1	44.4	78.0
●どちらともいえない（N=188）	3.7	11.7	15.4	8.5	7.4	26.1	38.3	73.4
●あまり住みよいとは言えない（N=131）	3.8	10.7	13.7	9.9	9.9	24.4	42.7	63.4
●住みにくい（N=43）	18.6	2.3	9.3		4.7	11.6	37.2	58.1
●不明・無回答（N=4）			25.0	25.0			50.0	50.0
定住意向別								
●できれば住み続けたい（N=398）	3.0	15.6	26.6	17.8	18.8	32.4	46.5	80.7
●市外に転出しても戻ってきたい（N=21）		9.5	28.6	14.3	23.8	19.0	38.1	47.6
●市内の他の場所へ移りたい（N=32）	6.3		15.6	9.4	3.1	12.5	53.1	75.0
●できれば住みたくない（N=83）	9.6	12.0	14.5	8.4	6.0	12.0	36.1	61.4
●自分の意思と関係なく住み続けなければならないと感じる（N=208）	4.8	12.0	16.8	9.1	9.6	32.2	40.4	69.2
●わからない（N=80）	1.3	13.8	16.3	11.3	11.3	17.5	31.3	73.8

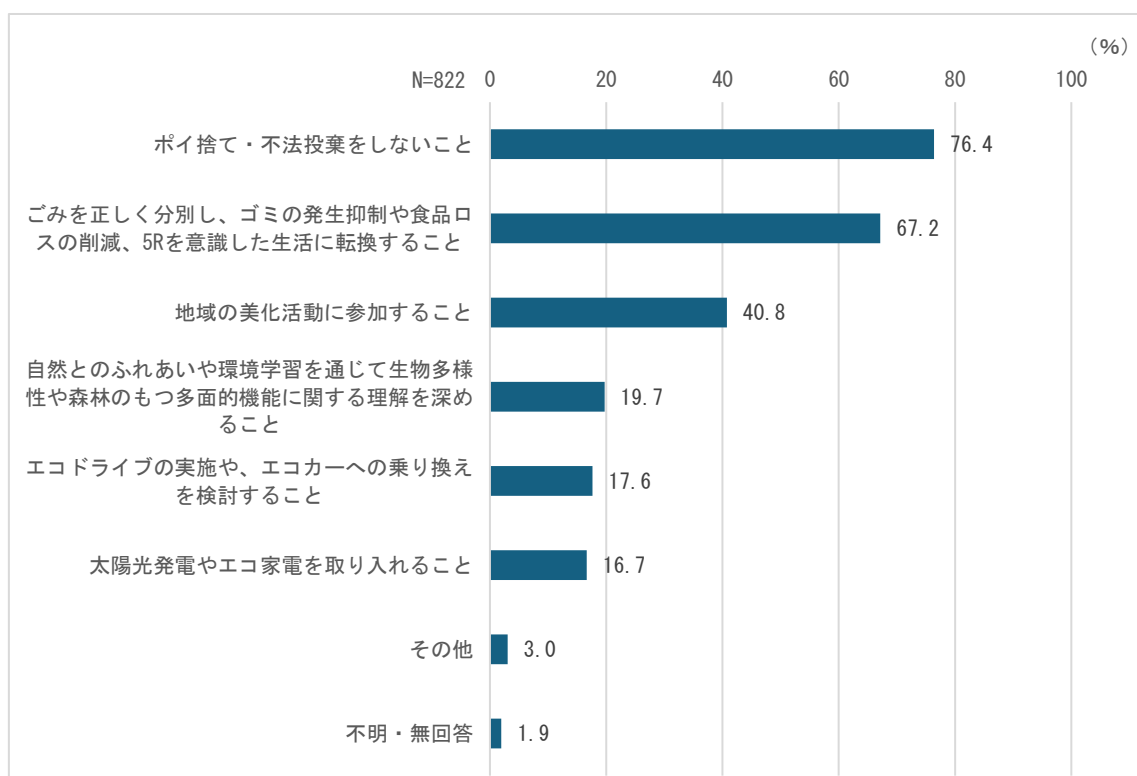
問 27-2：これからのまちづくりに関して、環境分野において、市民としてあなた自身ができることは何だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

「ポイ捨て・不法投棄をしないこと」が 76.4%と最も高く、次いで「ごみを正しく分別し、ゴミの発生抑制や食品ロスの削減、5R を意識した生活に転換すること」が 67.2%、「地域の美化活動に参加すること」が 40.8%であった。

「その他」として、

- ・ 森林を守り二酸化炭素を吸収してもらう（里山の管理）
- ・ コンポスト活用による資源活用

などの意見があった。



性別では、傾向にそれほど大きな違いはないが、「ごみを正しく分別し、ごみの発生抑制や食品ロスの削減、5Rを意識した生活に転換すること」は男性より女性の方が14.8%高かった。

年齢別では、「地域の美化活動に参加すること」は年齢が上がるにつれて割合が高くなっており、70～79歳で最も高く57.5%となっていた。

居住年数別では、5年～9年で「自然とのふれあいや環境学習を通じて生物多様性や森林のもつ多面的機能に関する理解を深めること」の割合が他よりも10%以上高かった。

住みごころ別では《「住みよい」》《「まあまあ住みよい」》で、居住年数別では《「できれば住み続けたい」》《「市内の他の場所へ移りたい」》《「自分の意思と関係なく住み続けなければならないと感じる」》で「地域の美化活動に参加すること」の割合が他より高かった。

		ポイ捨て・不法投棄をしないこと	地域の美化活動に参加すること	ごみを正しく分別し、ごみの発生抑制や食品ロスの削減、5Rを意識した生活に転換すること	自然とのふれあいや環境学習を通じて生物多様性や森林のもつ多面的機能に関する理解を深めること	太陽光発電やエコ家電を取り入れること	エコドライブの実施やエコカーへの乗り換えを検討すること	その他
性別	●男性 (N=342)	77.5	38.6	58.8	20.2	19.0	16.4	4.4
	●女性 (N=469)	75.9	42.6	73.6	19.2	15.1	18.8	1.9
	●わからない (N=2)	50.0	50.0	100.0	50.0			
	●どちらでもない (N=2)	100.0		50.0				
	●不明・無回答 (N=7)	57.1	28.6	42.9	28.6	14.3	14.3	14.3
年齢別	●18歳・19歳 (N=22)	81.8	22.7	59.1	18.2	18.2	9.1	
	●20～29歳 (N=68)	67.6	22.1	55.9	16.2	16.2	14.7	7.4
	●30～39歳 (N=110)	79.1	27.3	52.7	20.0	8.2	15.5	4.5
	●40～49歳 (N=121)	75.2	34.7	60.3	18.2	16.5	16.5	3.3
	●50～59歳 (N=125)	75.2	40.0	65.6	24.0	21.6	24.8	0.8
	●60～69歳 (N=195)	76.9	48.7	74.9	19.0	20.0	21.5	2.6
	●70～79歳 (N=134)	82.1	57.5	79.9	19.4	15.7	14.9	3.7
	●80歳以上 (N=45)	66.7	44.4	75.6	22.2	13.3	6.7	
	●不明・無回答 (N=2)	100.0	50.0	50.0				
	●不明・無回答 (N=2)	100.0	50.0	50.0				
居住地別	●山崎西 (N=103)	70.9	33.0	68.0	17.5	15.5	16.5	2.9
	●山崎南 (N=127)	78.7	35.4	64.6	22.8	19.7	15.7	3.1
	●山崎東 (N=133)	71.4	39.8	61.7	16.5	15.0	18.0	4.5
	●一宮南 (N=109)	84.4	46.8	78.9	22.0	15.6	20.2	2.8
	●一宮北 (N=112)	85.7	47.3	74.1	16.1	15.2	15.2	0.9
	●波賀 (N=109)	72.5	45.9	65.1	22.9	16.5	15.6	4.6
	●千種 (N=109)	69.7	39.4	59.6	17.4	19.3	22.9	1.8
	●市外・その他 (N=12)	91.7	8.3	58.3	50.0	8.3		
	●不明・無回答 (N=8)	75.0	62.5	75.0	12.5	25.0	37.5	12.5

		ポイ捨て・不法投棄をしないこと	地域の美化活動に参加すること	ゴミを正しく分別し、ゴミの発生抑制や食品ロスの削減、5Rを意識した生活に転換すること	自然とのふれあいや環境学習を通じて生物多様性や森林のもつ多面的機能に関する理解を深めること	太陽光発電やエコ家電を取り入れること	エコドライブの実施や、エコカーへの乗り換えを検討すること	その他
居住年数別	●5年未満 (N=33)	60.6	33.3	54.5	15.2	12.1	15.2	6.1
	●5年～9年 (N=26)	53.8	38.5	42.3	34.6	7.7	11.5	7.7
	●10年～19年 (N=93)	79.6	34.4	66.7	20.4	14.0	17.2	4.3
	●20年以上 (N=665)	77.6	42.3	68.9	19.4	17.6	18.2	2.4
	●その他 (N=3)	66.7		66.7		33.3		33.3
	●不明・無回答 (N=2)	100.0	50.0	50.0				
住みこち別	●住みよい (N=134)	77.6	46.3	67.2	22.4	15.7	14.9	1.5
	●まあまあ住みよい (N=322)	82.3	46.6	72.0	23.6	18.3	19.6	3.4
	●どちらともいえない (N=188)	71.3	37.8	59.6	15.4	14.9	16.0	2.7
	●あまり住みよいとは言えない (N=131)	71.8	29.8	71.0	16.8	18.3	14.5	1.5
	●住みにくい (N=43)	65.1	25.6	53.5	11.6	11.6	25.6	11.6
	●不明・無回答 (N=4)	75.0	50.0	50.0			50.0	
	●できれば住み続けたい (N=398)	81.4	50.5	70.4	22.4	16.3	17.1	3.0
定住意向別	●市外に転出しても戻ってきたい (N=21)	61.9	19.0	52.4	14.3	23.8	38.1	
	●市内の他の場所へ移りたい (N=32)	71.9	37.5	65.6	12.5	28.1	15.6	
	●できれば住みたくない (N=83)	69.9	24.1	53.0	19.3	8.4	16.9	6.0
	●自分の意思と関係なく住み続けなければならないと感じる (N=208)	72.1	38.5	71.6	18.3	17.8	18.3	3.4
	●わからない (N=80)	75.0	22.5	58.8	15.0	17.5	15.0	1.3

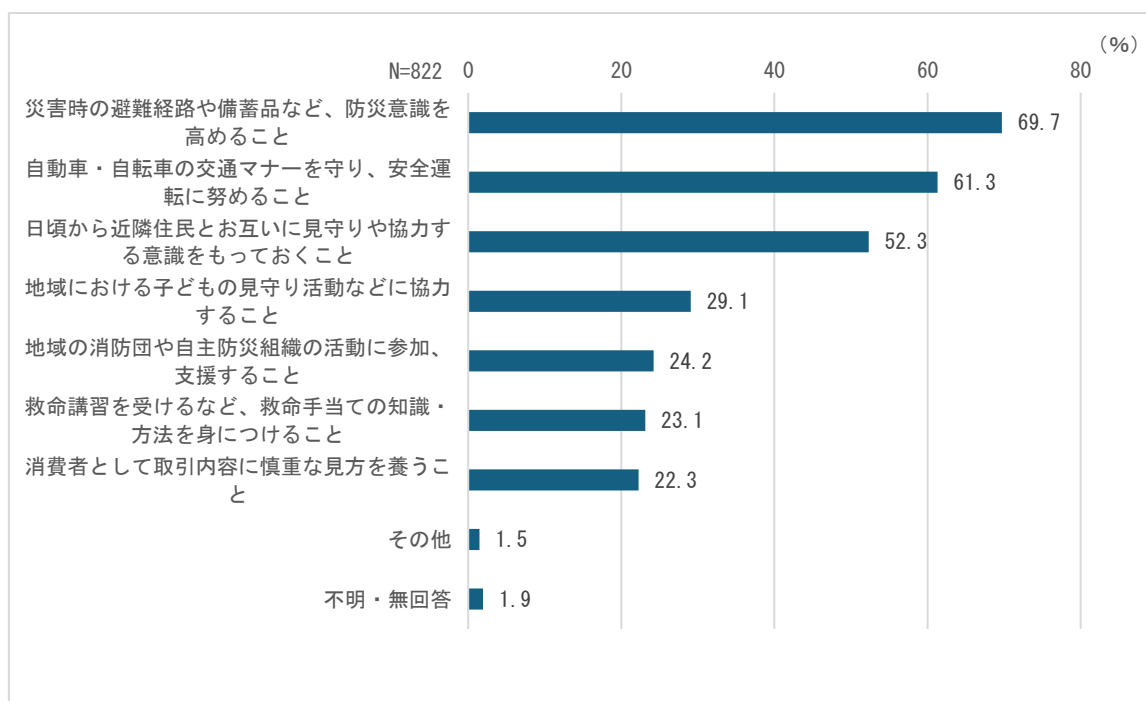
問 27-3：これからのまちづくりに関して、防災・防犯・安全対策分野において、市民としてあなたができることは何だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

「災害時の避難経路や備蓄品など、防災意識を高めること」が 69.7%と最も高く、次いで「自動車・自転車の交通マナーを守り、安全運転に努めること」が 61.3%、「日頃から近隣住民とお互いに見守りや協力する意識をもっておくこと」が 52.3%であった。

「その他」として、

- ・ 知らない番号の電話には出ない
- ・ 玄関には常にカギをかけておく

などの意見があった。



性別では、「地域の消防団や自主防衛組織の活動に参加、支援すること」で男性が女性より 11.8%高かった。

年齢別では、18 歳・19 歳では「自動車・自転車の交通マナーを守り、安全運転に努めること」が、20～69 歳では「災害時の避難経路や備蓄品など、防災意識を高めること」が、70 歳以上では「日頃から近隣住民とお互いに見守りや協力する意識をもっておくこと」が最も高かった。

居住地別では、一宮南、一宮北、波賀、千種では「地域の消防団や自主防災組織の活動に参加、支援をすること」「救命講習を受けるなど、救命手当の知識・方法を身につけること」がその他の地域に比べて高かった。

居住年数別では、10 年～19 年で「自動車・自転車の交通マナーを守り、安全運転に努めること」が、それ以外では「災害時の避難経路や備蓄品など、防災意識を高めること」が最も高かった。

住みごころ別では、《住みにくい》で「自動車・自転車の交通マナーを守り、安全運転に努めること」が、それ以外では「災害時の避難経路や備蓄品など、防災意識を高めること」が最も高かった。

定住意向別では、《できれば住み続けたい》《市内の他の場所へ移りたい》《自分の意思と関係なく住み続けなければならないと感じる》で「地域における子どもの見守り活動などに協力すること」「日頃から近隣住民とお互いに見守りや協力する意識をもっておくこと」の割合が高かった。

		災害時の避難経路や備蓄品など、防災意識を高めること	地域の消防団や自主防災組織の活動に参加、支援をすること	救命講習を受けるなど、救命手当の知識・方法を身につけること	消費者として取引内容に慎重な見方を養うこと	地域における子どもの見守り活動などに協力すること	自動車・自転車の交通マナーを守り、安全運転に努めること	日頃から近隣住民とお互いに見守りや協力する意識をもっておくこと	その他
性別	・男性 (N=342)	65.5	31.0	21.6	18.7	28.4	60.2	50.9	1.8
	・女性 (N=469)	73.1	19.2	24.3	25.2	30.1	62.7	53.5	1.1
	・わからない (N=2)	50.0		50.0			50.0	50.0	
	・どちらでもない (N=2)	50.0	50.0						
	・不明・無回答 (N=7)	57.1	28.6	14.3	14.3	14.3	42.9	57.1	14.3
年齢別	・18歳・19歳 (N=22)	59.1	27.3	13.6	9.1	22.7	63.6	27.3	
	・20～29歳 (N=68)	75.0	13.2	22.1	20.6	20.6	47.1	26.5	1.5
	・30～39歳 (N=110)	67.3	20.0	23.6	13.6	24.5	60.9	39.1	0.9
	・40～49歳 (N=121)	67.8	21.5	24.8	19.0	27.3	61.2	34.7	2.5
	・50～59歳 (N=125)	71.2	19.2	24.0	29.6	26.4	65.6	49.6	0.8
	・60～69歳 (N=195)	70.3	31.3	22.6	26.2	29.7	64.6	64.6	1.0
	・70～79歳 (N=134)	74.6	29.9	24.6	23.1	41.0	64.9	75.4	1.5
	・80歳以上 (N=45)	57.8	24.4	17.8	22.2	28.9	46.7	66.7	4.4
	・不明・無回答 (N=2)	50.0		50.0		50.0	50.0	100.0	
居住地別	・山崎西 (N=103)	70.9	11.7	11.7	25.2	20.4	63.1	51.5	
	・山崎南 (N=127)	79.5	19.7	22.0	18.9	26.8	65.4	40.9	1.6
	・山崎東 (N=133)	72.2	19.5	19.5	22.6	27.8	61.7	51.1	0.8
	・一宮南 (N=109)	66.1	29.4	30.3	18.3	37.6	60.6	51.4	0.9
	・一宮北 (N=112)	71.4	32.1	25.0	17.0	33.0	59.8	65.2	1.8
	・波賀 (N=109)	63.3	33.0	24.8	26.6	27.5	63.3	57.8	4.6
	・千種 (N=109)	62.4	27.5	30.3	27.5	31.2	56.0	50.5	0.9
	・市外・その他 (N=12)	75.0	8.3		16.7	8.3	41.7	33.3	
	・不明・無回答 (N=8)	62.5	12.5	37.5	37.5	50.0	75.0	75.0	

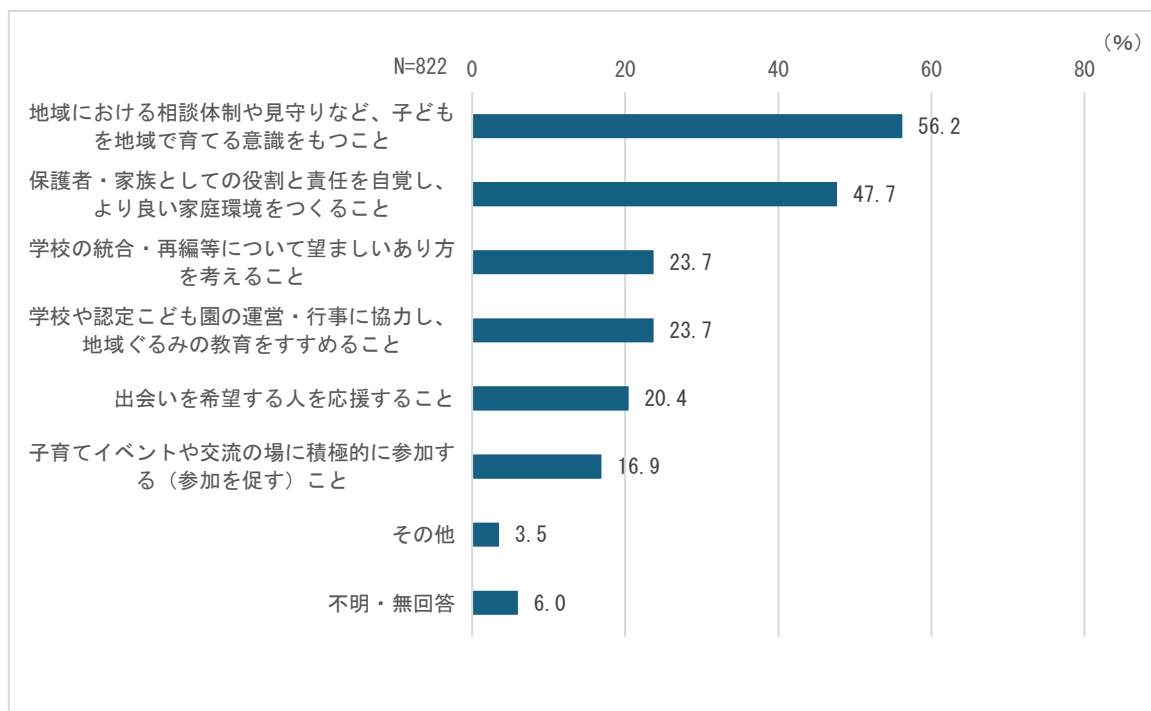
		防災意識を高めること	災害時の避難経路や備蓄品など、 防災意識を高めること	地域の消防団や自主防災組織の活動に参加、支援すること	知識・方法を身につけること	救命講習を受けるなど、救命手当の方を養うこと	消費者として取引内容に慎重な見方をする	地域における子どもの見守り活動などに協力すること	自動車・自転車の交通マナーを守り、安全運転に努めること	日頃から近隣住民とお互いに見守りや協力する意識をもっておくこと	その他
居住年数別	● 5年未満 (N=33)	60.6	9.1	21.2	21.2	27.3	60.6	30.3	3.0		
	● 5年～9年 (N=26)	57.7	3.8	15.4	19.2	11.5	53.8	26.9	11.5		
	● 10年～19年 (N=93)	65.6	20.4	24.7	17.2	32.3	68.8	43.0	1.1		
	● 20年以上 (N=665)	71.1	26.2	23.5	23.3	29.6	60.9	55.5	1.1		
	● その他 (N=3)	100.0	66.7				33.3	66.7			
	● 不明・無回答 (N=2)	50.0						100.0			
住みこころ別	● 住みよい (N=134)	67.9	29.9	24.6	16.4	36.6	64.2	57.5			
	● まあまあ住みよい (N=322)	75.8	27.3	27.0	26.7	31.7	65.5	57.8	0.6		
	● どちらともいえない (N=188)	66.5	20.7	20.2	20.2	26.6	58.0	45.2	2.7		
	● あまり住みよいとは言えない (N=131)	67.2	20.6	18.3	22.9	22.1	55.0	48.1	0.8		
	● 住みにくい (N=43)	53.5	9.3	11.6	14.0	16.3	55.8	39.5	9.3		
	● 不明・無回答 (N=4)	50.0	25.0	75.0	25.0	50.0	50.0	50.0			
定住意向別	● できれば住み続けたい (N=398)	72.9	30.4	25.9	21.9	35.7	64.6	60.8	0.5		
	● 市外に転出しても戻ってきたい (N=21)	61.9	14.3	19.0	19.0	19.0	61.9	28.6			
	● 市内の他の場所へ移りたい (N=32)	68.8	18.8	21.9	21.9	34.4	62.5	40.6			
	● できれば住みたくない (N=83)	61.4	13.3	18.1	14.5	16.9	54.2	34.9	6.0		
	● 自分の意思と関係なく住み続けなければならないと感じる (N=208)	68.3	24.0	22.1	26.0	27.4	58.2	55.8	1.9		
	● わからない (N=80)	68.8	10.0	18.8	23.8	13.8	60.0	30.0	1.3		

問 27-4：これからのまちづくりに関して、子育て・教育分野において、市民としてあなた自身ができることは何だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

「地域における相談体制や見守りなど、子どもを地域で育てる意識をもつこと」が56.2%と最も高く、次いで「保護者・家族としての役割と責任を自覚し、「より良い家庭環境をつくること」が47.7%、「学校の統合・再編等について望ましいあり方を考えること」が23.7%であった。

「その他」として、

- ・ 関わりのある子どもとの会話を通じて、正しい知識を伝える、学問の面白さを伝える。
 - ・ 宍粟市がステキな場所であることを伝える（ポジティブキャンペーン）
- などの意見があった。



性別では、傾向にそれほど大きな違いはないが、「出会いを希望する人を応援すること」が女性より男性の方が割合は高い。

年齢別では、18歳～29歳、40～49歳では「保護者・家族としての役割と責任を自覚し、「より良い家庭環境をつくること」が最も高く、それ以外の年齢では「地域における相談体制や見守りなど、子どもを地域で育てる意識をもつこと」が最も高かった。

居住地別では、すべての地域において「地域における相談体制や見守りなど、子どもを地域で育てる意識をもつこと」が最も高かった。

居住年数別では、5年未満と20年以上で「地域における相談体制や見守りなど、子どもを地域で育てる意識をもつこと」が最も高く、5年～19年で「保護者・家族としての役割と責任を自覚し、より良い家庭環境をつくること」が最も高かった。

住みごころ別では、《住みにくい》で「保護者・家族としての役割と責任を自覚し、より良い家庭環境をつくること」が最も高く、それ以外では「地域における相談体制や見守りなど、子どもを地域で育てる意識をもつこと」が最も高かった。

定住意向別では、《市内の他の場所へ移りたい》で「保護者・家族としての役割と責任を自覚し、より良い家庭環境をつくること」が最も高く、それ以外では「地域における相談体制や見守りなど、子どもを地域で育てる意識をもつこと」が最も高かった。

		地域における相談体制や見守り など、子どもを地域で育てる意識 をもつこと	保護者・家族としての役割と責 任を自覚し、より良い家庭環境 をつくること	子育てイベントや交流の場に積 極的に参加する（参加を促す） こと	出会いを希望する人を応援する こと	学校や認定こども園の運営・行 事に協力し、地域ぐるみの教育 をすすめること	学校の統合・再編等について望 ましいあり方を考えること	その他
性別	● 男性（N=342）	52.3	47.7	15.8	26.3	26.3	26.3	4.7
	● 女性（N=469）	59.3	48.0	17.9	16.2	21.7	21.7	2.3
	● わからない（N=2）					50.0	50.0	50.0
	● どちらでもない（N=2）		50.0					
	● 不明・無回答（N=7）	71.4	42.9	14.3	28.6	28.6	28.6	14.3
年齢別	● 18歳・19歳（N=22）	36.4	36.4	18.2	27.3	27.3	27.3	4.5
	● 20～29歳（N=68）	42.6	50.0	20.6	30.9	25.0	25.0	1.5
	● 30～39歳（N=110）	56.4	51.8	20.9	15.5	17.3	17.3	5.5
	● 40～49歳（N=121）	43.0	60.3	19.8	14.9	31.4	31.4	3.3
	● 50～59歳（N=125）	60.8	41.6	12.0	21.6	23.2	23.2	1.6
	● 60～69歳（N=195）	63.6	42.1	12.8	19.5	24.1	24.1	5.1
	● 70～79歳（N=134）	67.9	49.3	20.1	23.9	23.9	23.9	1.5
	● 80歳以上（N=45）	42.2	42.2	15.6	20.0	15.6	15.6	6.7
	● 不明・無回答（N=2）	50.0	50.0					
	● 不明・無回答（N=2）	50.0	50.0					
居住地別	● 山崎西（N=103）	48.5	45.6	11.7	13.6	23.3	23.3	
	● 山崎南（N=127）	59.1	56.7	19.7	17.3	22.0	22.0	3.9
	● 山崎東（N=133）	54.1	53.4	13.5	21.8	24.1	24.1	3.0
	● 一宮南（N=109）	60.6	54.1	17.4	24.8	22.0	22.0	2.8
	● 一宮北（N=112）	59.8	40.2	16.1	17.0	19.6	19.6	8.0
	● 波賀（N=109）	57.8	42.2	19.3	17.4	28.4	28.4	4.6
	● 千種（N=109）	53.2	40.4	22.9	30.3	25.7	25.7	2.8
	● 市外・その他（N=12）	58.3	41.7		25.0	25.0	25.0	
	● 不明・無回答（N=8）	50.0	37.5	12.5	25.0	37.5	37.5	
	● 不明・無回答（N=8）	50.0	37.5	12.5	25.0	37.5	37.5	

		その他	学校の統合・再編等について望ましいあり方を考えること	学校や認定こども園の運営・行事に協力し、地域ぐるみの教育をすすめること	出会いを希望する人を応援すること	子育てイベントや交流の場に積極的に参加する（参加を促す）こと	保護者・家族としての役割と責任を自覚し、より良い家庭環境をつくること	地域における相談体制や見守りなど、子どもを地域で育てる意識をもつこと
居住年数別	・5年未満（N=33）	3.0	21.2	21.2	18.2	33.3	42.4	51.5
	・5年～9年（N=26）	15.4	11.5	11.5	15.4	7.7	38.5	26.9
	・10年～19年（N=93）	3.2	23.7	28.0	28.0	18.3	50.5	47.3
	・20年以上（N=665）	3.2	24.4	23.3	19.7	16.2	48.0	59.1
	・その他（N=3）	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3
	・不明・無回答（N=2）						50.0	
住みこころ別	・住みよい（N=134）	2.2	26.9	21.6	24.6	19.4	54.5	61.9
	・まあまあ住みよい（N=322）	3.4	24.2	28.3	20.5	19.9	54.7	60.2
	・どちらともいえない（N=188）	3.2	22.3	20.7	19.7	11.7	37.8	51.6
	・あまり住みよいとは言えない（N=131）	3.1	23.7	19.8	16.8	16.0	40.5	54.2
	・住みにくい（N=43）	11.6	16.3	14.0	23.3	7.0	41.9	34.9
	・不明・無回答（N=4）		25.0	25.0		75.0	25.0	50.0
定住意向別	・できれば住み続けたい（N=398）	3.0	24.6	26.4	23.1	21.1	56.8	61.8
	・市外に転出しても戻ってきたい（N=21）		23.8	9.5	14.3	19.0	42.9	57.1
	・市内の他の場所へ移りたい（N=32）		28.1	37.5	15.6	18.8	59.4	46.9
	・できれば住みたくない（N=83）	6.0	20.5	12.0	24.1	9.6	32.5	42.2
	・自分の意思と関係なく住み続けなければならないと感じる（N=208）	4.3	23.6	24.5	15.9	13.9	39.4	55.8
	・わからない（N=80）	3.8	21.3	15.0	18.8	10.0	36.3	47.5

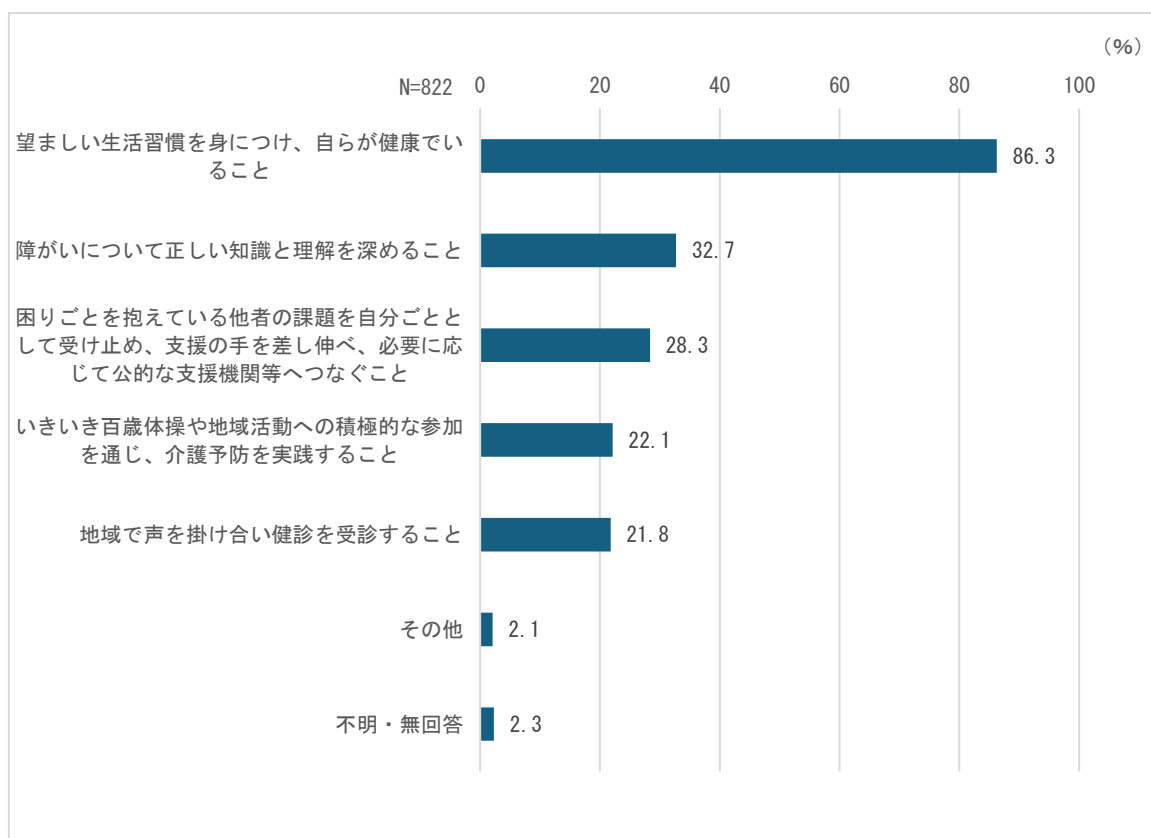
問 27-5：これからのまちづくりに関して、保健・医療・福祉分野において、市民としてあなた自身ができることは何だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

「望ましい生活習慣を身につけ、自らが健康でいること」が 86.3%と最も高く、次いで「障がいについて正しい知識と理解を深めること」が 32.7%、「困りごとを抱えている他者の課題を自分ごととして受け止め、支援の手を差し伸べ、必要に応じて公的な支援機関等へつなぐこと」が 28.3%であった。

「その他」として、

- ・ 健康体操をして元気で自分の足で歩いて行けること
- ・ セルフメディケーション

という意見があった。



性別では、傾向にそれほど大きな違いはなく、「望ましい生活習慣を身につけ、自らが健康でいること」が最も高かった。

年齢別では、18歳～69歳では「障がいについて正しい知識と理解を深めること」が高く、70歳以上では「いきいき百歳体操や地域活動への積極的な参加を通じ、介護予防を実践すること」が高かった。

居住地別では、波賀、千種では「困りごとを抱えている他者の課題を自分ごととして受け止め、支援の手を差し伸べ、必要に応じて公的な支援機関等へつなぐこと」、それ以外では「障がいについて正しい知識と理解を深めること」が高かった。

居住年数別では、10年以上で「障がいについて正しい知識と理解を深めること」がその他よりも高かった。

住みごこち別では、《「住みよい」》では「地域で声を掛け合い健診を受診すること」が、それ以外では「障がいについて正しい知識と理解を深めること」が高かった。

		望ましい生活習慣を身につけ、自らが健康でいること	地域で声を掛け合い検診を受診すること	困りごとを抱えている他者の課題を自分ごととして受け止め、支援の手を差し伸べ、必要に応じて公的な支援機関等へつなぐこと	いきいき百歳体操や地域活動への積極的な参加を通じ、介護予防を実践すること	障がいについて正しい知識と理解を深めること	その他
性別	● 男性 (N=342)	84.8	20.5	31.3	17.5	33.9	3.5
	● 女性 (N=469)	87.8	22.8	26.4	25.4	32.0	1.1
	● わからない (N=2)	100.0			50.0		
	● どちらでもない (N=2)	100.0					
	● 不明・無回答 (N=7)	42.9	28.6	28.6	28.6	42.9	
年齢別	● 18歳・19歳 (N=22)	72.7	13.6	22.7	13.6	40.9	
	● 20～29歳 (N=68)	77.9	11.8	27.9	13.2	30.9	2.9
	● 30～39歳 (N=110)	88.2	14.5	16.4	10.0	30.0	2.7
	● 40～49歳 (N=121)	83.5	14.9	24.0	6.6	30.6	4.1
	● 50～59歳 (N=125)	87.2	20.8	29.6	18.4	32.0	0.8
	● 60～69歳 (N=195)	87.2	21.0	29.7	25.1	35.4	1.5
	● 70～79歳 (N=134)	90.3	41.0	41.0	44.0	36.6	1.5
	● 80歳以上 (N=45)	88.9	26.7	26.7	44.4	24.4	2.2
	● 不明・無回答 (N=2)	100.0					
居住地別	● 山崎西 (N=103)	87.4	15.5	18.4	17.5	29.1	1.0
	● 山崎南 (N=127)	89.0	24.4	29.1	22.0	32.3	2.4
	● 山崎東 (N=133)	85.0	21.1	30.1	22.6	39.1	2.3
	● 一宮南 (N=109)	82.6	17.4	25.7	27.5	31.2	0.9
	● 一宮北 (N=112)	91.1	21.4	25.0	20.5	32.1	3.6
	● 波賀 (N=109)	85.3	23.9	37.6	19.3	34.9	2.8
	● 千種 (N=109)	81.7	30.3	32.1	25.7	27.5	1.8
	● 市外・その他 (N=12)	91.7		25.0	16.7	33.3	
	● 不明・無回答 (N=8)	100.0	25.0	25.0	25.0	50.0	

	望ましい生活習慣を身につけ、自らが健康でいること	地域で声を掛け合い検診を受診すること	困りごとを抱えている他者の課題を自分ごととして受け止め、支援の手を差し伸べ、必要に応じて公的な支援機関等へつなぐこと	いきいき百歳体操や地域活動への積極的な参加を通じ、介護予防を実践すること	障がいについて正しい知識と理解を深めること	その他	
居住年数別	●5年未満（N=33）	81.8	12.1	15.2	12.1	15.2	6.1
	●5年～9年（N=26）	80.8	11.5	15.4	11.5	19.2	11.5
	●10年～19年（N=93）	84.9	18.3	25.8	15.1	44.1	2.2
	●20年以上（N=665）	87.1	23.2	30.1	24.1	32.6	1.5
	●その他（N=3）	66.7	33.3		33.3		
	●不明・無回答（N=2）	50.0				50.0	
住みこころ別	●住みよい（N=134）	89.6	23.1	23.9	36.6	32.1	1.5
	●まあまあ住みよい（N=322）	89.8	23.3	30.7	23.6	32.9	1.6
	●どちらともいえない（N=188）	83.5	17.0	27.7	17.6	33.5	3.2
	●あまり住みよいとは言えない（N=131）	84.7	22.1	28.2	18.7	29.8	1.5
	●住みにくい（N=43）	69.8	23.3	25.6	11.6	32.6	4.7
	●不明・無回答（N=4）	50.0	50.0	50.0	25.0	100.0	
定住意向別	●できれば住み続けたい（N=398）	90.5	26.4	29.6	29.9	32.9	2.0
	●市外に転出しても戻ってきたい（N=21）	66.7	33.3	38.1	14.3	52.4	
	●市内の他の場所へ移りたい（N=32）	87.5	31.3	34.4	3.1	43.8	
	●できれば住みたくない（N=83）	80.7	14.5	20.5	16.9	27.7	3.6
	●自分の意思と関係なく住み続けなければならないと感じる（N=208）	86.1	17.3	28.4	16.3	29.8	2.4
	●わからない（N=80）	76.3	11.3	25.0	18.8	35.0	1.3

問 27-6：これからのまちづくりに関して、生涯学習・文化・スポーツ分野において、市民としてあなた自身ができることは何だと思いますか。

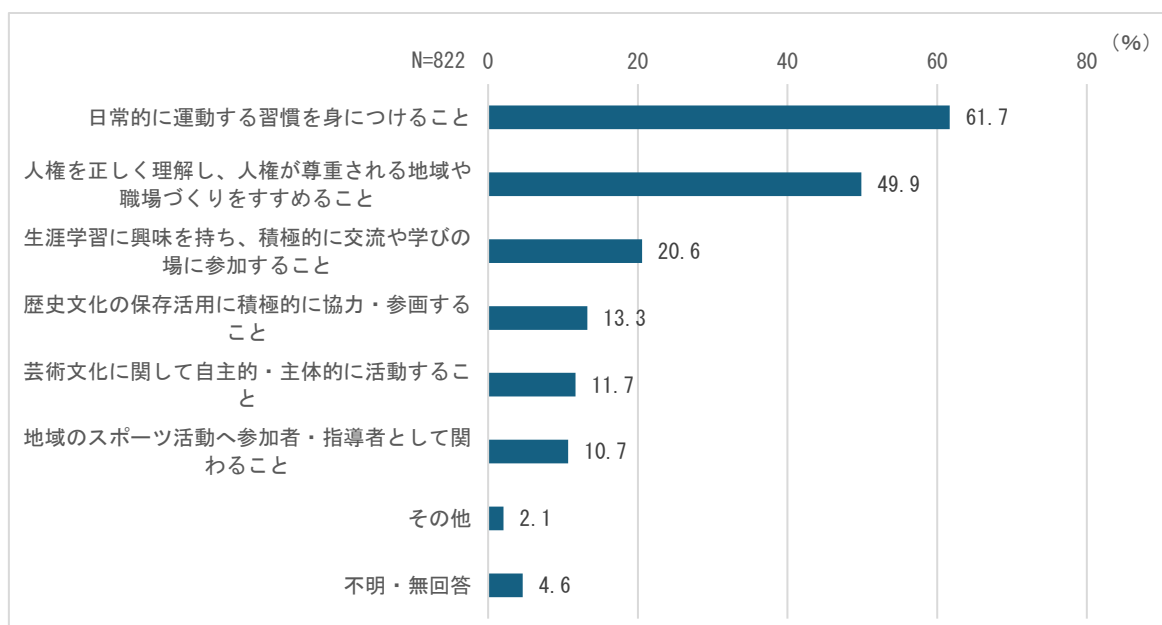
（あてはまるものすべてに○）

「日常的に運動する習慣を身につけること」が 61.7%と最も高く、次いで「人権を正しく理解し、人権が尊重される地域や職場づくりをすすめること」が 49.9%、「生涯学習に興味を持ち、積極的に交流や学びの場に参加すること」が 20.6%であった。

「その他」として、

- ・ ボランティア活動
- ・ 図書館を大切にする

などの意見があった。



年齢別では、18歳・19歳と70歳以上で「生涯学習に興味を持ち、積極的に交流や学びの場に参加すること」が他の年齢よりも高い傾向がみられた。

居住年数別では、居住年数が9年未満より10年以上で「人権を正しく理解し、人権が尊重される地域や職場づくりをすすめること」と「生涯学習に興味を持ち、積極的に交流や学びの場に参加すること」の割合が高くなっていた。

住みごころ別では、「住みよい」「まあまあ住みよい」で「生涯学習に興味を持ち、積極的に交流や学びの場に参加すること」がやや高かった。

定住意向別では、「できれば住み続けたい」「市外に転出しても戻ってきたい」で「生涯学習に興味を持ち、積極的に交流や学びの場に参加すること」の割合が高くなっていた。

		人権を正しく理解し、人権が尊重 される地域や職場づくりをすすめ ること	生涯学習に興味を持ち、積極的 に交流や学びの場に参加すること	地域のスポーツ活動へ参加者・ 指導者として関わること	日常的に運動をする習慣を身に つけること	歴史文化の保存活用に積極的 に協力・参画すること	芸術文化に関して自主的・主体 的に活動すること	その他
性別	● 男性 (N=342)	45.6	20.2	13.2	63.5	19.6	8.8	3.5
	● 女性 (N=469)	53.3	20.7	9.0	60.1	8.3	13.6	0.9
	● わからない (N=2)				100.0	50.0	50.0	
	● どちらでもない (N=2)	50.0			50.0			
	● 不明・無回答 (N=7)	42.9	42.9	14.3	71.4	28.6	14.3	14.3
年齢別	● 18歳・19歳 (N=22)	36.4	27.3	22.7	45.5	13.6	13.6	
	● 20～29歳 (N=68)	41.2	17.6	19.1	60.3	8.8	8.8	1.5
	● 30～39歳 (N=110)	52.7	15.5	15.5	55.5	8.2	9.1	3.6
	● 40～49歳 (N=121)	48.8	11.6	10.7	51.2	11.6	18.2	3.3
	● 50～59歳 (N=125)	60.0	19.2	10.4	62.4	9.6	11.2	0.8
	● 60～69歳 (N=195)	50.8	21.5	7.2	66.2	16.9	13.3	2.1
	● 70～79歳 (N=134)	48.5	29.9	6.7	72.4	18.7	8.2	0.7
	● 80歳以上 (N=45)	40.0	31.1	8.9	60.0	15.6	8.9	4.4
	● 不明・無回答 (N=2)				100.0			
居住地別	● 山崎西 (N=103)	48.5	22.3	8.7	57.3	13.6	13.6	1.9
	● 山崎南 (N=127)	44.9	24.4	9.4	65.4	10.2	8.7	2.4
	● 山崎東 (N=133)	56.4	17.3	12.0	66.2	12.0	14.3	1.5
	● 一宮南 (N=109)	50.5	17.4	15.6	62.4	16.5	9.2	0.9
	● 一宮北 (N=112)	54.5	18.8	8.0	58.9	14.3	14.3	3.6
	● 波賀 (N=109)	48.6	26.6	13.8	52.3	15.6	10.1	2.8
	● 千種 (N=109)	44.0	16.5	8.3	65.1	11.9	11.9	1.8
	● 市外・その他 (N=12)	50.0	25.0	8.3	75.0			
	● 不明・無回答 (N=8)	62.5	25.0		75.0	25.0	25.0	

	日常生活に運動をする習慣を身につけること	地域のスポーツ活動へ参加者・指導者として関わること	生涯学習に興味を持ち、積極的に交流や学びの場に参加すること	人権を正しく理解し、人権が尊重される地域や職場づくりをすすめること	その他	芸術文化に関して自主的・主体的に活動すること	歴史文化の保存活用積極的に協力・参画すること	日常生活に運動をする習慣を身につけること
居住年数別								
●5年未満 (N=33)	27.3	15.2	12.1	63.6	9.1	6.1	3.0	
●5年～9年 (N=26)	42.3	15.4	11.5	50.0		3.8	7.7	
●10年～19年 (N=93)	51.6	23.7	18.3	52.7	12.9	18.3	1.1	
●20年以上 (N=665)	51.4	20.6	9.6	63.2	14.1	11.4	1.8	
●その他 (N=3)		33.3		66.7			33.3	
●不明・無回答 (N=2)				100.0				
住みこころ別								
●住みよい (N=134)	48.5	28.4	16.4	57.5	11.2	11.9	0.7	
●まあまあ住みよい (N=322)	55.3	22.4	10.6	65.2	17.4	12.4	1.9	
●どちらともいえない (N=188)	44.1	16.5	8.0	60.6	10.1	12.2	2.1	
●あまり住みよいとは言えない (N=131)	49.6	14.5	10.7	56.5	10.7	11.5	2.3	
●住みにくい (N=43)	41.9	14.0	7.0	69.8	9.3	2.3	7.0	
●不明・無回答 (N=4)	25.0	75.0		50.0	25.0	25.0		
定住意向別								
●できれば住み続けたい (N=398)	53.3	23.6	13.6	63.8	16.6	11.3	2.3	
●市外に転出しても戻ってきたい (N=21)	52.4	28.6	19.0	33.3	19.0	14.3		
●市内の他の場所へ移りたい (N=32)	56.3	12.5	12.5	62.5	9.4	12.5		
●できれば住みたくない (N=83)	44.6	12.0	7.2	63.9	8.4	15.7	3.6	
●自分の意思と関係なく住み続けなければならないと感じる (N=208)	47.1	19.7	7.7	64.4	11.1	10.6	1.9	
●わからない (N=80)	42.5	17.5	5.0	48.8	7.5	11.3	1.3	

(5) 自由記述について

問 28：その他、宍粟市がこんなまちであってほしいという思いなどを、ご自由にお書きください。

自由記述について、回答の要旨に基づき分類・整理した結果は以下の通りである。

「基本施策 3 商工業の振興」に関する内容が 71 件と最も多く、次いで「基本施策 9 生活圏の拠点づくりの推進」に関する内容が 62 件となった。

基本方針	基本施策	件数
基本方針 1 魅力と活力あふれる地域産業を育むまちづくり	基本施策 1 林業の振興	10
	基本施策 2 農業の振興	18
	基本施策 3 商工業の振興	71
	基本施策 4 観光の振興	29
基本方針 2 環境にやさしく快適に暮らせるまちづくり	基本施策 5 森林・田園・まち並み景観の保全	55
	基本施策 6 資源循環型社会の構築	6
	基本施策 7 住環境整備、土地利用の推進	23
	基本施策 8 道路網・上下水道の整備・維持	57
基本方針 3 定住魅力の高いまちづくり	基本施策 9 生活圏の拠点づくりの推進	62
	基本施策 10 移住・定住促進の充実	56
基本方針 4 安全で安心なまちづくり	基本施策 11 防災体制の充実	7
	基本施策 12 消防・救急体制の充実	3
	基本施策 13 防犯・交通安全の推進	5
	基本施策 14 消費者行政の推進	0
基本方針 5 子どもが健やかに育つまちづくり	基本施策 15 子育て支援の充実	60
	基本施策 16 就学前教育の充実	20
	基本施策 17 学校教育の充実	9
	基本施策 18 青少年健全育成の推進	3
基本方針 6 保健・医療・福祉が連携した安心のまちづくり	基本施策 19 健康づくりの推進	1
	基本施策 20 地域医療の充実	40
	基本施策 21 地域福祉の充実	36
	基本施策 21-1 高齢者福祉の充実	
	基本施策 21-2 障がい福祉の充実	
	基本施策 22 社会保障の充実	29
基本方針 7 心豊かにいきいきと学べるまちづくり	基本施策 23 生涯学習の推進	5
	基本施策 24 文化・芸術活動の推進	7
	基本施策 25 スポーツ活動の推進	8
	基本施策 26 人権教育・啓発の推進	1

【主な意見等】

基本方針1 魅力と活力あふれる地域産業を育むまちづくり	【基本施策1 林業の振興】 ・木材、建材メーカーの誘致や農業企業の誘致と支援等の施策を考えてみてはどうでしょうか。インターネットを最大限に利用すれば費用はあまり掛かりません。 ・農林業への参入しやすい仕組みづくりが必要に感じる。 【基本施策2 農業の振興】 ・獣害がひどい。せっかく自然豊かな町で農業（家庭菜園）でもしてみたいと思っても獣害対策にすごくお金がかかります。所有権の問題もあるでしょうが、せめて耕作放棄地の草刈りをして山から害獣が出にくい環境にし、田畑が広がる（米や野菜を自由に作ることができる）まちにしてほしい。 ・家の窓から外を見ても30～40年前は、どの田にも作付けがしてあり心豊かな風景であったが、今は高齢化が進み荒れ放題の農地が広がっている。 【基本施策3 商工業の振興】 ・若い世代が働きたいと思える企業誘致。 ・大型アウトレット等誘致をすることで、成功したときに自然とその周りから地域の発展、地域経済の活性化、観光業の進展と、たくさんの効果が現れる思う。 【基本施策4 観光の振興】 ・宍粟市は自然に満ち溢れた地域である。社会では休日は自然に足を運んでリフレッシュする機会が増えているため、そのニーズと供給が成立する、宍粟市の自然を活かしたレジャーを展開してみる。 ・グランピング、キャンプ場などが増えてきているので、川遊びの場所、きれいな水を活かして水上アスレチック等、子ども、大人と一緒に遊べるスポットが出来たらいいなと思います。
基本方針2 環境にやさしく快適に暮らせるまちづくり	【基本施策5 森林・田園・まち並み景観の保全】 ・生まれ育った宍粟市がいつまでも自然豊かな町であってほしいと願っています。 ・耕作放棄地や荒れた山林や竹林の対策をもっとすすめるべきだと思います。 【基本施策6 資源循環型社会の構築】 ・ゴミの回収頻度を増やしてほしい。衛生的にもよくないと感じている。 ・ゴミの回収が週1回は少なすぎる。 【基本施策7 住環境整備、土地利用の推進】 ・空き地が多い。企業誘致したり、市外の人々が来やすい施策に期待する。 ・地域の仕事である草刈り等の仕事を減らしてほしい。クリーン作戦も地域のためとはいえほとんど同じ顔ぶれで出席しない人が多い。ボランティアに頼り過ぎないでほしい。 【基本施策8 道路網・上下水道の整備・維持】 ・電車の開通、交通網の不便さからも過疎化が進行したように感じている。交通の不便が解消されたらもう少し定住者が増えるのではないかな。 ・水のきれいさを売りにしているのに市民に対する水道料金が高すぎる。

基本方針3 定住魅力の高いまちづくり	【基本施策9 生活圏の拠点づくりの推進】 ・宍粟市北部に住んでいる為、日々の買い物がとても不便です。年を取ると買い物にも行けなくなると思うのもっと近くにお店がほしいと思います。 ・バスの本数が少なく交通の便に困っている。 【基本施策10 移住・定住促進の充実】 ・移住者が「こんなはずはなかった」と思われるような、住みにくいまちになってほしくないと思います。若い方が帰ってこられて、地域の行事が多いので驚かれています。田舎はのんびりできると思っていたのですが、付き合い事が忙しいので驚かれました。いろんな付き合いも大事だと思いますが、休みの日はゆっくりできるようにしてもらいたいと言われてました。 ・高校卒業後の進路として就職先が少なく、近隣に大学などもないため市外に出る事が多いです。進路の選択肢が増えなければ就職したり、所帯をもつなど宍粟市へ帰る人が減ります。働きたくなる職場が増えること、若者が帰ってきたくなるようなまちになればと思います。若者の出会いの場がないのも気になります
基本方針4 安全で安心なまちづくり	【基本施策11 防災体制の充実】 ・災害時の避難所を確保し、避難所に行けるようにインフラを作ってください。 ・近年の異常気象に一日も早く対応してほしい。河川など危ないと思う所がたくさんあると思う。 【基本施策12 消防・救急体制の充実】 ・消防団活動においては昨今の団員不足で統廃合が検討されているが、自治会内での消防団の役割は大きい。また、統廃合により退団する団員も多くなるとそれこそ存続が危ぶまれる。この辺りは慎重に検討していただきたい。 ・総合病院はドクターヘリや脳外科、心臓外科等の救急受け入れ可能な施設にしてほしい。 【基本施策13 防犯・交通安全の推進】 ・宍粟警察の方達に町を守っていただき生活の中で安心感を与えていただき感謝です。 ・空き家にたくさんの人に入って頂き、地域で見守りゴーストタウンにならぬ様にして頂きたい。 【基本施策14 消費者行政の推進】 (なし)
基本方針5 子どもが健やかに育つまちづくり	【基本施策15 子育て支援の充実】 ・今の宍粟市では子育てしながら働くには厳しいと感じている。 ・令和6年7月号の広報の新病院の図を見たが、子育て世帯にとって残念な内容だと思った。病児保育の取りやめは宍粟市の子育て世代を不安にさせると思う。 【基本施策16 就学前教育の充実】 ・子ども（児童、幼児）が遊べる施設及び川遊びを含めて自然に親しめる設備の充実。 【基本施策17 学校教育の充実】 ・インターネットを使って、都市部との教育格差を無くすことは、そんなに費用がかからず、実現可能ではないかと考えます。教育に力を入れている地域は、子育て世代には魅力的だと思います。 ・子どもの教育に重点をおくことが大事だと思います。地域社会を大切にする教育とアカデミックな教育、子どもが元気に育つまちになってほしいと思う。 【基本施策18 青少年健全育成の推進】 ・子ども達のいじめをみたり聞いたりすると陰湿になっていると感じます。親の接し方にも問題があると思います。誰もが仲良く助け合っていければと思います。 ・イジメ、不登校で困らない仕組みを作り教師の負担を緩和してあげてください。
基本方針6 保健・医療・福祉が連携した安心のまちづくり	【基本施策19 健康づくりの推進】 ・市民の健康寿命の増進を、うまく啓蒙してほしい。 【基本施策20 地域医療の充実】 ・救急車で運ばれた病院で、ここでは処置が困難との理由で姫路の病院に転院を提案されるなど、助かる可能性があっても助からない。地域医療事情が原因で、悲しい思いをしたくありません。建設予定の総合病院には期待しています。

	・私は3度大病を患いまして、全て総合病院で命を救って頂きました。この事は、ドクターを始めスタッフの皆様のおかげと感謝しております。持病を抱える私としては、一日も早い新築移転を望みます。そして、新しい病院には市民だけでなく、市外からも私と同じ悩みを持たれる人々が来院される、病院になって欲しいと願います。 【基本施策 21 地域福祉の充実】 ・近隣を見まわすと灯が1つ1つ消え、高齢化が進み、隣保単位が守れなくなっているのが現状です。「住み続けられるまち」がんばって下さい。 ・高齢者と若者がお互いに協力し、心豊かに、安心できる町づくりをお願いします。 【基本施策 21-1 高齢者福祉の充実】 ・病院に通っていますが、バス、タクシーを利用しています。一度、外出支援に行きタクシー券を申請しましたが非該当とそっけない返事でダメでした。年金生活には、月に二度の病院通いの金額はこたえます。 ・年を重ねるにつれ不便になっていくと感じています。デジタル化にも取り残されて、若い人が出来ることでもできない状況です。自治会内で用事（買い物、各種の手続き、健康づくり等）ができれば安心して過ごせると思います。 【基本施策 21-2 障がい福祉の充実】 ・老人、障がい者にもっと明るい未来を望む。障がい者となって地元の医療を受けたかったが、入院できなく、やむなくたつの市の病院へ入院した。今後の福祉医療に心配が残る。 【基本施策 22 社会保障の充実】 ・子育てや老人に対して支援はあるが、シングルマザーに対しての支援が手厚くないという理由で、私のまわりのシングルマザーの友達は市外に出ており、もっと手厚い支援のある所へ引っ越す人が多い。老人ばかりに目が行き過ぎているように思う。 ・女性一人生活者に少しでも優しく住みやすい、何らかの支援を切実に考えてほしい。
基本方針7 心豊かにいきいきと学べるまちづくり	【基本施策 23 生涯学習の推進】 ・市立図書館を建て替えて、充実した蔵書とともに、社会教育・生涯学習の拠点としてほしいです。魅力のある図書館には市外・県外からも利用があります。 ・大きな図書館がほしい。 【基本施策 24 文化・芸術活動の推進】 ・旧4町の独立文化は、それはそれで面白いので残ったまま残してほしい。 ・かえで学園等の各種行事や催し物等があっても交通手段が乏しく、年寄りでも気がるに参加出来る様に考えてもらいたい。お知らせ等も、現在のものは読みにくいので、わかりやすいやさしいデザインにしてほしい。 【基本施策 25 スポーツ活動の推進】 ・市内に野球場とテニスコートはありますが、人工芝等のサッカーコートはありません。スポーツ活動の推進の面でも、色々なスポーツが行えるように、環境を整えて頂きたいと思います。 ・山崎スポーツセンターはバスケのコートの規格がとれません。リングは何年もこわれたままです。直してほしいです。 【基本施策 26 人権教育・啓発の推進】 ・パワハラなどが市内企業、働く場から消えるように啓発してほしい。

注：可能な限り原文を記載したが、一部誤字・脱字、文章の修正を行った。

第2章 アンケート調査（中高生）

1 調査の目的

宍粟市では、現行の第2次宍粟市総合計画後期基本計画及び第2次宍粟市地域創生総合戦略が令和8年度に計画期間の満了を迎える。このことから、第3次宍粟市総合計画前期基本計画及び第3次地域創生総合戦略となる10年間のまちづくりの基本的な理念を示す基本構想、5年間の施策の方向性を示す基本計画及び地域創生を達成するための総合戦略を策定するにあたり、中学生・高校生が未来の宍粟市をどのようなまちにしていきたいか、今後のまちづくりに向けた思いやアイデアを活用するために本調査を実施した。

2 調査設計

項目	内容
調査地域	宍粟市全域
調査対象者	中学生・高校生・・・505人 市内に通学している中学2年生、高校2年生全員
調査時期	令和6年10月
調査方法	1. 学校を通じた配布 2. インターネットによる回答フォーム入力方式

3 回収状況

配布数	有効回収数	有効回収率
505部	435部	86.1%

4 報告書の見方

- ・ 回答の結果の割合「%」は、小数点以下第2位で四捨五入したものである。このため、合計値が100.0%にならない場合がある。
- ・ 複数回答形式（2つ以上の選択肢を選ぶ形式）の場合、合計は100.0%を超える。
- ・ 図表中の「不明・無回答」とは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものである。
- ・ 図表中の「N」（サンプル数）は、有効標本数（集計対象者総数）あるいは分類別の該当対象者数を示す。
- ・ 本文中の設問の選択肢について、文字数が多いものは簡略化している場合がある。

5 結果（概要）

（１） 回答者自身について

高校生回答者の居住地域は、29.4%が「市外・その他」であった。

性別は、「男性」が 50.8%、「女性」が 46.7%、「わからない」が 2.1%、「どちらでもない」が 0.5%であった。

（１－１） 定住意向に関すること

市内在住の中学生・高校生では、「できれば住みたい（住み続けたい）」は 6.4%、「宍粟市以外にも住んでみたいが、いつかは戻ってきたい」は 51.3%であり、6 割近くが宍粟市に住み続けたいと考えている。「できれば住みたくない」は 23.3%、「自分の意思と関係なく住み続けなければならないと感じる」は 0.3%、「わからない」は 18.7%であった。

【住みたい理由・住みたくない理由】

《できれば住みたい（住み続けたい）》《宍粟市以外にも住んでみたいが、いつかは戻ってきたい》と答えた人の宍粟市に住みたいと思う理由は、「宍粟市に愛着があるから」が 40.8%と最も高く、ついで「自然やまちの風景が美しいから」が 30.2%、「水や空気、食べ物が美味しいから」が 27.4%であった。

《住みたくない》と思う理由は、「道路網や路線バスが不便だから」が 57.1%と最も高く、次いで「希望の進学先や就職先に自宅から通えないから」が 41.8%、「家族から自立したいから（一人暮らしがしたいから）」が 35.2%であった。

【卒業後の進路】

中学生では「市内の高校」が 40.8%と最も多く、「市外の高校（県内）」が 26.6%、「県外の高校」が 3.9%であった。「就職」は 0.7%（2 名）で希望する就職先は「市外」であった。

高校生では「大学・短大進学」が 41.2%と最も多く、次いで「就職」が 37.3%、「専門学校進学」が 20.9%であった。

【家族の意向】

市内在住の中学生・高校生では、「住み続けなくてもいいと思っているだろう」が最も高く、次いで「市外に出てもいつかは戻ってきて欲しいと思っているだろう」であった。

(2) これからのまちづくり等について

【若い人が宍粟市に住み続けたり、一度離れても戻ってきたいと思えるまちにするために必要なこと】

「路線バスや道路が便利になること」が 57.0%で最も高く、次いで「飲食店や遊べる場所など、若い人が集まれる場所が増えること」が 55.2%、「働きたいと思える企業が増えること」が 23.0%であった。

市内在住者では、《できれば住みたい（住み続けたい）》《宍粟市以外にも住んでみたいが、いつかは戻ってきたい》では「飲食店や遊べる場所など、若い人が集まれる場所が増えること」が最も高かった。一方、《できれば住みたくない》では、「路線バスや道路が便利になること」が最も高かった。

市外在住者では、《いつか宍粟市に住んでみたい》では「飲食店や遊べる場所」が、《住みたくはない》《わからない》では「路線バスや道路が便利になること」が最も高かった。

【将来の宍粟市に不安を感じていること】

「少子高齢化が進行すること」が 47.1%と最も高く、次いで「地域に人が少なくなること」が 43.0%、「バスなど公共交通が不便になること」が 24.4%であった。

学校別では、波賀中学校、千種中学校、伊和高校、千種高校では「地域に人が少なくなること」が最も高く、それ以外の学校では「少子高齢化が進行すること」が最も高かった。

【木育について】

宍粟市が木育に取り組んでいることを「よく知っている」は 7.4%、「まあまあ知っている」は 21.4%であった。

学校別では『知っている』（「よく知っている」「まあまあ知っている」）の割合が高いのは一宮南中学校（48.6%）、山崎南中学校（32.7%）であった。

【風景ビジョンについて】

宍粟市が策定した「風景ビジョン」を「知っている」と答えた人はわずか 4.8%であった。

【これからのまちづくりであなた自身ができること（やってみたいこと）】

「ごみを正しく分別し、ポイ捨てをしないこと」が 49.7%で最も高く、次いで「自転車・自動車の交通マナーを守ること」が 34.7%、「災害に備えた防災意識を高めること」が 18.9%であった。

学校別では、どの学校も「ごみを正しく分別し、ポイ捨てをしないこと」「自転車・自動車の交通マナーを守ること」の割合が高かった。

このほか、学校別に回答割合が高かったのは、

「市長や議員へまちづくりのアイデアを提案すること」：山崎西中学校、千種高校

「地域のスポーツ活動・芸術文化・歴史に興味を持ち関わること」：波賀中学校

一宮南中学校

「災害に備えた防災意識を高めること」：山崎南中学校、山崎東中学校、一宮北中学校

「地域のボランティア活動に参加すること」：山崎西中学校、千種中学校、山崎高校、
伊和高校

であった。

(3) 自由記述について

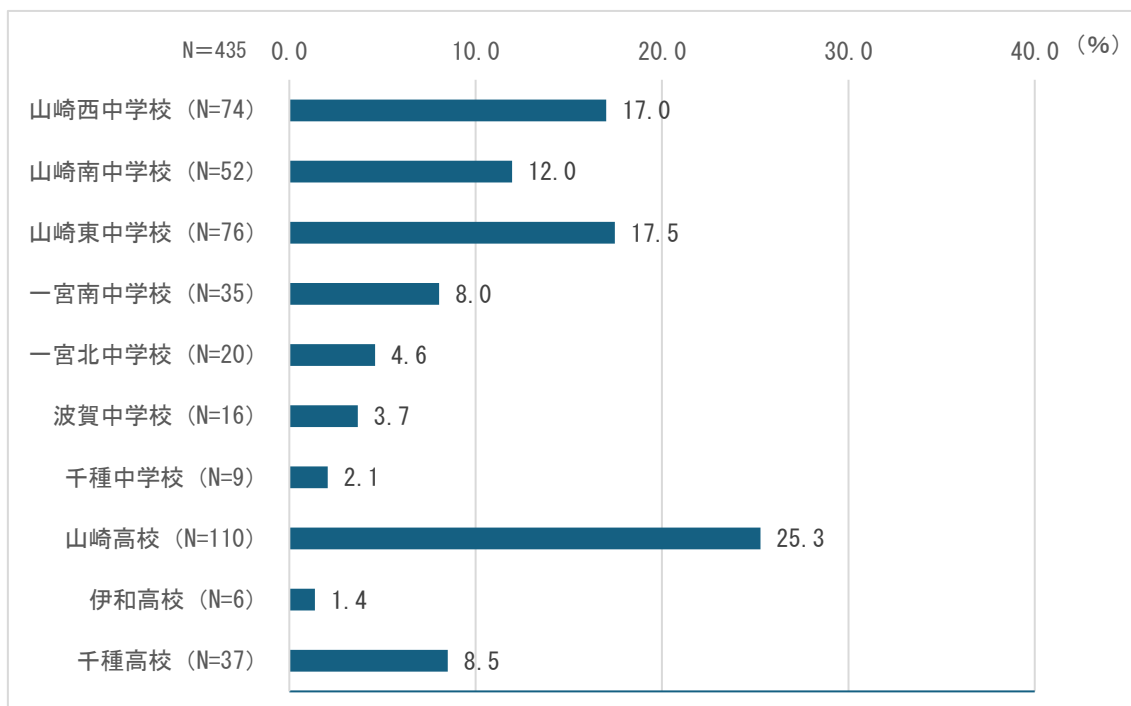
「生活圏の拠点づくりの推進」に関する内容が 72 件と最も多く、次いで「商工業の振興」に関する内容が 45 件であった。

6 結果（詳細）

（１） 回答者自身について

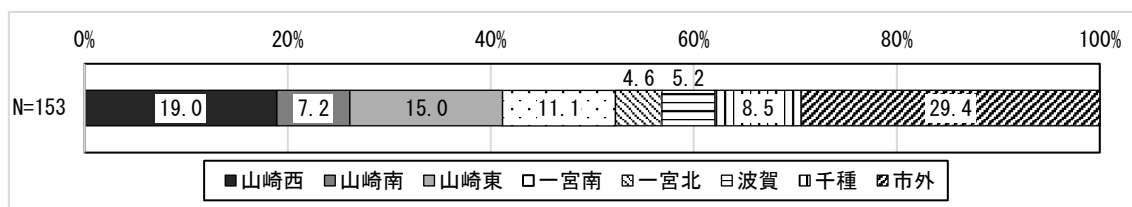
問１：あなたの通っている学校をお答えください。（１つ選択）

回答者の通っている学校は、「山崎高校」が 25.3%と最も多く、次いで「山崎東中学校」が 17.5%、「山崎西中学校」が 17.0%となっている。



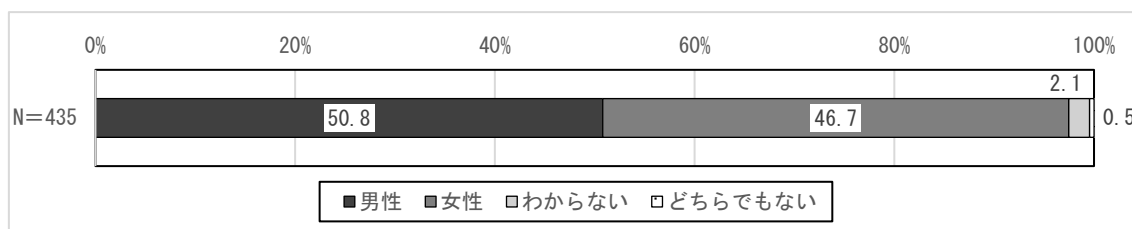
問 1－1：高校生の方にお聞きします。あなたの住んでいる地域をお答えください。
（1つ選択）

回答者の居住地域は、「市外」からの通学者が 29.4%であった。



問 2：あなたの性別（心の性）をお答えください。（1つ選択）

回答者の性別は、「男性」が 50.8%、「女性」が 46.7%、「わからない」が 2.1%、「どちらでもない」が 0.5%となっていた。



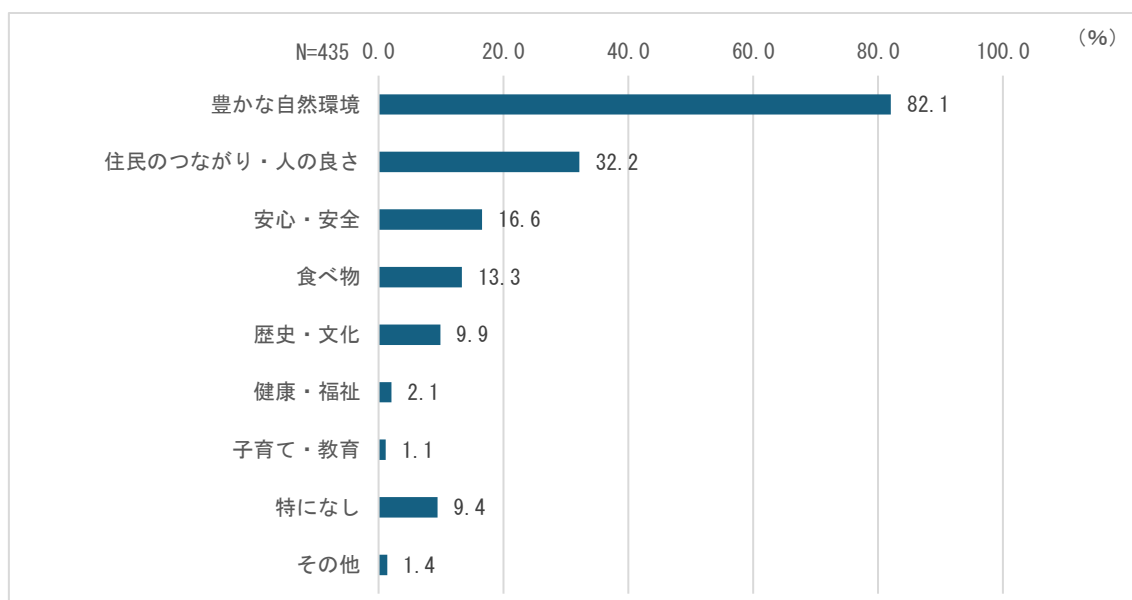
問3：宍粟市のよいところ（あなたが人に自慢できるところ）はどんなところですか。
（2つまで選択）

「豊かな自然環境」と答えた人が 82.1%と最も多く、大多数の人が宍粟市の豊かな自然環境が宍粟市のよいところ（自慢できるところ）だと感じていることがわかった。次いで「住民のつながり・人の良さ」が 32.2%、「安心・安全」が 13.3%であった。

「その他」として、

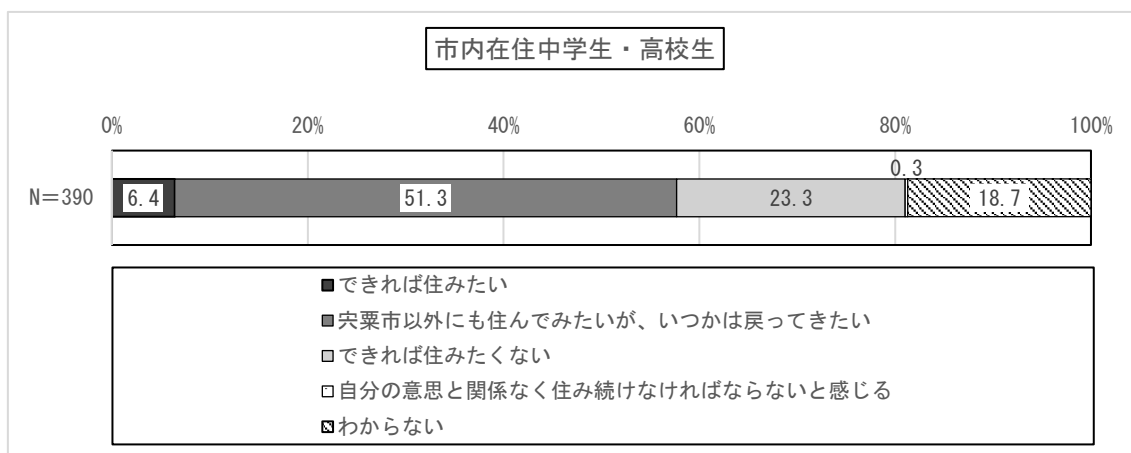
- ・ 静かで落ち着くところ
- ・ 高齢者と仲がいいところ

などの意見があった。

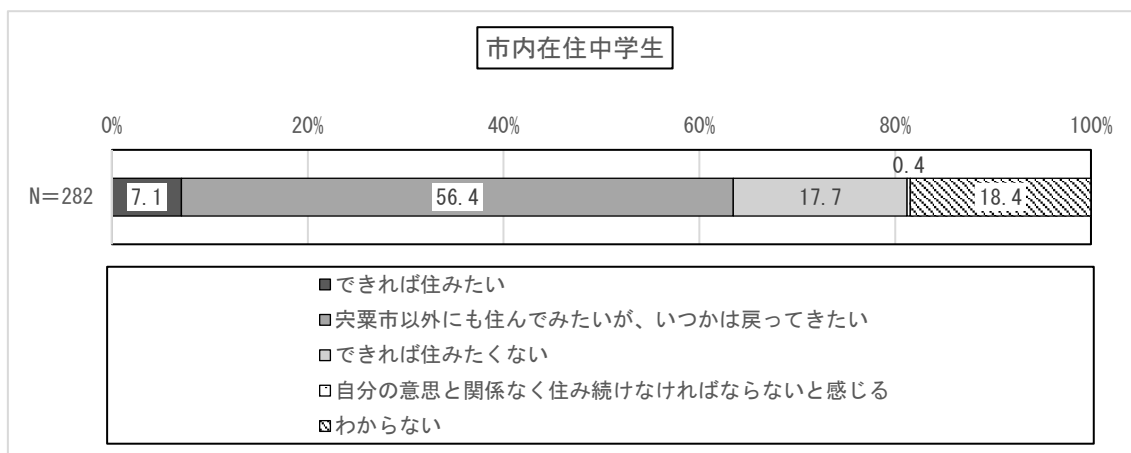


問4：あなたは中学や高校を卒業した後、宍粟市に住みたいと思いますか。（1つ選択）

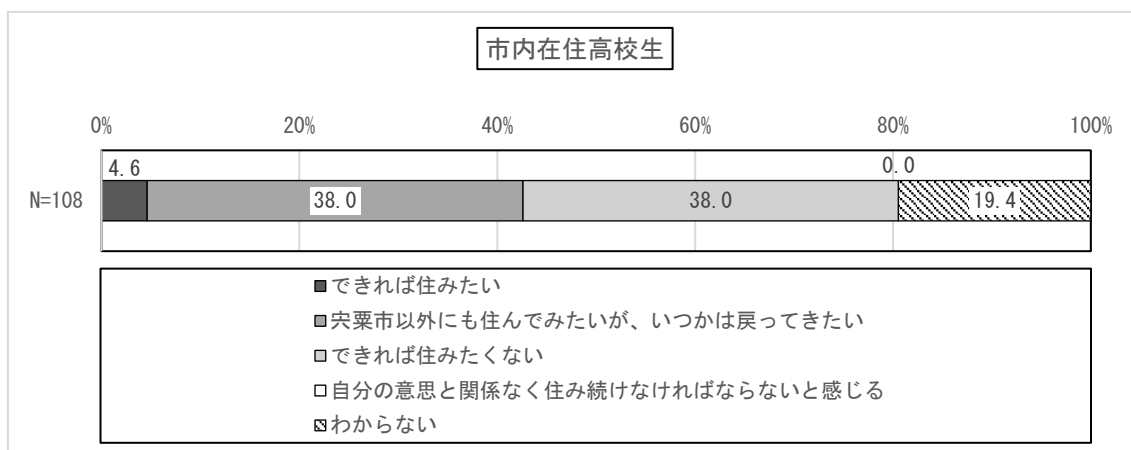
市内在住の中学生・高校生では、「できれば住みたい（住み続けたい）」は6.4%、「宍粟市以外にも住んでみたいが、いつかは戻ってきたい」は51.3%であり、6割近くが宍粟市に住みたいと考えている。「できれば住みたくない」は23.3%、「自分の意思と関係なく住み続けなければならないと感じる」は0.3%、「わからない」は18.7%であった。



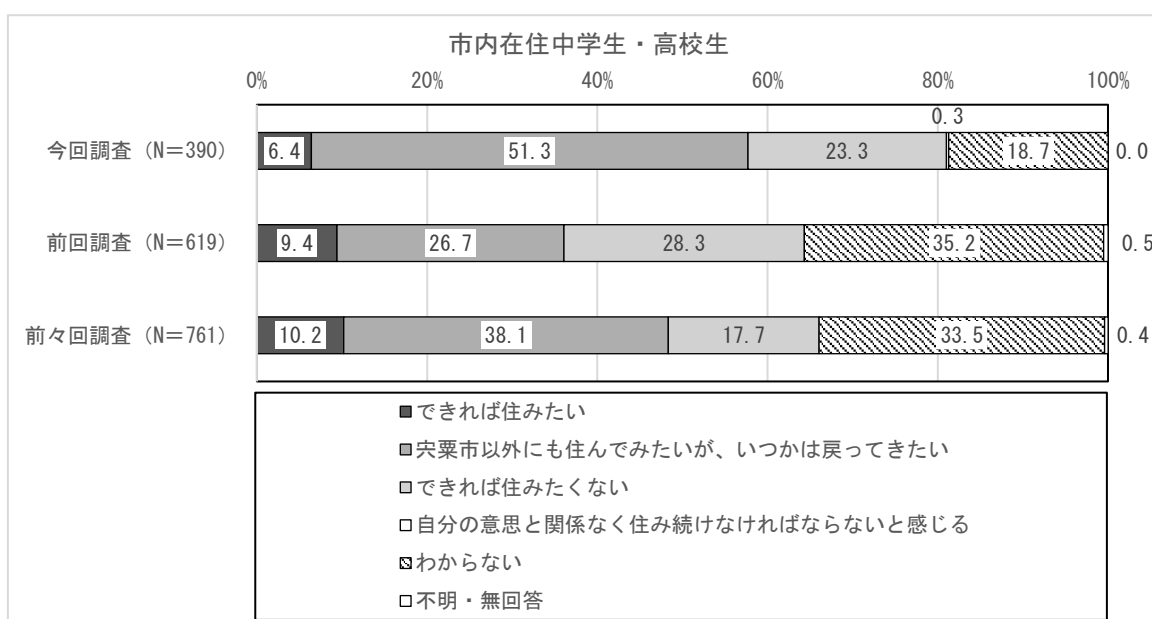
市内在住の中学生では、「できれば住みたい（住み続けたい）」は7.1%、「宍粟市以外にも住んでみたいが、いつかは戻ってきたい」は56.4%、「できれば住みたくない」は17.7%であった。



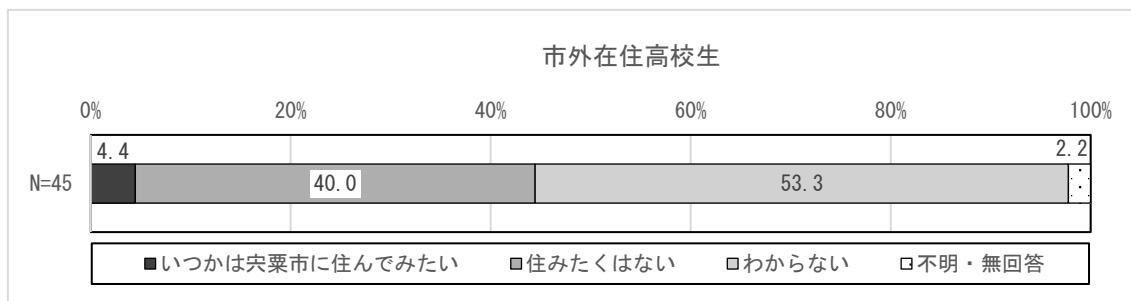
市内在住高校生では、「できれば住みたい」が4.6%、「宍粟市以外にも住んでみたいが、いつかは戻ってきたい」が38.0%であり、市内在住中学生よりも低かった。「できれば住みたくない」が38.0%であり、中学生より高かった。「わからない」は中学生とあまり変わらなかった。



前回・前々回調査と比較すると、「できれば住みたい」「宍粟市以外にも住んでみたいが、いつかは戻ってきたい」が前回調査よりも21.6%増加していた。「できれば住みたくない」は前回調査とあまり変わらなかった。



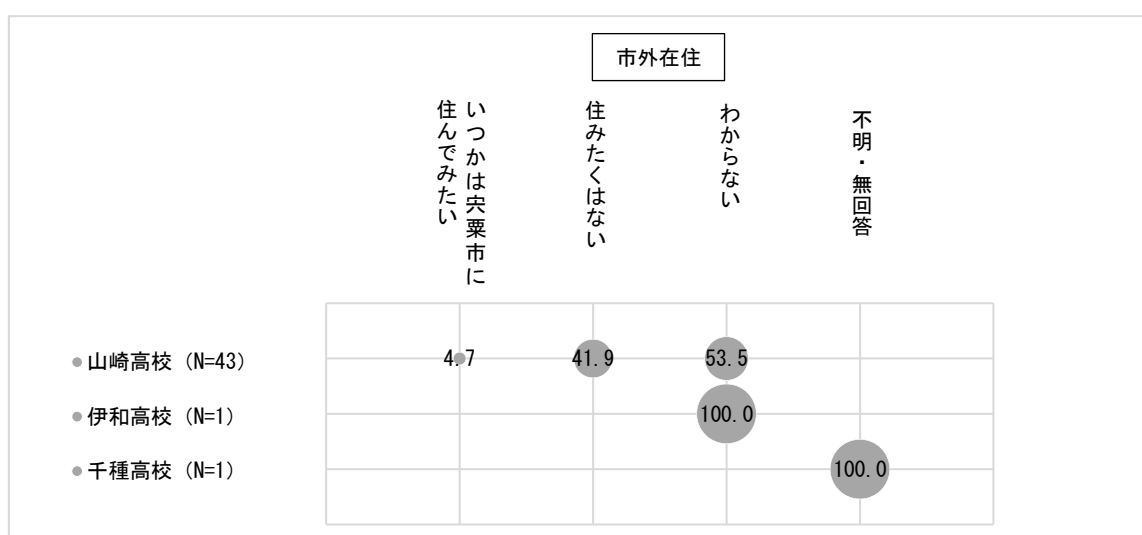
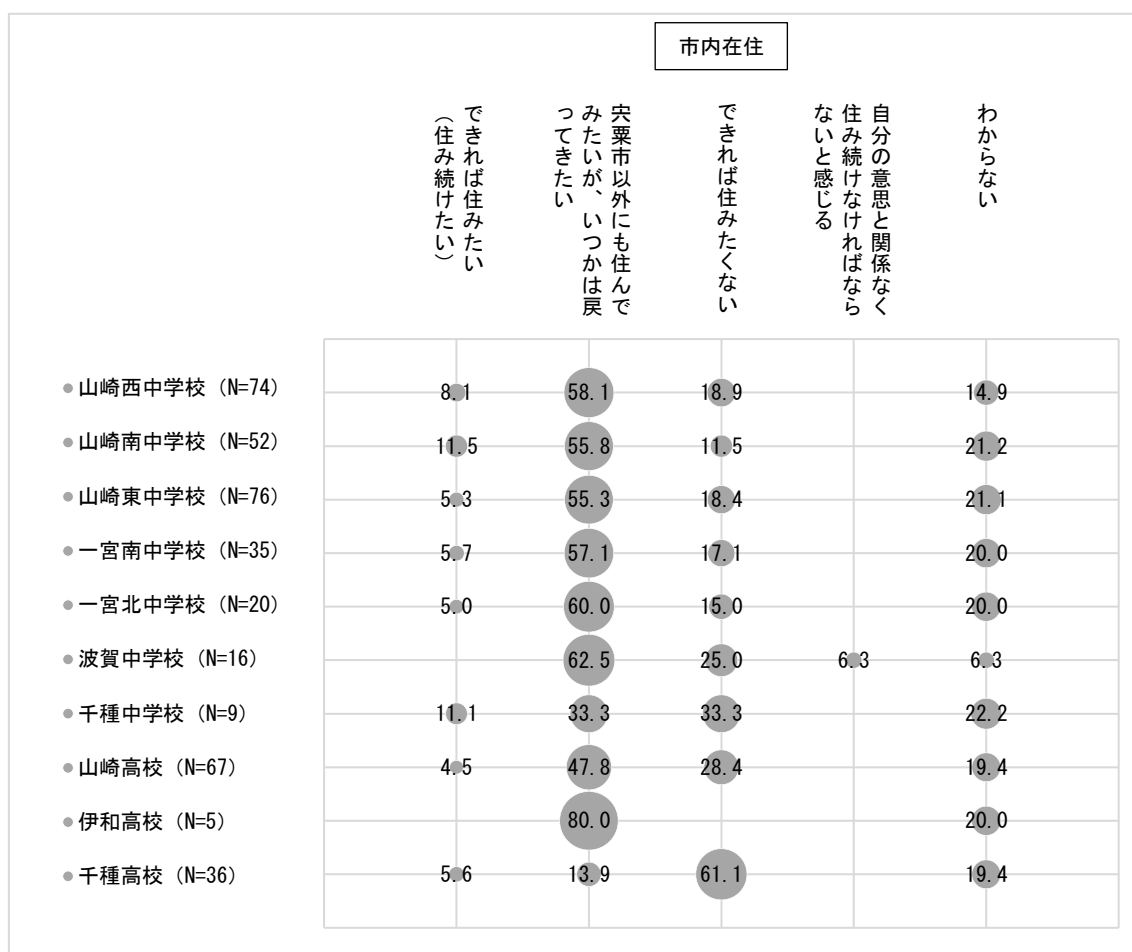
市外在住高校生では「わからない」が 53.3%と最も多く、次いで「住みたくはない」が 40.0%、「いつかは宍粟市に住んでみたい」は 4.4%であった。

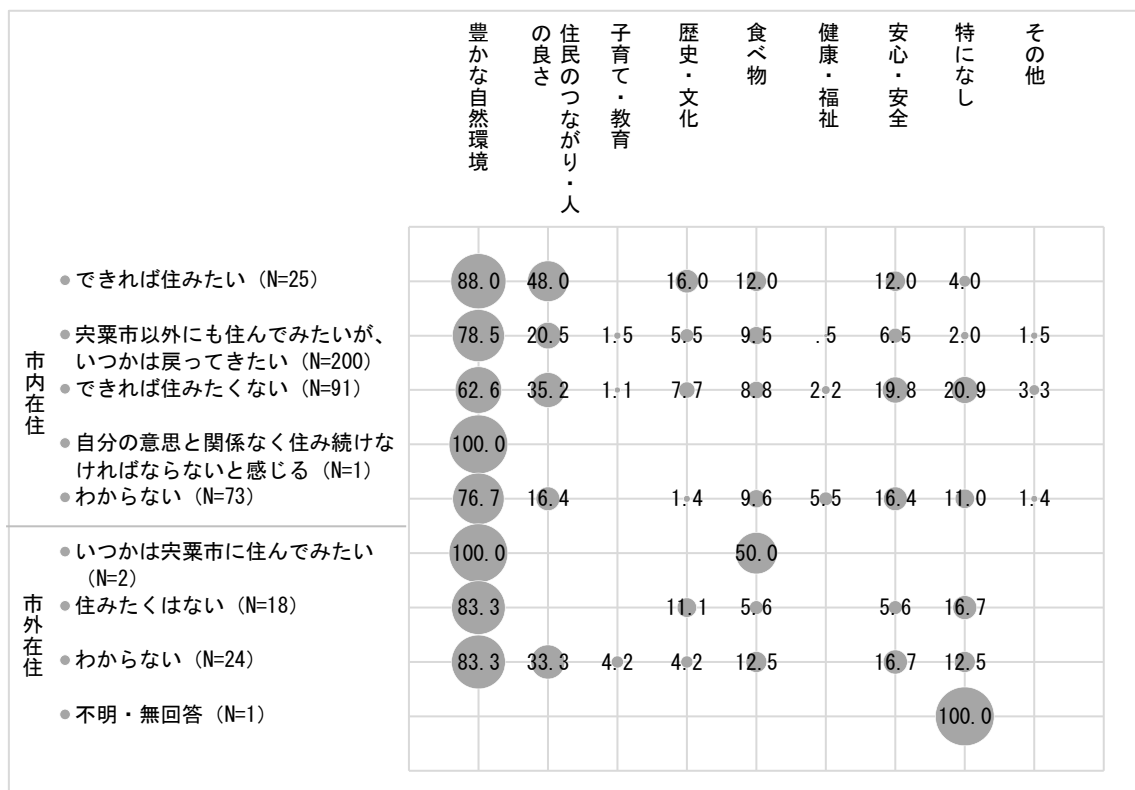


学校別では、市内在住者では 10 校中 8 校で「宍粟市以外にも住んでみたいがいつかは戻ってきたい」が多かったが、千種中学校と千種高校では「できれば住みたくない」の割合がそれぞれ 33.3%、61%と高かった。

市外在住者では、「わからない」が 53.5%と最も高く、次いで「住みたくはない」が 41.9%であった。

定住意向と宍粟市のよいところとの関係性では、どの定住意向の人も「豊かな自然環境」や「住民のつながり・人の良さ」を挙げる人が多かった。





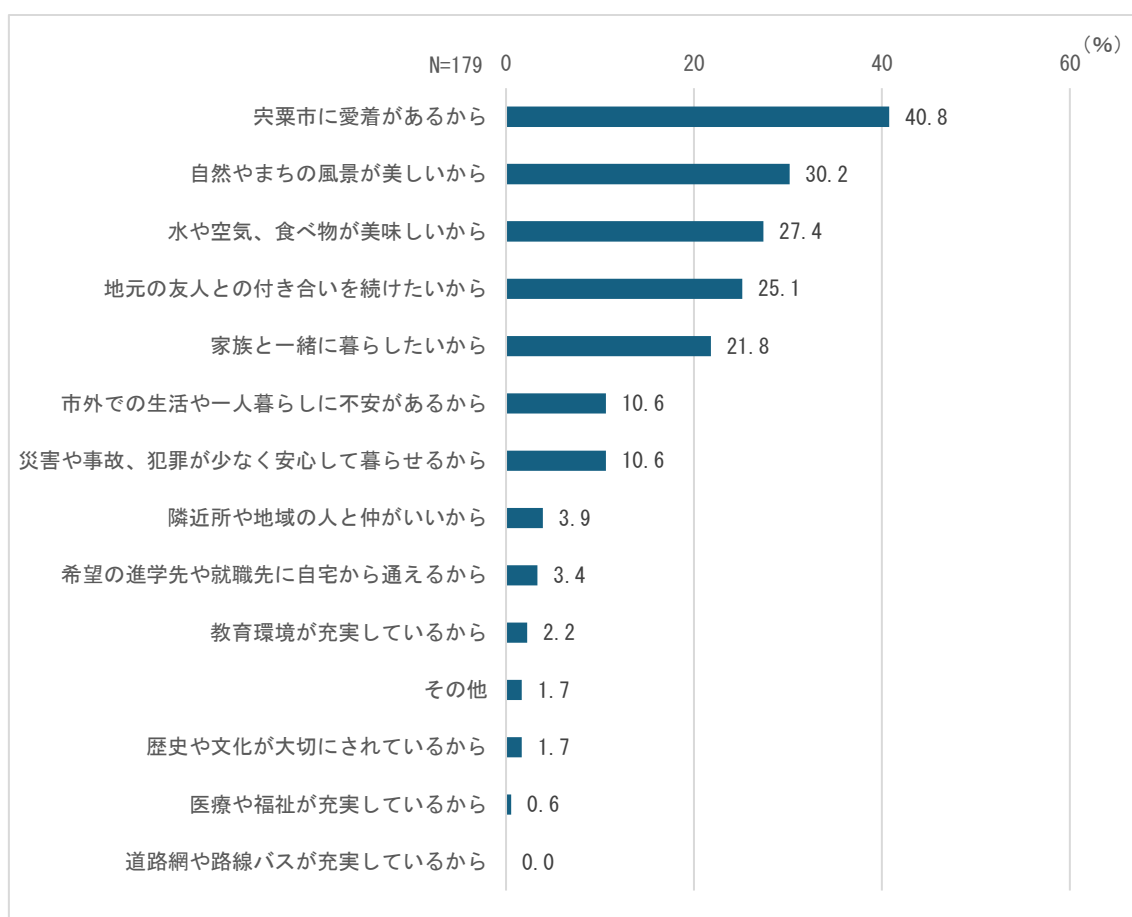
問４－１：問４で、「できれば住みたい」「いつかは戻ってきたい」と答えた方にお聞きします。あなたが、宍粟市に住みたいと思う理由は何ですか。
（あてはまるものを２つまで選択）

「宍粟市に愛着があるから」が 40.8%と最も高く、次いで「自然やまちの風景が美しいから」が 30.2%、「水や空気、食べ物が美味しいから」が 27.4%であった。

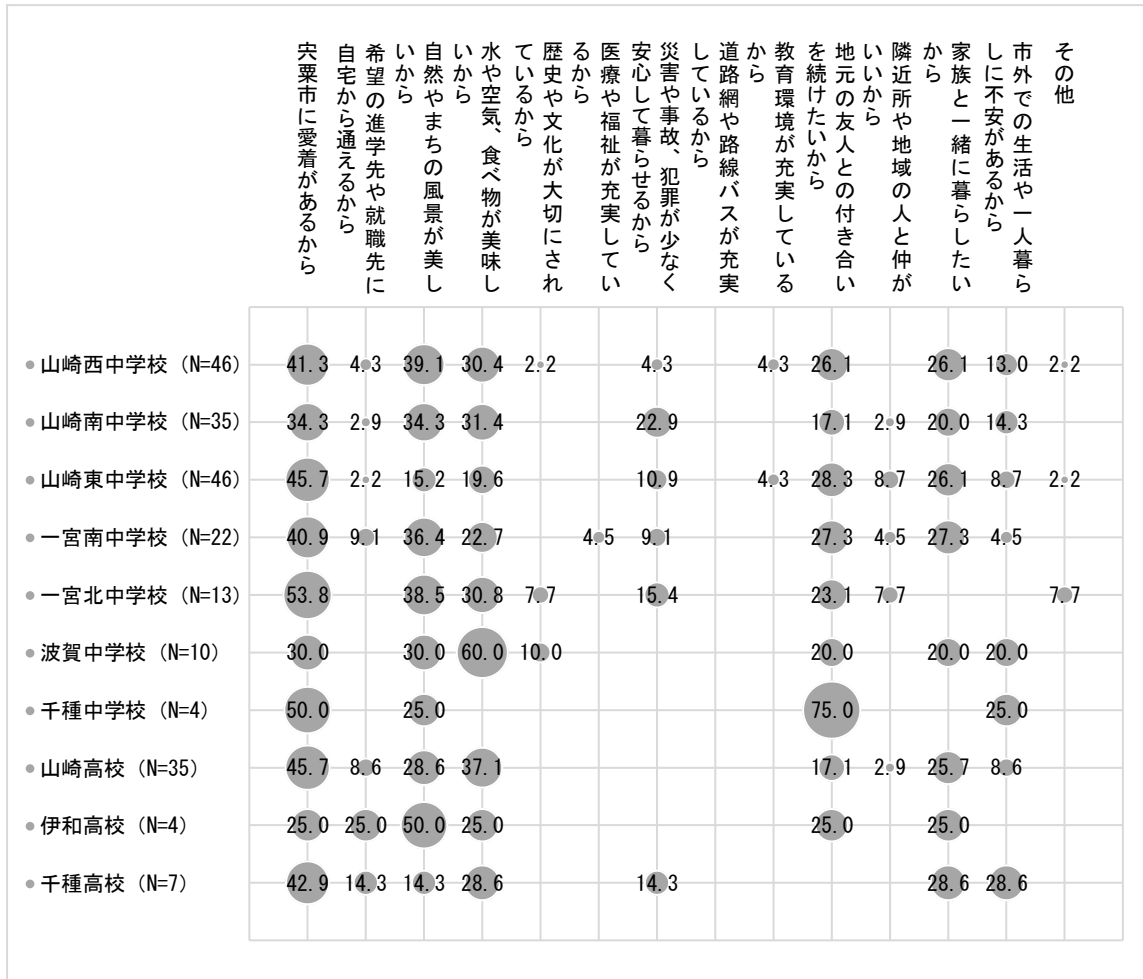
「その他」として、

- ・ 今の家を気に入っているから
- ・ 自分に子どもができたなら同じ学校に通わせたい
- ・ 都会に住んで時々戻ってきたい

という意見があった。



学校別では、波賀中学校では「水や空気、食べ物が美味しいから」、千種中学校では「地元の友人との付き合いを続けたいから」、伊和高校では「自然やまちの風景が美しいから」が最も高く、それ以外の学校では「宍粟市に愛着があるから」が最も高かった。



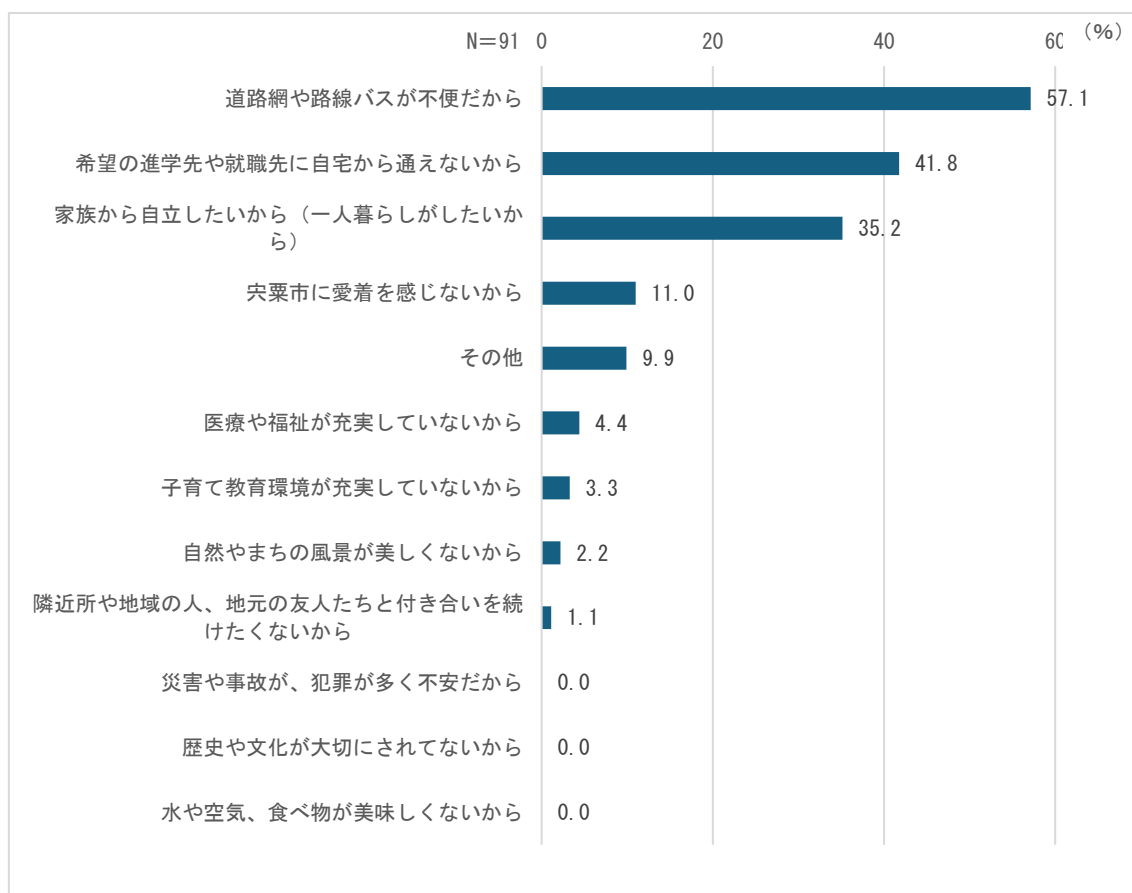
問４－２．問４で、「できれば住みたくない」と答えた方にお聞きします。あなたが、宋栗市に住みたくないと思う理由は何ですか。（あてはまるものを２つまで選択）

「道路網や路線バスが不便だから」が 57.1%と最も高く、次いで「希望の進学先や就職先に自宅から通えないから」が 41.8%、「家族から自立したいから（一人暮らしがしたいから）」が 35.2%であった。

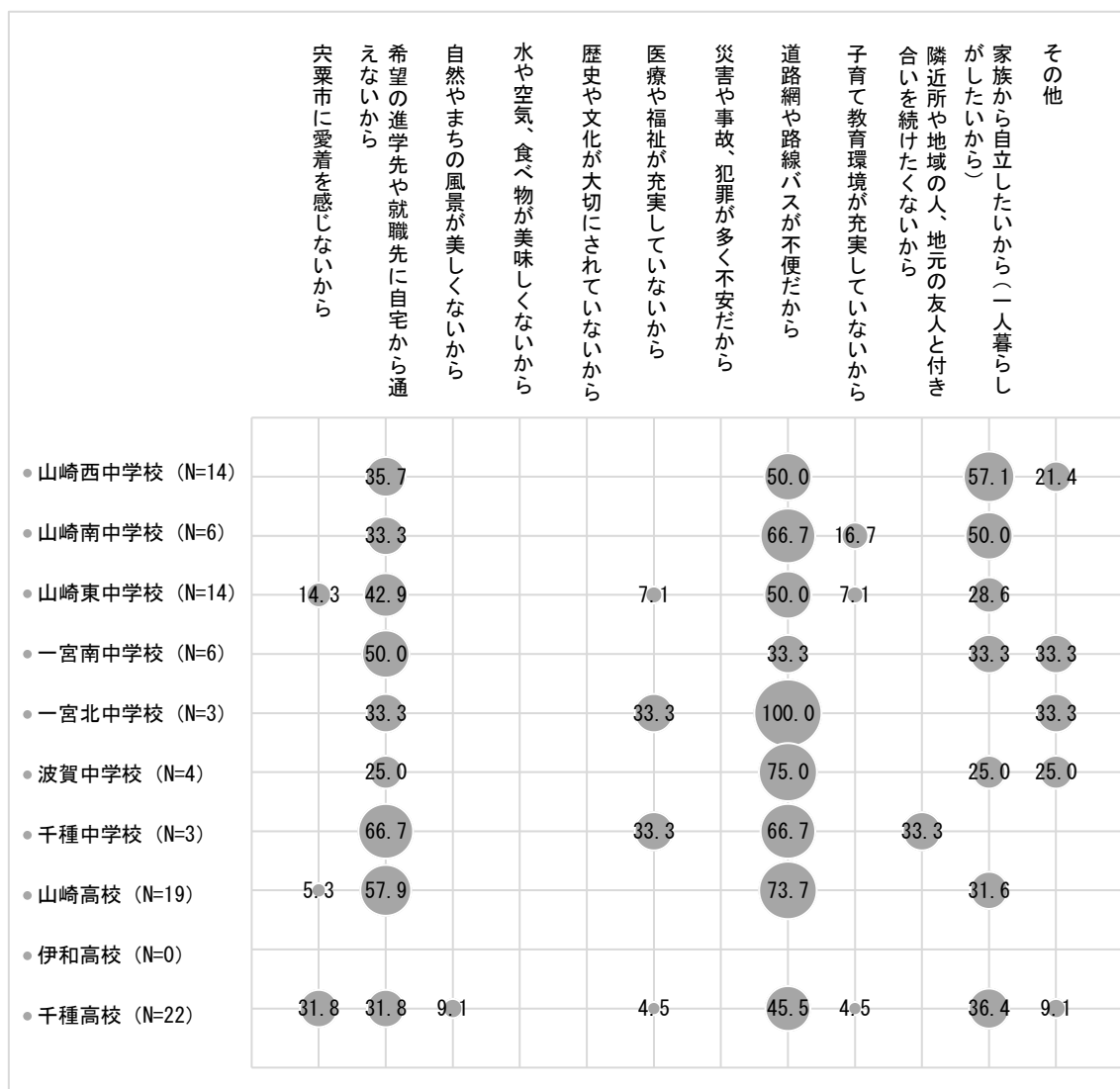
「その他」として、

- ・ 田舎すぎて面白くないから
- ・ 都会に住みたいから

という意見があった。



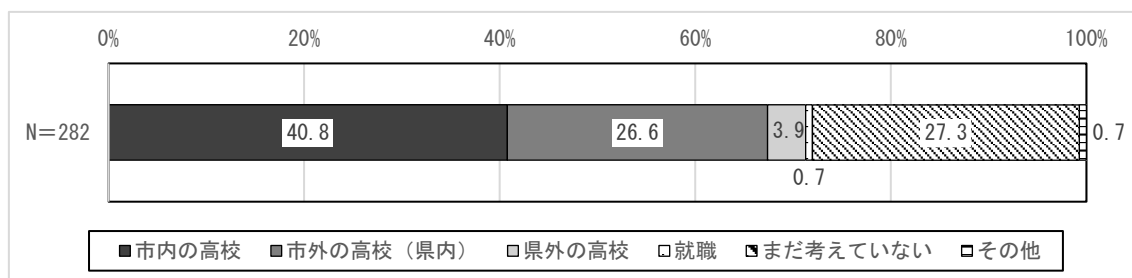
学校別では、山崎西中学校では「家族から自立したいから（一人暮らしがしたいから）」、一宮南中学校では「希望の進学先や就職先に自宅から通えないから」が最も高く、それ以外の学校は「道路網や路線バスが不便だから」が最も高かった。



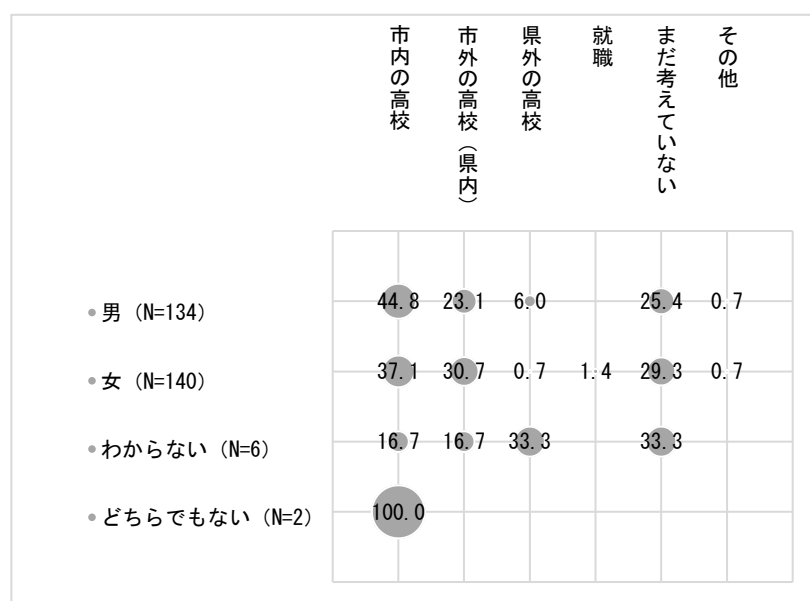
問5：中学生の方にお聞きします。

中学卒業後の進路はどのように考えていますか。（1つ選択）

「市内の高校」が40.8%と最も多く、「市外の高校（県内）」が26.6%、「県外の高校」が3.9%となっている。

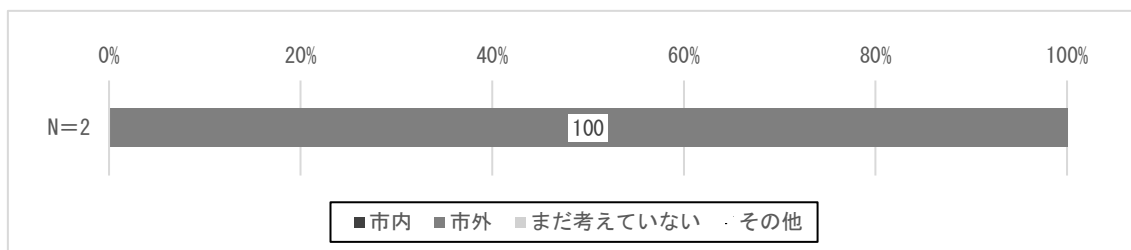


性別では、男性、女性とも「市内の高校」が最も高かった。



問５－１：問５で、「就職」と答えた方にお聞きします。あなたの希望する就職先はどちらですか。（１つ選択）

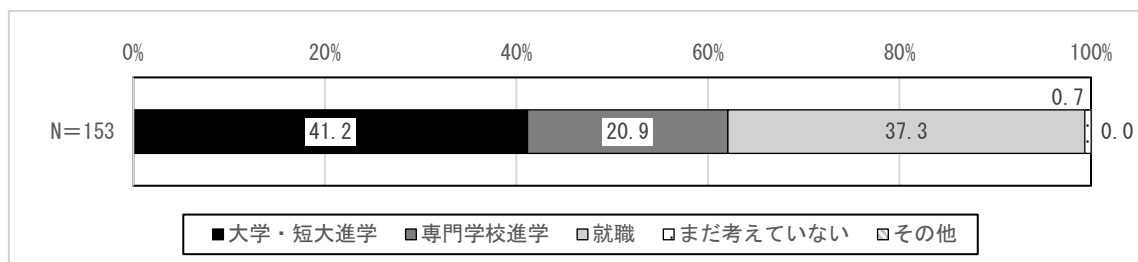
「就職」と答えた人は２名で、就職先は「市外」であった。



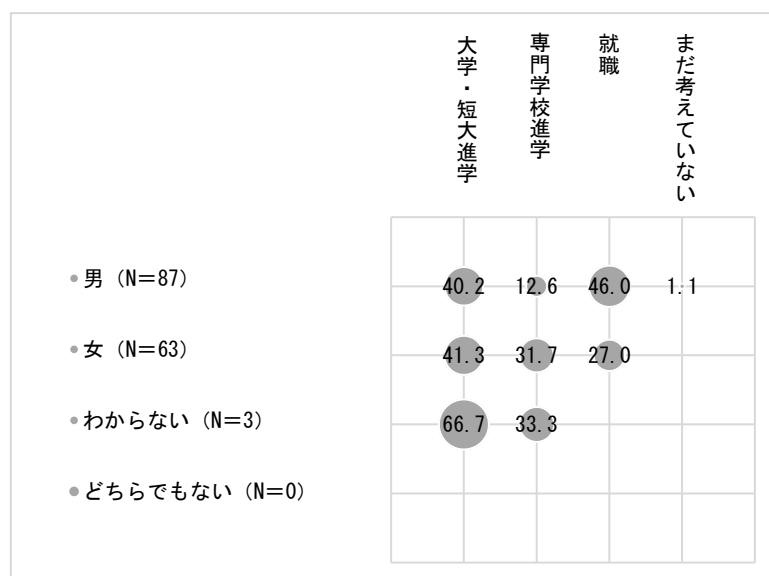
問5：高校生の方にお聞きします。高校卒業後の進路はどのように考えていますか。

（1つ選択）

「大学・短大進学」が41.2%と最も多く、次いで「就職」が37.3%、「専門学校進学」が20.9%となっている。

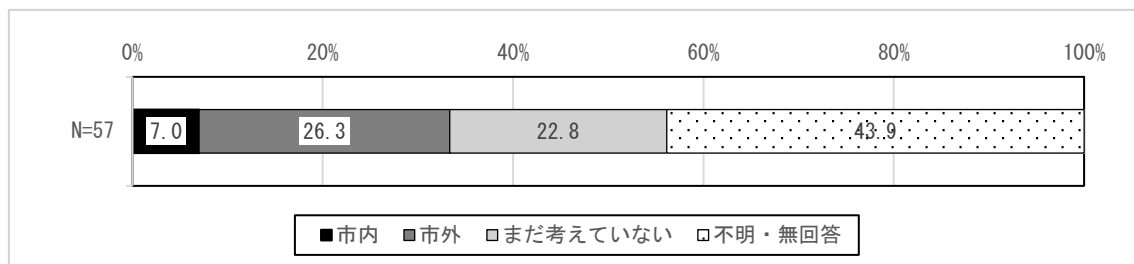


性別では、男性では「就職」が46.0%と最も高く、次いで「大学・短大進学」が40.2%であったのに対し、女性では「大学・短大進学」が41.3%と最も高く、次いで「専門学校進学」が31.7%であった。



問５－１：問５で「就職」と答えた方にお聞きします。あなたの希望する就職先はどちらですか。（１つ選択）

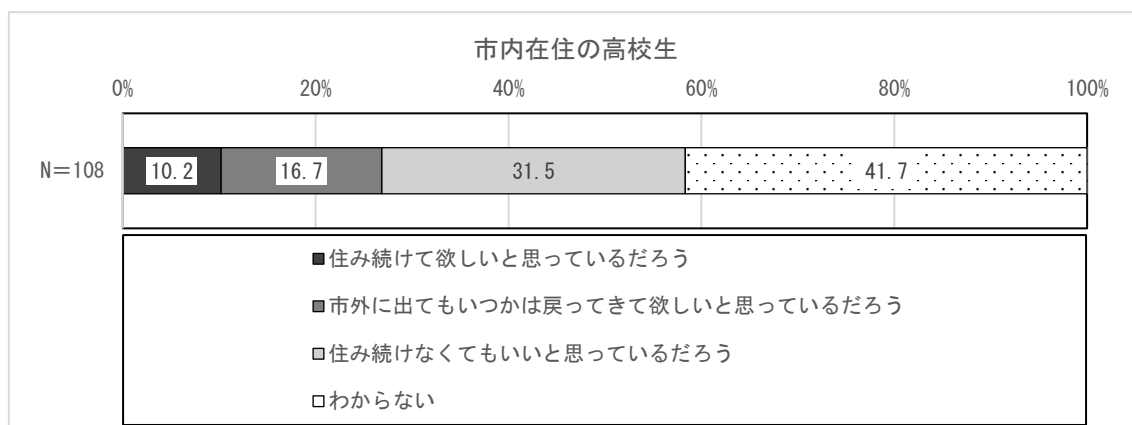
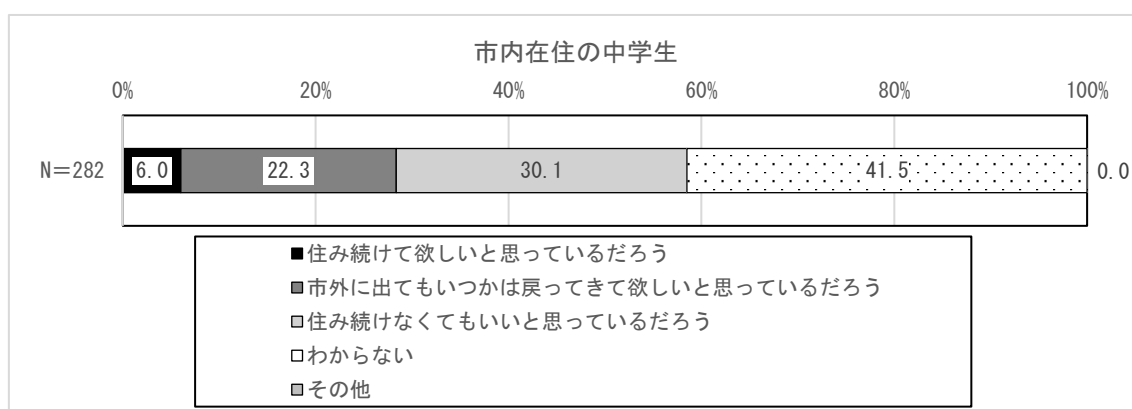
「不明・無回答」が 43.9%で最も多く、次いで「市外」が 26.3%、「まだ考えていない」が 22.8%であった。



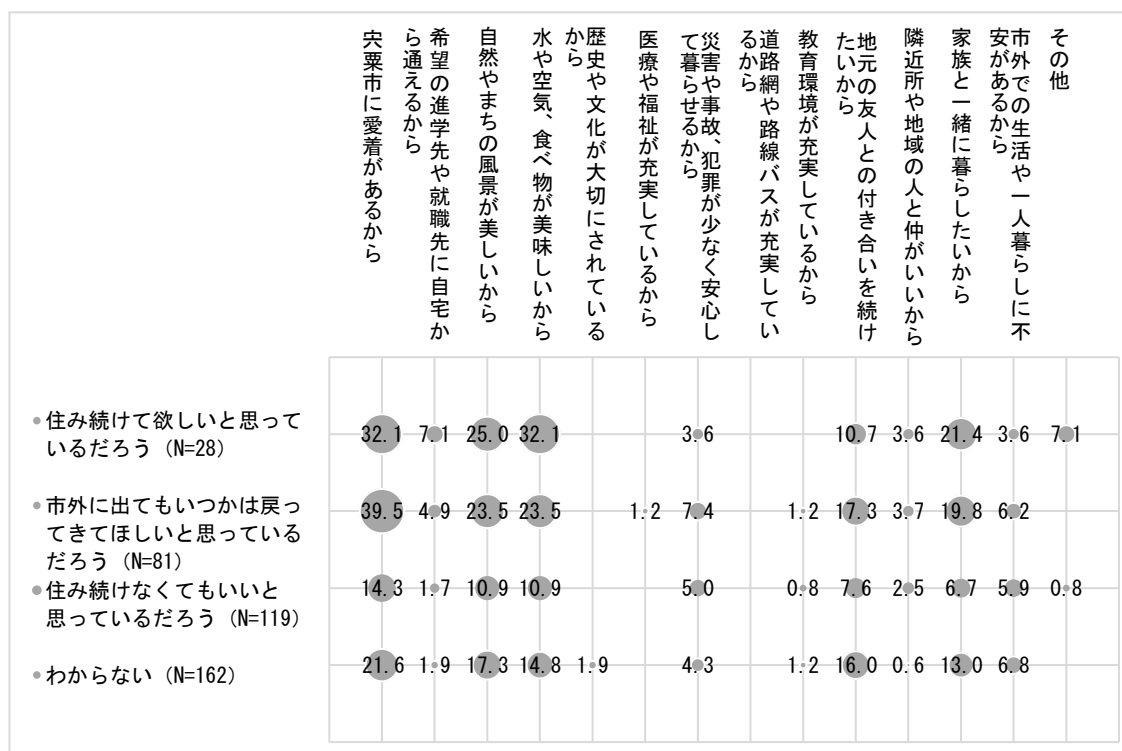
問6：現在、宍粟市に住まわれている方にお聞きします。あなたの家族は、あなたに宍粟市に住み続けてほしいと思っているでしょうか。（1つ選択）

市内在住の中学生では、「住み続けなくてもいいと思っているだろう」が30.1%と最も高く、次いで「市内に出てもいつかは戻ってきて欲しいと思っているだろう」が22.3%であった。

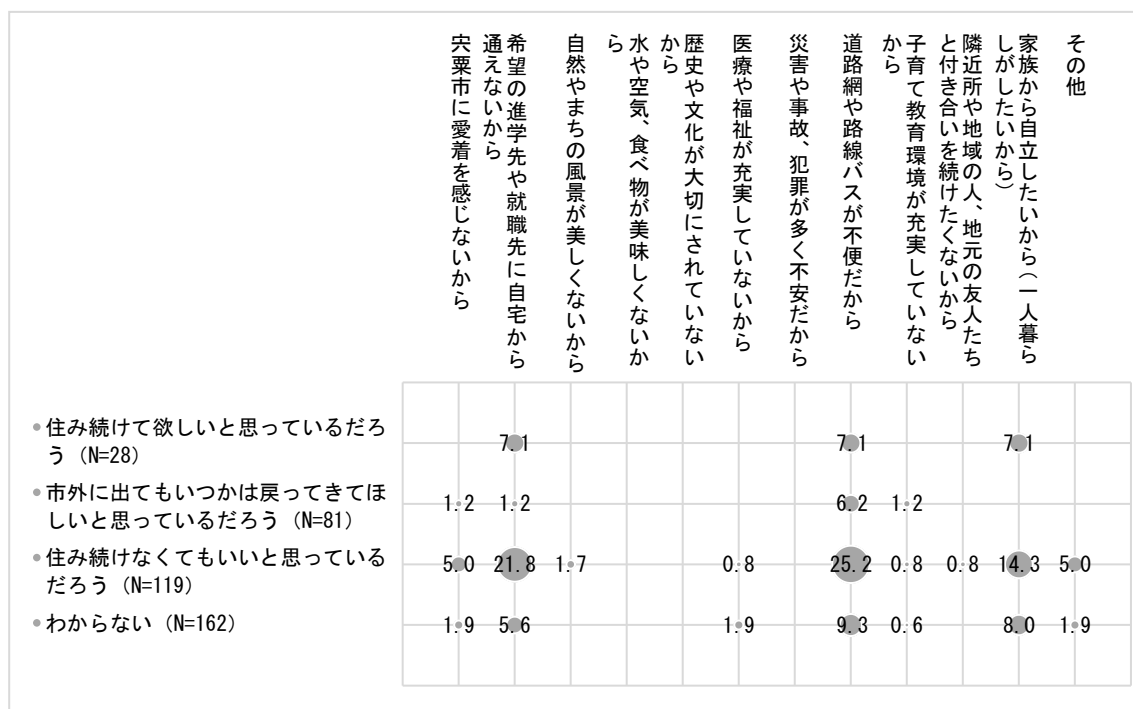
市内在住の高校生では、「住み続けなくてもいいと思っているだろう」が31.5%と最も高く、次いで「市外に出てもいつかは戻ってきて欲しいと思っているだろう」が16.7%であった。



市内在住で宍粟市に『住みたい』（「できれば住みたい」「いつかは戻ってきたい」）と回答した人の住みたい理由と家族の意向の関係性では、すべての家族の意向に対して「宍粟市に愛着があるから」が最も高かった。また、「住み続けて欲しいと思っているだろう」「市外に出てもいつかは戻ってきて欲しいと思っているだろう」と回答した人では、「家族と一緒に暮らしたいから」が比較的高かった。



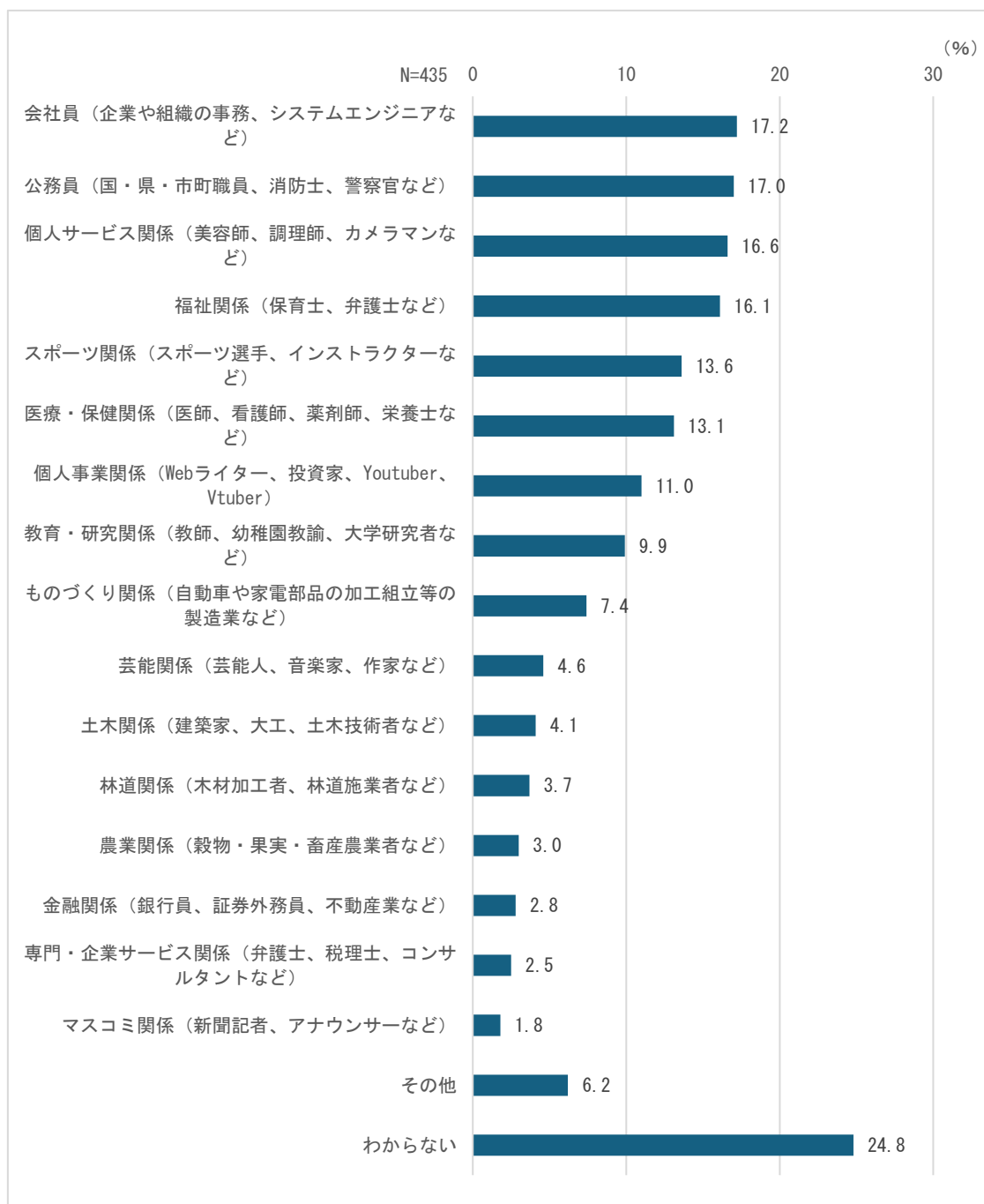
市内在住で宍粟市に「できれば住みたくない」と回答した人の住みたくない理由と家族の意向の関係性では、《住み続けなくてもいいと思っているだろう》で「希望の進学先や就職先に自宅から通えないから」「道路網や路線バスが不便だから」と回答した人が多かった。



問7：あなたが将来、働きたいと考えている又は興味のある職業や仕事は何ですか。

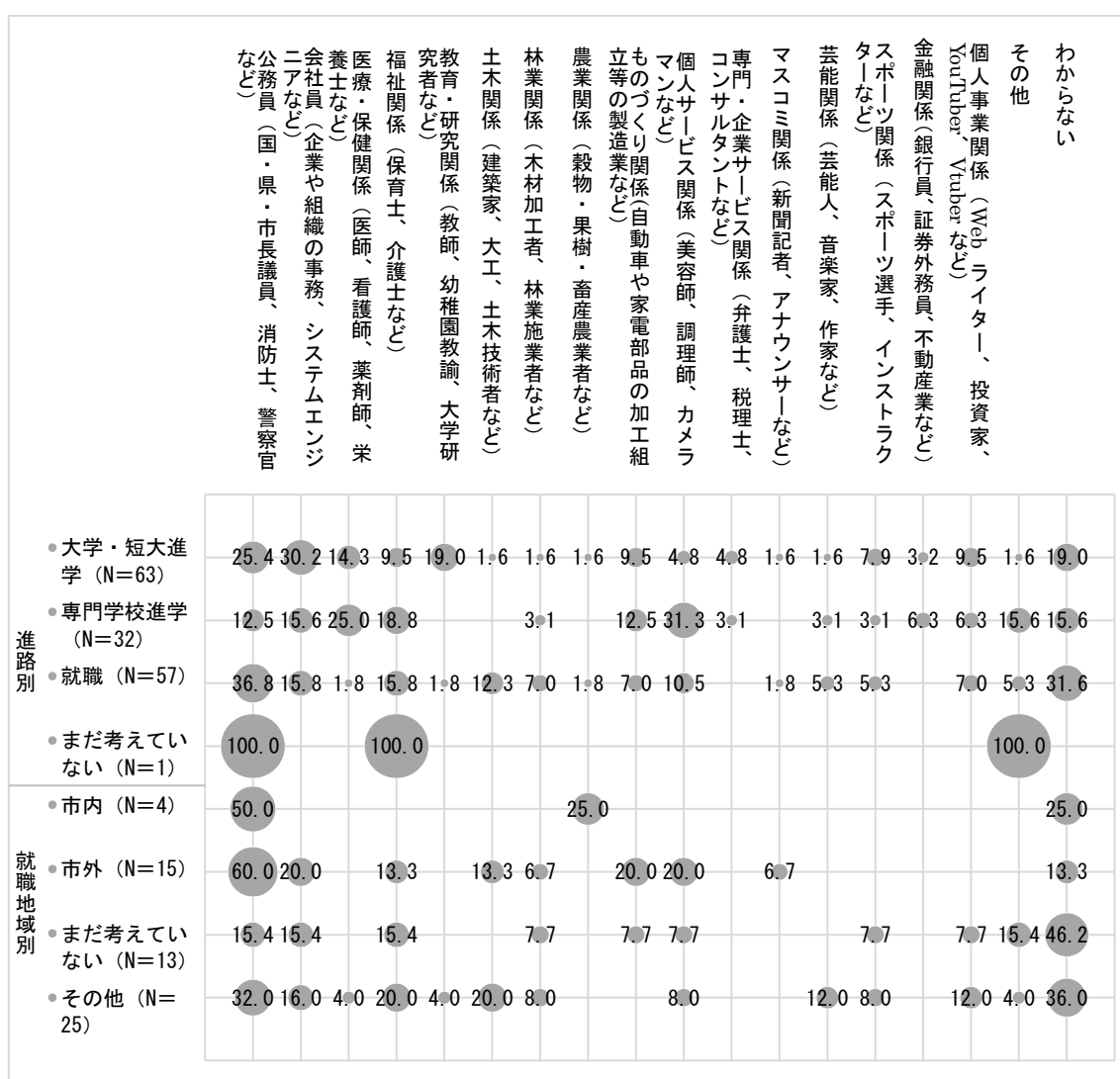
（3つまで選択）

「会社員（企業や組織の事務、システムエンジニアなど）」が17.2%と最も多く、次に「公務員（国・県・市町職員、消防士、警察官など）」が17.0%、個人サービス関係（美容師、調理師、カメラマンなど）が16.1%であった。



高校卒業後の進路別では、大学・短大進学では「会社員」が30.2%で最も高く、次いで「公務員」が25.4%、「教育・研究機関」「わからない」が19.0%となっていた。専門学校進学では、「個人サービス関係」が31.3%で最も高く、次いで「医療・保健関係」が25.0%、「福祉関係」が18.8%となっていた。就職では、「公務員」が36.8%で最も高く、次いで「わからない」が31.6%であった。

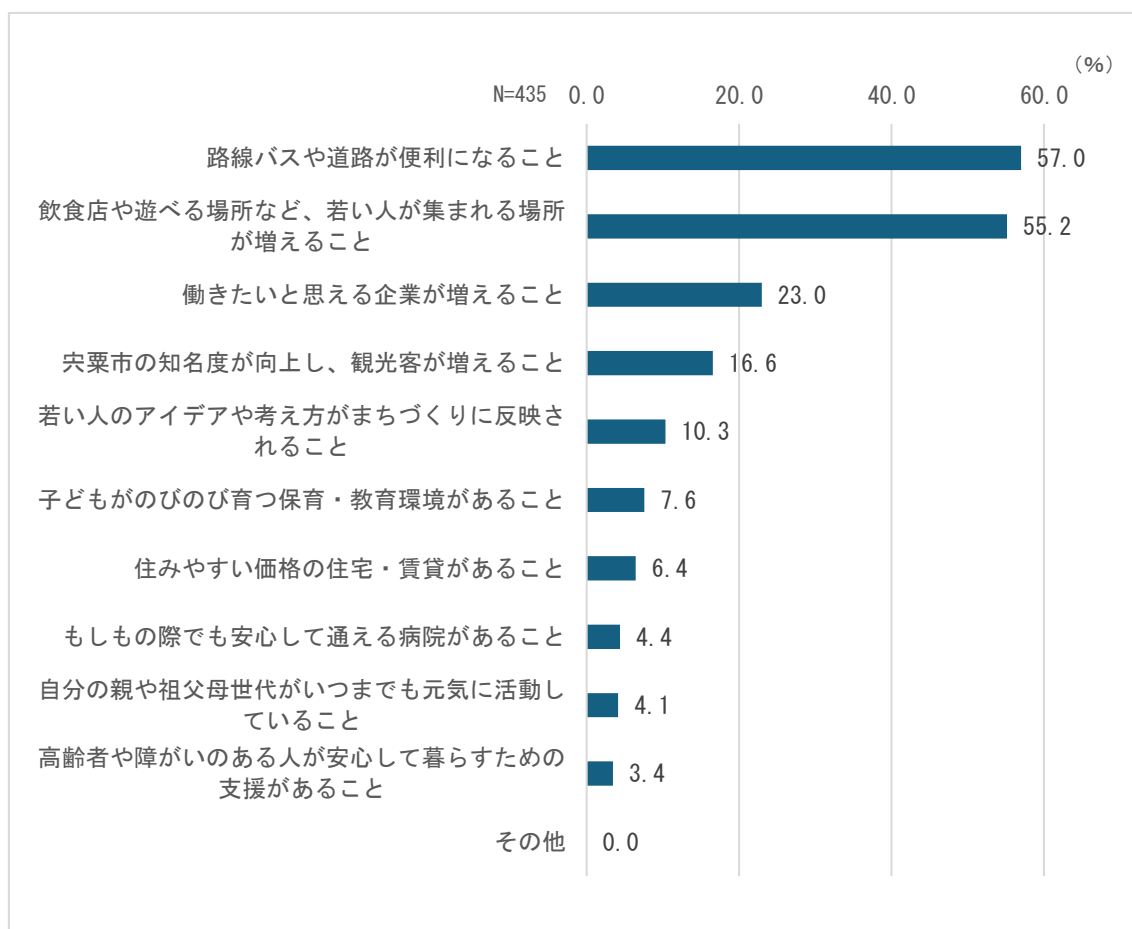
就職地域別では、市内では「公務員」が50%と最も高かった。市外では「公務員」が60.0%と最も高く、次いで「会社員」「土木関係」「ものづくり関係」「個人サービス関係」が20.0%であった。その他では「わからない」が36.0%と最も高く、次いで「公務員」が32.0%であった。



(2) これからのまちづくり等について

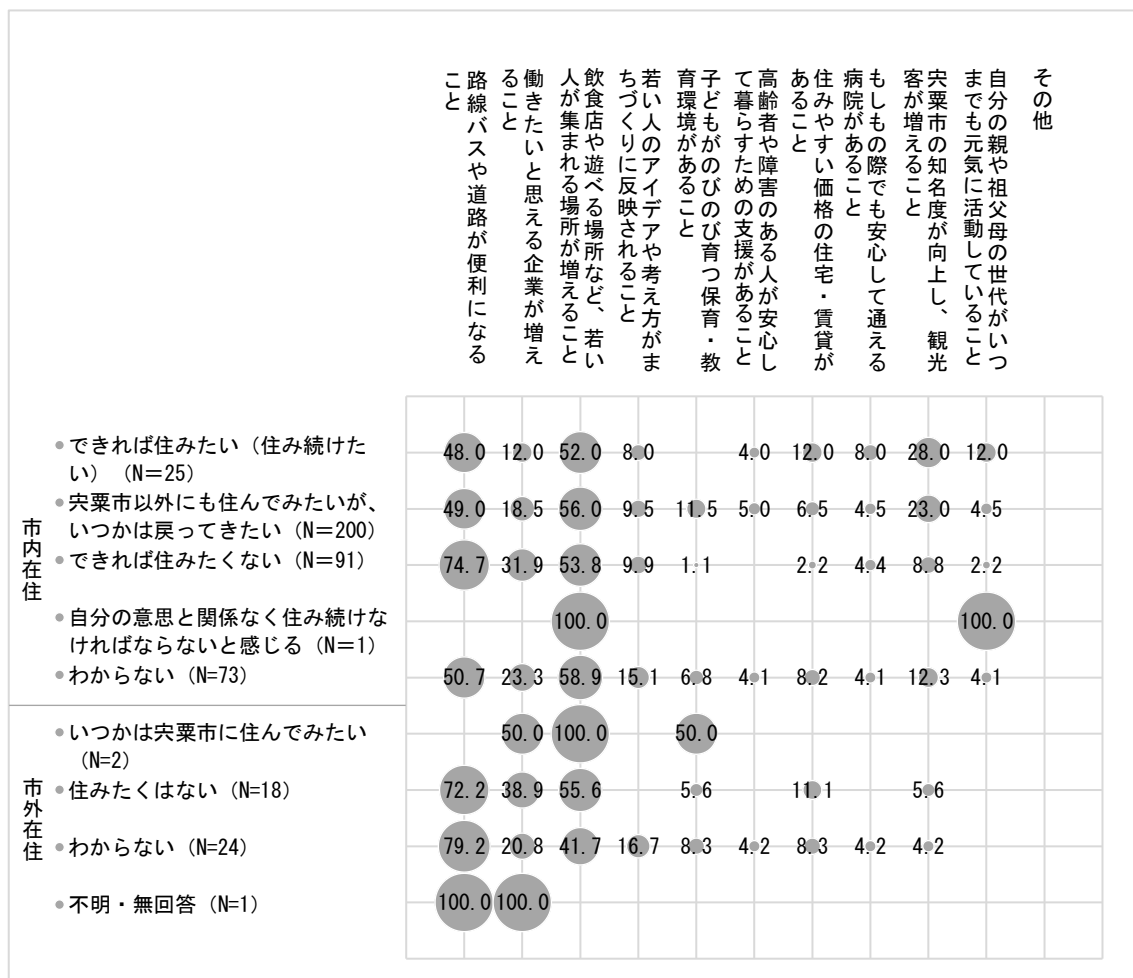
問8：若い人が宍粟市に住み続けたり、一度離れても戻ってきたいと思えるまちにするためには、どのようなことが必要だと思いますか。（2つまで選択）

「路線バスや道路が便利になること」が57.0%で最も多く、次いで「飲食店や遊べる場所など、若い人が集まれる場所が増えること」が55.2%、「働きたいと思える企業が増えること」が23.0%であった。



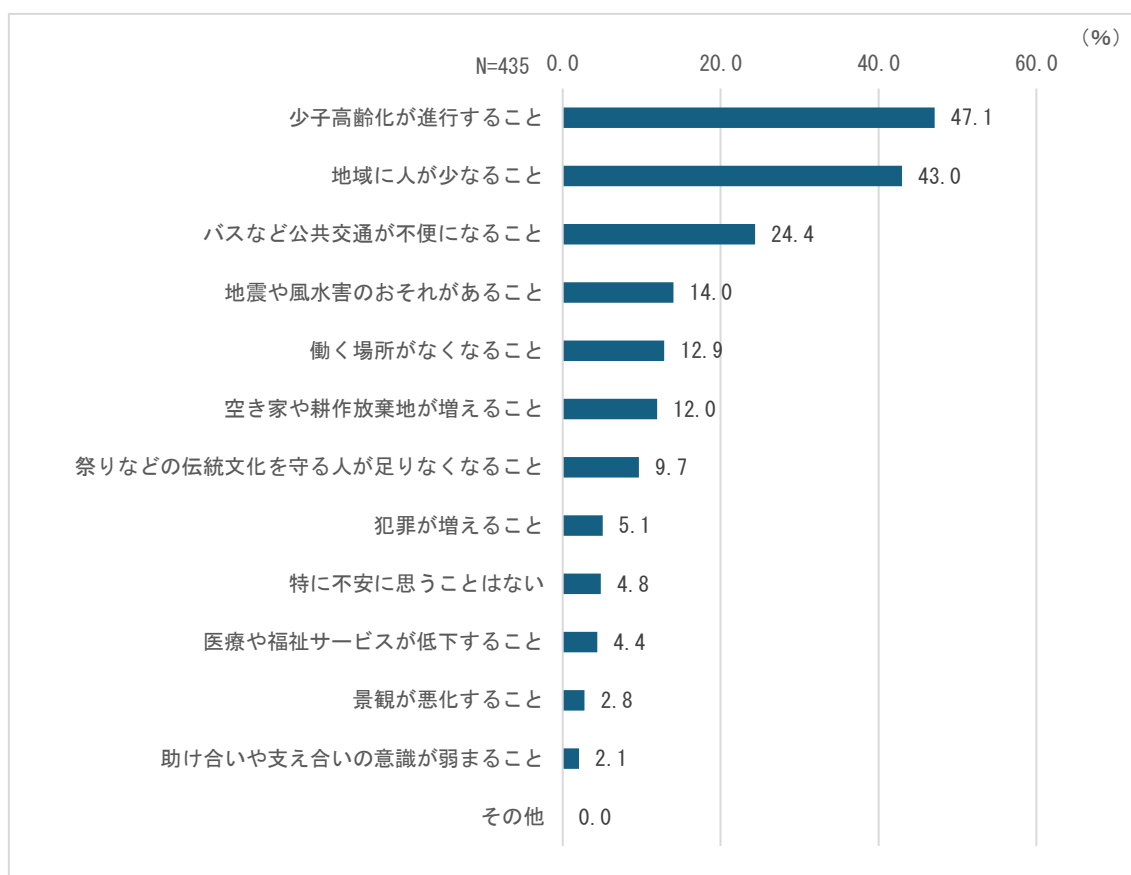
定住意向別では、市内在住者では、《できれば住みたい（住み続けたい）》《宍粟市以外にも住んでみたいが、いつかは戻ってきたい》では「飲食店や遊べる場所など、若い人が集まれる場所が増えること」が最も高かった。一方、《できれば住みたくない》では、「路線バスや道路が便利になること」が最も高かった。

市外在住者では、《いつか宍粟市に住んでみたい》では「飲食店や遊べる場所」が、《住みたくはない》《わからない》では「路線バスや道路が便利になること」が最も高かった。



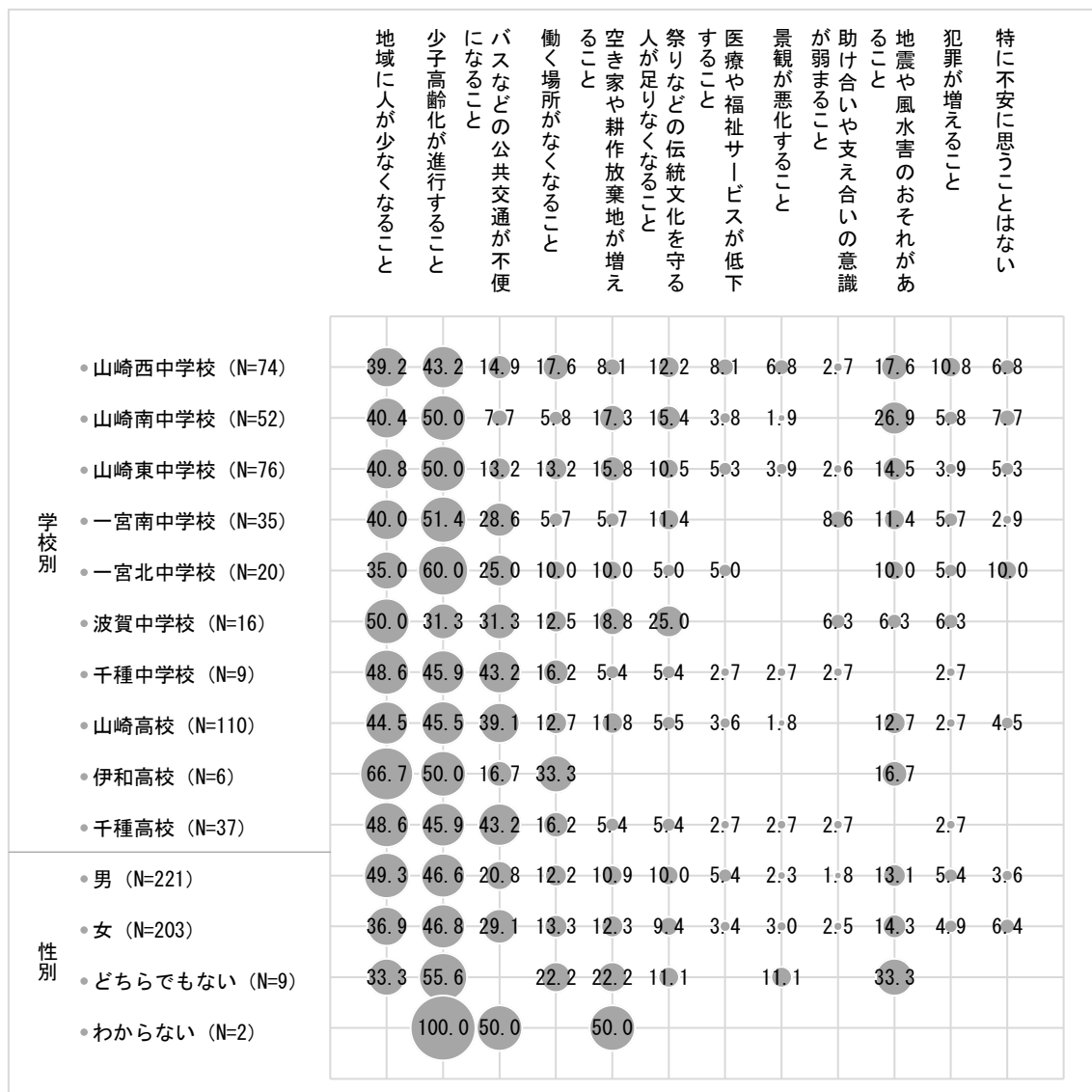
問 9：あなたが、将来の宍粟市に不安を感じていることは何ですか。（2つまで選択）

「少子高齢化が進行すること」が 47.1%で最も多く、次いで「地域に人が少なくなること」が 43.0%、「バスなど公共交通が不便になること」が 24.4%であった。



学校別では、波賀中学校、千種中学校、伊和高校、千種高校では「地域に人が少なくなること」が最も高く、それ以外の学校では「少子高齢化が進行すること」が最も高かった。

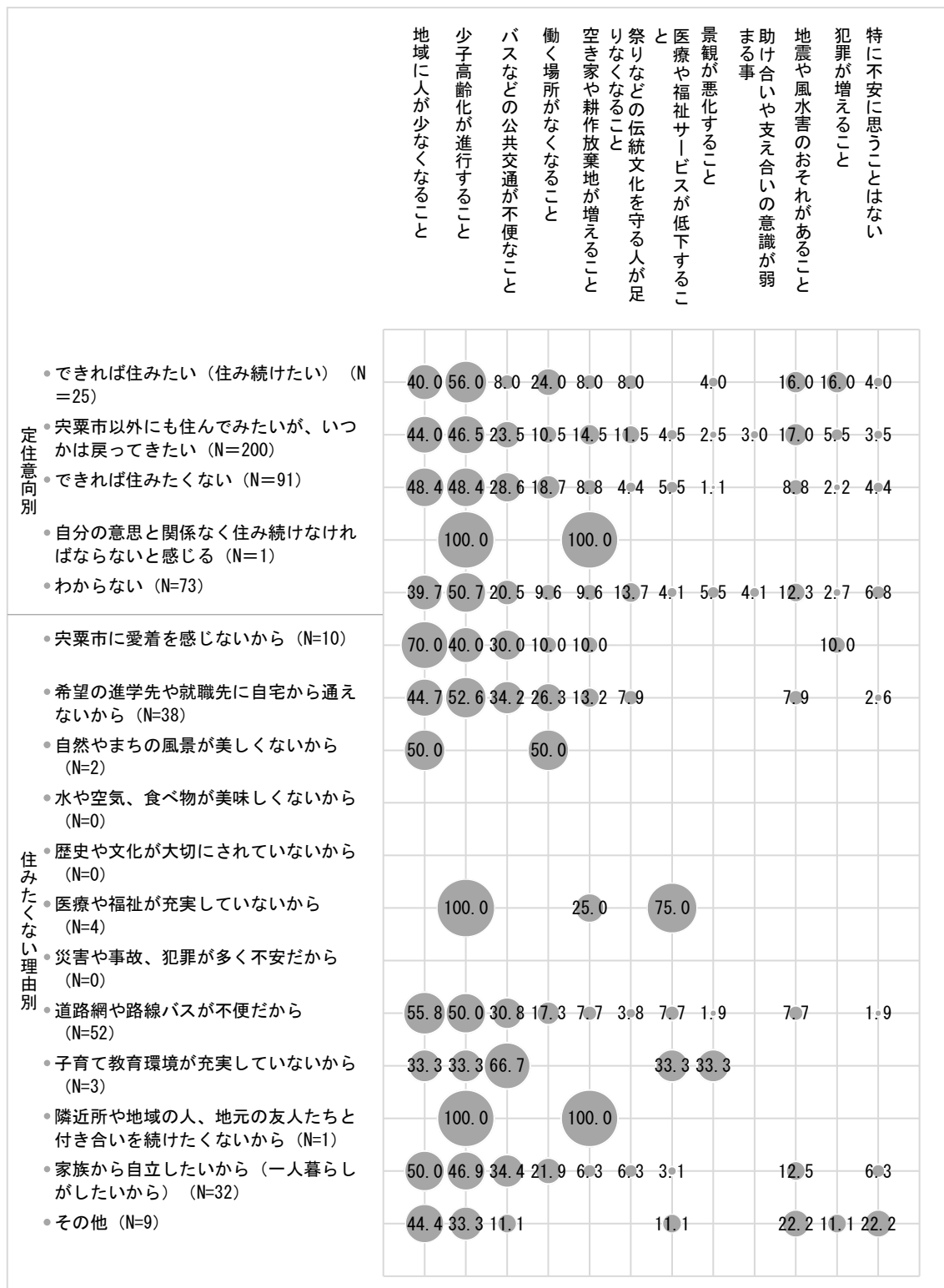
性別では、男性では「地域に人が少なくなること」、女性、どちらでもない、わからないでは「少子高齢化が進行すること」が最も高かった。



定住意向別では、「地域に人が少なくなること」、「少子高齢化」の割合が高かった。

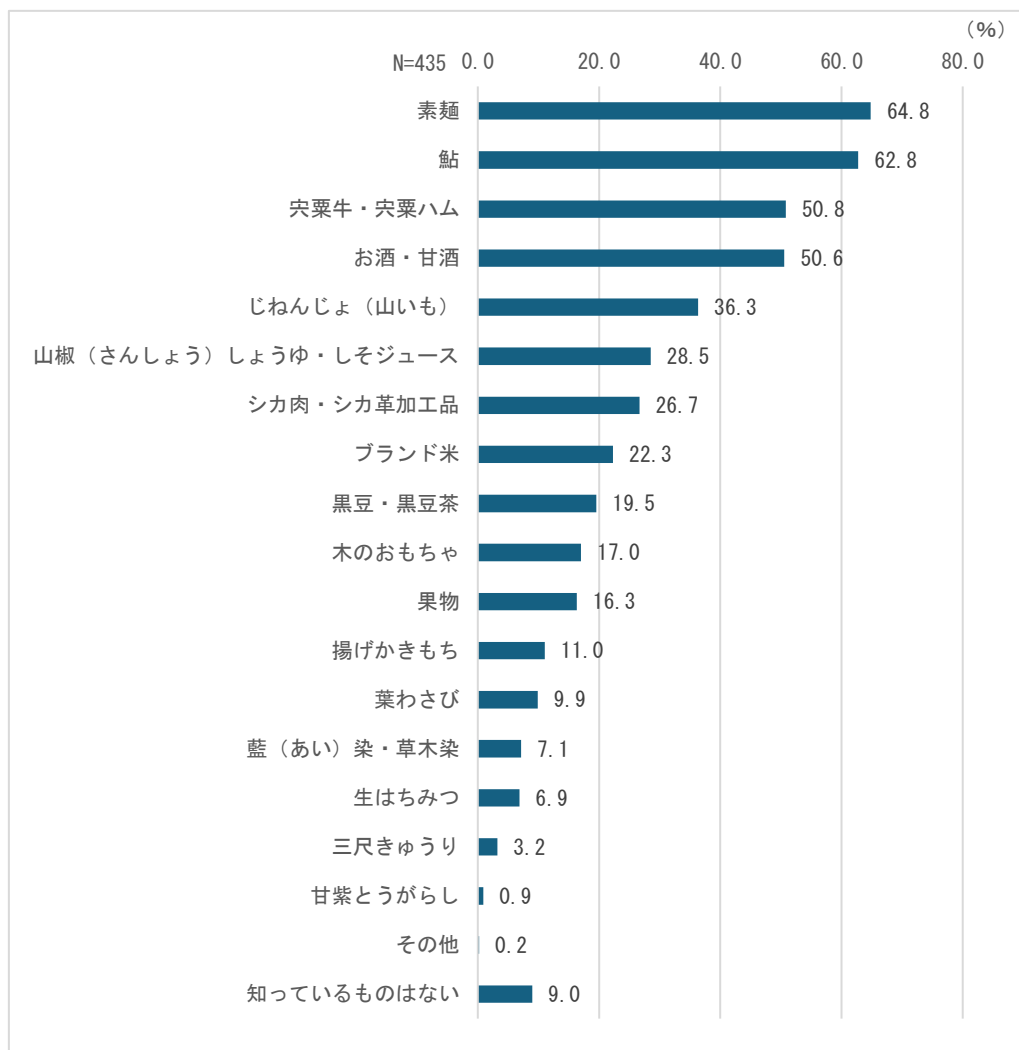
《できれば住みたい》と考える人は、「働く場所がなくなること」の割合が高く、《いつかは戻ってきたい》、《できれば住みたくない》、《わからない》と考える人は、「バスなどの公共交通が不便なこと」の割合が比較的高かった。

《できれば住みたくない》と考える人のうち、「宍粟市に愛着を感じないから」、「道路網や路線バスが不便だから」、「家族から自立したいから」と考える人は、「地域に人が少なくなること」に不安を感じている割合が最も高かった。また、「希望の進路先や就職先に自宅から通えないから」と考える人は「少子化が進行すること」の割合が最も高かった。



問 10：宍粟市の特産品についてあなたが知っているものをすべて選択してください。

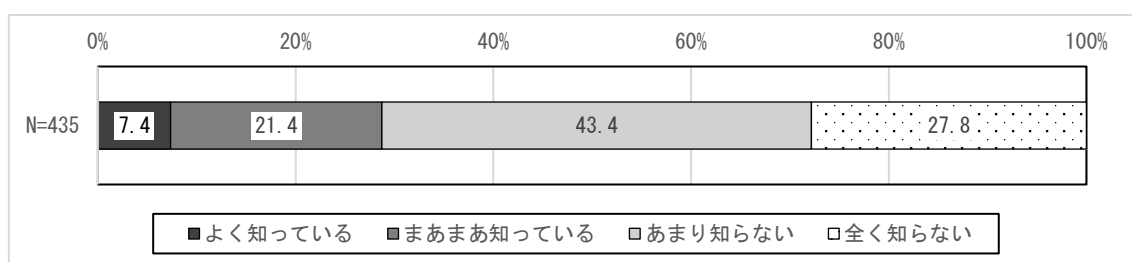
「素麺」が 64.8%と最も多く、次いで「鮎」が 62.8%、「宍粟牛・宍粟ハム」が 50.8%であった。



問 11：宍粟市では、市民が森林や木にふれあい、親しみを深め、まちへの愛着を創出する「木育」に取り組んでいます。（例：「みどりじまん新聞」の発行など）
あなたは、市が「木育」に取り組んでいることを知っていますか。（1つ選択）

「あまり知らない」が 43.4%と最も多く、次いで「全く知らない」が 27.8%、「まあまあ知っている」が 21.4%であった。

木育に取り組んでいることを知っている人は、「よく知っている」（7.4%）と「まあまあ知っている」（21.4%）を合わせると 28.8%であった。



『知っている』（「よく知っている」「まあまあ知っている」）と『知らない』（「あまり知らない」「全く知らない」）に大別する。

学校別に見ると、『知っている』の割合が高いのは一宮南中学校（48.6%）、山崎南中学校（32.7%）であった。

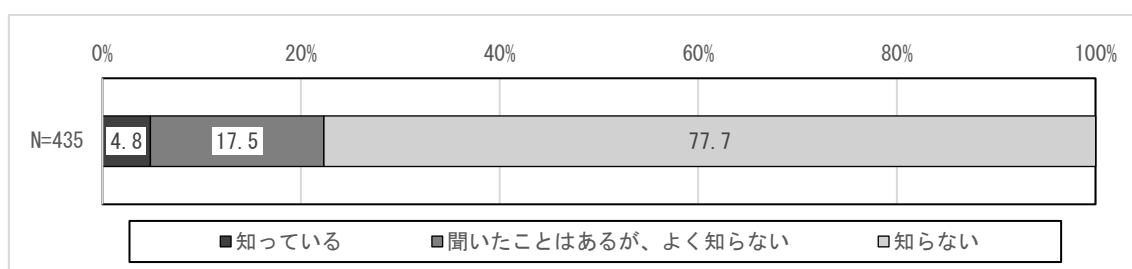
宍粟市のよいところ別にみると、『知っている』の割合が高いのは、歴史・文化で 39.5%、豊かな自然環境で 30.3%であった。

		よく 知 っ て い る	ま あ ま あ 知 っ て い る	あ ま り 知 ら な い	全 く 知 ら な い
学 校 別	● 山崎西中学校 (N=74)	6.8	12.2	52.7	28.4
	● 山崎南中学校 (N=52)	13.5	19.2	42.3	25.0
	● 山崎東中学校 (N=76)	2.6	18.4	43.4	35.5
	● 一宮南中学校 (N=35)	5.7	42.9	31.4	20.0
	● 一宮北中学校 (N=20)		30.0	45.0	25.0
	● 波賀中学校 (N=16)	12.5	6.3	81.3	
	● 山崎高校 (N=110)	9.1	26.4	40.0	24.5
	● 伊和高校 (N=6)	16.7	16.7	50.0	16.7
	● 千種高校 (N=37)	8.1	13.5	37.8	40.5
栄 栗 市 の よ い と ころ	● 豊かな自然環境 (N=357)	7.6	22.7	44.3	25.5
	● 住民のつながり・人の良さ (N=140)	10.7	22.9	42.9	23.6
	● 子育て・教育 (N=5)	20.0		40.0	40.0
	● 歴史・文化 (N=43)	9.3	30.2	46.5	14.0
	● 食べ物 (N=58)	5.2	22.4	51.7	20.7
	● 健康・福祉 (N=9)		22.2	44.4	33.3
	● 安心・安全 (N=72)	4.2	22.2	45.8	27.8
	● 特になし (N=41)	16.7	16.7	50.0	16.7
	● その他 (N=6)	16.7	16.7	50.0	16.7

問 12：宍粟市では、目に映る風景だけでなく、先人によって守り育てられてきた歴史や文化、さらに人の営みなど地域の特徴を「風景」と捉え、次世代につないでいくため「日本一の風景街道」をスローガンに、市民と協働で取り組みを進めていくための指針である「風景ビジョン」を策定しています。
あなたは「風景ビジョン」を知っていますか。（1つ選択）

「知らない」が 77.7%と最も多く、「聞いたことはあるが、よく知らない」が 17.5%であった。

風景ビジョンを「知っている」と答えた人はわずか 4.8%であった。

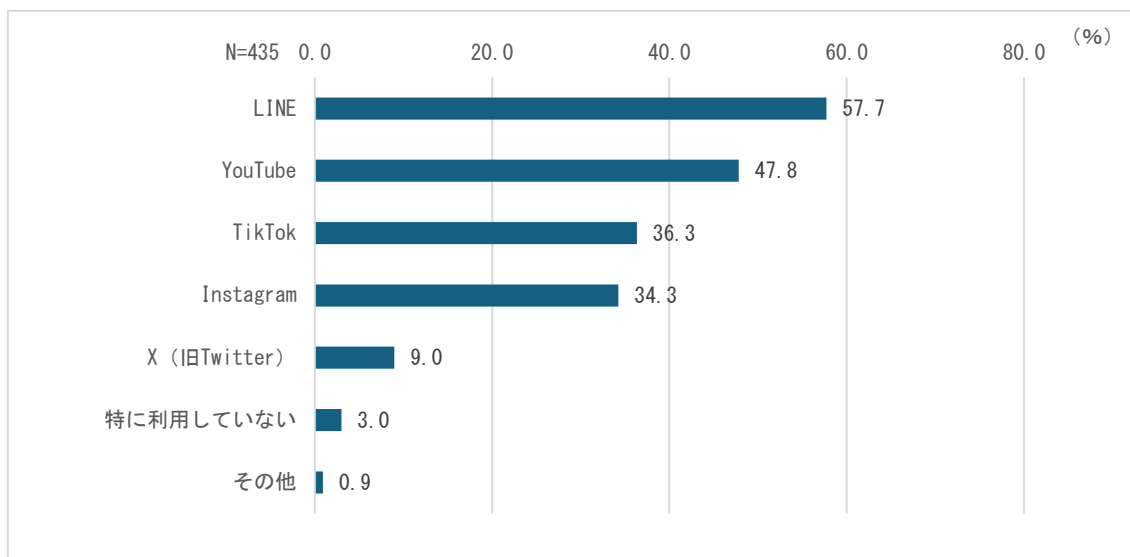


	知っている	よく知らな	聞いたことあるが、知らない
学校別			
• 山崎西中学校 (N=74)	2.7	23.0	74.3
• 山崎南中学校 (N=52)	3.8	25.0	71.2
• 山崎東中学校 (N=76)	2.6	18.4	78.9
• 一宮南中学校 (N=35)	2.9	11.4	85.7
• 一宮北中学校 (N=20)	10.0	20.0	70.0
• 波賀中学校 (N=16)	6.3	12.5	81.3
• 山崎高校 (N=110)	8.2	15.5	76.4
• 伊和高校 (N=6)	16.7	16.7	66.7
• 千種高校 (N=37)	2.7	8.1	89.2
大栗市のよいところ			
• 豊かな自然環境 (N=357)	5.3	17.9	76.8
• 住民のつながり・人の良さ (N=140)	2.1	19.3	78.6
• 子育て・教育 (N=5)	20.0		80.0
• 歴史・文化 (N=43)	11.6	18.6	69.8
• 食べ物 (N=58)	12.1	20.7	67.2
• 健康・福祉 (N=9)		11.1	88.9
• 安心・安全 (N=72)	2.8	20.8	76.4
• 特になし (N=41)	33.3		66.7
• その他 (N=6)	33.3		66.7

問 13：あなたが普段利用している SNS で、利用頻度が高いものはどれですか。

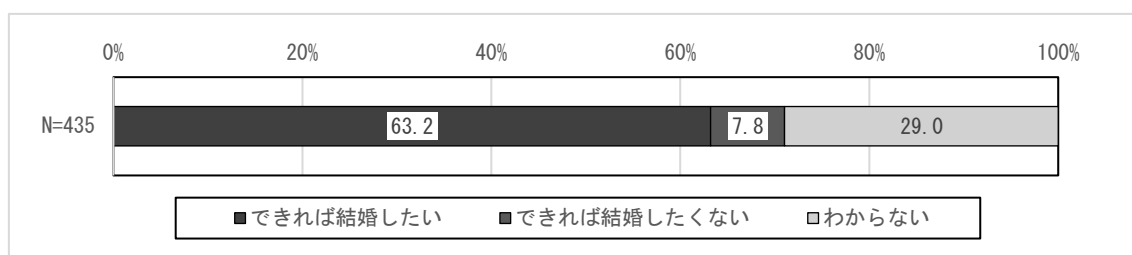
（2 つまで選択）

「LINE」が 57.7%と最も多く、次いで「YouTube」が 47.8%、「TikTok」が 36.3%であった。

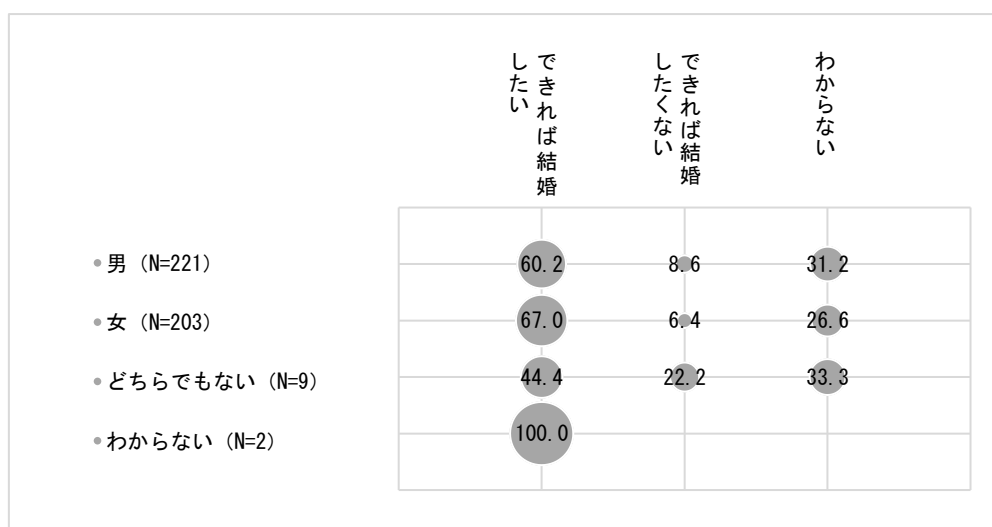


問 14：あなたは将来、結婚をしたいと思いますか。（1つ選択）

「できれば結婚したい」が 63.2%と最も多く、次いで「わからない」が 29.0%、「できれば結婚したくない」が 7.8%であった。

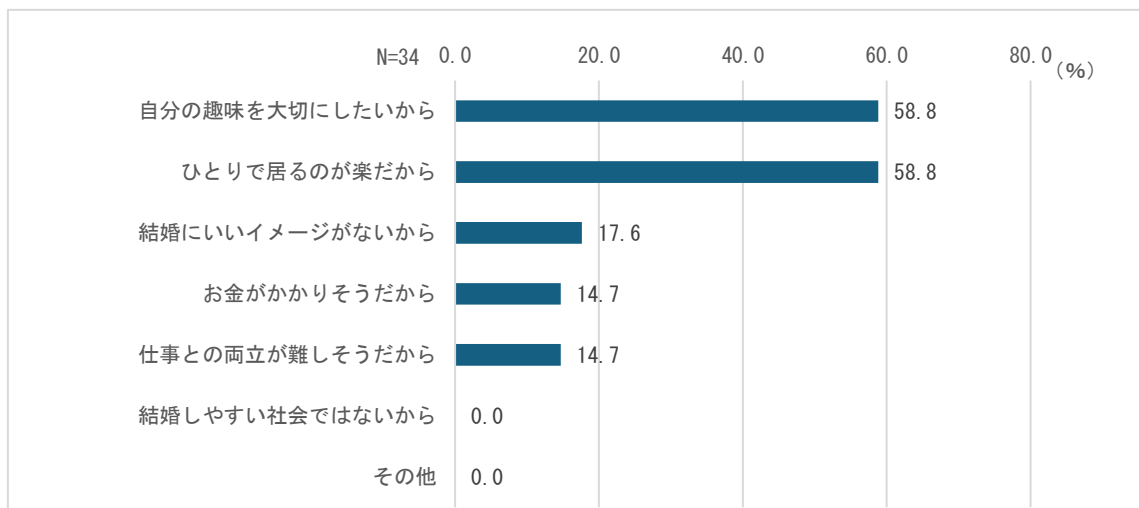


性別では、「できれば結婚したい」と思う人は「男性」が 60.2%、「女性」が 67.0%で、女性の方が結婚したいと考えている割合がやや高かった。

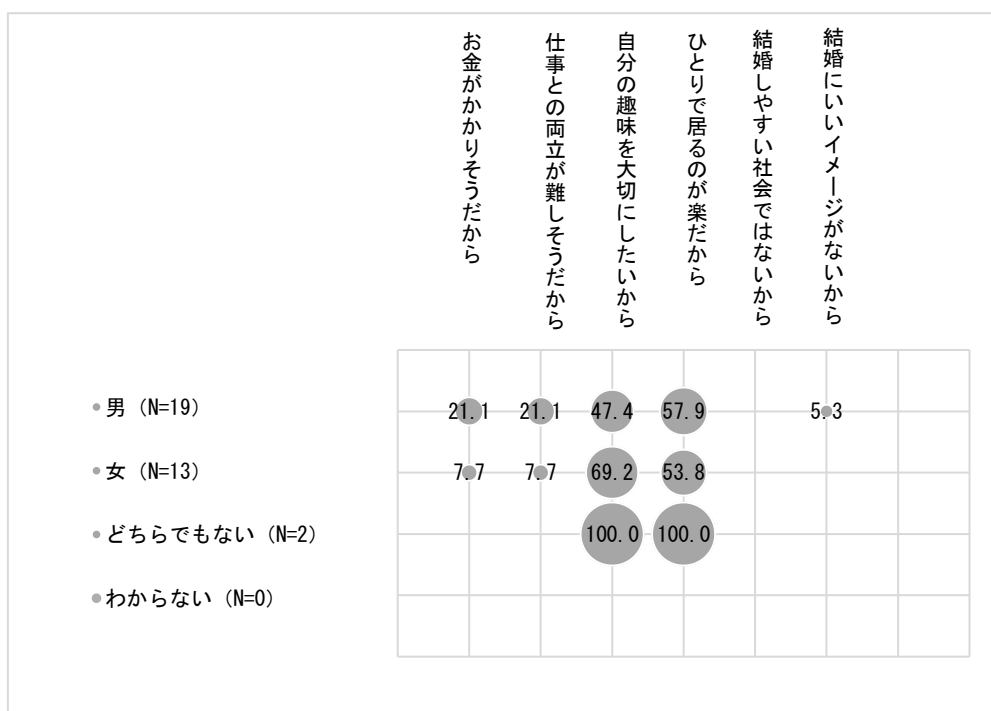


問 14-1：問 14 で、「できれば結婚したくない」と答えた方にお聞きします。あなたが、結婚したくないと思う理由は何ですか。（あてはまるものを2つまで選択）

「自分の趣味を大切にしたいから」「ひとりで居るのが楽だから」が 58.8%であった。

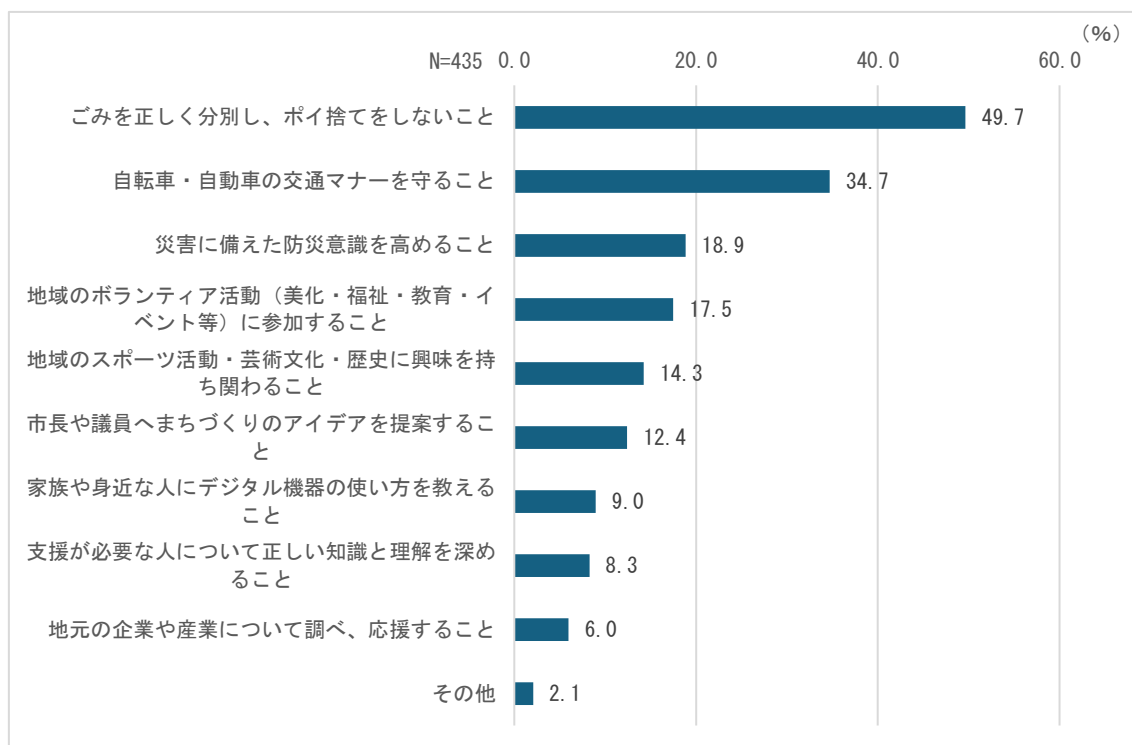


性別では、男性は「ひとりで居るのが楽だから」、女性は「自分の趣味を大切にしたいから」が最も高かった。「お金がかかりそうだから」「仕事との両立が難しそうだから」は女性より男性の方が高かった。また、男性では「結婚にいいイメージがないから」と回答した人がいた。



問 15：これからのまちづくりに関して、あなた自身ができること（やってみたいこと）は何だと思いますか。（2つまで選択）

「ごみを正しく分別し、ポイ捨てをしないこと」が 49.7%で最も多く、次いで「自転車・自動車の交通マナーを守ること」が 34.7%、「災害に備えた防災意識を高めること」が 18.9%であった。



学校別では、どの学校も「ごみを正しく分別し、ポイ捨てをしないこと」「自転車・自動車の交通マナーを守ること」の割合が高かった。

このほか、学校別に回答割合が高かったのは、

「市長や議員へまちづくりのアイデアを提案すること」：山崎西中学校、千種高校

「地域のスポーツ活動・芸術文化・歴史に興味を持ち関わること」：波賀中学校

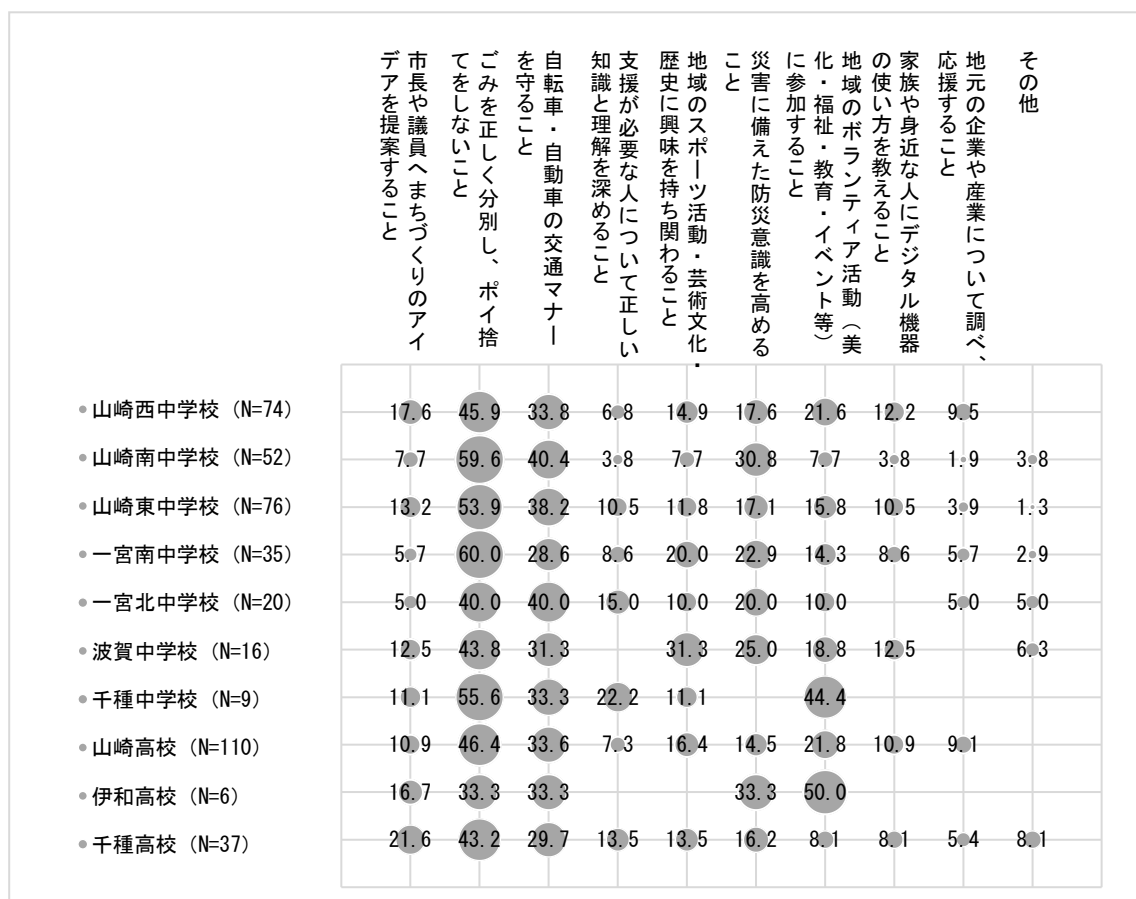
一宮南中学校

「災害に備えた防災意識を高めること」：山崎南中学校、波賀中学校、伊和高校

「地域のボランティア活動に参加すること」：山崎西中学校、千種中学校、山崎高校、

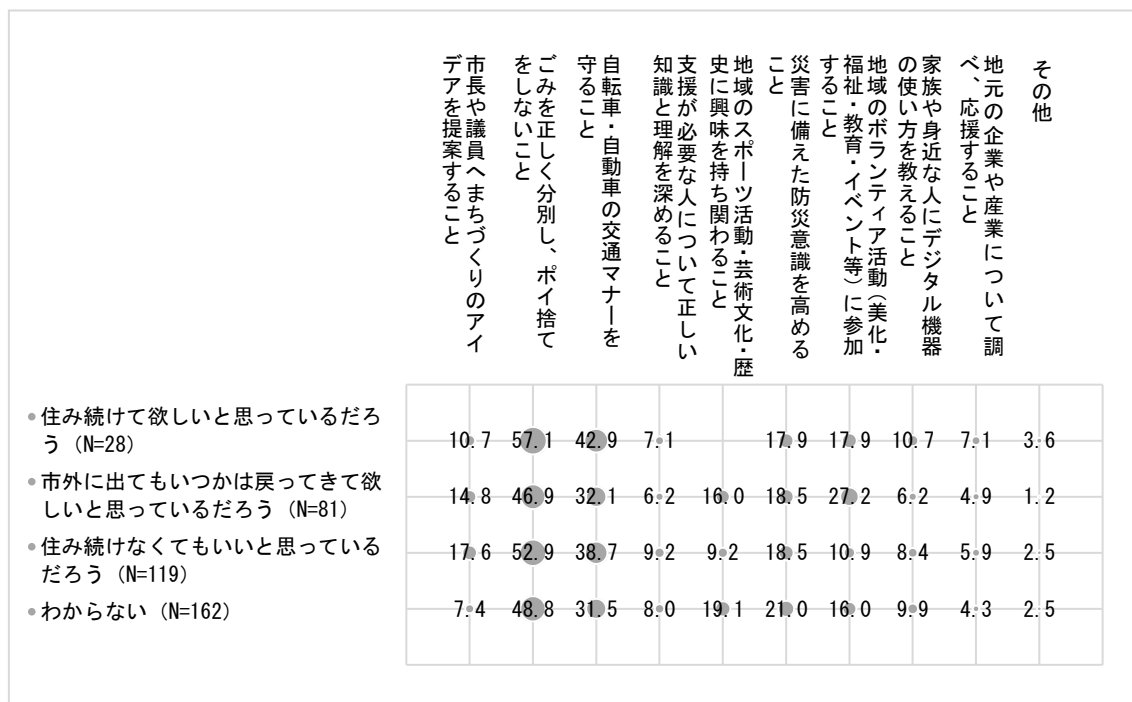
伊和高校

であった。



家族の意向別では、「ごみを正しく分別し、ポイ捨てをしないこと」が最も高く、次いで「自転車・自動車の交通マナーを守ること」が高かった。

また、《住み続けて欲しいと思っているだろう》と《市外に出てもいつかは戻ってきて欲しいと思っているだろう》は「地域のボランティア活動に参加すること」の割合が高く、《住み続けなくてもよいと思っているだろう》と《わからない》は「災害に備えた防災意識を高めること」の割合が高かった。



将来への不安別では、

「災害に備えた防災意識を高めること」：少子化が進行すること

バスなどの公共交通が不便になること

助け合いや支え合いの意識が弱まること

風水害のおそれがあること

犯罪が増えること

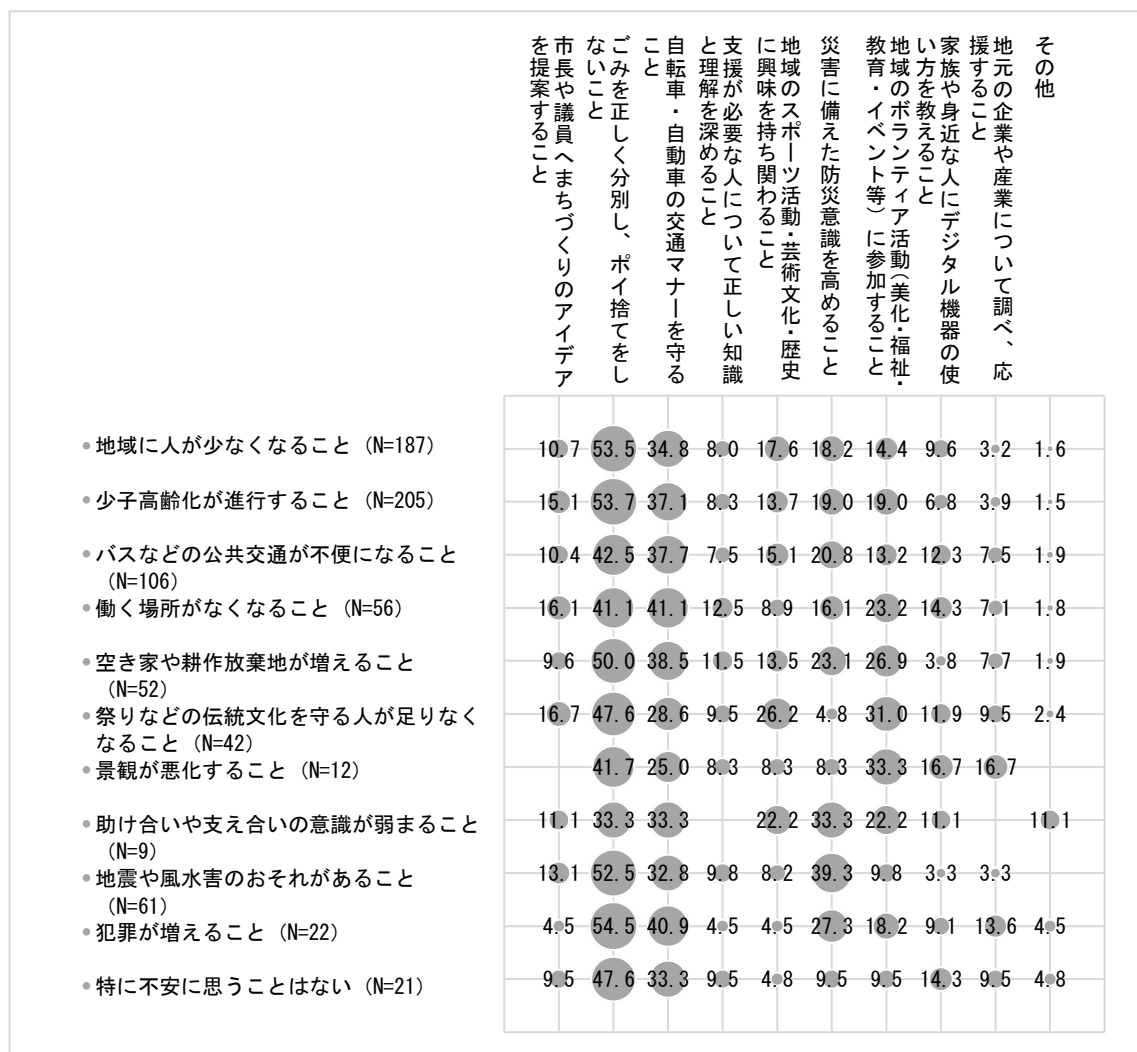
「地域のボランティア活動に参加すること」：少子高齢化が進行すること

空き家や耕作放棄地が増えること

祭りなどの伝統文化を守る人が足りなくなること

景観が悪化すること

において割合が高かった。



(3) 自由記述について

問 16：もしあなたが宍粟市長になったらどんなまちをつくりたいと思いますか。アイデアや意見を自由にお書きください。

自由記述について、回答の要旨に基づき分類・整理した結果は以下の通りである。

「基本施策 9 生活圏の拠点づくりの推進」に関する内容が 72 件と最も多く、次いで「基本施策 3 商工業の振興」に関する内容が 45 件となった。

基本方針	基本施策	件数
基本方針 1 魅力と活力あふれる地域産業を育むまちづくり	基本施策 1 林業の振興	1
	基本施策 2 農業の振興	1
	基本施策 3 商工業の振興	45
	基本施策 4 観光の振興	27
基本方針 2 環境にやさしく快適に暮らせるまちづくり	基本施策 5 森林・田園・まち並み景観の保全	29
	基本施策 6 資源循環型社会の構築	0
	基本施策 7 住環境整備、土地利用の推進	14
	基本施策 8 道路網・上下水道の整備・維持	1
基本方針 3 定住魅力の高いまちづくり	基本施策 9 生活圏の拠点づくりの推進	72
	基本施策 10 移住・定住促進の充実	8
基本方針 4 安全で安心なまちづくり	基本施策 11 防災体制の充実	1
	基本施策 12 消防・救急体制の充実	0
	基本施策 13 防犯・交通安全の推進	13
	基本施策 14 消費者行政の推進	0
基本方針 5 子どもが健やかに育つまちづくり	基本施策 15 子育て支援の充実	8
	基本施策 16 就学前教育の充実	2
	基本施策 17 学校教育の充実	7
	基本施策 18 青少年健全育成の推進	1
基本方針 6 保健・医療・福祉が連携した安心のまちづくり	基本施策 19 健康づくりの推進	1
	基本施策 20 地域医療の充実	4
	基本施策 21 地域福祉の充実	23
	基本施策 21-1 高齢者福祉の充実 基本施策 21-2 障がい福祉の充実	
基本方針 7 心豊かにいきいきと学べるまちづくり	基本施策 22 社会保障の充実	0
	基本施策 23 生涯学習の推進	0
	基本施策 24 文化・芸術活動の推進	8
	基本施策 25 スポーツ活動の推進	5
	基本施策 26 人権教育・啓発の推進	3

【主なアイデア・意見等】

基本方針1 魅力と活力あふれる地域産業を育むまちづくり	【基本施策1 林業の振興】 ・山の木を切って楽器にする。 【基本施策2 農業の振興】 ・耕作放棄地などの土地を買い、米や野菜を植える。 ・農家の人数を増やすよう、給料を上げる。 【基本施策3 商工業の振興】 ・もっと飲食店とかショッピングモールを増やしてだれもが環境のことを考えていいまちを作りたい。 ・若者も高齢者も楽しめるようにイベントを企画したり、商店街を活気あるところにして退屈など思われないような市にしたい。 【基本施策4 観光の振興】 ・交通機関をもっと増やして、観光客を増やしたい。 ・正直人を呼び込む建物は作れないとは思うけどまず宍粟市という場所があるとみんなが覚えてもらう。宍粟のキレイなスポットを紹介する。ツアー。
基本方針2 環境にやさしく快適に暮らせるまちづくり	【基本施策5 森林・田園・まち並み景観の保全】 ・自然がたくさんあるのが宍粟市だからその自然は残して人が多く住んでいるところに店をいくつか立てたりする街にしたいです。 ・紅葉山などの観光地や緑を皆で守れるまち。 【基本施策6 資源循環型社会の構築】 ・(なし) 【基本施策7 住環境整備、土地利用の推進】 ・公園や皆が気楽に集まったりできるところを作る。 ポイ捨てがないきれいな環境を作りたい。 【基本施策8 道路網・上下水道の整備・維持】 ・整備された街。美しい街（住みやすいまち、使いやすい道路、環境に優しい）。
基本方針3 定住魅力の高いまちづくり	【基本施策9 生活圏の拠点づくりの推進】 ・電車などを入れて交通機関を便利にする。 ・子どもも、大人も、自由に快適に過ごせるように、公共施設の設備を整えたりする。 【基本施策10 移住・定住促進の充実】 ・空き家なら無料で引っ越せる補助金制度。 ・宍粟市に住んでいたが、進学や就職で宍粟市から離れた人達が宍粟市に戻りたいと思うようなまちをつくりたいと思う。
基本方針4 安全で安心なまちづくり	【基本施策11 防災体制の充実】 ・地震などに震災対策を万全な状態にする。 【基本施策12 消防・救急体制の充実】 ・(なし) 【基本施策13 防犯・交通安全の推進】 ・犯罪がなくみんなが気持ちよく過ごせる宍粟市にする。 ・交通ルールを中学生が守れるようなまち。 【基本施策14 消費者行政の推進】 ・(なし)

基本方針5 子どもが健やかに 育つまちづくり	【基本施策 15 子育て支援の充実】 ・もっと子育てがしやすいように子育て応援の取り組みをして宍粟市にもっと人が来れるようにする。 ・人口減少や少子高齢化の対策に子育てへの支援などをして色んな世代の人が活躍できる街にする。 【基本施策 16 就学前教育の充実】 ・保育所を増やし、子どもたちに森林のありがたみを勉強させる。 ・教育にかかるお金の支援。 【基本施策 17 学校教育の充実】 ・すべての学校の体育館に全体が涼しくなるぐらいのエアコンを取り付ける。 ・給食費を無料化し、給食についてもっと取り上げる、有名にする。 【基本施策 18 青少年健全育成の推進】 ・ボイ捨てがなく、犯罪、いじめ、暴力がない平和で楽しい街にしたいです。
基本方針6 保健・医療・福祉が 連携した安心のま ちづくり	【基本施策 19 健康づくりの推進】 ・みんなが健康で、犯罪などが少ないまちにする。 【基本施策 20 地域医療の充実】 ・障害がある人、高齢者、子ども、大人関係なく安心して過ごせるまち（医療環境を整える等）。 ・どんな世代でも便利に住めるように、交通を便利にしたり病院やお店を増やす。 【基本施策 21 地域福祉の充実】 ・福祉が充実している町。 ・住民の人たちや町の人たちが支え合い楽しく過ごせるようなまちをつくりたい。 【基本施策 21-1 高齢者福祉の充実】 ・宍粟市の景観を良くするために街の治安を良くしたり、高齢者の人も安心して過ごせるよう人を増やして、高齢者などが過ごせる施設等を作っていく。 ・高齢者の人も住みやすい環境を作る。 【基本施策 21-2 障がい福祉の充実】 ・障がい者や体の不自由な人が楽に生活できるように改変したい。 ・お年寄りにも障害者にも優しく、みんな平等な街。 【基本施策 22 社会保障の充実】 ・（なし）
基本方針7 心豊かにいきいき と学べるまちづく り	【基本施策 23 生涯学習の推進】 ・（なし） 【基本施策 24 文化・芸術活動の推進】 ・宍粟の文化や特色を大切にしていってもっと交通系のことを便利にしたい。知名度を上げて観光を増やして豊かな街にしたい。 ・伊和神社の神輿や揖保乃糸、日本酒発祥の地など魅力的なことがたくさんあるのでそれを残していけるようにしたい。 【基本施策 25 スポーツ活動の推進】 ・スポーツがどこでもできるようにしたいと思っている。 ・もっとスポーツが無料でできる場を作りたい。 【基本施策 26 人権教育・啓発の推進】 ・子どもが楽しく暮らせるようにする。公園を増やす。先生の暴言をなくす。 ・差別のない街。

注：可能な限り原文を記載したが、一部誤字・脱字、文章の修正を行った。

第3章 2つのアンケート調査結果の比較

1 比較の目的

18歳以上アンケートと中高生アンケートで共通する設問内容について比較し、世代間や年代ごとでの宍粟市に感じていること、考え方の共通点や相違等を整理・分析した。

18歳以上	中高生
問12： 宍粟市のいいところ	問4： 宍粟市のいいところ
問9： 今後も宍粟市に住み続けたいか	問4、問4-1、問4-2： 中学校・高校卒業後に宍粟市に住みたいか
問10： 満足度・重要度	問8： 若い人が宍粟市に住み続けたり、一度離れても戻ってきたいと思えるまちにするために必要なこと
問22： 特産品	問10： 特産品

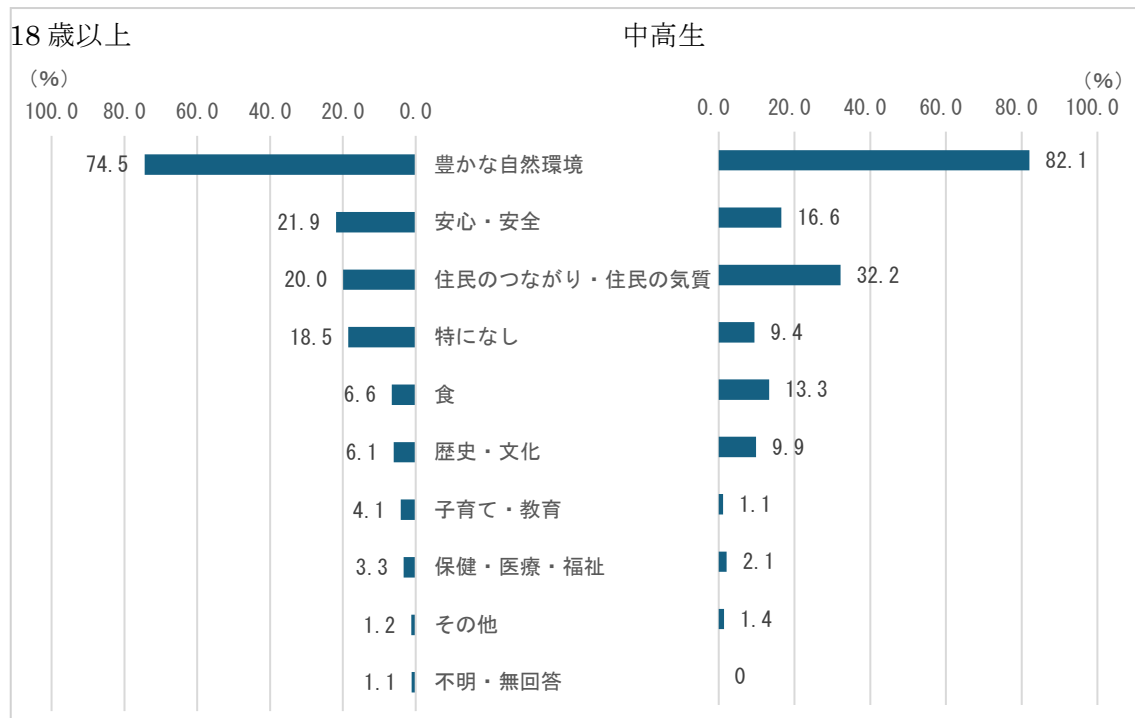
2 比較結果・分析

① 宍粟市のよいところ

18歳以上、中高生ともに「豊かな自然環境」が最も高かった。

18歳以上では次いで「安心・安全」、「住民のつながり」であったのに対し、中高生では「住民のつながり・人の良さ」、「安心・安全」となった。

世代を問わず多くの人々が「豊かな自然環境」を宍粟市のよいところと捉えている結果となり、「豊かな自然環境」が宍粟市の魅力にとって重要な構成要素として認識されていることがわかった。



② 定住意向（宍粟市に住みたいか）

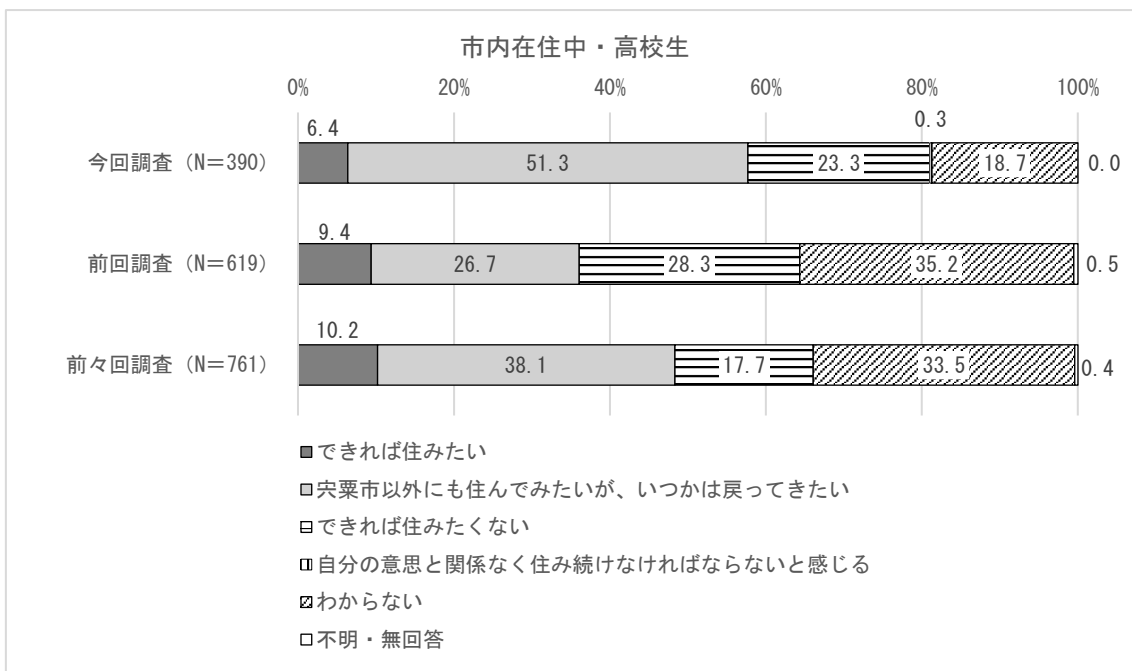
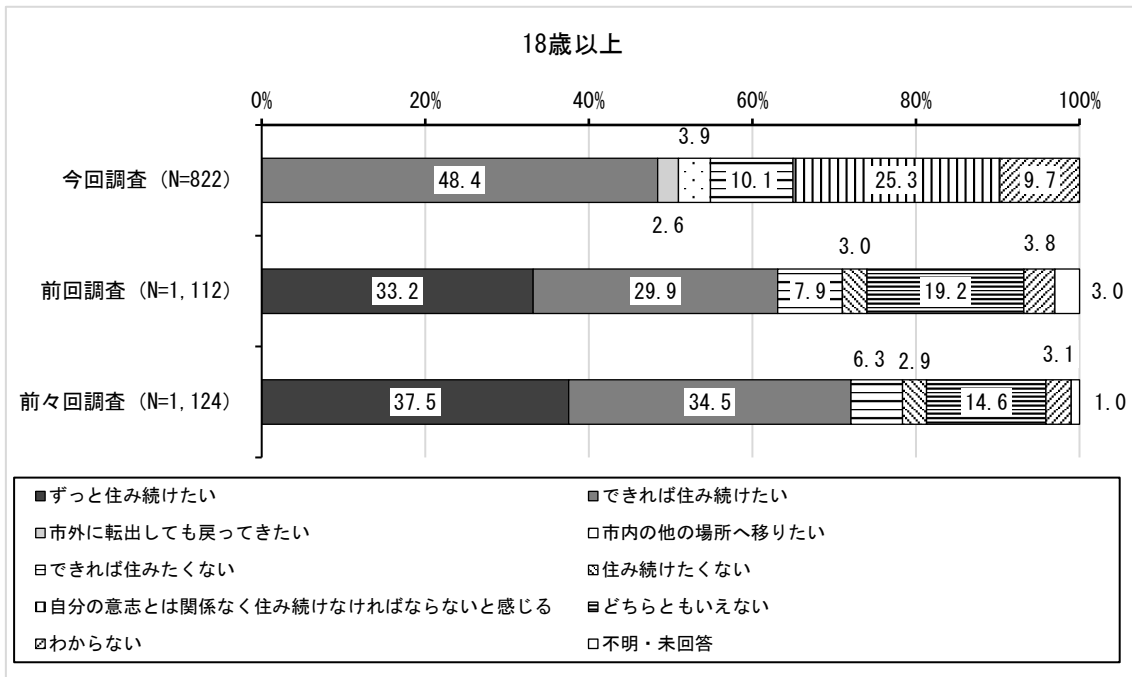
18 歳以上では『住みたい』は 54.9%、市内在住の中学生・高校生では『住みたい』は 57.7%であり、アンケートに回答した約半数は宍粟市に住みたいと考えていることが分かった。

一方、18 歳以上の年齢別では、『住み続けたくない』は若い世代ほど高い傾向がみられ、特に 18 歳・19 歳で高かった。

また、市外在住の高校生では、「いつかは宍粟市に住んでみたい」はわずか 4.4%、「わからない」が 53.3%、「住みたくない」が 40.0%であった。

これらのことから、市内在住者は『住みたい』と考えている人が約半数いる一方、若い世代や市外在住者からはあまり住みたくないと考えられている傾向が見られた。

注：18 歳以上における『住みたい』：「できれば住みたい」＋「市外に転出しても戻ってきたい」
＋「市内の他の場所へ移りたい」
中高生の『住みたい』：「できれば住みたい」＋「宍粟市以外にも住んでみたいが、いつかは戻ってきたい」



③ 満足度 / 若い人が宍粟市に住み続けたり、一度離れても戻ってきたいと思えるまちにするために必要なこと

18歳以上における取組の満足度が低い順にみると、「商工業の振興」が2.48ポイント、「住環境整備、土地利用の推進」が2.52ポイント、「観光の振興」「生活圏の拠点づくりの推進」が3.05ポイントであった。

中高生アンケートで、若い人が宍粟市に住み続けたり、一度離れても戻ってきたいと思えるまちにするために必要なことの選択肢を取組に分類すると、表に示すとおりであり、

- 1 路線バスや道路が便利になること (57.0%) : 生活圏
- 2 飲食店や遊べる場所など、若い人が集まれる場所が増えること (55.2%) : 商工業
- 3 働きたいと思える企業が増えること (23.0%) : 商工業

となっていた。

これらのことから、若者の定住意向と市民の満足度は関連性があると分析し、住民の満足度を引き上げていくことで、若い人が宍粟市に住み続けたり、一度離れても戻ってきたいと思えるまちづくりに繋がるのではないかと考えられる。

表 中高生アンケート

【若い人が宍粟市に住み続けたり、一度離れても戻ってきたいと思えるまちにするために必要なこと】

順位	選択肢	割合 (%)	取組分類
1	路線バスや道路が便利になること	57.0	生活圏
2	飲食店や遊べる場所など、若い人が集まれる場所が増えること	55.2	商工業 生活圏
3	働きたいと思える企業が増えること	23.0	商工業
4	宍粟市の知名度が向上し、観光客が増えること	16.6	観光
5	若い人のアイデアや考え方がまちづくりに反映されること	10.3	参画協働
6	子どもがのびのび育つ保育・教育環境があること	7.6	子育て 学校教育
7	住みやすい価格の住宅・賃貸があること	6.4	住環境 移住定住
8	もしもの際でも安心して通える病院があること	4.4	地域医療
9	自分の親や祖父母世代がいつまでも元気に活動していること	4.1	健康づくり 生涯学習
10	高齢者や障がいのある人が安心して暮らすための支援があること	3.4	障がい福祉 高齢者福祉

④ 特産品

18歳以上では「素麺」「宍粟牛・宍粟ハム」「自然薯」「鮎」などが良く知られているが、中高生では「素麺」「鮎」「宍粟牛・宍粟ハム」等が上位となり、自然薯は中程度であった。

一方、山椒醤油は18歳以上より中高生のほうが知っている人が多い結果となった。

